

令和7年度

農作物病害虫防除指針

(含 除草剤・植物成長調整剤)

利用上の注意

本書は、農薬取締法に基づき登録された農薬のうち、農薬メーカーの農薬登録時の試験結果、県内の実証圃、試験研究機関の調査結果等を参考にして、本県の病害虫および雑草の発生状況に適合しているものを掲載しています。

また、本資料の農薬使用基準は、農林水産省が公開している令和6年11月1日現在の農薬登録情報等をもとに作成しました。

なお、利用の際は、下記に注意してください。

- ・登録内容の変更がないか、必ず最新の情報を確認する
- ・使用の際は、ラベルの注意事項を必ず確認し、適切に使用する
- ・本書に記載の使用回数は、当該農薬のみを使用するときの基準を記載しており、同一成分を含有する農薬を併用する場合は、成分の総使用回数に従う

* 登録情報

(1) 「農薬登録情報提供システム」(農林水産省)

<https://pesticide.maff.go.jp/>



(2) 「農薬登録における適用作物名について」((独)農林水産消費安全技術センター)

<https://www.acis.famic.go.jp/shinsei/6281.pdf>



目 次

病虫害雑草防除推進方針	6
耕種的防除技術、農薬使用者への重点指導内容、防護衣・防護具、農薬中毒の対処法、 残留農薬基準値の超過防止、農薬の保管、使用済み農薬および空容器などの処理	8
I イ ネ	
1 水稲病虫害	
水稲病虫害重点防除指導方針	17
(1) 種子消毒・育苗管理	
・種子消毒薬剤一覧	18
・育苗期間の防除薬剤一覧	20
・水稲種子消毒の手順と育苗管理	22
・育苗箱施薬による病虫害防除	26
(2) 湛水直播栽培における防除	29
(3) 本田期の防除	30
・本田防除の注意事項	33
(4) いもち病の総合的管理	38
(5) 斑点米カメムシ類と総合的管理	40
(6) 成果情報	
・積雪前の除草剤散布で斑点米が激減	44
・育苗箱施薬でカメムシ防除	45
・秋の田起こしと冬の湛水によるニカメイガの防除法	46
(7) 病虫害の要防除水準	47
(8) 福井県稲奨励品種等病虫害抵抗性一覧	49
(9) 農業資材の消毒	49
2 水稲除草剤	
(1) 使用上の注意事項	50
(2) 除草剤の使用法	50
(3) 田植同時処理剤の使用法	50
(4) 少量散布粒剤の使用法	51
(5) フロアブル剤の使用法	51
(6) ジャンボ剤の使用法	51
(7) 本田除草剤の使用法	
・移植	52
・直播	61
(8) 本田除草剤の成分および使用回数	67
(9) 刈取後、畦畔等除草剤使用基準	
①刈取後除草剤	75
②水田畦畔除草剤（雑草発生前処理）	75
③水田畦畔除草剤（雑草生育期処理）	76
(10) 除草剤体系（例）	
①移植栽培田	78
②直播栽培田	80
③スルホニルウレア系（SU）抵抗性雑草に対する除草体系	81
④多年生雑草（ウリカワ、ホタルイ、オモダカ、ミズガヤツリ）多発田の場合	82
⑤ノビエ取りこぼし田	82
⑥ノビエも広葉雑草も目立つ田	82
⑦ウキクサ、藻類多発田	83
⑧中後期剤を使用する場合	83
⑨稲刈取後の雑草防除	83
3 水稲植物成長調整剤	84
II 大麦（小麦）、だいでず・そば・あずき	
1 麦類病虫害	
麦類病虫害重点防除指導方針	85
(1) 大麦・小麦薬剤一覧	86
(2) 大麦赤かび病の体系防除	87
(3) 麦類注意事項	88

2 だいず・そば・あずき病害虫	
だいず・そば・あずき病害虫重点防除指導方針	90
(1) だいず病害虫の要防除水準	91
(2) だいず薬剤一覧	92
(3) だいず注意事項	94
(4) そば薬剤一覧	95
(5) あずき薬剤一覧	95
3 大麦(小麦)、だいず、そば除草剤	
(1) 使用上の注意事項	96
(2) 使用方法	96
(3) 大豆バサグラン液剤の使用について	103
(4) ラウンドアップマックスロード(だいずの落葉終期)の使用について	103
(5) 大麦(小麦)の圃場内の周縁部における除草剤使用について	104
(6) 水田転換畑の麦類・だいず等の畦畔で除草剤を使用する際の注意点	104
(7) 除草剤体系(例)	
①大麦の除草	104
②だいずの除草	105

Ⅲ 野菜・いも類

1 野菜・いも類病害虫	
野菜・いも類病害虫重点防除指導方針	106
(1) トマト	107
・トマト黄化葉巻病対策	111
・トマト灰色かび病、葉かび病、すすかび病防除対策	113
(2) ミニトマト	114
(3) なす	115
(4) ピーマン	117
(5) すいか	118
・すいか炭疽病対策	120
(6) メロン	121
(7) きゅうり	122
(8) かぼちゃ	124
(9) いちご	125
(10) キャベツ	126
・キャベツ コナガ防除対策	130
(11) ブロッコリー	131
(12) かぶ	133
(13) だいこん	134
(14) はくさい	135
(15) 非結球あぶらな科葉菜類	138
(16) ほうれんそう	139
・ハウレンソウケナガコナダニの総合的防除	140
(17) ねぎ	141
・新しい病気ネギ褐色腐敗病の防除対策	144
(18) たまねぎ	145
(19) らっきょう	146
(20) にんにく	147
(21) レタス・非結球レタス	148
(22) にんじん	149
(23) 未成熟そらまめ	150
(24) えだまめ	151
(25) とうもろこし	152
(26) ばれいしょ	153
(27) かんしょ	154
(28) さといも	155
(29) やまのいも	156
(30) 野菜類	157

<参考1> 土壤病虫害	159
① 焼土による土壤消毒法	165
② 太陽熱利用による土壤消毒法	165
③ 土壤還元消毒法	165
④ 熱水土壤消毒	165
⑤ 低濃度エタノールを利用した土壤還元作用による土壤消毒法	166
<参考2> ウイルス病	167
<参考3> 野そ	169
<参考4> 器具、資材消毒	169
<参考5> コオロギ、カタツムリ類、ナメクジ類、ケラ	169
<参考6> 主要野菜のチョウ目害虫の防除薬剤	170
<参考7> チョウ目害虫殺虫剤の特性と使用上のポイント	175
<参考8> フェロモン剤による防除法	176
<参考9-1> 微生物由来の薬剤（殺菌剤）	177
<参考9-2> 微生物由来の薬剤（BT）（殺虫剤）	178
<参考9-3> 微生物由来の薬剤（殺虫剤）	179
<参考10> 天敵昆虫剤	180
<参考11> 展着剤	181
<参考12> 発生予察用資材	182
2 野菜・いも類除草剤	183
IV 果 樹	
1 果樹病虫害	
果樹病虫害重点防除指導方針	184
(1) ウメ	185
(2) ナシ	190
(3) カキ	196
(4) ブドウ	199
(5) ミカン	203
(6) イチジク	207
(7) キウイフルーツ	211
(8) モモ	214
(9) スモモ	221
(10) リンゴ	225
(11) クリ	233
(12) 休眠期防除	237
2 果樹除草剤	238
3 果樹植物成長調整剤	239
V 花 き	
1 花き病虫害	
花き病虫害重点防除指導方針	246
(1) キク	247
(2) ストック	250
(3) トルコギキョウ	250
(4) スターチス	250
(5) スイセン	251
(6) ユリ	251
(7) サクラ	251
(8) 花き類（草本植物）・観葉植物	252
(9) 樹木類（木本植物）	256
<参考1> 花きのアブラムシ類の防除薬剤	257
<参考2> キクのハダニ類の防除薬剤	258
<参考3> キクのアザミウマ類の防除薬剤	259
<参考4> 花き類の灰色かび病の系統別薬剤	260
<参考5> キク白さび病の防除薬剤	260
<参考6> 殺菌・殺虫剤使用時の注意事項	261
<参考7> ウイルス一覧表	262
2 花き除草剤	263
3 花き植物成長調整剤	265

VI	飼料作物	
1	飼料作物病害虫	
	飼料作物病害虫重点防除指導方針	267
	(1) イタリアンライグラス、フェスク類	268
	(2) 子実トウモロコシ	268
	(3) ソルガム	268
	(4) イネ科牧草	269
	(5) レンゲ	269
	(6) 稲発酵粗飼料	269
	(7) 飼料用米	273
2	飼料作物・牧草除草剤	274
VII	参 考	
	掲載農薬一覧	278
	福井県特別栽培農産物栽培基準において使用回数にカウントしない農薬	289
	FRACコード、IRACコード一覧	290

病害虫雑草防除推進方針

農産物の安全性確保や農業生産にともなう環境への負荷低減が社会的課題となっているなか、農薬の適正使用や環境にやさしい農業の推進が求められています。

このため、病害虫および雑草防除においては、耕種的防除、生物的防除、物理的防除を積極的に導入した総合的な防除を推進する必要があります。

また、農薬の使用に当たっては、関係機関等と連携し、農産物や農薬使用者、周辺環境への安全性を確保した上で、効率的な防除が実施できるよう推進します。

1 的確な発生予察情報の提供

病害虫の将来の発生程度や発生量を推測した予察情報を提供し、その活用の推進に努めます。

- (1) 病害虫発生実態の把握と将来予測
- (2) BLASTAM 等、発生予測シミュレーションの活用
- (3) インターネット等による迅速な情報伝達
- (4) 侵入病害虫の蔓延防止と未発生病害虫の侵入把握

2 総合的病害虫・雑草管理技術（IPM）の推進

耕種的防除や物理的防除、生物的防除を組み合わせた「総合的病害虫・雑草管理技術」を推進するとともに、要防除水準を活用した効率的な防除指導に努めます。

また、総合的病害虫・雑草管理技術は、国が掲げる「みどりの食料システム戦略」の目標の一つである化学農薬使用量の低減に貢献できる技術の一つです。

- (1) 総合的防除の推進
 - ・耕種的防除（栽培環境の改善）
 - ・物理的防除（熱、光、囲いの利用）
 - ・生物的防除（微生物農薬、フェロモン剤の利用）
 - ・化学的防除（化学合成農薬の使用）

- (2) 要防除水準の活用

要防除水準を活用し、病害虫による被害が経済的に許容できるレベル以下に抑える。

3 農薬適正使用の普及推進

農薬使用にあたっては、農薬取締法に基づく「農薬を使用するものが遵守すべき基準を定める省令」を遵守した農薬適正使用の徹底に努め、事故のないよう安全使用を推進します。

- (1) 適正な使用方法の厳守
 - ・農薬取締法に基づいて登録された農薬の使用
 - ・使用上の注意等、ラベル表示記載事項の遵守
 - ・農薬使用記録の記帳推進
 - ・農薬容器等の適正な処分

- (2) 農薬使用者の安全確保
 - ・適切な防護具の着用と適正な農薬散布技術の励行
- (3) 周辺環境への配慮
 - ・周辺居住者等への周知および被害防止
 - ・河川への流失等、環境汚染防止
 - ・人畜毒性および魚毒性の低い低毒性農薬の使用
 - ・ミツバチ、魚介類、鳥類、家畜等への事故防止
- (4) 周辺作物への配慮
 - ・ドリフトによる飛散防止対策
 - ・周辺農産物にも登録のある農薬の優先使用
 - ・農薬散布器具等の十分な洗浄
 - ・農薬使用者相互の連絡

4 農薬耐性菌および抵抗性害虫等の発現防止

農薬耐性菌および抵抗性害虫・雑草の拡大防止を図るとともに、同一系統薬剤の連用を避ける等、将来において病害虫等の薬剤感受性低下を招かないよう指導します。

- (1) 耐性菌、抵抗性害虫、抵抗性雑草の実態把握
- (2) 同一系統薬剤の連用防止、異なる系統薬剤によるローテーション防除の推進

5 無人航空機による防除

水稻を中心に利用されている無人航空機は、散布面積が延べ2万haを超えており、病害虫防除の重要な手段となっています。しかし、無人航空機については高度な技術等を必要とするところであり、操作ミスや連携ミス等が、重大な事故につながることから、その利用には細心の注意を払う必要があります。

このため、実施に当たっては、国の「無人ヘリコプターによる農薬の空中散布に係る安全ガイドライン」・「無人マルチローターによる農薬の空中散布に係る安全ガイドライン」および県の「無人航空機利用空中散布等作業実施要領」に基づく危被害防止対策を講じるよう指導を強化します。

- (1) 公共施設や居住者に対する事前周知の徹底
- (2) 危被害防止の徹底
 - ・散布区域およびその周辺の危険箇所(構造物等)の事前点検
 - ・作業員の適切な配置と連携確認
 - ・関係者以外の散布実施区域内への侵入防止
 - ・通学時間や通勤時間帯の作業休止
- (3) 危機対策の徹底
 - ・関係機関との連絡調整
 - ・緊急時の連絡確認

耕種的防除技術

1 病害

- (1) 地域に適応した農作物および耐病性品種を栽培する。
- (2) 連作を避け、輪作・緑肥栽培や太陽熱消毒を行う。
- (3) 無病の苗や親株・母株を厳選して、健全苗を定植する。
- (4) 断根や植え傷みによる根の傷害根が感染を助長するので、傷害を受けやすい老化苗にならないようにする。
- (5) 排水不良や地下水位が高い圃場では、耐病性が低下するので、排水対策を徹底する。
- (6) 未熟堆肥は、病原菌の栄養源となるため良質完熟堆肥を施用する。
- (7) 窒素肥料の過多は発病を助長するので、適正な肥培管理を行う。
- (8) 密植を避け、風通しを良くする。
- (9) 土壌伝染性の病原菌が、降雨時にはね上がるのを防ぐため、敷きわら等によるマルチを行う。
- (10) 水管理は、土壌の過湿を招かないようにし、ハウス内では適宜換気を図って室内の多湿環境を改善する。
- (11) 灰色かび病では、近紫外線カットフィルムを被覆し被害の軽減を図る。
- (12) 発病した株、葉、葉柄、花卉は摘み取り、圃場外に出して病原菌の密度を下げる。
- (13) 圃場周辺部に栽培されている野菜や花き類の病気が、伝染源になることもあるので、注意する。
- (14) 栽培終了後の残渣は根こそぎ除去し、圃場周辺以外の場所で堆肥化するか焼却処分する。
- (15) ビャクシン類は、ナシ生産地付近での植栽を避ける。

2 虫害

- (1) 圃場周辺の雑草は、害虫の発生源となるので常に除草を行う。
- (2) ハダニ類は、密植、乾燥が増殖に好適な環境となるので、適正な管理を行う。
- (3) 施設の出入口や開口部を寒冷紗で覆って成虫の侵入を防ぐ。
- (4) ダニ類では、施設の開口部にビニールによる折り返し（通称ダニがえし）を設け、這い上がってくるダニを遮断する。
- (5) 害虫を捕殺して、圃場内の密度を下げる。
- (6) 黄色の粘着テープを施設内に吊り下げて、成虫を捕殺する（コナジラミ類、アブラムシ類、ハモグリバエ類）。
- (7) 青色の粘着テープを施設内に吊り下げて、成虫を捕殺する（ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ）。
- (8) アブラムシ類は白色系色彩に忌避反応を示すものが多いので、反射資材等で飛来を防ぐ。
- (9) 近紫外線カットフィルムでハウスを被覆し、アブラムシ類やアザミウマ類の飛来を阻止する。

- (10) センチュウ類の防除には、マリーゴールド、クロタラリア、ギニアグラスなどの対抗植物を栽培する。
- (11) タバコガ類は、寄生植物が限定されるため、ナス、トマト、ピーマン、キク、タバコなどを隣接して、栽培しない。
- (12) 果樹のハダニ類は、9月中旬に太い枝に紙バンドを巻き、越冬成虫を誘殺する。また、越冬期には粗皮削りを行う。
- (13) ナシ、モモ、リンゴなどではネット被覆、防蛾灯の設置、袋かけ等により、吸蛾類、鳥類の被害を防止する。

農薬使用者への重点指導内容

1 農薬を購入するとき

(1) 必要な農薬をよく検討する

- ・栽培している農作物、発生している病害虫から、必要な農薬を選定する。
- ・なるべく多くの種類の農作物に適用のある薬剤を選ぶことも検討する。

(2) ラベルをよく確認する

- ・ラベルに登録番号等の記載があるかをよく確認する。
- ・特に、ラベルが日本語で書かれていないものは、無登録農薬の可能性が高いので注意する。

(3) 必要な量だけ購入する

- ・使用面積、使用回数等から農薬の必要量を算出して、必要な量だけを購入するようにする。
(最終有効年月を過ぎた農薬は使用しないよう努めなければならない。)

2 農薬を使用するとき

(1) 収穫する日を見込んで使用する

- ・あらかじめ収穫する日を見込んで（計画して）農薬を使用する。（農薬には、使用時期が「収穫〇〇日前」と決められているものもある。）

(2) ラベルに書かれている使用方法を必ず確認する

- ・使い慣れた農薬でも、登録内容に変更があるので、使用前には必ずラベルを読むことを習慣にする。また、常に最新の情報を入手して確認する。

(3) 農薬名、散布日などを記録する

- ・使用した農薬名、使用月日、使用量などを記録することにより、誤って使用基準に違反することを未然に防ぐ。

防護衣・防護具

安全装備の基本として、右図のように、皮膚が薬液に触れないよう防水性のある保護衣をはじめ、防護マスク、皮膚の露出を防ぐために帽子、保護メガネ、手袋、ゴム長靴を付ける。

また、とくに注意を要する農薬には、ラベルにマスクやメガネなどの注意喚起マークが付けられている。必ず確認し、注意喚起マークに従う。



農薬中毒の対処法

農薬の使用にあたっては、毒性に注意し事故のないように気をつけることが必要であるが、万一中毒になった場合は、まず、すべての毒物中毒に共通する応急手当を行い、すみやかに医師に連絡して処置してもらうことが大切である。

農薬による中毒は、作用が急激に現れるものが多いので、中毒者の早期発見が第一である。

中毒を発見した場合の対処法

- (1) 中毒者に対して応急処置を行う。
- (2) 中毒者に意識があれば中毒した農薬名と中毒の経過を聞き出しておく。
- (3) 医師に連絡する。この時、大人、子供の区別、中毒した農薬の名称、中毒の経過、症状なども一緒に知らせる。もし、中毒者の吐物、ふん尿などがあれば保存しておき、あわせて提示する。

応急処置

- 皮膚からの中毒の場合は、直ちに着衣を脱がせ、皮膚を大量の水または石けんでよく洗う。
- 汚れた衣服を取り除き保温に注意する。
- 皮膚の障害、皮膚炎が起きたら、軽症の場合は水でよく洗い、オリーブ油などの植物性油を塗る。
- 吸入による中毒の場合は、すみやかに空気のきれいな日陰に運び、衣服をゆるめて呼吸を楽にさせ安静にさせる。
- 誤って飲みこんだ場合は、直ちに水を多量に飲ませて、指やサジなどの柄で、のどの奥を刺激して胃中のものをくりかえし吐かせる。なお、この場合、食塩水を飲ませてはならない。
- 患者が意識不明の時およびけいれんを起こしている時などは吐かせてはならない。
- 排尿は寝たままで行わせる。
- 心肺停止した場合には、救急車が来るまで心臓マッサージを行う。
- 安静と体温保持につとめる。
中毒患者には精神的にも肉体的にも安静を保たせる。
医師のところへ連れていく場合にも、患者の体力を消耗させないようにするため、タンカ等に乗せて静かに運ぶ。
- 眼に薬剤が入ったときには、ただちに流水で眼を開閉しながらよく洗うこと。

問い合わせ先

(公財) 日本中毒情報センター

中毒110番 (大 阪) 072-727-2499 365日24時間対応

(つくば) 029-852-9999 365日9~21時のみ対応

化学物質(タバコ、家庭用品など)、医薬品、動植物の毒などによって起こる急性の中毒について情報提供している。異物誤飲(石ころ、ビー玉など)や食中毒、慢性の中毒(アルコール中毒、シンナー中毒など)や常用量での医薬品の副作用は受け付けていない。

残留農薬基準値の超過防止

◎ 基準を超える農薬が検出される例

1 農薬散布時の飛散（ドリフト）防止対策が不十分で起こる例

[ケース1] 隣接圃場の作物に登録のない農薬が飛散した場合

例) ①水稲に散布した殺菌剤（ナスには登録がない）が、ナスに飛散したため、収穫されたナスから基準を超える農薬が検出された

例) ②水稲に散布したピーマンに登録のない殺菌剤が、ピーマン圃場に飛散

例) ③大麦に散布した一寸ソラマメやキャベツに登録のない殺菌剤が、一寸ソラマメや春キャベツ圃場に飛散

[ケース2] 隣接圃場の収穫直前の作物に農薬が飛散した場合

例) ①大豆に散布した殺菌剤が、隣接している収穫直前の水稲に飛散したため、収穫された米から基準を超える農薬が検出された

例) ②水稲に散布した殺虫剤が、収穫中のナスやピーマンに飛散

例) ③キャベツの定植後に全面土壌散布した除草剤が、隣接する収穫期の水稲に飛散

[ケース3] 隣接圃場に残留しやすい作物があった場合

例) ナスに散布した殺菌剤が、軽量・小型の葉菜であるネギに飛散したため、収穫したネギから基準を超える農薬が検出された。

2 不注意

例) ①防除機のホースの先端に、前回別の作物に使用した農薬が残っており、洗わずにそのまま使ってしまう基準を超える農薬が検出された。

例) ②水稲の育苗箱施薬剤を使用した育苗残土を育苗施設に廃棄し、その後に栽培した野菜から箱施薬剤の成分が基準を超えて検出された。

◎対策

1 農薬の使用に関する基本的な対策

(1) 使用基準の確認

○農薬（瓶、袋）に書かれている「使用基準」を確認し、散布できる作物、使用時期、使用量、総使用回数を遵守する。

(2) 適正量の散布

○散布量は作物の形態や生育ステージなどによる目安を守り、散布量が必要以上に多くならないようにする。葉面が濡れたらそれ以上散布しても付着せず流れ落ちてしまう。

(3) 風に注意

○飛散の最大の要因は風であるため、風のない時か弱いとき（風速3m/秒以下を目安）に注意して散布する。散布中でも風が強まったら、ただちに農薬散布をやめる。

(4) 散布の位置と方向、ノズル

○散布ノズルの位置や角度により、遠くまで飛び散ることがあるので、対象作物に近づけて散布し、対象作物のみにかかるようにする。

○隣接圃場や用排水路にかからないように、圃場の内側に向かって散布する。

○ドリフト低減ノズルを使用する。

(5) 散布器具の使用後の洗浄

○タンクに薬剤が残らないように、散布する分だけ調製し、圃場内で全て使い切る。

○先に散布した農薬が、次に散布する作物に残留する場合がありますので、使用後のタンクやホースに残液が残らないようにきれいに洗浄する。(散布中に薬剤を替える時も、必ず洗浄する。)

(6) 使用した農薬等の記帳

○適正に農薬を使用したことを証明するため、産地で統一した記帳日誌に農薬等の使用状況を必ず記入する。

2 ドリフト（農薬飛散）の低減

(1) 地域一体となった対応

○周辺作物、立地条件、農薬の種類など、多くの要因がドリフトに関係しているため、地域単位でリスクを減らす対策を考えていく必要がある。

・集落等で、できるだけ同一作物となるように作付け計画を立てる。

・広範囲に農薬が飛び散るような大型防除機を使用する集団は、事前に協議し、特に周辺作物に気をつけて農薬を散布する。

(2) 隣接圃場の農家との連絡・調整

○隣接圃場の農家とお互いに連絡をとり、散布する日の調整を行う。

・お互いの収穫日を考慮し、散布時期を計画する。

・散布日が隣接圃場の収穫日と重なった場合は、日を改めて散布する。

○農薬を散布する場合は、隣接圃場の農家に連絡し、注意を促す。

・ハウスの窓等を閉めてもらう。

(3) 飛散しにくい農薬等や影響のない農薬を使用

○粉剤や液剤は粒子が小さく飛散しやすいため、周辺の状況にあわせて飛散しにくい粒剤（育苗箱施用剤等）に変更する。

○隣接圃場の作物を確認し、隣接圃場の作物にも適用のある農薬を使用する（一律基準が設定されていることが少ない）。

○飛散しても影響の少ない性フェロモン剤、生物農薬、特定農薬等を選定する。

(4) 総合的病害虫防除により農薬の散布回数を低減

○耕種的、生物的、化学的、物理的な防除法をうまく組み合わせ、経済的な被害が生じるレベル以下に病害虫の発生を少なくし、農薬の散布回数を減らす。

・天敵やフェロモン剤等を導入し、病害虫の発生密度を減らす。

・耕種的防除（病気で枯れた株の除去、圃場内外の雑草除去など）により病害虫の発生源を減らす。

○病害虫発生予察情報や圃場での病害虫の発生状況を確認し、必要以上の散布を行わない。

(5) 散布する上での工夫

○微細な粒子ほど少しの風でも飛散しやすくなる。一般的なノズルは平均粒径が 0.1mm 以下と細かいため、使用目的に合わせ、粒径の大きいノズル（ドリフト低減ノズル）を選ぶ。

○散布圧力を上げすぎると風圧により薬液が飛散しやすくなるので、適正に調節する（圧力を上げすぎない）。

○除草剤の散布時には、フードの装着などで飛散を軽減する。

(6) 遮蔽シート・ネット等の設置

○隣接圃場の境界域から距離を空けて散布する（緩衝地帯を設ける）ことが好ましいが、境界域寸前まで防除が必要な場合は、遮蔽物等を設置する。

- ・隣接圃場の境界域に防風ネットの設置や緩衝作物（ソルゴーやライ麦）を栽培する。

* 隣接作物による残留リスクの違い

作物の種類や形態によって、飛散を受けた場合の残留リスクが異なる。

- ・軽量・小型のものはリスクが大きい（ホウレンソウ、ネギ、ウメなど）
- ・外皮や莢を剥くものや可食部が地下にあるものはリスクが小さい（ソラマメ、ダイコン、サトイモなど）

リスクの程度	作物の種類や形態	代表的な作物
大  小	軽量・小型の葉菜類	コマツナ、ホウレンソウ、みずな、ネギなど
	根菜類の葉	ダイコンの葉、カブの葉など
	莢ごと食べる豆類	サヤエンドウ、サヤインゲン、エダマメなど
	小型果実	ウメなど
	軽量の野菜類	ピーマン、シシトウなど
	果菜類	ナス、トマト、キュウリなど
	重量のある葉菜類	キャベツ、ハクサイなど
	花蕾を食べる野菜	ブロッコリー、カリフラワーなど
	果実(皮を剥かないで分析するもの)	カキ、ナシ、ブドウなど
	果実(皮を剥いて分析するもの)	スイカ、メロン、温州みかん、モモなど
	外皮・莢を除いた種子を食べる作物	一寸ソラマメ、スイートコーンなど
	穀類	稲、大麦、大豆など
	可食部が地下にある作物	ダイコン、カブ、タマネギ、ラッキョウ、サトイモ、サツマイモ、バレイショなど

* ポジティブリスト制度

すべての農薬について食品中の残留基準を設定し、基準を調査した食品の販売等を原則禁止する制度（食品衛生法 2003 年改正）。基準値、暫定基準値（コーデックス基準・外国の基準などを考慮した基準）が設定されていない農薬の基準値は一律 0.01ppm。

農薬の保管

農薬は長期間貯蔵しておく、貯蔵中に変化して効力が低下したり、薬害が出やすくなったりすることがある。また、保管管理も不注意になり、事故が起こりやすいので必ず計画的に購入し、長時間貯蔵しないようにする。また、地震対策についても十分留意し、農薬事故を起こさないようにする。

(1) 農薬を保管するときは、次のことを厳守する。

- ア 薬剤は密栓して、必ず保管庫などの保管場所にしまう。
- イ 保管場所には必ず鍵をかけ、盗難や紛失の防止、その他誤用のないようにする。
- ウ 保管場所は、薬剤が飛散したり、地下にしみ込んだり、または流れ出るおそれのない場所とする。
- エ 毒物および劇物に該当する農薬の保管場所に「医薬用外」の文字および毒物については「毒物」、劇物については「劇物」の文字を所定どおり書いておく。
- オ 薬剤を他の容器へ入れてはならない。特に飲食物の容器には入れないこと。
- カ 容器の破損などにより止むを得ず移し替えたものを保管する場合には、この容器に次の事項を書いておくとともに元の容器ラベル等を保管しておく。
 - (a) 名称、できればその成分および含有量。
 - (b) 毒物および劇物に該当する場合は「医薬用外」の文字、および赤地に白で「毒物」、白地に赤で「劇物」の文字。
- キ 薬剤は、温度の高いところ、日光を受けるところ、湿気の多いところに長く置かないようにする。
- ク 薬剤を大量に保管する場合には、消防法に定める危険物の規制を受けるので、所轄の消防本部の許可または届出が必要。

(2) 地震対策として次の点に留意し保管すること。

- ア 保管庫を固定、補強する。
- イ 保管庫等が低地にある場合は安全な高い所に移す。
- ウ 転倒時に破損しやすいものや液剤等はトレイに入れ保管庫内の下段に置く。
- エ 農薬が流失・飛散した場合に備え、農薬専用の掃除用具や土・砂・ベントナイト等を常備する。

使用済み農薬および空容器などの処理

1 基本的考え方

- 農薬は余らせて廃棄することのないように全てを使いきる。
- 使用済み容器の洗浄液等は農薬散布液調製に用いるなど、圃場内で処理する。
- 洗浄済み空容器は他の用途には絶対に使わず、環境に影響を与えないよう適切に処理する。
- 容器は圃場などに放置することなく安全な場所に収納する。

2 容器中の付着農薬の除去法

- 農薬は、薬液が余ることがないように調製を行い、使いきる。
- 散布に使用した器具・容器の洗浄水は河川などに流さない。
- 空容器、空袋等は、環境や水産動物に影響を与えないよう、適切に処理する。

(1) 瓶や缶状の容器（ガラスビン、プラスチックボトル、アルミなどの洗える袋）

中身の薬液がボタ落ちしなくなるまで容器を逆さまにして、薬液を散布機や希釈容器に移し替える。

容器に約1/4の水を加えてよく振り、散布液調製に使用する。

この操作を3回繰り返し、目に見えるような付着分がないことを確認したら、容器内の水をよく切って保管する。

(2) 袋状の容器

袋を軽く叩いて中身を散布機等に入れ、目に見えるような付着分がないことを確認したら、たたんで保管する。また、袋は作業中に風などで飛ばされないよう小石などで押さえ、作業終了後に放置することなく、必ず回収する。

3 付着農薬を除去した空容器の処分方法

付着農薬を除去した空容器は他の用途には絶対に使わず、以下のように適切に処理する。

- ・農家等農薬空容器の排出事業者自身で、許可を受けた廃棄物処理業者に処理を委託する。
- ・JAや市町が回収・処分しているところでは、定められた方法に従う。

I イネ

1 水稲病害虫

水稲病害虫重点防除指導方針

福井米のレベルアップを積極的に推進し、消費者ニーズに応じた品質・食味に優れ、かつ安全で安心な福井米を生産するために、稲作栽培環境の改善を図るとともに病害虫の適切な防除を推進する。

1 安全で安心な福井米の生産

- (1) 農薬の使用時期、使用回数、散布量・濃度などの使用基準の遵守を推進する。
- (2) 生産履歴記帳を推進する。

2 発生予察に基づく防除の推進

- (1) 病害虫防除室および病害虫防除員等による発生予察を実施し、その発生予察情報を指導機関および生産者へ迅速に提供する。
- (2) 要防除水準に基づく総合的な病害虫防除を推進する。

3 防除体制の整備

- (1) 地域における病害虫の発生動向を的確に把握するため、圃場内をよく調査する。防除にあたっては、広域、請負、共同防除、大型防除機を利用し、適期に効率的な防除を推進する。
- (2) 無人航空機による防除は、危被害防止を万全にするため、国の「無人ヘリコプターによる農薬の空中散布に係る安全ガイドライン」または「無人マルチローターによる農薬の空中散布に係る安全ガイドライン」および県の「福井県無人航空機利用空中散布等作業実施要領」に基づき適正に実施する。

4 水稲主要病害虫の防除技術

- (1) 種子消毒と育苗期の病害虫
 - ア 指定採種圃から採種された健全な種子を用いるとともに、種子消毒の徹底により育苗期の病害虫発生の防止に努める。
 - イ 育苗器材の清浄、育苗施設での温度管理と苗立枯病の体系防除を推進する。
- (2) 本田初期病害虫

育苗箱施薬による予防を基本とし、併せて中干し等による耕種的防除を推進する。
- (3) 収量、品質低下の影響が大きい病害虫
 - ア 穂いもち防除は出穂直前と穂揃直後の2回の薬剤散布を基本とし、多発が予想される場合は傾穂期にさらにもう1回の薬剤散布を実施する。
 - イ 紋枯病は近年の水稲生育期の気温上昇により多発傾向にあるので、箱粒剤等予防散布で発生を抑制するなど要防除水準に基づき薬剤散布を推進する。
 - ウ 斑点米カメムシ類の防除は、出穂10日前までに圃場周辺の草刈を行い、穂揃期～乳熟期と糊熟初期の2回の薬剤散布を基本とし、多発が予想される場合は、さらにもう1回薬剤を散布する。
- (4) 移植時期が遅い栽培、直播栽培での病害虫

いもち病、紋枯病、イネツトムシ、ニカメイチュウ、イネヒメハモグリバエ、イネアオムシの発生が多くなりやすいので、特に注意する。

5 環境に配慮した防除の推進

- (1) 住宅周辺では飛散の少ない粒剤・微粒剤等の使用を推進する。
- (2) 農薬散布時は排水路等への流出を防止するため、排水口を止水板（高さ10cm程度）などで閉じ、落水やかけ流しはしないなど、十分な止水管理を推進する。
- (3) 要防除水準に基づき適正に薬剤散布することで、環境負荷の少ない防除を推進する。
- (4) 種子消毒後の廃液および使用済み農薬等は、関係法令に基づき適正な処理を推進する。

(1) 種子消毒・育苗管理

種子消毒

RPA

病害虫名	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用時期	使用方法	使用回数
いもち病	タフロック	BM2		200倍	催芽時	24時間種子浸漬	-
				200倍	催芽前	24～48時間種子浸漬	-
	テクリートC70アブル	M1,3		7.5倍、使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL	浸種前	種子吹き付け処理(種子消毒機使用)又は種子塗沫処理	1回
				20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
	ペソレト水和剤20	M3,1		乾燥種重量の0.5～1%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
				20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
	ホマイ水和剤	M3,1		20～30倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
				乾燥種もみ重量の0.5～1.0%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
	モミガードC・DF	M1,12,3		7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
	モミガードC水和剤	M1,12,3		乾燥種重量の0.5%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
ルンシードFS	P3		乾燥種もみ1kg当り原液6～12mL(原液71mL/10aまで)	は種前(浸種後)	コーティング中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	1回	
			乾燥種もみ1kg当り原液6～12mL(原液71mL/10aまで)	は種前(浸種前)	塗沫処理(種子被覆剤を加用)	1回	
ごま葉枯病	テクリートC70アブル	M1,3		20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
				7.5倍、使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL	浸種前	種子吹き付け処理(種子消毒機使用)又は種子塗沫処理	1回
	ペソレト水和剤20	M3,1		20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
				乾燥種重量の0.5～1%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
	ホマイ水和剤	M3,1		乾燥種もみ重量の0.5～1.0%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
				20～30倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
	モミガードC・DF	M1,12,3		7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
	モミガードC水和剤	M1,12,3		7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
				乾燥種重量の0.5%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
	ばか苗病	タフロック	BM2		200倍	催芽時	24時間種子浸漬
200倍					催芽前	24～48時間種子浸漬	-
テクリートC70アブル		M1,3		20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
				7.5倍、使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL	浸種前	種子吹き付け処理(種子消毒機使用)又は種子塗沫処理	1回
ペソレト水和剤20		M3,1		乾燥種重量の0.5～1%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
				20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
				7.5倍、使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL	浸種前	種子吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
ホマイ水和剤		M3,1		乾燥種もみ重量の0.5～1.0%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
				20～30倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
モミガードC・DF		M1,12,3		7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
モミガードC水和剤	M1,12,3		7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回	
			乾燥種重量の0.5%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回	
もみ枯細菌病	タフロック	BM2		200倍	催芽時	24時間種子浸漬	-
				200倍	催芽前	24～48時間種子浸漬	-
	テクリートC70アブル	M1,3		7.5倍、使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL	浸種前	種子吹き付け処理(種子消毒機使用)又は種子塗沫処理	1回
				20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
	モミガードC・DF	M1,12,3		7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
	モミガードC水和剤	M1,12,3		乾燥種重量の0.5%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回
				7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回

病害虫名	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用時期	使用方法	使用回数
褐条病	タフロック	BM2		200倍	催芽時	24時間種子浸漬	-
	テクト C70アブル	M1,3		20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
				7.5倍、使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL	浸種前	種子吹き付け処理(種子消毒機使用)又は種子塗沫処理	1回
	モミガード C・DF	M1,12,3		7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
	モミガード C水和剤	M1,12,3		7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
乾燥種重量の0.5%				浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回	
苗立枯細菌病	タフロック	BM2		200倍	催芽前	24～48時間種子浸漬	-
				200倍	催芽時	24時間種子浸漬	-
	テクト C70アブル	M1,3		7.5倍、使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL	浸種前	種子吹き付け処理(種子消毒機使用)又は種子塗沫処理	1回
				20倍	浸種前	10分間種子浸漬	1回
	モミガード C・DF	M1,12,3		7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回
モミガード C水和剤	M1,12,3		7.5倍(使用量は乾燥種1kg当り希釈液30mL)	浸種前	吹き付け処理(種子消毒機使用)又は塗沫処理	1回	
			乾燥種重量の0.5%	浸種前	種子粉衣(湿粉衣)	1回	
紋枯病	エパールシート FS	7		乾燥種もみ1kg当り原液10mL(原液44mL/10aまで)	は種前(浸種後)	コーティング 中又はコーティング 後の種もみに塗沫処理	1回
				乾燥種もみ1kg当り原液10mL(原液44mL/10aまで)	は種前(浸種前)	塗沫処理(種子被覆剤を加用)	1回
イネシカレンチュウ	スミチオン乳剤	1B		1000倍	収穫21日前まで	散布	2回以内
	バダノSG水溶剤	14	劇	1500～3000倍	浸種前	24時間種もみ浸漬	1回
イネトモイシ	エパールシート FS	28		乾燥種もみ1kg当り原液11mL(原液55mL/10aまで)	は種前(浸種後)	コーティング 中又はコーティング 後の種もみに塗沫処理	1回
				乾燥種もみ1kg当り原液11mL(原液55mL/10aまで)	は種前(浸種前)	塗沫処理(種子被覆剤を加用)	1回
	ルミビアFS	28		乾燥種もみ1kg当り原液4～7mL	は種前(浸種前)	種子吹き付け処理又は塗沫処理	1回
イネミスゾウムシ	エパールシート FS	28		乾燥種もみ1kg当り原液11mL(原液55mL/10aまで)	は種前(浸種後)	コーティング 中又はコーティング 後の種もみに塗沫処理	1回
				乾燥種もみ1kg当り原液11mL(原液55mL/10aまで)	は種前(浸種前)	塗沫処理(種子被覆剤を加用)	1回
	ルミビアFS	28		乾燥種もみ1kg当り原液4～7mL	は種前(浸種前)	種子吹き付け処理又は塗沫処理	1回
ニカメイチュウ	エパールシート FS	28		乾燥種もみ1kg当り原液11mL(原液55mL/10aまで)	は種前(浸種前)	塗沫処理(種子被覆剤を加用)	1回
				乾燥種もみ1kg当り原液11mL(原液55mL/10aまで)	は種前(浸種後)	コーティング 中又はコーティング 後の種もみに塗沫処理	1回
	ルミビアFS	28		乾燥種もみ1kg当り原液4～7mL	は種前(浸種前)	種子吹き付け処理又は塗沫処理	1回

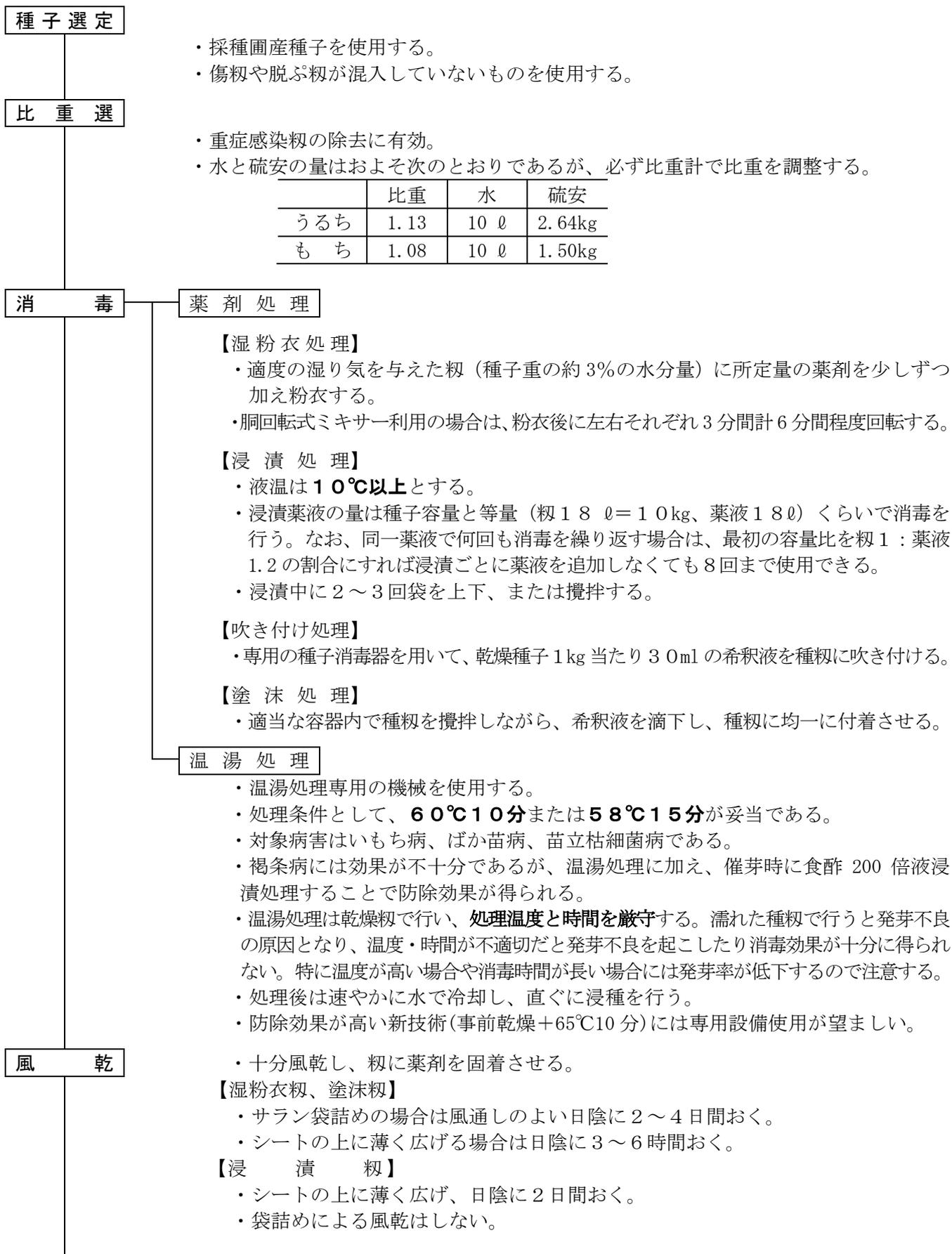
育苗期間の防除

RPA

病害虫名	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
ムシ防止	タチガレースM液剤	32,4		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注	1回
	タチガレースM粉剤	32,4		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り6～8g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和	1回
	タチガレース液剤	32		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注又は灌注	2回以内
	タチガレース粉剤	32		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り4～8g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和する。	1回
褐条病	カスミン液剤	24		4～8倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り希釈液50mL	覆土前	は種した種粒の上から均一に散布する。	1回
	カスミン粒剤	24		育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5%)1箱当り30g		は種前	育苗培土に均一に混和する。	1回
				育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5%)1箱当り15～20g		覆土前	育苗箱には種した種粒の上から均一に散布する。	1回
根の生育促進	タチガレースM液剤	32,4		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注	1回
	タチガレースM粉剤	32,4		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り6～8g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和	1回
	タチガレース液剤	32		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注又は灌注	2回以内
	タチガレース粉剤	32		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り4～8g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和する。	1回
苗立枯細菌病	カスミン液剤	24		4～8倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り希釈液50mL	覆土前	は種した種粒の上から均一に散布する。	1回
	カスミン粒剤	24		育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5%)1箱当り15～20g		覆土前	育苗箱には種した種粒の上から均一に散布する。	1回
				育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5%)1箱当り30g		は種前	育苗培土に均一に混和する。	1回
苗立枯病(トリコデルマ菌)	ダコレート水和剤	M5,1		400～600倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り0.5%	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	灌注	2回以内
				800～1200倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り1%	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	灌注	2回以内
	ベントレート水和剤	1		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5%)1箱当り500mL	は種時1回又はは種時とは種7日後頃の2回	灌注	2回以内
苗立枯病(ピシム菌)	タチガレースM液剤	32,4		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注	1回
	タチガレースM粉剤	32,4		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り6～8g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和	1回
	タチガレース液剤	32		500～1000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注又は灌注	2回以内
	タチガレース粉剤	32		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り3～6g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和する。	1回
	ナエファイン70アブル	U17		1000～2000倍	育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5%)1箱当り0.5%	は種時から緑化期	土壌灌注	2回以内
			2000倍	育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5%)1箱当り0.5～1%	は種時	土壌灌注	2回以内	

病害虫名	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
苗木枯病(フザリウム菌)	ダコレート水和剤	M5,1		800~1200倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り1%	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	灌注	2回以内
				400~600倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り0.5%	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	灌注	2回以内
	タチカレースM液剤	32,4		500~1000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注	1回
苗木枯病(フザリウム菌)	タチカレースM粉剤	32,4		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り6~8g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和	1回
	タチカレース液剤	32		500~1000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り500mL	は種時又は発芽後	土壌灌注又は灌注	2回以内
	タチカレース粉剤	32		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り3~6g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和する。	1回
	ナエファインフロアブル	U17		2000倍	育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5%)1箱当り0.5~1%	は種時	土壌灌注	2回以内
				1000倍	育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5%)1箱当り0.5%	は種時	土壌灌注	2回以内
	ダコニール1000	M5		1000~2000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り1%	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	土壌灌注	2回以内
				500~1000倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り500mL	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	土壌灌注	2回以内
	ダコニール粉剤	M5		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り15~20g		は種前	育苗箱土壌に均一に混和する。	1回
	ダコレート水和剤	M5,1		400~600倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り0.5%	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	灌注	2回以内
				800~1200倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5%)1箱当り1%	は種時から緑化期 但し、は種14日後まで	灌注	2回以内
	ナエファインフロアブル	U17		2000倍	育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5%)1箱当り0.5~1%	は種時	土壌灌注	2回以内
				1000倍	育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5%)1箱当り0.5%	は種時	土壌灌注	2回以内
幼苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	カスミン粒剤	24		育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5%)1箱当り15~20g		覆土前	育苗箱には種した種籾の上から均一に散布する。	1回
				育苗箱(30×60×3cm使用土壌約5%)1箱当り30g		は種前	育苗培土に均一に混和する。	1回

水稻種子消毒の手順と育苗管理



浸種

- ・防除効果の低下を防ぐため、停滞水中で行い、浸種開始から3日間は換水しない。
- ・病原菌の感染防止のため、河川、湖沼、ため池等の水は使わない。
- ・病原菌の増殖・感染防止のため、**20℃以上**で浸種しない。

温度	浸種日数
10℃	10日間
15℃	7日間

催芽

- ・**30℃**で1～2日間行い、催芽揃いのよい状態にする。
 - ・病原菌の増殖を防ぐため、**30℃**を超えないようにする。
 - ・特にテクリードCフロアブル、モミガードC水和剤・DFを使用したときは、初期生育が遅延することがあるので、十分にはとむね状態にする。
- ※モミガードC水和剤、モミガードC・DFで、循環式の浸種水槽・催芽器を使用する場合は、循環水に空気が混じると泡が発生するので、給水口を水面下に入れる。また、泡は汚れた水でも発生するので、催芽にあたって、水を1回ごとに交換する。

はとむね催芽器使用上の留意点

- ・はとむね催芽器を使用すると、細菌病が増加しやすいのでなるべく使用しない。
- ・使用する場合は次の手順で行うとよい。

消毒 糶
↓
停滞水（水温**10℃**で4日間）で浸種
↓
水（水温**15℃**）を循環させて2日間浸種
↓
水温を高めて（水温**30℃**）循環させ、1日間
催芽
↓
は種

その他の注意事項

- ・消毒後の糶は有害であるから食用や飼料には用いない。
- ・使用済みの薬液や浸種液は河川や池等に流さず適正に処理する。

は種

- ・床土のpHは4.5～5.1程度とする。pHが高いともみ枯細菌病やムレ苗が、低いと苗立枯細菌病が発生しやすい（くんたんはpHが高いため、床土に混ぜる場合はpHが上がりすぎないように注意）。
- ・苗立枯病防除のため、薬剤の混和・灌注を行う（苗立枯病の種類によって薬剤が異なる）。
- ・育苗資材の洗浄・消毒。
- ・厚播き、多肥を避ける。

出芽

- ・病原菌の増殖・蔓延防止のため、**30℃**を超えないように管理する。
- ・出芽を揃える。

育苗

- ・温度：夜間**5℃**以下、昼間**25℃**以上にならないように管理する。温度が高いと細菌病蔓延のリスクが爆発的に高まる。
- ・水管理：過灌水、乾燥を避ける（天気の良い日の早朝に行い、灌水量は必要最小限とする）。
- ・病原菌感染防止のため、池や川の水は使用せず水道水を使う。
- ・防除：苗立枯病の発生をみたら薬剤を灌注する。細菌病には発病後の対策はない。

種子消毒剤の適用病害虫一覧（◎防除指針に採用、○登録のあるもの、×登録のないもの）

薬 剤 名	処 理 法	ば か 苗 病	い も ち 病	ご ま 葉 枯 病	も み 枯 細 菌 病	褐 条 病	苗 立 枯 細 菌 病	苗 立 枯 病				セ イ ネ シ ン ガ レ	
								リ ゾ ー プ ス 菌	フ ザ リ ウ ム 菌	ト リ コ デ ル マ 菌	ピ シ ウ ム 菌		
ベンレートT水和剤 20	粉 衣	◎	◎	◎	○	○	×		○	○	○	○	○
	浸 漬	◎	◎	◎	×	○	×		○	○	○	○	○
	吹き付け	◎	◎	◎	○	×	×		×	×	×	×	○
ホーマイ水和剤	粉 衣	◎	◎	◎	×	×	×	○	—	—	—	—	○
	浸 漬	◎	◎	◎	×	×	×	○	—	—	—	—	×
スターナ水和剤	粉 衣	×	×	×	○	○	○	×	—	—	—	—	×
	浸 漬	×	×	×	○	○	○	×	—	—	—	—	×
テクリードCフロアブル	浸 漬	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	×	○	×	×
	吹き付け	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	×	○	×	×
モミガードC水和剤	粉 衣	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	○	○	×	×
	浸 漬	○	○	○	○	○	○		○	○	○	×	×
	吹き付け	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	○	○	×	×
モミガードC・DF	浸 漬	○	○	○	○	○	○		○	○	○	×	×
	吹き付け	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	○	○	×	×
タフブロック	粉 衣	○	○	×	○	×	○		○	○	○	×	×
	浸 漬	◎	◎	×	◎	◎	◎		○	○	○	×	×
ルーチンシード FS	塗 沫	×	◎	×	○	×	×	×	—	—	—	—	×

吹き付け:塗沫処理を含む。
タフブロックの褐条病は催芽時処理。

苗立枯病、褐条病、もみ枯細菌病等適用農薬一覧（◎防除指針に採用、○登録のあるもの）

薬 剤 名	対 象 病 原 菌 等									
	トリコデルマ菌	ピシウム菌	リゾープス菌	フザリウム菌	褐 条 病	幼 苗 腐 敗 症 (もみ枯細菌病)	苗 立 枯 細 菌 病	ムレ苗防止 根の生育促進	根の伸長およ び発根促進	いもち病
タチガレエースM粉剤		◎		◎				◎		
タチガレエースM液剤		◎		◎				◎		
タチガレン粉剤		◎		◎				◎		
タチガレン液剤		◎		◎				◎		
ダコニール粉剤			◎							
ダコニール1000			◎							
ダコレート水和剤	◎		◎	◎						○ (苗いもち)
ベンレート水和剤	◎			○						○
ナエファインフロアブル		◎	◎	◎				○		
カスミン粒剤					◎	◎	◎			
カスミン液剤					◎	○	◎			○ (苗いもち)
フジワン粒剤								○ ムレ苗防止	◎	○

※育苗期間に登録のある農薬について記載

☆糸状菌による苗立枯病

- ・フザリウム、ピシウム、リゾープス、トリコデルマ、リゾクトニア菌などによって発生する。
- ・育苗環境の不良や急変により、苗が不健康なときに発生しやすい。

フザリウム菌

局部的に発生し、地際部に白いかびが見られるほか、根を中心に白色～紅色のかびが認められる。

床土のpHが5.5以上の場合や緑化期以降に10℃以下の低温にあうと発生しやすい。また、苗の活力、特に根の活力を低下させ、根を傷つけるような管理（床土の乾燥・過湿を繰り返すなど）は発病を助長する。

ピシウム菌

フザリウム菌による被害と似て坪状に発生するが、地際にかびは見られない。なお、ムレ苗は本菌による場合が多い。

床土のpHが高い（5.5以上）と発病しやすく、緑化期に低温（5℃以下）にあうと発病しやすい。畑土を床土に用いたり、河川や池の水を灌水に利用すると発生しやすい。

リゾープス菌

出芽期に箱全体、または一部が白いかびに覆われる。床土の表面や根のまわりによく発生し、菌糸の層を形成する。根は短く、先端が異常にふくらんだりする。

床土のpHが高いと発病しやすく、出芽時に32℃を越す高温や、緑化開始10日頃までの低温は発病を多くする。

トリコデルマ菌

出芽時に床土表面・根のまわりに白いかびが生え、しばらくするとかびは青緑色となる。

床土のpHは4.0以下で発生しやすく、土壌水分が少ない場合に発生しやすい。

リゾクトニア菌

下葉や葉鞘が灰色となり、葉腐れ症状を示す。葉鞘には菌糸がくもの巣状になり、初め白色、後に褐色の小さな菌核を作る。

本菌は野菜なども侵すので、畑土を床土として用いると発生しやすい。

☆細菌による苗立枯病

- ・いったん発生すると効果のある防除薬剤がないため予防を徹底する。

もみ枯細菌病

坪枯れ状に発生し、腐敗した苗の芯葉を引っ張ると容易に抜ける。腐敗した苗は悪臭を放つ。

浸漬中に保菌糞から健全糞へ感染する。水温が10℃の場合感染は少ないが、水温が高くなるほど感染が進む。また、催芽温度も20℃～33℃では、温度・出芽温度が高いほど（25<30<35℃）発病が激しくなる。土壌は粘土質で水持ちがよいほど、pHが高いほど発病が多くなる。透水性がよく、pHが5.1以下では発病は少なくなる。は種密度が高くなるほど、窒素肥料の施用が多いほど発病が多くなる。

褐条病

出芽中に激しく発病すると腐敗枯死する。病気の進展が遅い場合は、2～3葉期に達した苗の葉鞘に暗褐色の条斑が現れる。条斑は葉身にも見られる。発病苗は育苗箱内に均一に分散して発生することが多く、坪枯れとはならない。

はとむね催芽器を使用すると多発しやすい。出芽および緑化期の高温は発生を多くする。出芽温度が32℃より低い温度では発病が少ない。

苗立枯細菌病

普通坪状に発生するが、ひどいときは箱全体の苗が枯死する。通常葉芯は腐敗しないため、引っ張っても抜けにくく、枯死した苗は先端がロール状に巻き、赤茶けた状態で乾枯する。病原菌は催芽時に急激に増加し、緑化期あるいは硬化期に発病する。

出芽および緑化期の高温、土壌の乾湿は発生を助長する。人工培土で発生しやすい。

育苗箱施薬による病害虫防除

殺菌剤	殺虫剤	使用時期	薬剤名	抵抗性誘導	いもち病	紋枯病	白葉枯病	もみ枯細菌病	内臓癌変病	穂枯れ(ごま葉枯れ病菌)	イネハモグリバエ	イネヒメハモグリバエ	イネゾウムシ	イネミズソウムシ	イネドロオウムシ	ニカメイチュウ	イナゴ類	ツマグロヨコバイ	ウンカ類	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	フタオビコヤガ	イネツトムシ	コブノメイガ	イネクロカメムシ	カメムシ類	イネシシガタ
		緑化期～移植当日	D r ・ オ リ セ 箱 粒 剤 " (高密度に播種する場合)	○	50 50～100(3日前～)		50 50～100(3日前～)	50 50～100(当日)		50 50～100(当日)	50～100																
		は種前、移植当日	バ ダ ン 粒 剤 4								50 (当日)	50 (当日)	幼虫 80～100	幼虫 50(当日)	50 (2日前～)	50 (2日前～)						50 (は種時～)	50 (2日前～)				
		は種前、又はは種時(覆土前)～移植当日	ゼ ロ カ ウ ン ト 粒 剤 " (高密度に播種する場合)								50 (当日)	50 (当日)		幼虫 50～100(当日)	50 (2日前～)	50 (2日前～)						50 (は種時～)	50 (2日前～)				
殺菌剤		は種前、又はは種時(覆土前)～移植当日	ブ リ ン ス 粒 剤 " (高密度に播種する場合)								50 (当日)	50 (当日)		50 (当日)	50 (2日前～)	50 (2日前～)						50 (は種時)	50 (は種前)	50 (は種時)		50 (は種時)	
		移植3日前～移植当日	フ ェ ル テ ラ 箱 粒 剤 " (高密度に播種する場合)								50 (当日)	50 (当日)		50 (当日)	50 (2日前～)	50 (2日前～)						50 (は種時)	50 (は種前)	50 (は種時)			
		は種前、は種時(覆土前)	オ ン コ ル 粒 剤 5 " (高密度に播種する場合)								30～60 30～120(当日)	30～60 30～120(当日)		30～60 30～120(当日)							50～80 50～160(当日)					60 60～120(当日)	
		は種前、は種時(覆土前)	リ デ イ ア 箱 粒 剤 " (高密度に播種する場合)								50 (当日)	50 (当日)		50 (当日)	50 (2日前～)	50 (2日前～)						50 (は種時)	50 (は種前)	50 (は種時)			
		は種前、は種時(覆土前)	フ ザ ー ス ト オ リ ゼ リ デ イ ア 粒 剤 " (高密度に播種する場合)	○	50 (は種前～)		50 (は種時)	50 (は種時)			50 (は種時)	50 (は種時)		50 (は種前～)	50 (は種前～)	50 (は種前～)							50 (は種時)	50 (は種前)			
		は種前、は種時(覆土前)	フ ザ ー ス ト オ リ ゼ リ デ イ ア 粒 剤 " (高密度に播種する場合)	○	50 (は種前～)		50 (は種時)	50 (は種時)			50 (は種時)	50 (は種時)		50 (は種前～)	50 (は種前～)	50 (は種前～)							50 (は種時)	50 (は種前)			
		は種前、は種時(覆土前)	ブ ー ン バ デ イ ー ト 箱 粒 剤 " (高密度に播種する場合)	○	50 (は種前～)		50 (は種時)	50 (は種時)			50 (は種時)	50 (は種時)		50 (は種前～)	50 (は種前～)	50 (は種前～)							50 (は種時)	50 (は種前)			
		は種前、は種時(覆土前)	ヨ ー バ ル ト ッ プ 箱 粒 剤 " (高密度に播種する場合)	○	50 (は種前～)		50 (は種時)	50 (は種時)			50 (は種時)	50 (は種時)		50 (は種前～)	50 (は種前～)	50 (は種前～)							50 (は種時)	50 (は種前)			
		は種前、は種時(覆土前)	エ バ ー ゴ ル ワ イ ド 箱 粒 剤 " (高密度に播種する場合)	○	50 (は種前～)		50 (は種時)	50 (は種時)			50 (は種時)	50 (は種時)		50 (は種前～)	50 (は種前～)	50 (は種前～)							50 (は種時)	50 (は種前)			
殺菌剤		は種前、は種時(覆土前)	ス タ ウ ト ア レ ス 箱 粒 剤 " (高密度に播種する場合)	○	50 (は種前～)		50 (は種時)	50 (は種時)			50 (は種時)	50 (は種時)		50 (は種前～)	50 (は種前～)	50 (は種前～)							50 (は種時)	50 (は種前)			
殺菌剤	殺虫剤	は種前、は種時(覆土前)	ス タ ウ ト ア レ ス モ ン ガ レ ス 箱 粒 剤 " (高密度に播種する場合)	○	50 (は種前～)		50 (は種時)	50 (は種時)			50 (は種時)	50 (は種時)		50 (は種前～)	50 (は種前～)	50 (は種前～)							50 (は種時)	50 (は種前)			
		は種前、は種時(覆土前)	ス タ ウ ト ダ ン ト ツ 箱 粒 剤 " (高密度に播種する場合)	○	50 (は種前～)		50 (は種時)	50 (は種時)			50 (は種時)	50 (は種時)		50 (は種前～)	50 (は種前～)	50 (は種前～)							50 (は種時)	50 (は種前)			
		は種前、は種時(覆土前)	ス タ ウ ト パ デ イ ー ト 箱 粒 剤 " (高密度に播種する場合)	○	50 (は種前～)		50 (は種時)	50 (は種時)			50 (は種時)	50 (は種時)		50 (は種前～)	50 (は種前～)	50 (は種前～)							50 (は種時)	50 (は種前)			
		は種前、は種時(覆土前)	ス タ ウ ト パ デ イ ー ト D X 箱 粒 剤 " (高密度に播種する場合)	○	50 (は種前～)		50 (は種時)	50 (は種時)			50 (は種時)	50 (は種時)		50 (は種前～)	50 (は種前～)	50 (は種前～)							50 (は種時)	50 (は種前)			
		は種前、は種時(覆土前)	ス タ ウ ト ダ ン ト ツ 箱 粒 剤 0 8 " (高密度に播種する場合)	○	50 (は種前～)		50 (は種時)	50 (は種時)			50 (は種時)	50 (は種時)		50 (は種前～)	50 (は種前～)	50 (は種前～)							50 (は種時)	50 (は種前)			
		は種前、は種時(覆土前)	ス タ ウ ト タ ー ボ 箱 粒 剤 0 8 " (高密度に播種する場合)	○	50 (は種前～)		50 (は種時)	50 (は種時)			50 (は種時)	50 (は種時)		50 (は種前～)	50 (は種前～)	50 (は種前～)							50 (は種時)	50 (は種前)			
		は種前、は種時(覆土前)	ブ ー ン ア レ ス 箱 粒 剤 " (高密度に播種する場合)	○	50 (は種前～)		50 (は種時)	50 (は種時)			50 (は種時)	50 (は種時)		50 (は種前～)	50 (は種前～)	50 (は種前～)							50 (は種時)	50 (は種前)			
		は種前、は種時(覆土前)	ブ ー ン レ バ ー ト 箱 粒 剤 " (高密度に播種する場合)	○	50 (は種前～)		50 (は種時)	50 (は種時)			50 (は種時)	50 (は種時)		50 (は種前～)	50 (は種前～)	50 (は種前～)							50 (は種時)	50 (は種前)			

育苗箱施薬による病害虫防除

殺殺虫剤・	使用時期	薬剤名	抵抗性誘導	いもち病	紋枯病	白葉枯病	もみ枯細菌病	内臓褐変病	穂枯れ(ごま葉枯れ病菌)	イネハモグ リバエ	イネヒメハ モグリバエ	イネゾウム シ	イネミズ ソウムシ	イネドロ オウムシ	ニカメイ チュウ	イナゴ類	ツマグロ ヨコバエ	ウンカ類	ヒメトビ ウンカ	セジロ ウンカ	フタオビ コヤガ	イネツトム シ	コブノメイ ガ	イネクロ カメムシ	カメムシ類	イネシシガ レ
																					50	50	50	50	50	50
殺殺虫剤・	移植3日前～移植当日	Dr. オリゼリデイア箱粒剤 # (高密度に播種する場合)	○	50 50～100							50 50～100		50 50～100		50 50～100											
	移植2日前～移植当日	ルーチンアトスビノGT箱粒剤	○	50	50	50	50(当日)	50(当日)						50	50	50	50	50	50		50	50	50			

(2) 湛水直播栽培における防除

RPA

病害虫名	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
いもち病	ルーシード FS	P3		乾燥種もみ1kg当り原液6～12mL(原液71mL/10aまで)		は種前(浸種前)	塗沫処理(種子被覆剤を加用)	1回
				乾燥種もみ1kg当り原液6～12mL(原液71mL/10aまで)		は種前(浸種後)	コーティング中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	1回
	Dr.オリゼ フェルテラ粒剤	P2,2 8		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	箱いり娘粒剤	P3,4 A,5,7		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
紋枯病	エバールシード FS	7		乾燥種もみ1kg当り原液10mL(原液44mL/10aまで)		は種前(浸種後)	コーティング中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	1回
				乾燥種もみ1kg当り原液10mL(原液44mL/10aまで)		は種前(浸種前)	塗沫処理(種子被覆剤を加用)	1回
	箱いり娘粒剤	P3,4 A,5,7		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
苗腐病(ピシウム菌)	スターリアES	4		乾燥種もみ1kg当り原液5mL		は種前	種子吹き付け処理又は塗沫処理	1回
ウカ類	アドマイア水和剤	4A	劇	種もみ3kg当り150～200g(200g/10aまで)		は種前	過酸化カルシウム剤との同時湿粉衣	1回
ツマグロヨコバイ	アドマイア水和剤	4A	劇	種もみ3kg当り150～200g(200g/10aまで)		は種前	過酸化カルシウム剤との同時湿粉衣	1回
イネミズゾウムシ	ダントツアプロ	4A		原液	種もみ3kg当り75mL/10a	は種前	塗沫処理	1回
	ヨーバルシード FS	28		乾燥種もみ1kg当り原液11mL(原液55mL/10aまで)		は種前(浸種後)	コーティング中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	1回
	Dr.オリゼ フェルテラ粒剤	P2,2 8		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
イネミズゾウムシ	フォルテンザ FS	28		乾燥種もみ1kg当り原液8mL		は種前	種子吹き付け処理又は塗沫処理	1回
	箱いり娘粒剤	P3,4 A,5,7		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	ルミビアFS	28		乾燥種もみ1kg当り原液4～7mL		は種前	種子吹き付け処理又は塗沫処理	1回
イネトヨイムシ	ヨーバルシード FS	28		乾燥種もみ1kg当り原液11mL(原液55mL/10aまで)		は種前(浸種後)	コーティング中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	1回
	Dr.オリゼ フェルテラ粒剤	P2,2 8		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	箱いり娘粒剤	P3,4 A,5,7		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	ルミビアFS	28		乾燥種もみ1kg当り原液4～7mL		は種前	種子吹き付け処理又は塗沫処理	1回
	フォルテンザ FS	28		乾燥種もみ1kg当り原液8mL		は種前	種子吹き付け処理又は塗沫処理	1回
キリウジガガンボ	箱いり娘粒剤	P3,4 A,5,7		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
ニカメイチュウ	ヨーバルシード FS	28		乾燥種もみ1kg当り原液11mL(原液55mL/10aまで)		は種前(浸種後)	コーティング中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	1回
	箱いり娘粒剤	P3,4 A,5,7		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	ルミビアFS	28		乾燥種もみ1kg当り原液4～7mL		は種前	種子吹き付け処理又は塗沫処理	1回
アザヒコヤガ	箱いり娘粒剤	P3,4 A,5,7		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
イネトムシ	ヨーバルシード FS	28		乾燥種もみ1kg当り原液11mL(原液55mL/10aまで)		は種前(浸種後)	コーティング中又はコーティング後の種もみに塗沫処理	1回
	箱いり娘粒剤	P3,4 A,5,7		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回
	箱王子粒剤	P3,4 A,5		1kg/10a		は種時	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	1回

(3) 本田期の防除

RPA

病害虫名	防除時期	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	
葉いもち	6月下旬 ～ 7月上旬	ブラン粉剤DL	U14, 16.1		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ブランフロアブル	U14, 16.1		1000倍	60～150%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
	初発の10日前～初 発時	ブライフロアブル		U16		1000倍	60～150%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内
						8倍	0.8%/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	2回以内
		オリゼート1kg粒剤	P02		1～1.3kg/10a		収穫14日前まで	散布	2回以内	
		オリゼート粒剤	P02		3～4kg/10a		葉いもちには初発の10日前～初発時穂いもちには出穂3～4週間前 収穫14日前まで	散布	2回以内	
	初発の10日前～ 10日後	オリゼート粒剤20	P02		1kg/10a		収穫14日前まで	散布	2回以内	
		コラトップ1kg粒剤12	16		1～1.5kg/10a		葉いもちに対しては初発10日前～ 初発時穂いもちに対しては出穂 30日前～5日前まで	散布	2回以内	
初発前	オリゼート250G	11		250g/10a		出穂10日前までただし、収穫45日 前まで	散布	1回		
初発前	ルーチン粒剤	P03		1kg/10a		収穫30日前まで	澁水散布	2回以内		
穂いもち病	第2回目 穂揃直後	ラブサイドダントフロアブル	4A,1 6.1		8倍	800mL/10a	収穫7日前まで	無人ヘリコプターによる散布	3回以内	
		アミスターレボンSE	3A,1 1	8倍	800mL/10a	収穫14日前まで	空中散布	3回以内		
				1000倍	60～150%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内		
		ブライフロアブル	U16	1000倍	60～150%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内		
				8倍	0.8%/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	2回以内		
		ブラン粉剤DL	U14, 16.1		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ブランフロアブル	U14, 16.1		1000倍	60～150%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ビームイトEXゾル	4C,1 6.1	250倍	25%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内		
				8倍	0.8%/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内		
				1000倍	60～150%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内		
	ビームイトエクシードゾル	4C,1 6.1	250倍	25%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内			
			8倍	0.8%/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内			
			1000倍	60～150%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内			
	ビームスターク粉剤5DL	4A,1		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内		
ビームイトモカットフロアブル	16,7		5～8倍	800mL/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	3回以内			
出穂3～4週間前	オリゼート粒剤	P02		3～4kg/10a		葉いもちには初発の10日前～初発時穂いもちには出穂3～4週間前 収穫14日前まで	散布	2回以内		
出穂10日前頃	ワイドハンチ豆つぶ	2B,1		250g/10a		収穫35日前まで	散布	1回		
紋枯病	第1回目	バリタシ液剤5	U18		1000倍	60～150%/10a	収穫14日前まで	散布	5回以内	
	穂ばらみ期 (垂直進展初期)	バリタシ粉剤DL	U18		3～4kg/10a		収穫14日前まで	散布	5回以内	
		アミスターレボンSE	11, 3A		8倍	800mL/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	3回以内	
	第2回目			1000倍	60～150%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内		
	穂揃期	ビームイトモカットフロアブル	16,7		5～8倍	800mL/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	3回以内	
	出穂30日前～出穂 期	リンパ-粒剤	7		3～4kg/10a		収穫30日前まで	散布	2回以内	
	出穂30～10日前	モカット粒剤	7		3～4kg/10a		出穂30～10日前 但し、収穫14日 前まで	澁水散布	4回以内	
白葉枯病	移植活着後及び出 穂3～4週間前	オリゼート粒剤	P02		3～4kg/10a		移植活着後及び出穂3～4週間前 収穫14日前まで	散布	2回以内	
ごま葉枯病	第1回目穂ばらみ 期 第2回目穂揃期	ブランフロアブル	P02		1000倍	60～150%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ブラン粉剤DL	P02		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
稲こうじ病	出穂10日前まで	Zホルト-粉剤DL	P02		3～4kg/10a		出穂10日前まで	散布	-	
	穂ばらみ期	ブラン粉剤DL	P02		4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
もみ枯細菌 病	出穂3～4週間前	オリゼート1kg粒剤	P02		1～1.3kg/10a		収穫14日前まで	散布	2回以内	
		オリゼート粒剤	P02		3～4kg/10a		移植活着後及び出穂3～4週間前 収穫14日前まで	散布	2回以内	
イネヒメダカ バエ	5月中旬～6月上旬 (幼虫発生初期)	エルサン乳剤	1B	劇	1500～2000倍	60～150%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		エルサン粉剤2	1B		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	

病害虫名	防除時期	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
イネゾウムシ成虫	5月中旬	エルサン粉剤2	1B		3~4kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内
イネミスゾウムシ (越冬成虫)	5月下旬	トレボン粒剤	3A		2~3kg/10a		収穫21日前まで	散布	3回以内
ニカメイチュウ第1世代	第1世代 粉液剤：発が最盛	エルサン乳剤	1B	劇	1000~1500倍	60~150% _{10a}	収穫7日前まで	散布	2回以内
ニカメイチュウ第2世代	期後15~20日頃 (6/15~20頃)	エルサン乳剤	1B	劇	800~1000倍	60~150% _{10a}	収穫7日前まで	散布	2回以内
ニカメイチュウ	粒剤：発が最盛期 10日後頃(6/10頃)	パダソSG水溶剤	14	劇	1500倍	60~150% _{10a}	収穫21日前まで	散布	6回以内
		パダソ粒剤4	14	劇	3~4kg/10a		収穫30日前まで	散布	6回以内
イナゴ類	6月下旬~7月下旬	トレボン粉剤DL	3A		3~4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
ツマグロヨコバイ	7月下旬~8月上旬 (第2世代幼虫発生初期) 8月中旬~8月下旬 (第3世代幼虫発生初期)	アルパリン粉剤DL	3A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		スタークル粉剤DL	3A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		ダントツH粉剤DL	3A		3~4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		トレボン粉剤DL	3A		3~4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		トレボン粒剤	3A		2~3kg/10a		収穫21日前まで	散布	3回以内
ウナギ類	7月下旬~8月上旬 (幼虫発生初期)	スタークル粉剤DL	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		アルパリン粉剤DL	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		ビームスタークル粉剤5DL	4A,1 6.1		3~4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		トップジンスタークル粉剤DL	4A,1		3~4kg/10a		収穫14日前まで	散布	3回以内
		ダントツH粉剤DL	4A		3~4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		トレボン粉剤DL	3A		3~4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
		トレボン粒剤	3A		2~3kg/10a		収穫21日前まで	散布	3回以内
		アミスタートレボンSE	3A,1 1	1000倍		60~150% _{10a}	収穫14日前まで	散布	3回以内
				8倍		800mL/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	3回以内
		ビームイトEXゾル	4C,1 6.1	8倍		0.8% _{10a}	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内
				250倍		25% _{10a}	収穫7日前まで	散布	3回以内
				1000倍		60~150% _{10a}	収穫7日前まで	散布	3回以内
		ビームイトエクシードゾル	4C,1 6.1	250倍		25% _{10a}	収穫7日前まで	散布	3回以内
				8倍		0.8% _{10a}	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内
				1000倍		60~150% _{10a}	収穫7日前まで	散布	3回以内
	エクシードフロアブル	4C	2000倍		60~150% _{10a}	収穫7日前まで	散布	3回以内	
16倍				0.8% _{10a}	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内		
エクシード粉剤DL	4C		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内		
エミリアフロアブル	4F		8倍	0.8% _{10a}	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内		
	出穂7~10日後	スタークル豆つぶ	4A		250~500g/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
アサヒコヤガ	6月下旬~7月上旬 (第1世代幼虫発生初期)	スミチオン乳剤	1B		2000~4000倍	60~150% _{10a}	収穫21日前まで	散布	2回以内
	7月下旬~8月上旬 (第2世代幼虫発生初期)								
イネトシ	6月下旬(第1世代)	パダソSG水溶剤	14	劇	1500倍	60~150% _{10a}	収穫21日前まで	散布	6回以内
	7月下旬~8月上旬 (第2世代) 各世代とも若齢幼虫発生初期								
コブメカガ	7月中旬~8月中旬 (成虫飛来盛期~幼虫ふ化期)	スミチオン粉剤3DL	1B		3~4kg/10a		収穫21日前まで	散布	2回以内 (但し、出穂前は1回)

病害虫名	防除時期	薬剤名	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	
カメムシ類	早生・中生 第1回目：穂揃期 第2回目：糊熟初期	スミチオン粉剤3DL	1B		3～4kg/10a		収穫21日前まで	散布	2回以内 (但し、出穂前は1回)	
		スミチオン乳剤	1B		8倍	800mL/10a	収穫21日前まで	空中散布	2回以内	
	晩生は糊熟初期に1回のみ					8倍	800mL/10a	収穫21日前まで	無人航空機による散布	2回以内
		エクシード 粉剤DL	4C		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		エクシード フロアブル	4C			16倍	0.8% ^{10a}	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内
						2000倍	60～150% ^{10a}	収穫7日前まで	散布	3回以内
		トレボン粉剤DL	3A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		トレボンスターフロアブル	3A,4		8倍	0.8% ^{10a}	収穫14日前まで	無人航空機による散布	3回以内	
		トライトレボン粉剤DL	3A,U 16		3～4kg/10a		収穫14日前まで	散布	2回以内	
		アミスタートレボンSE	3A,1 1			1000倍	60～150% ^{10a}	収穫14日前まで	散布	3回以内
						8倍	800mL/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	3回以内
		エミリアフロアブル	4F		8倍	0.8% ^{10a}	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
		スタークル粉剤DL	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		アルパリン粒剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		トップジンスタークル粉剤DL	4A,1		3～4kg/10a		収穫14日前まで	散布	3回以内	
		ビームスタークル粉剤5DL	4A,1		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		ビームイトスタークルゾル	4C,1 6.1			8倍	0.8% ^{10a}	収穫7日前まで	無人ヘリコプターによる散布	3回以内
						1000倍	60～150% ^{10a}	収穫7日前まで	散布	3回以内
		ビームイトEXゾル	4C,1 6.1			8倍	0.8% ^{10a}	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内
						250倍	25% ^{10a}	収穫7日前まで	散布	3回以内
						1000倍	60～150% ^{10a}	収穫7日前まで	散布	3回以内
		ビームイトエクシードゾル	4C,1 6.1			8倍	0.8% ^{10a}	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内
	250倍					25% ^{10a}	収穫7日前まで	散布	3回以内	
	1000倍					60～150% ^{10a}	収穫7日前まで	散布	3回以内	
	ダントツH粉剤DL	4A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内		
	ラブサイドダントツフロアブル	4A,1 6.1			8倍	800mL/10a	収穫7日前まで	無人ヘリコプターによる散布	3回以内	
					8倍	800mL/10a	収穫7日前まで	空中散布	3回以内	
出穂10日前頃		キラップ 粒剤	2B		3kg/10a		収穫14日前まで	湛水散布	2回以内	
		ワイドパンチ豆つぶ	2B,1		250g/10a		収穫35日前まで	散布	1回	
出穂期		ダントツ粒剤	4A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
出穂7日後		アルパリン粒剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		スタークル粒剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		スタークル豆つぶ	4A		250g/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
アザミウマ類	出穂直前	トレボン粉剤DL	3A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	

本田防除の注意事項

葉いもち

- ・圃場をよく見まわり早期発見につとめ、初期防除を徹底する。
- ・予防粒剤の適期は6月上旬頃、散布剤は初発の1週間後である。
- ・薬剤を施用した圃場でも、新たな病斑が発生したら、散布10日後に追加防除する。
- ・降雨が続いても、雨のやみ間を見て防除する。
- ・直播田や遅植田は、多発する可能性があるので注意する。
- ・粒剤は水深3～4cm、パック剤は水深5～6cmで止水、散布し、施用後1週間程度はかけ流しをしない。
- ・パック剤は、藻や浮草が多発している場合や風の強い日は拡散が劣る。
稲が繁茂してからは使用しない。
- ・オリブライト1キロ粒剤は、葉に褐点が出ることがある。

[耕種的防除]

- ・保菌種子や被害わらが第一次伝染源となるので、健全種子を使用し、種子消毒する。
育苗施設周辺から、わら、籾殻などを除去する。
- ・覆土時に種籾を露出させない。
- ・育苗時ハウスに紫外線カットフィルムを使用すると孢子形成が阻害される。
- ・伝染源をなくすため、補植用苗は早急に取り除く。
- ・窒素肥料を多用すると稲体が軟弱に生育し、発病を助長する。
- ・珪酸質肥料を秋起時に施用し、イネの抵抗力を高める。
秋に施用しない場合は、出穂の2週間前までに本田施用する。

穂いもち

- ・葉いもちが多発した圃場や葉色の濃い圃場、出穂期以降の連続降雨で多発しやすい。
- ・多発が予想されるときは、傾穂期（穂揃い7～10日後）に追加防除する。
- ・使用時期が「収穫21日前まで」の薬剤は、早生品種の穂揃後に使用しない。
- ・ブラシン粉剤DL、ブラシンフロアブルは、変色米に有効である。

紋枯病

- ・前年の罹病残渣が伝染源であるので、前年多発した圃場では箱粒剤、種子塗抹剤等を使用し、初期防除を徹底する。
- ・粒剤施用後、1週間程度は湛水状態を保ち、落水やかけ流しはしない。
- ・薬剤が稲の下部に付着するように散布する。
- ・晩生種、直播田でも7月下旬には防除する。
- ・使用時期が「収穫21日前まで」の薬剤は、早生品種の穂揃後に使用しない。
- ・初期防除を行っていても、後期に多発生が予想されるときは追加防除する。

小粒菌核病

- ・粒剤施用後、1週間程度は湛水状態を保ち、落水やかけ流しはしない。
〔耕種的防除〕
- ・発生地域では、早期落水をしない。
- ・灌排水に注意し、根腐れを起こさないようにする。

白葉枯病

- ・常発地や多発が予想される時は、予防散布を行う。
- ・散布後、1週間程度は湛水状態を保ち、落水やかけ流しはしない。

ごま葉枯病

- ・発生が多い場合は、傾穂期にも防除する。
〔耕種的防除〕
- ・「秋落ち」など肥切れしやすい圃場で発生しやすいため、土壌改良資材を投与し土づくりを行う。
- ・適切な中干しを行い、稲体の消耗を防ぐ。

もみ枯細菌病

- ・健全種子を使用し、正しく種子消毒を行う。催芽～育苗時に30℃以上の高温になると感染が広がるため温度管理に気を付ける。
- ・出穂期頃の最低気温が22℃以上の高温状態で、降雨が続くと多発する。
- ・粒剤散布後、1週間程度は湛水状態を保ち、落水やかけ流しはしない。
- ・使用時期が「収穫21日前まで」の薬剤は、早生品種では穂揃期までとする。

イネヒメハモグリバエ

- ・幼虫加害初期に防除する。
- ・直播栽培など生育が遅いほど発生が多くなる。

イネミズゾウムシ

- ・山間部や雑草地の近くで発生が多い。
- ・穴あき米（穿孔米）は割れ粃（開えい粃）が多いと発生も多くなる。
- ・粉剤は浅水にして夕方散布すると効果が高い。
- ・6月上旬はニカメイチュウ、イネドロオイムシと同時に防除できる。

ニカメイチュウ

- ・遅植、直播、多肥栽培で発生しやすい。
〔耕種的防除〕
- ・幼虫が収穫後の刈り株で越冬するので、刈り株の早期すき込みと湛水管理を行う。

イナゴ類

- ・幼虫発生初期の6月下旬～7月上旬の防除が効果的である。
- ・畦畔沿いを重点に散布する。

ツマグロヨコバイ

- ・防除時期および防除要否は、予察情報または地域ごとの調査で判断する。
- ・早生品種の収穫後は、中晩生品種に集中加害することがあるので注意する。
- ・収穫期近くの防除は、農薬使用基準に従い薬剤を選ぶ。
特に、使用時期が「収穫 21 日前まで」の薬剤は、早生品種での使用に注意する。
- ・トレボン粒剤は湛水して施用し、施用後 1 週間程度はかけ流ししない。

ウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）

- ・防除時期および防除要否は、予察情報または地域ごとの調査で判断する。
- ・薬剤が株元にかかるように散布する。
- ・トレボン粒剤は湛水条件で使用し、施用後 1 週間程度はかけ流ししない。
- ・使用時期が「収穫 21 日前まで」の薬剤は、早生品種での使用に注意する。
- ・収穫期近くの防除は使用時期に注意する。

フタオビコヤガ（イネアオムシ）

- ・使用時期が「収穫 21 日前まで」の薬剤は、早生品種での使用に注意する。
- ・遅植や直播田に発生が多い。

イネツトムシ（イチモンジセセリ）

- ・葉色の濃い品種で被害がひどくなる。
- ・遅植や直播田に発生が多い。

コブノメイガ

- ・防除適期は、幼虫ふ化初期となる成虫最盛期 3～5 日後である。
- ・葉色が濃いイネは被害が出やすい。

カメムシ類

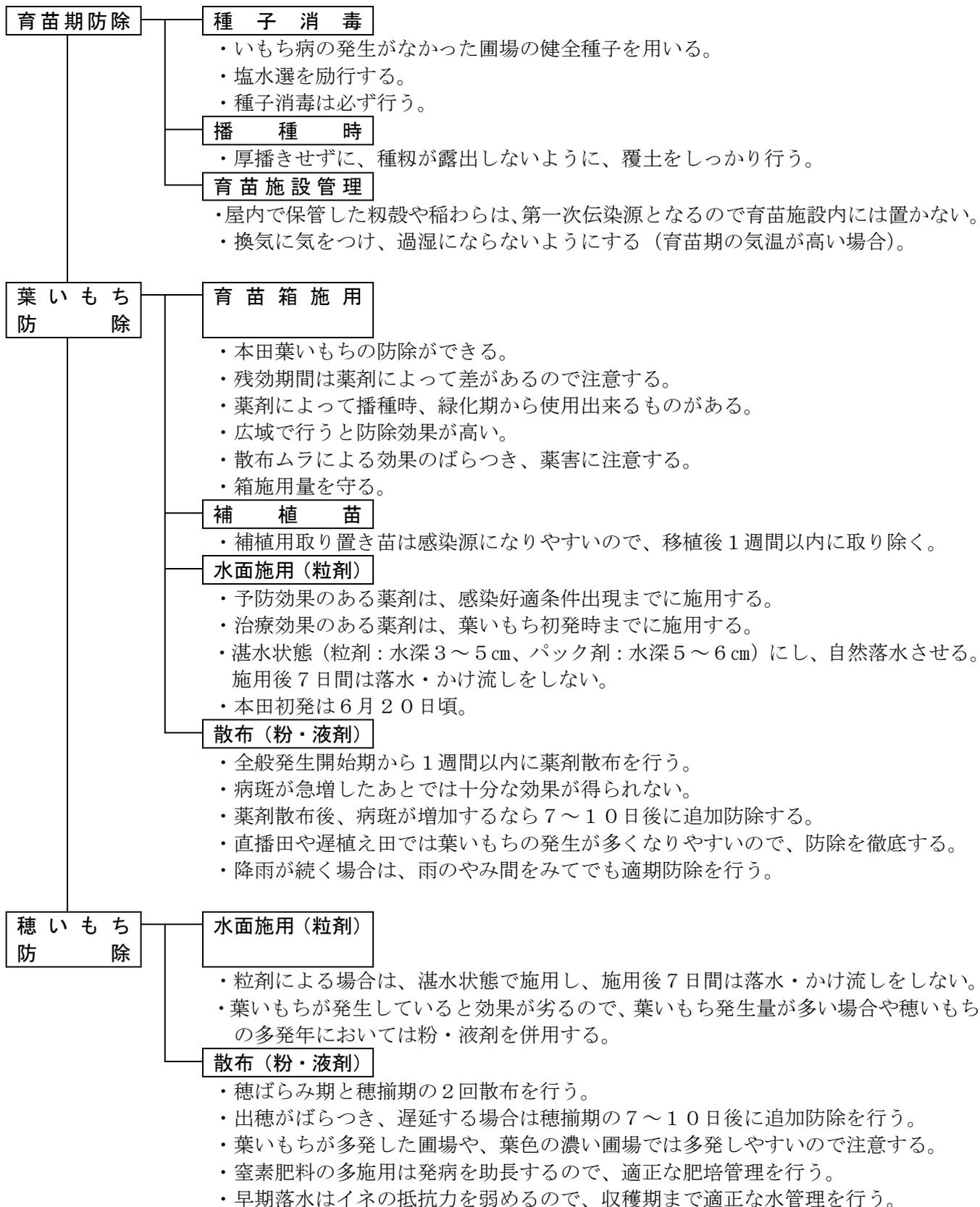
- ・ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、カスミカメムシ類の発生が多いときは、収穫 14～7 日前に追加防除する。
- ・粒剤は湛水深 3 cm 程度で散布し、施用後 1 週間程度はかけ流しをしない。

イネクロカメムシ

- ・越冬場所に近い山際などで、6 月下旬に葉が萎縮するなどの被害を確認したら 7 月上旬までに防除する。
- ・若齢幼虫は下部の葉鞘に多いため、下部に薬剤がかかるようにする。

(4) いもち病の総合的管理

・ 基本的ないもち病の防除対策



・いもち病の薬剤防除体系例

5月			6月			7月			8月		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
← 移植期 →			← 分けつ期 →			← 穂ばらみ期 →			← 登熟期 →		
(出穂期)											
移植直前			全般発生開始前	全般発生開始	全般発生開始後 一週間以内	出穂前		出穂直前	穂揃期	傾穂期	
← 葉いもち防除 →						← 穂いもち防除 →					
箱施用			水面施用(粒剤)		散布(粉液剤等)	追加散布(粉液剤等)	水面施用(粒剤)		散布(粉液剤等)	散布(粉液剤等)	散布(粉液剤等)
体系1					◎	△			○	◎	△
体系2			◎						○	◎	△
体系3			◎				◎				△
体系4	◎					△			○	◎	△
体系5	◎					△	◎				△

◎:必要防除 ○:少発条件の場合省略可能 △:臨機防除

・いもち病防除薬剤の特性

分類	耐性菌発生 のリスク	FRACコード [*] /有効成分名	商品名 (含まれる名称)	効果		作用特性
				予防	治療	
ベンズイミダゾール系	高	1/チオファネートメチル	トップジン	○	○	感染防止効果は強く、また、病斑の拡大を阻止する。
ジチオラン	中	6/イソプロチオラン	フジワン	○		いもち病菌の胞子発芽にはほとんど影響がなく、付着器形成以後の進入菌糸伸展の生育を強く阻害。
ストロビルリン系 (QoI 殺菌剤)	高	11/アズキシストロビン	アミスター	○	○	浸透移行性があり、胞子形成、胞子柄形成、胞子飛散を抑える。
		11/メトミノストロビン	オリブライト, ワイドバンチ	○	○	水面施用により根からイネ体にすばやく吸収される。持続期間が長い。
メラニン生合成阻害 MB I-R	未発生	16.1/フサライド	ラブサイド	○		予防効果が高く、胞子のイネへの侵入阻害効果、胞子飛散抑制効果がある。効果持続期間が長い。浸透移行性は乏しい。
		16.1/ピロキロン	コラトップ, デジタルメガフレア	○		菌糸のイネ体への侵入が阻止され、また、すでに形成された病斑上の胞子形成も阻害される。浸透移行性及び残効性を有する。
		16.1/トリシクラゾール	ビーム	○		浸透移行性があり、イネのあらゆる部分から吸収されて体内に分布し、いもち病菌の侵入を防ぐ。また、胞子形成を抑制し、胞子の病原力を低下させ、二次感染を抑止する。効果持続期間が長い。
メラニン生合成阻害 MB I-P	未発生	16.3/トルプロカルブ	サンエース, サントリプル, トリプルキック, ツインキック	○		イネいもち病菌の付着器でのメラニン生合成阻害作用、それに伴う感染阻害活性を持つ。
抗生物質	高	24/カスガマイシン	カスミン	○	○	治療効果が高く潜伏中の病斑治療、病斑拡大阻害効果がある。残効は短い。耐性菌が発生している。
ピリミジン系	未発生	U14/フェリムゾン	ブラシン	○	○	治療効果が高く潜伏中の病斑治療、病斑の拡大阻止、病斑上の胞子形成阻害を有する。
アシルオキシキノリン系	未発生	U16/テブフロキン	トライ	○	○	病斑形成や伸長、病斑上の胞子形成を強く阻害する。
抵抗性誘導剤	未発生	P2/プロベナゾール	オリゼメート, ファーストオリゼ, D r. オリゼ, ジャッジ	○		根から吸収され、いもち病菌に対し、侵入阻害作用、菌糸生育阻止作用、病斑拡大阻止作用、胞子形成阻止作用を示す。効果が現れるまで期間がかかる。持続期間が長い。
		P3/チアジニル	ブイゲット	○		稲が本来持っている病害防御機能を高めることにより、いもち病菌の稲体内での菌糸の伸展を強く阻害する。浸透移行性に優れ、根部から稲体へ速やかに吸収移行されることにより、防除効果を示す。
		P3/イソチアニル	ルーチン, スタウト, エバーゴールド, ツインパディート, ツインターボ, 箱いり娘, 箱大臣, ヨーバルトップ, ヨーバルプライム EV	○		浸透移行性があり、感染した細胞が過敏細胞死を起こすことで他の細胞への拡大を防ぐ。
		P8/ジクロベンチアゾクス	ブーン	○		感染した細胞は活性酵素、抗菌性物質を産生し菌糸の伸展を阻害、さらに過敏細胞死を起こして他の細胞への感染拡大を防ぐ。

・ QoI 剤耐性いもち病対策

1 QoI 剤耐性いもち病菌の発生状況

2012 年度から現在まで、福井県の近隣を含めた 21 府県で QoI 剤*耐性のイネいもち病菌が確認されている。

※QoI 剤（ストロビルリン系殺菌剤）

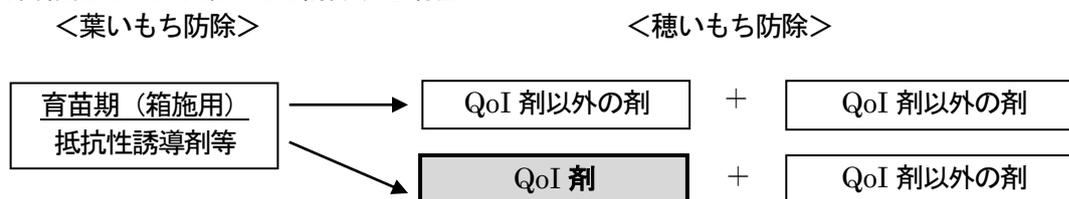
成分名	農薬名（防除指針掲載薬剤）
アゾキシストロビン	アミスタートレボン SE
メトミノストロビン	オリブライト 1 キロ粒剤、オリブライト 250G、ワイドパンチ豆つぶ

2 QoI 剤耐性いもち病菌の発生を抑えるための対策

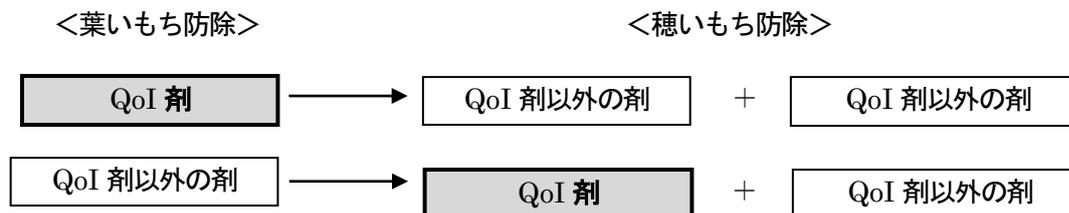
- 1) 採種圃では、種子流通に伴って広範囲で耐性菌を広める恐れがあるため、QoI 剤の使用を避ける。
- 2) QoI 剤の使用回数は、最大年 1 回とする。
- 3) 育苗箱施用で QoI 剤を使用した場合には、本田では QoI 剤を使用しない。
- 4) 種子消毒は、種子消毒の使用方法を遵守して、必ず実施する。
- 5) 耕種的防除（補植用苗を早期に除去する、種子更新による健全種子を使用する、伝染源である稲わら・籾を育苗ハウス内に置かない）を実施する。
- 6) 薬剤は規定の施用量を均一に散布し、防除効果が低下しないようにする。
- 7) 育苗時に苗いもちの発生が確認された場合には、本田への移植を行わない。
- 8) 連年、QoI 剤を使用している圃場では、可能な限り 1 年もしくは 2 年ごとに QoI 剤と作用機構が異なる薬剤とのローテーションで使用するか、耐性菌の発生リスクが低い薬剤を使用することが望ましい。

3 一般圃場で QoI 剤を利用する場合の防除体系例 ※薬剤については参照

1) 育苗箱施用により葉いもち防除する場合



2) 育苗箱施用を行わず、本田防除を行う場合（直播栽培等）



◎QoI 剤の連年使用は避け、可能な限り 1 年または 2 年おきに作用機構の異なる薬剤とローテーションで使用する（イネいもち病防除における QoI 剤及び MB I-D 剤耐性菌対策ガイドラインより）。

(5) 斑点米カメムシ類と総合的管理

・ 斑点米をひきおこすカメムシの種類 ※小枠内は幼虫

飛翔性カメムシ



ホソハリカメムシ



アカスジカスミカメ



アカヒゲホソドリカスミカメ

歩行性カメムシ



クモヘリカメムシ



コバネヒョウタンガカメムシ



トゲシラホシカメムシ

○成虫の大きさ

2 cm
1 cm



トゲシラホシ
カメムシ



アカヒゲホソドリ
カスミカメ



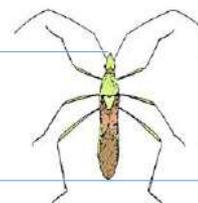
アカスジ
カスミカメ



コバネヒョウタン
ナガカメムシ

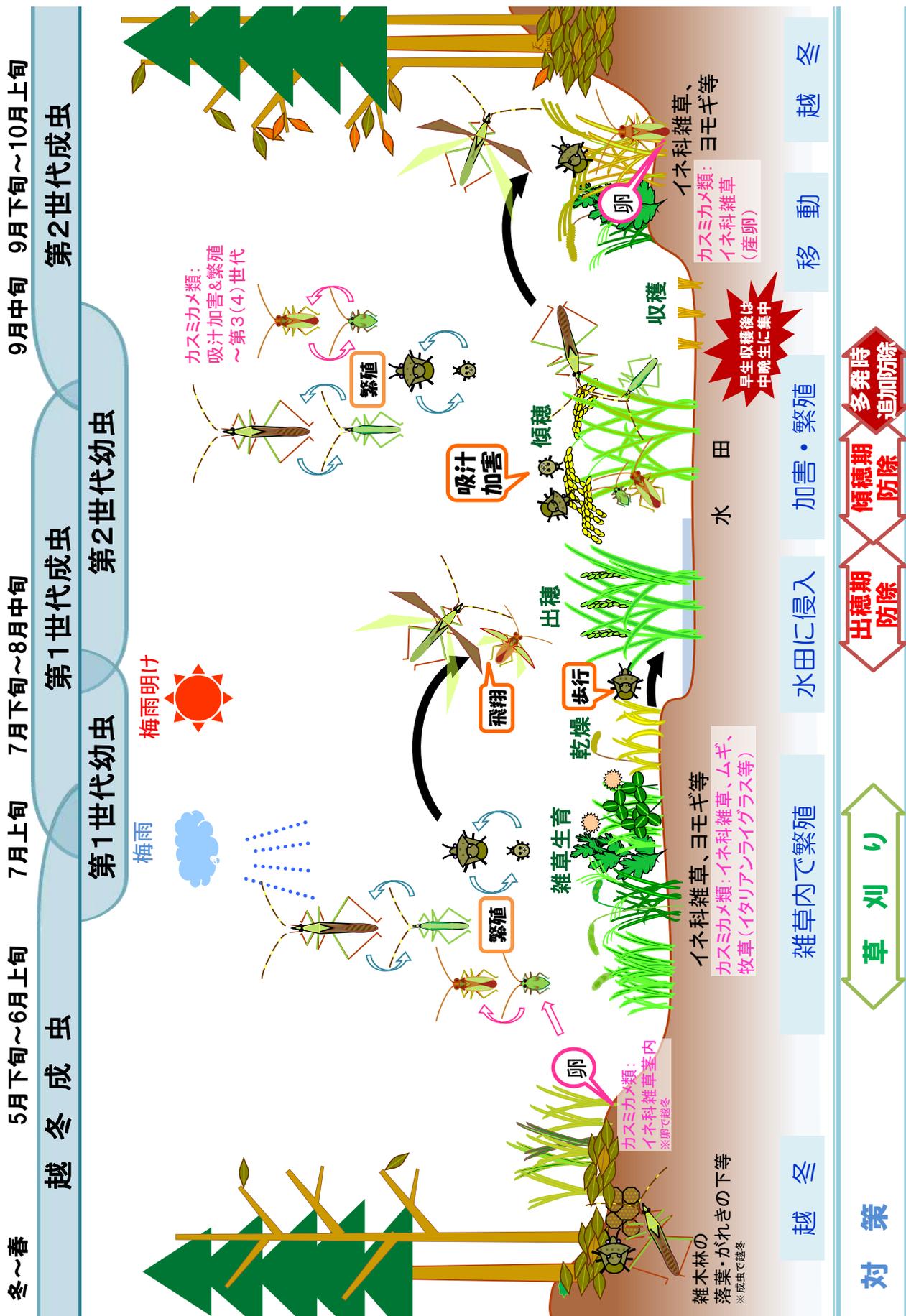


ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ

・斑点米カメムシ類の生活史



斑点米カメムシ類の総合的管理方法

品種の団地化

- ・出穂が早い品種、圃場ほど斑点米の発生が多くなる。
- ・品種の団地化を行うことで、カメムシ類による集中加害を防ぎ、加害を軽減する。

雑草の管理

- ・出穂するまでカメムシ類は、主に畦畔、農道、休耕田などの雑草地で生息している。
- ・草刈りを出穂10日前までにこまめに行い、イネ科雑草の種子がつかないように管理し、カメムシ類の繁殖を抑える。
- ・出穂後の草刈りは、カメムシ類の水田への侵入を助長するので、行わない方がよい。
- ・休耕田におけるカメムシ防除薬剤は、次ページを参照する。
- ・草刈りは、地域で一斉に行うとカメムシ類の避難場所をなくし、防除効果が高くなる。
- ・水田内の雑草は、カメムシ類の本田侵入を助長するので早めに取り除く。

出穂以降の管理

- ・水田内でカメムシ類が1頭以上すくい取られると、1,000粒に1粒以上の斑点米が混入する可能性が大きい。
- ・すくい取り調査方法：捕虫網を用いて、出穂始めと穂揃期の2回、25回往復（50回振り）で、水田内の畦畔沿いをすくい取る。捕獲率が高い早朝、または午後4時以降に行うとよい。

薬剤防除

〈粉剤・液剤による防除〉

- ・薬剤防除は、穂揃期と糊熟初期の2回防除が基本。多発生が予想される場合は3回目の防除を収穫14～7日前に行う。
- ・薬剤散布は、地域で一斉に行うと、より効果が高くなる。
- ・収穫期に近い防除は、特に農薬使用基準に注意する。
- ・カメムシの種類によって、効果の高い薬剤が異なる。
- ・圃場の周辺部は斑点米の発生が多いので、別刈り・別仕分けする。

IRAC	1B	2B	3A	4A		4C	4F
系 統	有機リン	フェニルピラゾール	ピレスロイド	ネオニコチノイド		スルホキシミン	ピリジリデン
成 分	MEP	エチプロール	エトフェンブロックス	ジノテフラン	クロチアニジン	スルホキサフロル	フルピリミン
薬 剤	スミチオン	キラップ	トレボン	スタークル アルバリン	ダントツ	エクシード	エミリア

〈粒剤を基幹とした防除事例〉

(スタークル／アルバリンを用いた事例)

粒剤散布時の注意事項

- ・スタークル／アルバリン粒剤は水溶性が高く流亡しやすいため、水深3cm程度の湛水状態で散布し、その後自然落水するまで、水を落とさない。
- ・スタークル／アルバリン粒剤・粉剤DLともに、使用量は10a当たり3kgとする。
- ・額縁防除を行う場合は、水田内幅3mの額縁部のみ10a当たり3kg相当を散布し、過剰散布にならないよう、注意する。
- ・斑点米多発米地域では、粒剤だけの防除では効果が不十分であるため、粒剤散布7日後頃に必ず粉剤による補完防除を行う。

※ 粒剤、粉剤とも防除時期が遅れると、効果が著しく低下するので、注意する。

例年の斑点米発生状況	薬 剤 名	散布時期・量	散布方法
少発生地域 斑点米率 0.2%未満 粒剤の額縁散布	(スタークル粒剤 アルバリン粒剤)	出穂7日後頃 3m×100m=3a 当たり0.9kg	水田内周辺部、幅3mのみ 額縁散布する。
中発生地域 斑点米率 0.2%～0.4% 粒剤の全面散布	(スタークル粒剤 アルバリン粒剤)	出穂7日後頃 10a 当たり3kg	水田内全面散布する。
多発生地域 斑点米率 0.4%～0.7% 粒剤の全面散布と 粉剤散布の体系防除	(スタークル粒剤 アルバリン粒剤) (スタークル粉剤DL アルバリン粉剤DL)	出穂7日後頃 10a 当たり3kg 粒剤散布7日後頃 10a 当たり3kg	水田内全面散布する。 水田内全面散布する。

福井農試調べ

休耕田におけるカメムシ防除

薬 剤 名	使用濃度	10アール 当たり使用量	注 意 事 項
(アルバリン粉剤DL スタークル粉剤DL)		3kg 3kg	・ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田。 ・茎葉に薬剤が十分かかるように散布する。 ・越冬後の増殖を抑えるために、6～7月に防除する。
(アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤)	2,000倍 2,000倍	60～150ℓ 60～150ℓ	
スミチオン粉剤3DL		3～4kg	
スミチオン乳剤	1,000倍	60～150ℓ	
ダントツ粉剤DL		3～4kg	
ダントツH粉剤DL		3～4kg	
ダントツ水溶剤	4,000倍	60～150ℓ	
トレボン粉剤DL		3～4kg	
トレボン乳剤	2,000倍	60～150ℓ	
キラップ粉剤DL		4kg	
キラップフロアブル	2,000倍	60～200ℓ	
エクシードフロアブル	2,000倍	60～150ℓ	

(6) 成果情報

積雪前の除草剤散布で斑点米が激減

1 はじめに

これまでの斑点米の防除は、水稻の生育期間中にカメムシ類の住み家となる畦畔雑草の除草や水田内の殺虫剤散布によるものでした。しかし、これらの作業は、田植えなどの作業と競合したり、梅雨や高温の時期と重なり、重労働となっています。そこで、斑点米を減らすだけでなく、水稻生育期間中の防除作業も軽減できる新たな防除技術を開発しました。

2 技術の効果

- ①斑点米の発生抑制
- ②防除コストの低減
- ③防除作業の分散と省力化
- ④農薬の使用回数の削減などの効果

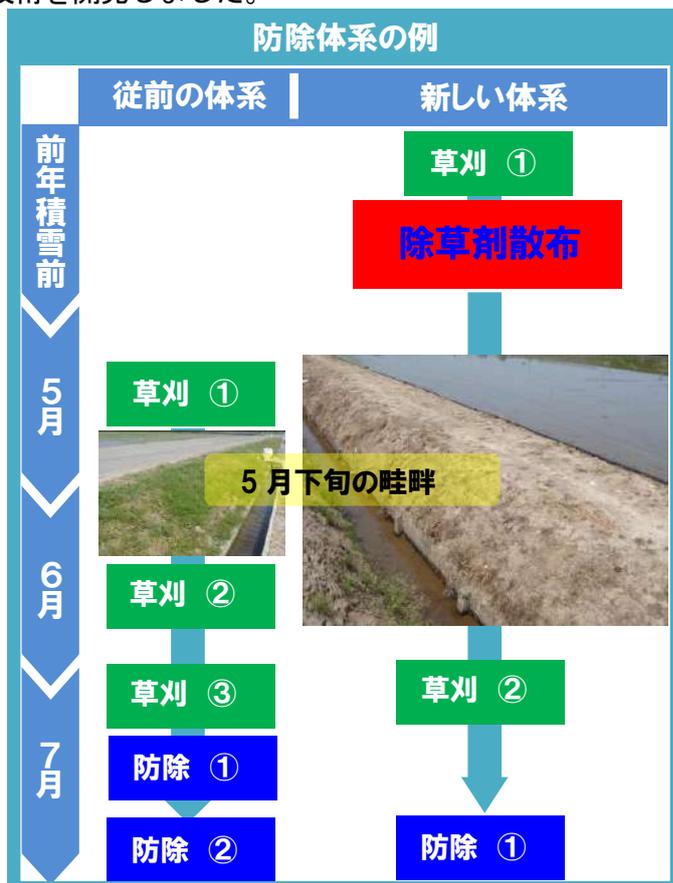
慣行防除体系(除草作業3回+殺虫剤散布2回)の防除コストが10アール当たり約4,500円に比べ、この新防除体系は、10アール当たり約3,000円と、コストが約30%削減できます。

3 薬剤散布の方法

- ①薬剤名：カソロン粒剤4.5
- ②散布時期：11月下旬～積雪前
- ③散布量：8kg/10a



ムラ散布のないよう均一に散布
連続圃場で広域的に散布すると効果大



4 積雪前のカソロン粒剤散布によるカメムシ類の発生抑制効果

積雪前にDBN粒剤を散布した畦畔では、6月下旬に雑草が再生してきても、カスミカメムシ類(第1世代)発生がみられず、高い発生抑制効果があります(表)。

表 カソロン粒剤散布とカメムシ類の発生調査結果(2012 福井農試)

調査地	DBN 剤散布	カスミカメムシ類(頭)	
	12月上旬	成虫	幼虫
N地区	有	0	0
	無	157	0

調査月日：平成24年6月25日

調査方法：20回往復すくい取り調査

5 積雪前のカソロン粒剤散布を基幹とした防除体系事例の斑点米の発生と防除コスト

防除方法	畦畔除草(草刈り)			水田での殺虫剤散布		斑点米発生率(%)	防除コスト(円/10a)
	5月中旬	6月中旬	7月上旬	穂揃期	傾穂期		
新しい体系	—	—	○	—	○	0.073	3,000
従来の体系	○	○	○	○	○	0.084	4,500
無防除	—	—	—	—	—	0.349	—

育苗箱施薬でカメムシ防除！

1 はじめに

近年、殺虫成分の溶出を制御するなどの製剤の改良により、従来の育苗箱施薬剤に比べ効果が持続し、初期害虫だけでなく、斑点米カメムシ類にも防除効果が期待できる新しい育苗箱施薬剤が開発されています。しかし、本県ではこれらの溶出調整型育苗箱施薬剤の使用事例は少ないため、本県で発生が多い斑点米カメムシ類に対する防除効果を検証しました。

2 溶出調整型育苗箱施薬剤（デジタルメガフレア箱粒剤）の特長

- (1) 箱処理剤で斑点米カメムシ類も防除が可能
- (2) 防除回数が減り省力化を実現
- (3) 本田散布に比べ、天候の影響を受けず効果が安定
- (4) ヤゴなどの水生動物に対する影響が少ない



図1 アカスジカスミカメ成虫

3 斑点米の発生抑制効果

ハナエチゼンの斑点米の発生量は、溶出調整型育苗箱施薬剤のデジタルメガフレア箱粒剤は、慣行の無人ヘリによるダントツフロアブルの2回散布よりも発生が少なく、高い防除効果が検証されました（表1）。

いちほまれでもデジタルメガフレア箱粒剤は、高い防除効果が確認されました（表2）

以上のことから、溶出調整型育苗箱施薬剤であるデジタルメガフレア箱粒剤の斑点米の発生抑制効果は、防除時期の降雨などの気象条件による影響もなく、安定した効果が得られることが実証されました。また、早生品種のハナエチゼンから熟期の遅いいちほまれまで、県内で栽培されている主要な品種について、幅広い作型に対応可能であることがわかりました。

薬剤名	調査粒数	斑点米粒数				斑点米発生率 (%)
		頂部	側部しみ状	斑点	合計	
デジタルメガフレア箱粒剤	24004	4	2	1	7	0.03
ファーストオリゼプリンス箱粒剤	22760	12	8	5	25	0.11
無処理	18790	9	6	4	19	0.10

注)出穂期:7月16日 収穫期:8月20日
無人ヘリ防除:ファーストオリゼプリンス箱粒剤、無処理は7月22日、7月30日にダントツフロアブル24倍液を800ml/10a散布



図2 側部しみ状の斑点米

薬剤名	調査粒数	斑点米粒数				斑点米発生率 (%)
		頂部	側部しみ状	斑点	合計	
デジタルメガフレア箱粒剤	26531	6	7	1	14	0.05
Dr.オリゼフェルテラグレート箱粒剤	24119	16	11	2	29	0.12
無処理	27575	14	10	3	27	0.10

注)出穂期:8月5日 収穫期:9月8日
すべての処理区において生育期間中は無防除で行った。

本技術導入の際は、生育期の防除も含め、広域的な防除計画を立てて行ってください。

秋の田起こしと冬の湛水によるニカメイガの防除法

1 はじめに

ニカメイガは、イネの茎を食害し、収量・品質を低下させる害虫です（写真1、2）。県北部で発生が多く、被害を受けています。

そこで、秋の田起こし（耕起）と湛水により、翌年の発生源となる越冬幼虫を防除します。



写真1 幼虫



写真2 被害（白穂）

2 秋の田起こしと冬の湛水で越冬幼虫を減らす

秋の田起こし（耕起）と冬の湛水により、幼虫の越冬場所である刈り株や稲わらを埋没させることで、越冬幼虫を減らすことができます（表1）。

（1）田起こし（耕起） [10月]

刈り株を細かく粉碎し、稲わらを十分にすき込むため、ゆっくり深く耕うんします。（深さ15cm、速度1km）

（2）湛水 [11月下旬から2月末まで]

冬期間に降雨をためて稲わら等を水没させるため、暗きよを閉めます。湛水の目安は、土壌表面の半分が見え隠れする程度です（写真3）。湛水は幼虫が休眠して動かなくなる11月下旬に実施し、2月末まで続けます。

3 コンバイン収穫時に幼虫を減らす

収穫時にコンバインの排わら長を短く（8cm以下）設定したり、地際部から刈り取ると、田起こし前に幼虫を少なくすることができ、より効果的です。



写真3 水田の湛水状況

4 作業時間

10aあたりの作業時間は、土づくりのために従来より行っている「田起こし」（25分）に加え、「暗きよの開閉」（2分）のみです。

表1 田起こし（耕起）および湛水による越冬幼虫の防除効果

処理区	1 m ² あたりの幼虫数（頭）		生存率 ³⁾ （%）	無処理比
	処理前（10月）	処理後（3月）		
耕起 ¹⁾ +湛水 ²⁾	8.3	0.7	8.4	12
耕起 ¹⁾	11.1	2.3	20.7	31
無処理	9.9	6.7	67.7	100

1) 10月下旬に通常ロータリーで耕起

2) 11月下旬から2月末まで暗きよを閉める

3) 処理後の幼虫数/処理前の幼虫数×100

(7) 病害虫の要防除水準

圃場内での調査を行い、病害虫の発生状況を的確に把握した上で、要防除水準に基づき、効率的な防除を実施し、環境負荷の少ない防除を推進する。

紋枯病

1 要防除水準

早生（7月下旬出穂ハナエチゼン）では穂ばらみ期（7月中旬頃）の発病株率が10%以上であれば、中生（8月上旬出穂コシヒカリ）では7月下旬の発病株率が20%以上であれば5%減収するので防除を行う。

2 調査方法

穂ばらみ期に、1圃場あたり100株の発病株率を調査する。

イネミズゾウムシ

1 要防除水準

(1) 前年の発生密度が100株あたり成虫50頭以上の場合は、育苗箱施薬を実施する。

(2) 育苗箱施薬を行った場合

5月20日頃（本田侵入期）の成虫数が100株あたり80頭以上の場合は、薬剤を散布する。

(3) 育苗箱施薬を行わなかった場合

5月20日頃（本田侵入期）の成虫数が100株あたり30頭以上の場合は、薬剤を散布する。また、漏水田や砂質土壌田では同時期に成虫数が100株あたり20頭以上の場合は粉剤を散布し、50頭以上の場合はさらに7日後にも粉剤を散布する。

2 調査方法

本田侵入期の5月20～25日に、畦畔から1m内部に入った所の株を見とり調査する。

セジロウンカ

1 要防除水準

6月末～7月中旬に飛来成虫数で1株あたり4頭以上、7月下旬～8月上旬（幼虫加害盛期）に幼虫数で1株あたり30～40頭以上の場合は、薬剤を散布する。

2 調査方法

6月末～7月中旬と7月下旬～8月上旬に水田内部の3か所以上で株の払い落とし、または見とり調査を行う。

トビイロウンカ

1 要防除水準

8月初めに短翅成虫数で1株あたり0.1頭以上、8月中旬に成幼虫数で1頭以上、9月中旬に幼虫数で40頭以上の場合は、薬剤を散布する。

2 調査方法

8月初めと8月中旬に1水田あたり3か所以上で株の払い落とし、または見とり調査を行う。

イチモンジセセリ（イネツトムシ）

1 要防除水準（直播栽培）

7月下旬（若齢幼虫期）の若齢幼虫数で、1㎡あたり4.4頭以上の場合は防除する。

2 調査方法

7月下旬に、1水田あたり1㎡（1m×1m）を5か所程度の見とり調査を行う。

イネアザミウマ（黒点米）

1 要防除水準

出穂前のすくいとり調査で、成虫が100頭以上すくいとられた場合は防除する。

2 調査方法

早生品種の出穂7日前頃に、水田内の畦畔沿いを20回往復すくいとり調査を行う。

(8) 福井県稲奨励品種等病害虫抵抗性一覧

品 種 名		病 害 虫 名				
		葉いもち	穂いもち	白葉枯病	紋 枯 病	イネカラバエ
うるち米	ハナエチゼン	中	中	やや弱	中	中
	フクヒカリ	中	中	やや弱	やや弱	中
	コシヒカリ	弱	やや弱	やや弱	中	強
	イクヒカリ	中	中	中	やや弱	強
	キヌヒカリ	中	中	中	中	強
	あきさかり	やや弱	中	弱	やや弱	—
	いちほまれ	強	強	弱	中	—
	日本晴	中	やや強	中	中	強
酒米	五百万石	中	中	中	中	強
	おくほまれ	中	弱	中	中	強
	さかほまれ	弱	弱	—	—	—
もち米	恵 糯	強	強	中	中	強
	カグラモチ	中	中	中	中	強
	タンチョウモチ	強	中	中	中	強

(9) 農業資材の消毒

薬 剤 名	使 用 方 法			注 意 事 項
	対 象	希釈倍数	使用方法	
イチバン	育苗箱 (木箱、プラスチック箱) 育苗用ポット 支柱等資材	500～1,000倍	瞬時浸漬 または ジョロ散布	<ul style="list-style-type: none"> ・湿熱で60℃60分間、65℃30分間消毒してもよい。 ・イチバンは水稻育苗箱消毒後の水洗、乾燥は不要。 ・ケミクロンGは農業資材消毒後はきれいな水で水洗し、水切り乾燥する。金属類や木箱に使用した場合、必ずその後水洗する。 ・消毒後の液は河川、用排水路、池などに流さず、適正に処理する。
ケミクロンG	催芽箱、育苗箱、育苗トレイ・ポット、植木鉢、果実類貯蔵箱、温室用資材、収穫用かご等農具の消毒	1,000倍 500倍	10分間 浸漬 瞬時浸漬 または ジョウロ散布	

2 水稻除草剤

(1) 使用上の注意事項

- ① 土壌条件に応じた安全な除草剤の選定
除草剤ごとに定められた適用地帯、適用土壌の範囲で使用する。特に極端に減水深の大きい圃場や強還元田などでは薬害が発生しやすいので、土壌条件に合った安全な除草剤を選ぶ。
- ② 適期・適量で均一に散布
イネの生育状況と雑草の発生実態に合わせ、適期、適量散布を基本とする。
除草剤の散布時期の誤りや多量散布、むらまきなどは、効果が劣ったり薬害発生の原因となるので、処理時期を見定め、基準量を守って均一に散布する。
- ③ 除草剤の排水路等への流出防止
散布後は水田表面の土が露出しないよう処理後7日間程度は湛水状態を保ち、落水やかけ流しはしない。
畦畔の野生動物が破損した箇所や小動物が開けた穴を補修したり、畦畔シートを使うなど、畦畔整備で畦畔からの漏水をなくす。水田外への農薬流出防止のためにも、畦畔や水尻からオーバーフローさせない。
散布後の水管理では、止水管理の実施も考慮する。
- ④ 薬剤や成分ごとの使用回数の厳守
薬剤だけでなく成分ごとにも使用回数の上限が定められているので、それを確認し、絶対に守る。
- ⑤ 健苗の育成と適正な植付け
軟弱徒長苗は活着および初期生育が悪く、除草剤の薬害を受け易いので健苗育成につとめる。また極端な深植、浅植も活着の遅れや薬害を受け易いので適正な植付けを行なう。
- ⑥ 水管理の徹底と生育の健全化
田面の均平化につとめ、極端な深水にならないよう注意する。また活着後の初期生育を促進するため、地温を高めるように水管理を行い、生育の健全化を図る。
- ⑦ 生育障害の発生防止
極端な漏水田、強還元田、未熟有機物の多用田などでは薬量を減量するか、もしくは使用を避ける。
- ⑧ 散布作業における安全確保
人体への毒性が強い薬剤もあるので、体調が十分の時を選んで作業し、取扱いや散布作業の際は手袋、マスク、防塵めがね等を着用する。また、作業中の転倒、落下等の事故にも注意する。
- ⑨ 環境の保全
除草剤の散布はできるだけ風の弱い日に行い、付近の作物、動物への飛散や流失による危被害及び使用時の事故を防止する。さらにできるだけ飛散しにくい剤型の除草剤を選択するとともに、液剤や水和剤を散布する場合には、飛散低減ノズルを使用する。

(2) 除草剤の使用法

同一成分（系列）薬剤の数年間の連続施用により、特定雑草の優占化や抵抗性雑草の発生を助長することがあるので、適宜体系処理（初期剤＋中期剤）も組み合わせるなどして特定雑草の優占化等を予防する。

(3) 田植え同時処理剤の使用法

- ① 「移植時」登録のある除草剤を使用し、除草剤の剤型と散布機との適合性を作業前に確認する。
使用時期が「移植直後」となっている除草剤は、田植え同時処理に使用できず、「移植時」として登録のある除草剤でなければ田植え同時処理に使用することはできない。使用に当たっては、必ずラベルを確認するなど、十分注意する。
- ② 除草効果を高め薬害を軽減するために、田植え時に落水しても土壌表面の土を固めすぎないようにする。（根が露出したり、転び苗となると薬害発生につながる。）

- ③ 散布にあたっては、基準量を守って散布するよう、散布前に必ず機器の調整を行う。作業中にも散布量や散布幅等が適正かを確認する。雨天時作業では、水分や湿気で薬剤が固まることがあるので避ける。
- ④ 移植後は速やかに入水を開始し、移植後2～4時間以内には目標の水深となるようにする（急激な入水では水口付近の効果が劣ることもあるので注意）。散布後7日程度は落水やかけ流しは絶対に行わない。
- ⑤ 除草剤散布後の補植は、極力行わない。
- ⑥ 苗箱施薬用殺虫殺菌剤散布機も付いている田植機では、薬剤とそれを入れる散布機の組み合わせを絶対に間違えないように注意する。

(4) 少量散布粒剤の使用法

少量散布粒剤の処理方法には、手持ちの散布器具を使用しての簡便散布や畦畔からの周辺散布、または無人航空機による散布がある。

- ① 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水し、湛水散布の場合は水田全面に行きわたるよう、また周辺散布の場合は水田周辺部に沿って帯状に散布する。
- ② 藻類の発生等により、剤の拡散が不十分になることが予想される場合には、周辺散布を避け、本田内で水田全面に散布する。

(5) フロアブル剤の使用法

フロアブル剤の使用法には、手振り散布、田植同時滴下処理（「移植時」登録のある除草剤に限る、田植同時散布機を用いる）または水口流入処理（登録のある除草剤に限る）がある。

- ① 田面の均平にあたっては粒剤を使用するとき以上に均平化に心がける（しろの掻き過ぎに注意）。
- ② 散布前に容器を軽く振り、原液のまま散布する。散布にあたっては水深を十分確保し、散布後3日間は湛水する。
- ③ 表層剥離やアオミドロの発生田は、水稻の生育が抑制され、除草効果が劣るので使用を控える。
- ④ 強風時の処理は、除草効果にムラを生じやすいので行わない。
- ⑤ 散布後2日以内に大雨が予想される時は、使用を避ける。
- ⑥ 幅30mまでの水田の場合は、畦から散布する。幅40mの水田では畦畔からの散布に加え、水田中央に1列散布する。
- ⑦ 水口流入処理は、パイプ灌漑を原則とし、5時間以内に4～5cmの湛水深が確保できる圃場に限る。
- ⑧ 顆粒剤については、専用容器に規定量を清澄な水で希釈しムラなく散布する。

(6) ジャンボ剤の使用法

- ① ジャンボ剤の投げ込みについては、田面が露出しないように5～6cmの湛水止水として下手投げで均等に拡散するように投下する。
- ② 表層剥離やアオミドロがすでに発生している場合は、成分の拡散が阻害され、水稻に生育抑制が生じ、除草効果が得られない危険があるので、使用を控える。
- ③ バックは、濡れた手で扱わない。
- ④ 強風時や大雨時の使用も避ける。その他の注意事項は、他の剤型に準ずる。

(7) 本田除草剤の使用法(移植)

RPA

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 初期 剤	アークエース1キロ粒剤	0,15	1kg/10a	植代後～移植7日前または移植直後～レ ¹ 1.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
			1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	かねつぐ1キロ粒剤	15,2	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ 1.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	1回
	シグ ⁺ 乳剤	"18(F *),15	300mL/10a(少量 散布)	移植直後～レ ¹ 1葉期 但し、移植後30日まで	原液湛水散布	1回
	ソルネット1キロ粒剤	15	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ 1葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	1回
	ピラクロナフロアブル	14	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	ハクサーフロアブル	14	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	2回以内
			500mL/10a	植代後～移植前7日または移植直後～レ ¹ 発生始期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布又は水口施用	2回以内
	マシエツジ ⁺ ヤンボ	15	小包装(パック)10個 (500g)/10a	植代後～移植前7日または移植後1日～レ ¹ 1葉期 但し、 移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	マツタビ ⁺ ジ ⁺ ヤンボ	15,30	5～10個(250～ 500g)/10a	植代後～移植前7日又は移植直後～レ ¹ 1葉期 但し、 移植後30日まで	水田に投げ入れる。	1回
			5～10個(250～ 500g)/10a	移植直後～レ ¹ 1葉期 但し、移植後30日まで	水口施用	1回
	メテオ1キロ粒剤	14	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	2回以内
			1kg/10a	植代後～移植前7日又は移植直後～レ ¹ 1葉期 但し、 移植後30日まで	湛水散布	2回以内
	メテオ ⁺ ヤンボ	14	小包装(パック)10個 (300g)/10a	植代後～移植前7日又は移植直後～レ ¹ 1葉期 但し、 移植後30日まで	水口施用又は水田に小包装(パック)のまま 投げ入れる。	1回
メテオフロアブル	14	500mL/10a	植代後～移植前7日又は移植直後～レ ¹ 1葉期 但し、 移植後30日まで	原液湛水散布又は水口施用	2回以内	
		500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	2回以内	
兆フロアブル	14	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
移植 一発 処理 剤	アカツキ1キロ粒剤	15,2, 27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ 3葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布	1回
	アカツキ ⁺ ヤンボ	15,2, 27	小包装(パック)10個 (250g)/10a	移植後3日～レ ¹ 3葉期 但し、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	アカツキフロアブル	15,2, 27	500mL/10a	移植後3日～レ ¹ 3葉期 但し、移植後30日まで	原液湛水散布	1回
	アクス ⁺ MX1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	移植後7日～レ ¹ 4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布	1回
			1kg/10a	移植後7日～レ ¹ 4葉期 但し、収穫45日前まで	無人ヘリコプターによる散布	1回
	アクス ⁺ MXエア ⁺ 粒剤	2,27	300g/10a	移植後7日～レ ¹ 4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布、水口施用又は無人航空機による 散布	1回
	アクス ⁺ MX ⁺ ヤンボ	2,27	小包装(パック)10個 (300g)/10a	移植後7日～レ ¹ 4葉期 但し、収穫45日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	アシュラ1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ 4葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	アシュラ400FG	14,2, 27	400g/10a	移植直後～レ ¹ 4葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機 による散布	1回
	アシュラ ⁺ ヤンボ	14,2, 27	小包装(パック)10個 (400g)/10a	移植直後～レ ¹ 4葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
アシュラフロアブル	14,2, 27	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
		500mL/10a	移植直後～レ ¹ 4葉期 但し、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機 による滴下	1回	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 一発 処理 剤	アネシス1キロ粒剤	15,2, 27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ 2.5葉期ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	アビ ¹ ロ ¹ ロ ¹ MX1キロ粒 剤	15,2, 27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ 3葉期ただし、移植後30日まで	湛水散布	1回
	イネキング 1キロ粒剤	14,27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ 2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	イネベ ¹ ットEW	14,15	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			500mL/10a	植代後～移植前7日または移植直後～レ ¹ 1葉期 た だし、移植後30日まで	原液湛水散布	1回
	イネビ ¹ ロー1キロ粒剤	0,14, 2	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ 3葉期ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	イネビ ¹ ローエア ¹ 粒剤	0,14, 2	400g/10a	移植直後～レ ¹ 3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機 による散布	1回
	イネビ ¹ ロージ ¹ ャンボ ¹	0,14, 2	小包装(パ ¹ ック)10個 (400g)/10a	移植直後～レ ¹ 3葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パ ¹ ック)のまま投げ入れる。	1回
	イネリー ¹ グ 1キロ粒剤	15,27 ,4	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ 3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ウイニング ¹ ラン1キロ粒剤	15,2, 30	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ 2.5葉期但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ウルティ ¹ モZ1キロ粒剤	2,27, 33	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ 3.5葉期ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ウルティ ¹ モZジ ¹ ャンボ ¹	2,27, 33	小包装(パ ¹ ック)10個 (350g)/10a	移植後5日～レ ¹ 3葉期ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パ ¹ ック)のまま投げ入れる。	1回
	ウルティ ¹ モZ7 ¹ ロア ¹ ブル ¹	2,27, 33	500mL/10a	移植後5日～レ ¹ 3葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機 による滴下	1回
	エンペ ¹ ラー1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ 3葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	エンペ ¹ ラージ ¹ ャンボ ¹	14,2, 27	小包装(パ ¹ ック)10個 (250g)/10a	移植直後～レ ¹ 3葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パ ¹ ック)のまま投げ入れる。	1回
	エンペ ¹ ラー7 ¹ ロア ¹ ブル ¹	14,2, 27	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			500mL/10a	移植直後～レ ¹ 3葉期 但し、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機 による滴下	1回
	エンペ ¹ ラー豆 ¹ つぶ ¹ 250	14,2, 27	250g/10a	移植直後～レ ¹ 3葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無 人航空機による散布	1回
	カウンシル ¹ エナジ ¹ ー1キロ粒剤	15,2, 27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ 3.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	カウンシル ¹ エナジ ¹ ージ ¹ ャンボ ¹	15,2, 27	小包装(パ ¹ ック)10個 (400g)/10a	移植直後～レ ¹ 3.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パ ¹ ック)のまま投げ入れる。	1回
	カウンシル ¹ エナジ ¹ ー7 ¹ ロア ¹ ブル ¹	15,2, 27	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
カウンシル ¹ コン ¹ リート1キロ粒 剤	2,27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
		1kg/10a	移植直後～レ ¹ 3.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
カウンシル ¹ コン ¹ リートジ ¹ ャン ボ ¹	2,27	小包装(パ ¹ ック)10個 (300g)/10a	移植後5日～レ ¹ 3.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パ ¹ ック)のまま投げ入れる。	1回	
カウンシル ¹ コン ¹ リート7 ¹ ロア ¹ ブル ¹	2,27	500mL/10a	移植後5日～レ ¹ 3.5葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機 による滴下	1回	
カチ ¹ ド ¹ キZ ¹ 楽粒	2,4	250g/10a	移植後3日～レ ¹ 3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無 人航空機による散布	1回	
ガンガ ¹ ン1キロ粒剤	15,2	1kg/10a	移植直後～レ ¹ 3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人ヘリコ ¹ プターによる散布	1回	
		1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
ガンガ ¹ ンジ ¹ ャンボ ¹	15,2	小包装(パ ¹ ック)10個 (250g)/10a	移植後3日～レ ¹ 2.5葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パ ¹ ック)のまま投げ入れる。	1回	
ガンガ ¹ ン豆 ¹ つぶ ¹ 250	15,2	250g/10a	移植後3日～レ ¹ 2.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無 人ヘリコ ¹ プターによる散布	1回	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 一発 処理 剤	キラリ1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	移植直後～レ ¹ E2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
			1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	キラリ400FG	14,2, 27	400g/10a	移植直後～レ ¹ E2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
			500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	キラリフロアブル	14,2, 27	500mL/10a	移植直後～レ ¹ E2.5葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
			500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	クラーEW	15,5	500mL/10a	植代後～移植7日前又は移植直後～レ ¹ E1.5葉期 但し、移植後30日まで	原液湛水散布	1回
	ゴ ¹ エモン1キロ粒剤	15,2, 30	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ E2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	ゴ ¹ エモンジ ¹ ャンボ	15,2, 30	小包装(パック)10個 (300g)/10a	移植直後～レ ¹ E2.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ゴ ¹ エモンフロアブル	15,2, 30	500mL/10a	移植直後～レ ¹ E2.5葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布又は水口施用	1回
			500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	コメツ1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ E2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	コメツジ ¹ ャンボ	14,2, 27	小包装(パック)10個 (300g)/10a	移植後5日～レ ¹ E2.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	コメツ顆粒	14,2, 27	80g/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			80g/10a	移植直後～レ ¹ E2.5葉期 ただし、収穫60日前まで	顆粒水口施用	1回
			80g/10a	移植直後～レ ¹ E2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	サカ ¹ ケ楽粒	15,27, 4	250g/10a	移植直後～レ ¹ E3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	1回
	サスケ粒剤200	0,15, 2,27	200g/10a	移植後3日～レ ¹ E2葉期 ただし、移植後30日まで	水口施用、湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	サラブレット ¹ KAI1キロ粒剤	14,2, 30	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	サラブレット ¹ RXフロアブル	2,30, 4	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			500mL/10a	移植直後～レ ¹ E2.5葉期 但し移植後30日まで	原液湛水散布又は水口施用	1回
	ジ ¹ エイケル1キロ粒剤	15,27, 33	1kg/10a	移植直後～レ ¹ E2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
			1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	ジ ¹ エイケルジ ¹ ャンボ	15,27, 33	小包装(パック)10個 (450g)/10a	移植後1日～レ ¹ E2.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ジ ¹ エイケルフロアブル	15,27, 33	500mL/10a	移植直後～レ ¹ E2.5葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
500mL/10a			移植時	田植同時散布機で施用	1回	
ジ ¹ エイレント ¹ 1キロ粒剤	30,14, 27,3	1kg/10a	移植直後～レ ¹ E3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回	
		1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
ジ ¹ エイレント ¹ 400FG	30,14, 27,30	400g/10a	移植後5日～レ ¹ E3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回	
ジ ¹ エイレント ¹ ジ ¹ ャンボ	30,14, 27,30	小包装(パック)10個 (400g)/10a	移植後5日～レ ¹ E3葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回	
ジ ¹ エイレント ¹ フロアブル	30,14, 27,30	500mL/10a	移植後5日～レ ¹ E3葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布又は水口施用	1回	
シカ ¹ ナス1キロ粒剤	15,2, 27	1kg/10a	移植直後～レ ¹ E3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
		1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
シカ ¹ ナスジ ¹ ャンボ	15,2, 27	小包装(パック)10個 (300g)/10a	移植後1日～レ ¹ E3葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回	
シカ ¹ ナスフロアブル	15,2, 27	500mL/10a	移植後1日～レ ¹ E3葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植	ジヤスタ1キロ粒剤	2,27,	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	クサエポ ン1キロ粒剤	33				
一発 処理 剤	ジヤンダ ルMX1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	移植直後～レ ^レ I3.5葉期ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
			1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	ジヤンダ ルMX豆つぶ250	2,27	250g/10a	移植後3日～レ ^レ I3.5葉期ただし、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	シュナイデ ン1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	移植直後～レ ^レ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
		2,27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	シュナイデ ンジヤンボ	2,27	小包装(パック)10個(400g)/10a	移植後3日～レ ^レ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	シュナイデ ン70アブル	2,27	500mL/10a	移植後3日～レ ^レ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	シゲキ1キロ粒剤	15,27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
		15,27	1kg/10a	移植直後～レ ^レ I2.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	1回
	シゲキジヤンボ	15,27	小包装(パック)10個(250g)/10a	移植直後～レ ^レ I2.5葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	シゲキ70アブル	15,27	500mL/10a	移植直後～レ ^レ I2.5葉期 但し、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
			500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	シンス イZ1キロ粒剤	2,27,	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
		30	1kg/10a	移植直後～レ ^レ I4葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	シンス イZ70アブル	2,27,	500mL/10a	移植後3日～レ ^レ I4葉期 但し、移植後30日まで	原液湛水散布又は水口施用	1回
		30				
シンス イ豆つぶ250	2,27,	250g/10a	移植後3日～レ ^レ I4葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	1回	
	30					
ストレング ス1キロ粒剤	2,27,	1kg/10a	移植後5日～レ ^レ I4葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	2回以内	
	4					
セイテン1キロ粒剤	2,27,	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
	30,5	1kg/10a	移植直後～レ ^レ I2.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
ゼーダジ ャカ ー1キロ粒剤	14,2,	1kg/10a	移植直後～レ ^レ I4葉期ただし、移植後30日まで	湛水散布	1回	
	27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
ゼーダイカ ー1キロ粒剤	14,2,	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
	30	1kg/10a	移植直後～レ ^レ I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
ゼーダイカ ー300FG	14,2,	300g/10a	移植後3日～レ ^レ I3葉期ただし、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回	
	30					
ゼーダイカ ージヤンボ	14,2,	小包装(パック)10個(300g)/10a	移植後3日～レ ^レ I3葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回	
	30					
ゼーダイカ ー70アブル	14,2,	500mL/10a	移植後3日～レ ^レ I3葉期ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回	
	30					
ゼーダハンマ ー1キロ粒剤	14,2	1kg/10a	移植直後～レ ^レ I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
		1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
ゼーダブ ラス1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
ゼーダブ ラスジヤンボ	2,27	小包装(パック)10個(200g)/10a	移植後3日～レ ^レ I4葉期 ただし、移植後30日まで	水口施用又は水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回	
ゼーダブ ラス70アブル	2,27	500mL/10a	移植後3日～レ ^レ I4葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回	
ダ プルスター-SB顆粒	15,2,	80g/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
	27	80g/10a	移植直後～レ ^レ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による滴下	1回	
		80g/10a	移植直後～レ ^レ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	顆粒水口施用	1回	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
一発 処理 剤	ダクショットジヤンボ SD	15,27,4	小包装(パック)10個(200g)/10a	移植後3日～レ ¹ I3葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ダクショットフロアブル	15,27,4	500mL/10a	移植後3日～レ ¹ I3葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	ツイキキ1キロ粒剤	2,27,5	1kg/10a	移植後14日(稲5葉期以降)～レ ¹ I4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ツルキ 250粒剤	15,2,27	250g/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	ツルキ ジヤンボ	15,2,27	小包装(パック)10個(250g)/10a	移植直後～レ ¹ I2.5葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	デイオレ1キロ粒剤	2,27,30	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	デイオレジヤンボ	2,27,30	小包装(パック)10個(400g)/10a	移植後1日～レ ¹ I3葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	デイオレフロアブル	2,27,30	500mL/10a	移植後1日～レ ¹ I3葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	デイオレ顆粒	2,27,30	80g/10a	移植後3日～レ ¹ I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
			80g/10a	移植後3日～レ ¹ I3葉期 ただし、移植後30日まで	顆粒水口施用	1回
	テッシン1キロ粒剤	14,2,27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ I2.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	トニチS1キロ粒剤	15,2,30	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布	1回
	ドリフ1キロ粒剤	15,2,4	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ノックアウト薬粒	15,2,27,5	250g/10a	移植後7日～レ ¹ I3.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	1回
	ノブレット乳剤	1,4	250mL/10a	移植後20日～レ ¹ I5葉期 ただし、収穫45日前まで	落水散布、ごく浅く湛水して散布、又は湛水散布	2回以内
	ハッチリ1キロ粒剤	14,2,30	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	ハッチリ400FG	14,2,30	400g/10a	移植直後～レ ¹ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	ハッチリLX1キロ粒剤	14,2,30	1kg/10a	移植直後～レ ¹ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
			1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	ハッチリLX400FG	14,2,30	400g/10a	移植直後～レ ¹ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	1回
	ハッチリLXジヤンボ	14,2,30	小包装(パック)10個(400g)/10a	移植直後～レ ¹ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ハッチリジヤンボ	14,2,30	小包装(パック)10個(400g)/10a	移植直後～レ ¹ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
ハッチリフロアブル	14,2,30	500mL/10a	移植直後～レ ¹ I2.5葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布又は水口施用	1回	
		500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
ハットウZ1キロ粒剤	14,2,27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
		1kg/10a	移植直後～レ ¹ I3葉期 ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
ハットウZフロアブル	14,2,27	500mL/10a	移植後3日～レ ¹ I3葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回	
ビクトリ-Z400FG	14,2	400g/10a	移植後5日～レ ¹ I3葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回	
ビクトリ-Zジヤンボ	14,2	小包装(パック)10個(400g)/10a	移植後5日～レ ¹ I3葉期 ただし、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	2回以内	
ビクトリ-Zフロアブル	14,2	500mL/10a	移植後5日～レ ¹ I3葉期 ただし、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人ヘリコプターによる滴下	1回	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 一発 処理 剤	フルイニング スカイ500グラム 粒剤	14,15 ,2,27	500g/10a	移植後7日～レ ¹ I4葉期但し収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	フルスコアZ1キロ粒剤	「- 」,2	1kg/10a	移植後5日～レ ¹ I3.5葉期但し収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	フルスコアZジ ャンボ	「- 」,2	小包装(パ ック)10個 (300g)/10a	移植後5日～レ ¹ I3.5葉期但し収穫60日前まで	水田に小包装(パ ック)のまま投げ入れる。	1回
	フルチャージ ジ ャンボ	14,2	小包装(パ ック)10個 (500g)/10a	移植後5日～レ ¹ I4葉期 但し収穫45日前まで	水田に小包装(パ ック)のまま投げ入れる。	1回
	フルパ ワーMXジ ャンボ	14,2, 27	小包装 (パ ック) 10個(500g)/10a	移植後1日～レ ¹ I3.5葉期但し収穫60日前まで	水田に小包装(パ ック)のまま投げ入れる。	1回
	ベ ッカク1キロ粒剤	15,2, 27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ I3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	1回
	ベ ッカクジ ャンボ	15,2, 27	小包装(パ ック)10個 (250g)/10a	移植後3日～レ ¹ I3葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パ ック)のまま投げ入れる。	1回
	ベ ルーガ 1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	移植直後～レ ¹ I3葉期但し、移植後30日まで	湛水散布	1回
			1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	ベ ルーガ ジ ャンボ	2,27	小包装(パ ック)10個 (250g)/10a	移植直後～レ ¹ I3.5葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パ ック)のまま投げ入れる。	1回
	ベ ルーガ 豆つぶ250	2,27	250g/10a	移植直後～レ ¹ I3.5葉期 但し、収穫75日前まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無 人航空機による散布	1回
	ホットコンピ 200粒剤	15,27	200g/10a	移植直後～レ ¹ I2葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無 人航空機による散布	1回
	ホットコンピ ジ ャンボ	15,27	小包装(パ ック)10個 (200g)/10a	移植直後～レ ¹ I2葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パ ック)のまま投げ入れる。	1回
	ポ テーガードプロ1キロ 粒剤	2,27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ I3.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ポ テーガードプロジ ャン ボ	2,27	小包装(パ ック)10個 (300g)/10a	移植後5日～レ ¹ I3.5葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パ ック)のまま投げ入れる。	1回
	ポ テーガードプロ70ア ブル	2,27	500mL/10a	移植後5日～レ ¹ I3.5葉期 但し、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機 による滴下	1回
	ポ ランティアジ ャンボ	15,2, 27	小包装(パ ック)10個 (400g)/10a	移植後5日～レ ¹ I2.5葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パ ック)のまま投げ入れる。	1回
	マストラオ1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	移植直後～レ ¹ I3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
			1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	マストラオジ ャンボ	2,27	小包装(パ ック)10個 (200g)/10a	移植直後～レ ¹ I3葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パ ック)のまま投げ入れる。	1回
	マストラオ70アブル	2,27	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			500mL/10a	移植直後～レ ¹ I3葉期 但し、移植後30日まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	マカゼータ1キロ粒剤	14,2	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	2回以内
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ I3葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	2回以内
	マカゼータ400FG	14,2	400g/10a	移植後5日～レ ¹ I3葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機 による散布	1回
マカゼータジ ャンボ	14,2	小包装(パ ック)10個 (400g)/10a	移植後5日～レ ¹ I3葉期 但し、収穫60日前まで	水田に小包装(パ ック)のまま投げ入れる。	2回以内	
マカゼータ70アブル	14,2	500mL/10a	移植後5日～レ ¹ I3葉期 但し、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人ヘリコプター による滴下	1回	
ライゾンパワージ ャンボ	14,15 ,27	小包装(パ ック)10個 (500g)/10a	移植後3日～レ ¹ I2.5葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パ ック)のまま投げ入れる。	1回	
ラウ1キロ粒剤	0,15, 2,27	1kg/10a	移植直後～レ ¹ I2.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	1回	
		1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
レオゼータ1キロ粒剤	2,27, 30	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
		1kg/10a	移植直後～レ ¹ I4葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	1回	
レオゼータ70アブル	2,27, 30	500mL/10a	移植後3日～レ ¹ I4葉期 但し、移植後30日まで	原液湛水散布	1回	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 一発 処理 剤	ワザア楽粒	15,27	250g/10a	移植直後～レ ¹ I3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	1回
	銀河1キロ粒剤	0,14, 2	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ I3葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	銀河ジヤンボ	0,14, 2	小包装(パック)10個 (400g)/10a	移植後5日～レ ¹ I3葉期 但し、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	先陣200FG	14,5	200g/10a	植代後～移植7日前又は移植直後～レ ¹ I1葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	1回
	先陣ジヤンボ	14,5	小包装(パック)10個 (200g)/10a	植代後～移植7日前又は移植直後～レ ¹ I1葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	天空1キロ粒剤	15,2, 27	1kg/10a	移植直後～レ ¹ I3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
			1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
	天空ジヤンボ	15,2, 27	小包装(パック)10個 (300g)/10a	移植後1日～レ ¹ I3葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	天空70アール	15,2, 27	500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			500mL/10a	移植直後～レ ¹ I3葉期 但し、移植後30日まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	忍1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	移植直後～レ ¹ I2.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	忍ジヤンボ	14,2, 27	小包装(パック)10個 (200g)/10a	移植直後～レ ¹ I2.5葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	忍70アール	14,2, 27	500mL/10a	移植直後～レ ¹ I2.5葉期 但し、移植後30日まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
			500mL/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回
流星1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	移植直後～レ ¹ I3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
		1kg/10a	移植時	田植同時散布機で施用	1回	
流星ジヤンボ	14,2, 27	小包装(パック)10個 (400g)/10a	移植後3日～レ ¹ I3葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回	
流星70アール	14,2, 27	500mL/10a	移植後3日～レ ¹ I3葉期 但し、移植後30日まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回	
移植 中期 剤	アトラスジヤンボ MX	2,27	小包装(パック)20個 (500g)/10a	移植後14日～レ ¹ I3.5葉期 但し、収穫45日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	アトリ1キロ粒剤	2	1kg/10a	移植後14日(稲5葉期以降)～レ ¹ I4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	アトリ豆つぶ250	2	250g/10a	移植後14日(稲5葉期以降)～レ ¹ I4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	アレイルSC	2	500mL/10a	移植後20日～レ ¹ I5葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は落水散布	1回
	ウイードコア1キロ粒剤	2,27, 4	1kg/10a	移植後7日～レ ¹ I4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	2回以内
	ウイードコア200SD粒剤	2,27, 4	200g/10a	移植後10日～レ ¹ I4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	2回以内
	ウイードコアジヤンボ SD	2,27, 4	小包装(パック)10個 (200g)/10a	移植後10日～レ ¹ I4葉期 但し、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	2回以内
	グランクロスジヤンボ	2,27, 33,5	小包装(パック)20個 (500g)/10a	移植後14日(稲4葉期以降)～レ ¹ I4葉期 但し、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	グランクロスZ1キロ粒剤	2,27, 33,5	1kg/10a	移植後14日(稲4葉期以降)～レ ¹ I4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ゲバード1キロ粒剤	0,14, 2,27	1kg/10a	移植後14日～レ ¹ I4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ゲバードギア1キロ粒剤	2,27, 33	1kg/10a	移植後14日～レ ¹ I4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ゲバードジヤンボ	0,14, 2,27	小包装(パック)10 個(400g)/10a	移植後14日～レ ¹ I4葉期 但し、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	シアゲ MF1キロ粒剤	1,2,4	1kg/10a	移植後20日～レ ¹ I4.5葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	2回以内
セカントショットSジヤンボ MX	2,27	小包装(パック)20個 (500g)/10a	移植後14日～レ ¹ I3.5葉期 但し、収穫45日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植	ツゲキ豆つぶ250	2,27,5	250g/10a	移植後14日(稲5葉期以降)～レ ¹ イ4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
中期 剤	テッケン1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	移植後15日～レ ¹ イ4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	テッケンジ ャンボ	2,27	小包装(パック)10個(500g)/10a	移植後15日～レ ¹ イ4葉期 但し、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ニトウリュウ1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	移植後15日～レ ¹ イ4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ニトウリュウジ ャンボ	2,27	小包装(パック)10個(500g)/10a	移植後15日～レ ¹ イ4葉期 但し、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ハ イスコブ 1キロ粒剤	27,33	1kg/10a	移植後14～60日ただし、収穫45日前まで	湛水散布、ごく浅く湛水して散布又は無人航空機による散布	1回
	ヒエクッパ エ-ス1キロ粒剤	2	1kg/10a	移植後14日～レ ¹ イ5葉期但し収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	2回以内
	ヒエクリンパ サグ ラン粒剤	2,6	3kg/10a	移植後15日～レ ¹ イ4葉期 但し、収穫60日前まで	ごく浅く湛水して散布	1回
			3kg/10a	移植後15日～レ ¹ イ4葉期 但し、収穫60日前まで	ごく浅く湛水して散布	1回
	ブ イコ ールSM1キロ粒剤	2,4,5	1kg/10a	移植後15日～レ ¹ イ3.5葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布	1回
	レ プ ラス1キロ粒剤	0,2,2,7,5	1kg/10a	移植後14日～レ ¹ イ4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	レ プ ラスキ ア1キロ粒剤	2,27,33	1kg/10a	移植後14日～レ ¹ イ4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	レ プ ラスジ ャンボ	0,2,2,7,5	小包装(パック)10個(400g)/10a	移植後14日～レ ¹ イ4葉期ただし、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ワイド アタックSC	2	100mL/10a	移植後20日(稲5葉期以降)～レ ¹ イ6葉期 但し、収穫30日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	2回以内
ワイド パワー粒剤	2,6	3kg/10a	移植後20日～レ ¹ イ5葉期 但し、収穫45日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回	
移植	カウシルワフアブル	2	10mL/10a	移植直後～レ ¹ イ4葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による滴下	2回以内
その 他	クインチャー1キロ粒剤	1	1kg/10a	移植後7日～レ ¹ イ4葉期 但し、収穫30日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	2回以内
			1.5kg/10a	移植後25日～レ ¹ イ5葉期 但し、収穫30日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	2回以内
	クインチャー-EW	1	100mL/10a	移植後20日～レ ¹ イ4.5葉期 但し、収穫30日前まで	無人航空機による散布	2回以内
			100mL/10a	移植後20日～レ ¹ イ6葉期 但し、収穫30日前まで	湛水散布又は落水散布	2回以内
	クインチャージ ャンボ	1	小包装(パック)30個(1.5kg)/10a	移植後25日～レ ¹ イ5葉期 但し、収穫30日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	2回以内
			小包装(パック)20個	移植後7日～レ ¹ イ4葉期 但し、収穫30日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	2回以内
	クインチャーパ SME液剤	1,6	1000mL/10a	移植後15日～レ ¹ イ5葉期 但し、収穫50日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	2回以内
	ト ム MF1キロ粒剤	1	1kg/10a	移植後14日～レ ¹ イ5葉期まで 但し、収穫50日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	3回以内
	ト ム MF乳剤	1	200mL/10a	移植後14日～レ ¹ イ7葉期まで 但し、収穫50日前まで	湛水散布又は落水散布	2回以内
	ト ム マ MF液剤	1,6	1000mL/10a	移植後15日～レ ¹ イ6葉期 但し、収穫50日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	2回以内
	バ ミニ-液剤	2	50～100mL/10a	移植後30日～刈入れの草丈40cmまで 但し、収穫60日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回
			50～100mL/10a	移植後30日～刈入れの茎長30cmまで 但し、収穫60日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回
	ハ サグ ラン・エア-1キロ粒剤	6	1kg/10a	移植後15日～収穫45日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回
	ハ サグ ラン液剤(ナトリウム塩)	6	500～700mL/10a	移植後15日～収穫45日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	2回以内
	ハ サグ ラン粒剤(ナトリウム塩)	6	3～4kg/10a	移植後15日～収穫45日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回
ヒエクリン1キロ粒剤	2	1kg/10a	移植後15日～レ ¹ イ4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回	
ヒエクリン豆つぶ250	2	250g/10a	移植後15日～レ ¹ イ4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回	
マイティワフアブル	27	100mL/10a	移植直後～刈入れ3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による滴下	2回以内	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
移植 その 他	モグリン粒剤	0	2～3kg/10a	ワケナシ類、藻類の発生始～発生盛期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	3回以内
			1～2kg/10a	藻類・表層はく離の発生時 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	3回以内
	ロイヤル乳剤	4	200mL/10a	移植後20日～ルイ5葉期 但し、収穫45日前まで	落水散布、ごく浅く湛水して散布又は湛水散布	2回以内
			200mL/10a	移植後20日～ルイ5葉期 但し、収穫45日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	2回以内
	ワンスーシ1キ粒剤	2	1kg/10a	移植後15日～ルイ4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	粒状水中MCP	4	3.0～3.5kg/10a	有効分けつ終止期～幼穂形成期前(但し収穫60日前まで)	湛水散布(あらかじめ水田の水の出入りをとめ、湛水のまま10a当り所要量を全面に均一散布する。)	1回

(7) 本田除草剤の使用法(直播)

RPA

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
直播 初期 剤	プレーブ1キロ粒剤	27	1kg/10a	湛水直播の代かき後～は種7日前またはは種直後～ レ1葉期但し収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
			1kg/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回
	プレーブフロアブル	27	300～ 500mL/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回
			300～ 500mL/10a	湛水直播の代かき後～は種7日前またはは種直後～ レ1葉期但し収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
直播 一発 処理 剤	アツキ1キロ粒剤	15,2, 27	1kg/10a	稲1葉期～レ13葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布	1回
	アツキジャンボ	15,2, 27	小包装(パック)10個 (250g)/10a	稲1葉期～レ13葉期 但し、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	アツキフロアブル	15,2, 27	500mL/10a	稲1葉期～レ13葉期 但し、収穫90日前まで	原液湛水散布	1回
	アキシ MX1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	稲1葉期～レ14葉期 ただし、収穫45日前まで	無人ヘリコプターによる散布	1回
			1kg/10a	稲1葉期～レ14葉期 ただし、収穫45日前まで	湛水散布	1回
	アシュ1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	稲1葉期～レ14葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	アシュ400FG	14,2, 27	400g/10a	稲1葉期～レ14葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	アシュジャンボ	14,2, 27	小包装(パック)10個 (400g)/10a	稲1葉期～レ14葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	アシュフロアブル	14,2, 27	500mL/10a	稲1葉期～レ14葉期 但し、収穫90日前まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	アビロファースト1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	湛水直播のは種直後～レ1.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
			1kg/10a	湛水直播のは種時	は種同時散布機で施用	1回
	イネキング1キロ粒剤	14,27	1kg/10a	稲1葉期～レ12.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
			1kg/10a	稲1葉期～レ12.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	イネリーグジャンボ	15,27, 4	小包装(パック)10個 (400g)/10a	稲1葉期～レ13葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	イネリーグフロアブル	15,27, 4	500mL/10a	稲1葉期～レ13葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	ウルティモZ1キロ粒剤	2,27, 33	1kg/10a	稲1葉期～レ13.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ウルティモZジャンボ	2,27, 33	小包装(パック)10個 (350g)/10a	稲1葉期～レ13.5葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ウルティモZフロアブル	2,27, 33	500mL/10a	稲1葉期～レ13.5葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	エンペラー1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	稲出芽揃期～レ13葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	エンペラージャンボ	14,2, 27	小包装(パック)10個 (250g)/10a	稲出芽揃期～レ13葉期 但し、収穫75日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
エンペラーフロアブル	14,2, 27	500mL/10a	稲出芽揃期～レ13葉期 但し、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回	
エンペラー豆つぶ250	14,2, 27	250g/10a	稲出芽揃期～レ13葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
オサキ1キロ粒剤	30,2, 30	1kg/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回	
		1kg/10a	は種直後～レ13葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布、ごく浅く湛水して散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回	
カシMF1キロ粒剤	1,27	1kg/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回	
		1kg/10a	湛水直播のは種直後～レ12.5葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
直播	カウシルエナジ-1キロ粒剤	15,2,27	1kg/10a	稲1葉期～ヒト3.5葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
一発処理剤	カウシルエナジ-ジヤンボ	15,2,27	小包装(パック)10個(400g)/10a	稲1葉期～ヒト3.5葉期ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	カウシルコンブ-リート1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	は種直後～ヒト3.5葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	カウシルコンブ-リートジヤンボ	2,27	小包装(パック)10個(300g)/10a	稲1葉期～ヒト3葉期ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	カウシルコンブ-リート70アンプル	2,27	500mL/10a	は種直後～ヒト3.5葉期ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	カワット1キロ粒剤	14,2,27	1kg/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	カワット400FG	14,2,27	400g/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	カワットジヤンボ	14,2,27	小包装(パック)10個(400g)/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	カワゴン1キロ粒剤	15,2	1kg/10a	稲1葉期～ヒト3葉期但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	カワゴンジヤンボ	15,2	小包装(パック)10個(250g)/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期但し、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	カワゴン豆つぶ250	15,2	250g/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	キラリ1キロ粒剤	14,2,27	1kg/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	キラリ400FG	14,2,27	400g/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	キラリ70アンプル	14,2,27	500mL/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	ケバートジヤンボ	0,14,2,27	小包装(パック)10個(400g)/10a	稲1葉期～ヒト4葉期ただし、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ゴエモン1キロ粒剤	30,15,2,30	1kg/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	ゴエモンジヤンボ	30,15,2,30	小包装(パック)10個(300g)/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ゴエモン70アンプル	30,15,2,30	500mL/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布	1回
	コメット1キロ粒剤	14,2,27	1kg/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	コメット顆粒	14,2,27	80g/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
80g/10a			稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫60日前まで	顆粒水口施用	1回	
サラブレットGO1キロ粒剤	30,14,2,30	1kg/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
サラブレットGO400FG	30,14,2,30	400g/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回	
サラブレットGOジヤンボ	30,14,2,30	小包装(パック)10個(400g)/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回	
サラブレットGO70アンプル	30,14,2,30	500mL/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回	
サラブレットRX70アンプル	30,2,30,4	500mL/10a	稲1.0葉期～ヒト2.5葉期但し収穫90日前まで	原液湛水散布	1回	
ジエイソウル1キロ粒剤	15,27,33	1kg/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
ジエイソウルジヤンボ	15,27,33	小包装(パック)10個(450g)/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回	
ジエイソウル70アンプル	15,27,33	500mL/10a	稲1葉期～ヒト2.5葉期ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
一発 処理 剤	ジエイフレンド1キロ粒剤	30,14, 27,30	1kg/10a	稲1葉期～レ12.5葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	ジエイフレンド400FG	30,14, 27,30	400g/10a	稲1葉期～レ12.5葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	ジエイフレンドジヤンボ	30,14, 27,30	小包装(パック)10個 (400g)/10a	稲1葉期～レ12.5葉期 ただし、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ジエイフレンドフロアブル	30,14, 27,30	500mL/10a	稲1葉期～レ12.5葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布	1回
	ジカマック500グラム粒剤	2,27	500g/10a	は種直後～レ11.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
				は種時	は種同時散布機で施用	1回
	ジグナス1キロ粒剤	15,2, 27	1kg/10a	稲1葉期～レ13葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ジグナスジヤンボ	15,2, 27	小包装(パック)10個 (300g)/10a	稲1葉期～レ13葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ジグナスフロアブル	15,2, 27	500mL/10a	稲1葉期～レ13葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	ジヤスタ1キロ粒剤	2,27, 33	1kg/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回
	ジュナイデ1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	稲1葉期～レ12.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ジュナイデジヤンボ	2,27	小包装(パック)10個 (400g)/10a	稲1葉期～レ12.5葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ジュナイデフロアブル	2,27	500mL/10a	稲1葉期～レ12.5葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	ジンスイZ1キロ粒剤	2,27, 30	1kg/10a	稲1葉期～レ13.5葉期 但し、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ジンスイZフロアブル	2,27, 30	500mL/10a	稲1葉期～レ13.5葉期 但し、収穫90日前まで	原液湛水散布	1回
	ジンスイZ豆つぶ250	2,27, 30	250g/10a	稲1葉期～レ13.5葉期 但し、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ストレンクス1キロ粒剤	2,27, 4	1kg/10a	稲1葉期～レ14葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	2回以内
	ゼータジヤカ1キロ粒剤	14,2, 27	1kg/10a	稲1葉期～レ14葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布	1回
	ゼータジヤカジヤンボ	14,2, 27	小包装(パック)10個 (200g)/10a	稲1葉期～レ14葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ゼータジヤカフロアブル	14,2, 27	500mL/10a	稲1葉期～レ14葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布	1回
	ゼータタイカ1キロ粒剤	30,14, 2,30	1kg/10a	稲1葉期～レ13葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ゼータタイカ300FG	30,14, 2,30	300g/10a	稲1葉期～レ13葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	ゼータタイカジヤンボ	30,14, 2,30	小包装(パック)10個 (300g)/10a	稲1葉期～レ13葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
ゼータタイカフロアブル	30,14, 2,30	500mL/10a	稲1葉期～レ13葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回	
ゼータラスタ1キロ粒剤	2,27	1kg/10a	稲1葉期～レ14葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
ゼータラスタ200FG	2,27	200g/10a	稲1葉期～レ14葉期 ただし、収穫75日前まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	1回	
ゼータラスタジヤンボ	2,27	小包装(パック)10個 (200g)/10a	稲1葉期～レ14葉期 ただし、収穫75日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回	
ゼータラスタフロアブル	2,27	500mL/10a	稲1葉期～レ14葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回	
ダブールスタ-SB顆粒	15,2, 27	80g/10a	稲1葉期～レ12.5葉期 ただし、収穫90日前まで	顆粒水口施用	1回	
		80g/10a	稲1葉期～レ12.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布	1回	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
直播	ダクショットジヤンボ SD	15,27,4	小包装(ﾊﾟｯｸ)10個(200g)/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ3葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(ﾊﾟｯｸ)のまま投げ入れる。	1回
一発処理剤	ダクショット7ﾌﾟﾛﾌﾞﾙ	15,27,4	500mL/10a	湛水直播の稲1葉期～ﾋﾞ ｲ3葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	ツルギ 250粒剤	15,2,27	250g/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ2.5葉期 但し、収穫90日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	ツルギ ジヤンボ	15,2,27	小包装(ﾊﾟｯｸ)10個(250g)/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ2.5葉期但し、収穫90日前まで	水田に小包装(ﾊﾟｯｸ)のまま投げ入れる。	1回
	ﾃﾞｲｰﾙ1ｷﾛ粒剤	2,27,30	1kg/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ3葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ﾃﾞｲｰﾙｼﾞﾔﾝﾎﾞ	2,27,30	小包装(ﾊﾟｯｸ)10個(400g)/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ3葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(ﾊﾟｯｸ)のまま投げ入れる。	1回
	ﾃﾞｲｰﾙﾌﾞﾛﾌﾞﾙ	2,27,30	500mL/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ3葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	ﾃﾞｲｰﾙ顆粒	80g/10a	2,27,30	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ3葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
				稲1葉期～ﾋﾞ ｲ3葉期 ただし、収穫90日前まで	顆粒水口施用	1回
	ﾄﾞﾆﾌS1ｷﾛ粒剤	30,15,2,30	1kg/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	ﾄﾞﾘﾌ1ｷﾛ粒剤	15,2,4	1kg/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ3葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ﾌｯｸｱｳﾄ楽粒	15,2,27,5	250g/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ3.5葉期 但し、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ﾊﾞｯﾌﾟﾘ1ｷﾛ粒剤	30,14,2,30	1kg/10a	稲出芽始期～ﾋﾞ ｲ2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	ﾊﾞｯﾌﾟﾘ400FG	30,14,2,30	400g/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ2.5葉期ただし、収穫90日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	ﾊﾞｯﾌﾟﾘLX1ｷﾛ粒剤	30,14,2,30	1kg/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ﾊﾞｯﾌﾟﾘLX400FG	30,14,2,30	400g/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	1回
	ﾊﾞｯﾌﾟﾘLXｼﾞﾔﾝﾎﾞ	30,14,2,30	小包装(ﾊﾟｯｸ)10個(400g)/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(ﾊﾟｯｸ)のまま投げ入れる。	1回
	ﾊﾞｯﾌﾟﾘｼﾞﾔﾝﾎﾞ	30,14,2,30	小包装(ﾊﾟｯｸ)10個(400g)/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	水田に小包装(ﾊﾟｯｸ)のまま投げ入れる。	1回
	ﾊﾞｯﾌﾟﾘﾌﾞﾛﾌﾞﾙ	30,14,2,30	500mL/10a	稲出芽始期～ﾋﾞ ｲ2.5葉期 ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布又は水口施用	1回
	ﾊﾞｯﾄｳZ1ｷﾛ粒剤	14,2,27	1kg/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ3葉期ただし、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ﾊﾞｯﾄｳZｼﾞﾔﾝﾎﾞ	14,2,27	小包装(ﾊﾟｯｸ)10個(400g)/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ3葉期ただし、収穫60日前まで	水田に小包装(ﾊﾟｯｸ)のまま投げ入れる。	1回
ﾊﾞｯﾄｳZﾌﾞﾛﾌﾞﾙ	14,2,27	500mL/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ3葉期ただし、収穫90日前まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回	
ﾋﾞｸﾄﾘｰ-Z400FG	14,2	400g/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ3葉期ただし、収穫60日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回	
ﾋﾞｸﾄﾘｰ-Zｼﾞﾔﾝﾎﾞ	14,2	小包装(ﾊﾟｯｸ)10個(400g)/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ3葉期 ただし、収穫60日前まで	水田に小包装(ﾊﾟｯｸ)のまま投げ入れる。	2回以内	
ﾋﾞｸﾄﾘｰ-Zﾌﾞﾛﾌﾞﾙ	14,2	500mL/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ3葉期 ただし、収穫60日前まで	原液湛水散布又は無人ヘリコプターによる滴下	1回	
ﾌﾙﾁｬｰｼﾞ ｼﾞﾔﾝﾎﾞ	14,2	小包装(ﾊﾟｯｸ)10個(500g)/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ4葉期 但し収穫45日前まで	水田に小包装(ﾊﾟｯｸ)のまま投げ入れる。	1回	
ﾌﾙﾊﾞｰ-MXｼﾞﾔﾝﾎﾞ	14,2,27	小包装(ﾊﾟｯｸ)10個(500g)/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ3.5葉期但し収穫60日前まで	水田に小包装(ﾊﾟｯｸ)のまま投げ入れる。	1回	
ﾊﾞｯｶｸ1ｷﾛ粒剤	15,2,27	1kg/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ3葉期 但し、収穫75日前まで	湛水散布	1回	
ﾊﾞｯｶｸｼﾞﾔﾝﾎﾞ	15,2,27	小包装(ﾊﾟｯｸ)10個(250g)/10a	稲1葉期～ﾋﾞ ｲ3葉期 但し、収穫75日前まで	水田に小包装(ﾊﾟｯｸ)のまま投げ入れる。	1回	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
一発 処理 剤	ハルガ1kg粒剤	2,27	0.5~1kg/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回
			1kg/10a	は種直後~レ ¹ E3葉期 但し、収穫75日前まで	湛水散布	1回
			0.5~1kg/10a	は種直後	ごく浅く湛水して散布	1回
	ハルガジャンボ	2,27	小包装(パック)10個 (250g)/10a	稲出芽揃期~レ ¹ E3葉期 但し、収穫75日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ハルガ豆つぶ250	2,27	250g/10a	稲出芽揃期~レ ¹ E3葉期 但し、収穫75日前まで	湛水散布、水口施用又は無人航空機による散布	1回
	ポテ-ガードプロ1kg粒剤	2,27	1kg/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回
				は種直後~レ ¹ E3.5葉期 但し、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ポテ-ガードプロジャンボ	2,27	小包装(パック)10個 (300g)/10a	稲1葉期~レ ¹ E3葉期 但し、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ポテ-ガードプロ707アブル	2,27	500mL/10a	は種直後~レ ¹ E3.5葉期 但し、収穫90日前まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回
	ポランティアジャンボ	15,27	小包装(パック)10個 (400g)/10a	稲1葉期~レ ¹ E2.5葉期 但し、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	マスト1kg粒剤	2,27	1kg/10a	は種直後~レ ¹ E3葉期 但し、収穫90日前まで	湛水散布、ごく浅く湛水して散布又は無人航空機による散布	1回
				は種時	は種同時散布機で施用	1回
	マストジャンボ	2,27	小包装(パック)10個 (200g)/10a	稲1葉期~レ ¹ E3葉期 但し、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	マスト707アブル	2,27	500mL/10a	稲1葉期~レ ¹ E3葉期 但し、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回
	メガゼ-タ1kg粒剤	14,2	1kg/10a	稲1葉期~レ ¹ E3葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	2回以内
	メガゼ-タ400FG	14,2	400g/10a	稲1葉期~レ ¹ E3葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人航空機による散布	1回
	メガゼ-タジャンボ	14,2	小包装(パック)10個 (400g)/10a	稲1葉期~レ ¹ E3葉期 但し、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	2回以内
	メガゼ-タ707アブル	14,2	500mL/10a	稲1葉期~レ ¹ E3葉期 但し、収穫60日前まで	原液湛水散布又は無人ヘリコプターによる滴下	1回
	ライジンパワージャンボ	14,15,27	小包装(パック)10個 (500g)/10a	稲1葉期~レ ¹ E2.5葉期 但し、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
	ラウ1kg粒剤	0,15,2,27	1kg/10a	稲1葉期~レ ¹ E2.5葉期 但し、収穫90日前まで	湛水散布	1回
	レオゼ-タ1kg粒剤	2,27,30	1kg/10a	稲1葉期~レ ¹ E4葉期 但し、収穫90日前まで	湛水散布	1回
	レオゼ-タ707アブル	2,27,30	500mL/10a	稲1葉期~レ ¹ E4葉期 但し、収穫90日前まで	原液湛水散布	1回
	レプラスジャンボ	0,2,27,5	小包装(パック)10個 (400g)/10a	稲1葉期~レ ¹ E4葉期 但し、収穫60日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回
天空ジャンボ	15,2,27	小包装(パック)10個 (300g)/10a	稲1葉期~レ ¹ E3葉期 但し、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回	
天空707アブル	15,2,27	500mL/10a	稲1葉期~レ ¹ E3葉期 但し、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回	
忍1kg粒剤	14,2,27	1kg/10a	稲1葉期~レ ¹ E2.5葉期 但し、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
忍ジャンボ	14,2,27	小包装(パック)10個 (200g)/10a	稲1葉期~レ ¹ E2.5葉期 但し、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回	
忍707アブル	14,2,27	500mL/10a	稲1葉期~レ ¹ E2.5葉期 但し、収穫90日前まで	原液湛水散布、水口施用又は無人航空機による滴下	1回	
流星1kg粒剤	14,2,27	1kg/10a	稲1葉期~レ ¹ E3葉期 但し、収穫90日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回	
流星ジャンボ	14,2,27	小包装(パック)10個 (400g)/10a	稲1葉期~レ ¹ E3葉期 但し、収穫90日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	1回	
流星707アブル	14,2,27	500mL/10a	稲1葉期~レ ¹ E3葉期 但し、収穫90日前まで	原液湛水散布又は無人航空機による滴下	1回	

区分	薬剤名	RAC	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
直播	アトカ7Sジヤンボ MX	2,27	小包装(ﾊﾟｯｸ)20個 (500g)/10a	稲4葉期～ﾋﾞ ｲ4葉期 ただし、収穫45日前まで	水田に小包装(ﾊﾟｯｸ)のまま投げ入れる。	1回
稲2 葉期 以降 処理 剤	アレルSC	2	500mL/10a	稲3葉期～ﾋﾞ ｲ5葉期 ただし、収穫45日前まで	湛水散布又は落水散布	1回
	ウイート コア1ｷﾛ粒剤	2,27, 4	1kg/10a	稲3葉期～ﾋﾞ ｲ4葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	2回以内
	ｶﾞﾊﾞｰﾄﾞ 1ｷﾛ粒剤	0,14, 2,27	1kg/10a	稲2葉期～ﾋﾞ ｲ4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ｼｱｸﾞ MF1ｷﾛ粒剤	1,2,4	1kg/10a	稲3.5葉期～ﾋﾞ ｲ4.5葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	2回以内
	セカﾝﾄﾞ ﾚｼﾞｽﾀﾝｽ ﺟ ﺎﾝ ﺑ ﺎ	2,27	小包装(ﾊﾟｯｸ)20個 (500g)/10a	稲4葉期～ﾋﾞ ｲ4葉期 ただし、収穫45日前まで	水田に小包装(ﾊﾟｯｸ)のまま投げ入れる。	1回
	ツｲｸﾞ ﾉ ﺋ ﺎ ﺟ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	2,27, 5	1kg/10a	稲5葉期～ﾋﾞ ｲ4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ツｲｸﾞ ﾉ ﺋ ﺎ ﺟ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	2,27, 5	250g/10a	稲5葉期～ﾋﾞ ｲ4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ﾃｯｸ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	2,27	1kg/10a	稲4葉期～ﾋﾞ ｲ4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ﾃｯｸ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	2,27	小包装(ﾊﾟｯｸ)10個 (500g)/10a	稲4葉期～ﾋﾞ ｲ4葉期 但し、収穫60日前まで	水田に小包装(ﾊﾟｯｸ)のまま投げ入れる。	1回
	ﾄ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	1	1kg/10a	稲3.5葉期～ﾋﾞ ｲ4葉期 但し、収穫50日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	3回以内
	ﾄ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	1	200mL/10a	は種後10日～ﾋﾞ ｲ6葉期 但し、収穫50日前まで	雑草茎葉散布又は全面散布	2回以内
	ﾄ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	1,6	1000mL/10a	は種後10日～ﾋﾞ ｲ6葉期 但し、収穫50日前まで	乾田・落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布	2回以内
	ﾆ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	2,27	1kg/10a	稲4葉期～ﾋﾞ ｲ4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ﾆ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	2,27	小包装(ﾊﾟｯｸ)10個 (500g)/10a	稲4葉期～ﾋﾞ ｲ4葉期 但し、収穫60日前まで	水田に小包装(ﾊﾟｯｸ)のまま投げ入れる。	1回
	ﾉ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	1,4	250mL/10a	稲3葉期～ﾋﾞ ｲ5葉期 ただし、収穫45日前まで	乾田・落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布	2回以内
	ﾊ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	27,33	1kg/10a	稲3葉期～出芽後50日 ただし、収穫45日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ﾋ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	2,6	3kg/10a	ｲ3葉期～ﾋﾞ ｲ4葉期 但し、収穫60日前まで	ごく浅く湛水して散布	1回
	ﾚ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	0,2,2 7,5	1kg/10a	稲2葉期～ﾋﾞ ｲ4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	1回
	ﾚ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	4	200mL/10a	稲3葉期～ﾋﾞ ｲ5葉期 ただし、収穫45日前まで	乾田・落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布	2回以内
	ワ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	ｱ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	2	100mL/10a	稲3葉期～ﾋﾞ ｲ5葉期 但し、収穫30日前まで	雑草茎葉散布又は全面散布
2			100mL/10a	稲3葉期～ﾋﾞ ｲ5葉期 但し、収穫30日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	2回以内
ワ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	2,6	3kg/10a	稲4葉期～ﾋﾞ ｲ4葉期 但し、収穫45日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回	
銀河1ｷﾛ粒剤	0,14, 2	1kg/10a	稲2葉期～ﾋﾞ ｲ3葉期 ただし、収穫60日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回	
直播 その 他	ｸ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	1	1kg/10a	は種後10日～ﾋﾞ ｲ3葉期 但し、収穫30日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	2回以内
			1.5kg/10a	は種後25日～ﾋﾞ ｲ4葉期 但し、収穫30日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	2回以内
	ｸ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	1	100mL/10a	は種後10日～ﾋﾞ ｲ5葉期 但し、収穫30日前まで	雑草茎葉散布又は全面散布	2回以内
			100mL/10a	は種後10日～ﾋﾞ ｲ4.5葉期 但し、収穫30日前まで	無人航空機による散布	2回以内
	ｸ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	1,6	1000mL/10a	は種後10日～ﾋﾞ ｲ5葉期 但し、収穫50日前まで	乾田・落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布	2回以内
	ﾊ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	6	500～ 700mL/10a	は種後35日～収穫45日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	2回以内
	ﾊ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	6	3kg/10a	稲3葉期～収穫45日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回
	ﾋ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	2	1kg/10a	稲3葉期～ﾋﾞ ｲ4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
			1kg/10a	は種直後～稲出芽前	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回
			0.5～1kg/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回
	ﾋ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	2	250g/10a	稲3葉期～ﾋﾞ ｲ3葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回
	ﾓ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	0	1.5～2kg/10a	稲1葉期以降、アミト、表層はく離発生時 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	3回以内
ワ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ ﺋ ﺎ	2	1kg/10a	稲3葉期～ﾋﾞ ｲ4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	1回	
		0.5～1kg/10a	は種時	は種同時散布機で施用	1回	
		1kg/10a	は種直後～稲出芽前	落水散布又はごく浅く湛水して散布	1回	

RAC	1			2			4			5		6		14		15						27		33		0	
	作用	ACCase阻害	ALS阻害	インドール酢酸経路阻害	光合成阻害	PP0阻害	VLCFAs阻害	α-アミロイジン	α-ガラクトシド	α-アミロイジン		α-アミロイジン															
成分	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	メタホスホ	
成分ごとの使用回数(回以内)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
ゼータダイガー1キロ粒剤																											
ゼータダイガー300FG																											
ゼータダイガーフロアブル																											
ゼータハンマー1キロ粒剤																											
ゼータプラス1キロ粒剤																											
ゼータプラスフロアブル																											
ゼータプラス200FG																											
先陣ジャンボ																											
先陣200FG																											
ダブルスターSB顆粒																											
ダンクショットフロアブル																											
ダンクショットジャンボSD																											
ツルギ250粒剤																											
ツルギジャンボ																											
デオレ1キロ粒剤																											
デオレフロアブル																											
デオレジャンボ																											
デオレ顆粒																											
テッセン1キロ粒剤																											
天竺1キロ粒剤																											
天竺ジャンボ																											
天竺フロアブル																											
ドニチS1キロ粒剤																											
ドリフ1キロ粒剤																											
ノックアウト顆粒																											
パッチリ1キロ粒剤																											
パッチリフロアブル																											
パッチリジャンボ																											
パッチリ400FG																											
パッチリLX1キロ粒剤																											
パッチリLXジャンボ																											
パッチリLX400FG																											
パッチリZ1キロ粒剤																											
パッチリZフロアブル																											
フルイニングスカイ500グラム粒剤																											
フルスコアZ1キロ粒剤																											
フルスコアZジャンボ																											
フルチャージャージャンボ																											
フルパワーMXジャンボ																											
ベックガ1キロ粒剤																											
ベックガジャンボ																											
ベルーガ1キロ粒剤																											
ベルーガジャンボ																											
ベルーガ豆つぶ250																											
ホットコンビ200粒剤																											
ホットコンビジャンボ																											
ポランディアジャンボ																											
マスタートジャンボ																											
マスタートジャンボ																											
マスタートフロアブル																											
メガゼータ1キロ粒剤																											
ビクトリーZ1キロ粒剤																											
メガゼータフロアブル																											
ビクトリーZフロアブル																											

RAC	1		2		4		5		6		14		15						27		33										
	作用	ACCase阻害	ALS阻害		インドール酢酸様活性		光合成阻害		PPO阻害		VLCFAs阻害						白化		*												
成分	グリホサート	グリホサート	スルホニルウレア		フェノキシカルボン酸		トリアジン		ベンゾチアゾリジン		N-フェニルピリミジン		N-フェニルピリミジン		α-キチン																
成分	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート	グリホサート		
成分ごとの使用回数(回以内)																															
ヒエクリンバサグラン粒剤	2																														
レプラス1キロ粒剤	4																														
ロイヤント乳剤	1																														
ロイダタックSC	1																														
ロイバロー粒剤	2																														
クリンチャー1キロ粒剤	1	1.8																													
クリンチャーEW	1	30.0																													
ヒエクリン1キロ粒剤	1																														
ヒエックバエース1キロ粒剤	1																														
ヒエクリン豆つぶ250	1																														
クリンチャーバスマME液剤	2	3.0																													
バサグラン粒剤(Na塩)	1																														
バサグラン液剤(Na塩)	1																														
モグソン粒剤	1																														
ワンスデーJ1キロ粒剤	1																														

(9) 刈取後、畦畔等除草剤使用基準

① 刈取後除草剤

除草剤名	10アール 当たり 使用量	使用時期	使用方法	注意事項
ブリグロックスL ジクワット 7% パラコート 5%	800～ 1000ml (移植水稲) 600～ 1000ml (直播水稲)	稲刈取後または 春期水田耕起1か 月前～直前まで	雑草茎葉散布 10a当たり 100～150 ℓ に 溶かして散布	・毒物につき、取扱注意。☹ (保管、安全使用) ・ミスト機での散布はしない。 ・隣接の作物、水源地・養殖池等 へ飛散、流入させない。
ラウンドアップ マックスロード グリホサートカリウム塩 48%	200～ 500ml (一年生雑草) 500～ 1000ml (多年生雑草)	稲刈取後 雑草生育期	雑草茎葉散布 10a当たり 通常散布で 50～100ℓ、 少量散布で 5～50 ℓ に溶 かして散布	・散布後2時間以内に降雨が予想さ れる場合は散布を見合わせる。 ・専用ノズルを使用する。 ・養魚田およびその付近では使 用しない。 ・眼に入らないよう注意する。 ・皮膚に付着しないよう注意する。
ザクサ液剤 グルホシネートPナトリウム塩 11.5%	300～ 500ml	水田刈跡	雑草茎葉散布 10aあたり 100～150ℓ	・一年生雑草 雑草生育期
クサトールFP水溶剤 (クロレートSL 塩素酸ナトリウム 60%)	10～13 kg (マツバイ)	稲刈取後 10日以内	雑草茎葉散布 10a当たり 80～100 ℓ に溶 かして散布	・消防法の適用を受けるので取 扱いは十分注意する。 ・☹ 〔厳重保管、安全使用〕 ・火気・衝撃を避ける。 ・衣類などに付着すると着火 することがあるので火気を避 けるとともに、作業終了後薬 剤の付着した衣類や地下足 袋はよく水で洗う。 ・隣接の作物、水源地・養殖池等 へ飛散、流入させない。 ・散布前後に石灰や木炭を施用 しない。
	13kg (ミズカヤツリ)	刈取後～ミズカヤ ツリの塊茎形成前 まで		

② 水田畦畔除草剤 (雑草発生前処理)

除草剤名	10アール 当たり 使用量	使用時期	使用方法	注意事項
カソロン粒剤4.5 DBN 45%	6～12 kg	秋冬期～春期 (雑草発生前～発 生始期)	全面土壌散布	・対象は、一年生雑草(マメ科を 除く)、多年生広葉雑草(マメ科 を除く)、スギナ。 ・水源地、養殖池等に飛散・流入 しないように注意する。 ・眼に対して刺激性あり。
	6～15 kg (スギナ)			

除 草 剤 名	10アール 当たり 使用量	使 用 時 期	使 用 方 法	注 意 事 項
カーメックスD DCMU 80.0%	150～ 300g	雑草発生前～ 雑草生育初期	茎葉兼土壌処理 10a当たり70～100ℓの水 に溶かして散布	・気温20℃以上で高湿度の条件 下で効果的。
ダイロンゾル DCMU 50.0%	200～ 250mℓ	雑草発生前～生 育初期(草丈15cm 以下)	雑草茎葉散布又は全面 土壌散布 10a 当たり 100ℓに溶かし て散布	
カーメックス顆粒水和剤 DCMU 80.0%	150～ 300g	雑草発生前、雑草 発生始期～雑草 発生揃期 (草丈20cm以下)	雑草茎葉散布又は全面 土壌散布 10a当たり25～300ℓの水 に溶かして散布	

③ 水田畦畔除草剤（雑草生育期処理）

除 草 剤 名	10アール 当たり 使用量	使 用 時 期	使 用 方 法	注 意 事 項
ブリグロックスL ジクワット 7% パラコート 5%	600～1,000mℓ (一年生雑草) 1,000～2,000mℓ (多年生雑草)	雑草生育期	雑草茎葉散布 10a当たり100～150ℓに 溶かして散布	・前頁注意事項参照 ・毒物 ☹
(クサトールFP水溶剤 クロレートSL 塩素酸ナトリウム 60%)	7.5～15 kg	雑草生育期	雑草茎葉散布 10a当たり100～200ℓに 溶かして散布	・前頁注意事項参照 ・☹
ラウンドアップ マックスロード グリホサートカリウム塩 48%	200～500mℓ (一年生雑草) 200～1,000mℓ (多年生雑草) 1,500～2,000mℓ (スギナ) 200～1000m ℓ (一年生及び 多年生雑草) 500～1,000mℓ (一年生雑草 及び多年生広 葉雑草))	雑草生育期 稲収穫前日まで	雑草茎葉散布 10a当たり 50～100ℓ(通常 散布)に溶かして散布 10a 当たり(少量散布)5～ 25ℓに溶かして散布 (ULV5 ノズル使用)	・草種によって、薬量が異なるこ とがあるので、ラベルに記載さ れた使用方法をよく読んでから 使用する。 ・ラウンドアップマックスロードは 散布後2時間、バスタ液剤は6 時間以内に降雨が予想される 場合は散布を見合わせる。 ・散布後2～3週間は刈取りをし ない。 ・専用ノズルを使用する。 ・周囲の作物に飛散させない。 ・養魚田およびその付近では使 用しない。
バスタ液剤 グルホシネート 18.5%	500～ 1,000mℓ	稲収穫7日前まで (雑草生育期: 草丈30cm以下)	雑草茎葉散布 10a当たり100～150ℓに 溶かして散布 少量散布は30～40ℓ/10a	・眼に入らないよう注意する。 ・皮膚に付着しないよう注意する。
ザクサ液剤 グルホシネートPナトリウム塩 11.5%	500～ 1,000mℓ	稲収穫7日前まで (雑草生育期: 草丈30cm以下)	雑草茎葉散布 10a当たり100～150ℓに 溶かして散布	・養魚田およびその付近では使 用しない。

除 草 剤 名	10アール 当たり 使用量	使 用 時 期	使 用 方 法	注 意 事 項
タッチダウンIQ グリホサートカリウム塩 44.7%	250~500ml (一年生雑草) 500~1000ml (多年生雑草) 1,500~2,000ml (スギナ)	稲収穫14日前まで (雑草生育期: 草丈 30 cm以下)	雑草茎葉散布 10a当たり 50 ~100ℓ に 溶かして散布	<ul style="list-style-type: none"> ・散布後2時間以内に降雨が予想されるときは使用を避ける。 ・飛散防止のためキリナシノズルを使用して低圧で散布する。
草枯らしMIC シンノングリスター グリホサートイソプロピルアミン塩 41%	250~500ml (一年生雑草) 500~1000ml (多年生雑草)	稲収穫14日前まで (雑草生育期: 草丈 30 cm以下)	雑草茎葉散布 通常散布では 100 ℓ に溶 かして使用	<ul style="list-style-type: none"> ・散布後6時間以内に降雨が予想される場合は散布を見合わせる。 ・散布後2~3週間は刈取りや耕耘をしない。 ・専用ノズルを使用する。 ・養魚田およびその付近では使用しない。 ・眼に入らないよう注意する。 ・皮膚に付着しないよう注意する。 ・ジェネリック除草剤としてエイトアップ液剤、クサトローゼがある。
サンダーボルト 007 グリホサートイソプロピルアミン塩 30.0% ピラフルフェンエチル 0.16%	400~ 600ml	稲収穫14日前まで (雑草生育期: 草丈 30 cm以下)	雑草茎葉散布 10a当たり 100 ℓ に溶かし て散布	<ul style="list-style-type: none"> ・激しい降雨が予想される場合は使用を避ける。 ・付近の有用作物にかからないように散布する。
グラスショート液剤 ビスピリバックナトリウム塩 3.0%	300~ 500 ml	雑草生育初期(草 丈10cm)及び草刈 り後 10~20 日の 雑草再生期(収穫 前日まで)	雑草茎葉散布 10a当たり 50 ~100ℓ に 溶かして散布	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈抑制による刈り取り軽減。 ・畦畔のイボクサに効果あり。

(10) 除草剤体系 (例)

① 移植栽培田

除草剤を使用する場合、使用時期が「移植後△日～ノビエ〇葉期（ただし移植後□日まで）」というように規定されている。

また、移植後◇日以内、または収穫前◎日以前という規定もあるので、使用時期には十分注意する。

同一圃場で除草剤を複数回使用するときは、各薬剤の使用回数だけでなく、薬剤の成分ごとの使用回数を超えないこと。

稚苗の機械移植の場合は苗の素質、活着状態、浅植えなどの条件により薬害の出る恐れがあるので、次のことを留意のうえ使用する。

- 健苗で活着良好であること。
- 田面の整地が丁寧で均平が良く、水深は3～5cmであること。
- 極端な浅植えは避け、水稻根が地表に露出しないようにする。

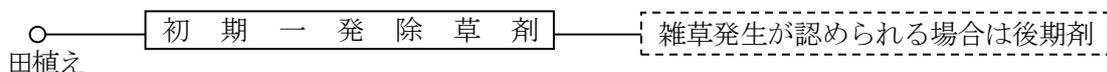
(ア) 一発除草剤を使用する場合

通常、一発除草剤を適正に処理すれば十分に雑草防除が可能である。

一般的に「初期一発剤」と呼ばれるもの、一般的に「初中期一発剤」と呼ばれるものが、適期処理が労力的に困難な場合、もしくは雑草多発田である場合は、初期剤を併用する。

- ・ 散布後7日間は湛水を保ち、落水や掛け流しはしない。水尻や畦畔からの漏水、オーバーフローもさせない。
- ・ 減水深2cm以上の圃場では、薬害の恐れがあるので使用しない。
- ・ 多年生雑草発生田では、使用時期のうちで早めに処理する。
- ・ 残草が目立つ場合は、後期剤を処理する。

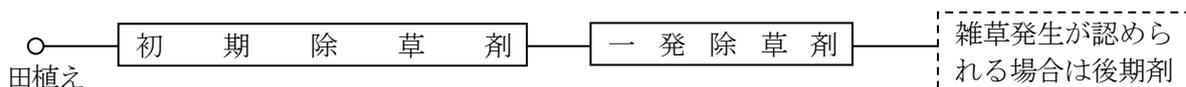
a) 初期一発剤を用いる場合



b) 初中期一発剤を用いる場合



c) 初期剤との体系で用いる場合

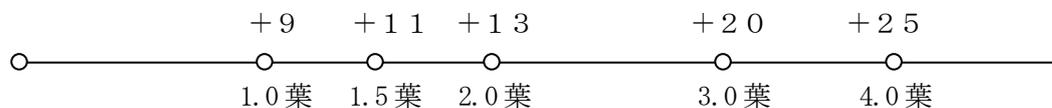


- ・ 初期剤の抑草期間は、およそ20～25日。
- ・ 一発除草剤の使用時期（田植後日数など）を守る。
- ・ 初期剤にプレチラクロールを含む剤を使用する場合、同一成分（プレチラクロール）を含む一発剤の使用は避ける。また、各除草剤に含まれる成分ごとの使用回数も確認し、その回数を超えないように薬剤を選択する。

<ノビエの葉齢の進み方（福井県嶺北地方平坦地での例）>

代かき日を+0日とした場合（移植時期や播種時期が5月10日頃の場合、移植や播種は代かき後3～5日）

・移植栽培（移植時以外は湛水条件）



・湛水直播栽培（播種直前～播種後10日程度は落水条件）



（気温が高い時は葉齢の進展はこれより早まる）

（イ）一発除草剤を使用しない場合（初期剤+中期剤の体系）



（ウ）田植同時処理（「移植時」（田植同時処理）の登録のある薬剤のみ）



- ・田植機にセットした散布機械で散布するが、作業前に散布量をよく調節してから使用する。
- ・薬剤によっては、砂壤土では登録がないものもあるので注意する。
- ・田植えと同時に散布できなかった場合は本田に散布する（使用時期は薬剤により異なる）。
- ・後期に残草が目立った場合は、体系処理とする。
- ・軟弱苗となった場合、浅植えの場合は使用しない。
- ・田植え時の土壌表面を硬くし過ぎない（根が露出しないようにする）。

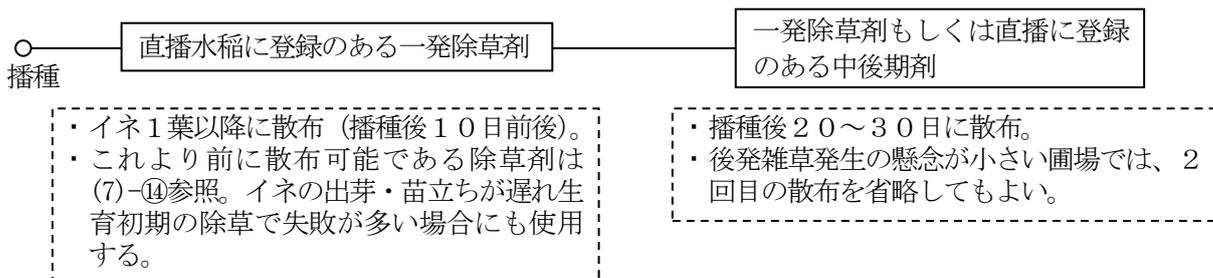
② 直播栽培田

使用時期について、稲の葉齢やノビエの葉齢、収穫前日数の規定があるので、これらを遵守する。同一圃場で除草剤を複数回使用するときは、各薬剤の使用回数だけでなく、薬剤の成分ごとの使用回数を超えないこと。

(ア) 湛水直播

除草剤散布は、体系処理を基本とする。

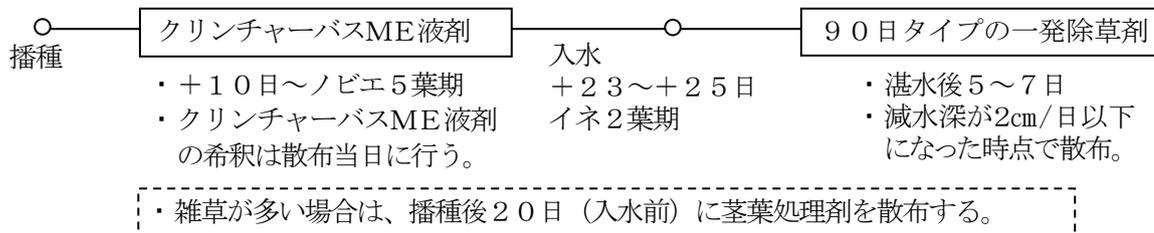
出芽安定のため播種後は落水管理を原則としているが、これは除草剤の効果確保の面からすれば望ましくない。田面に大きな亀裂が入らないよう、また黒ボク土などでは特に土が乾きすぎないように適宜入水する。



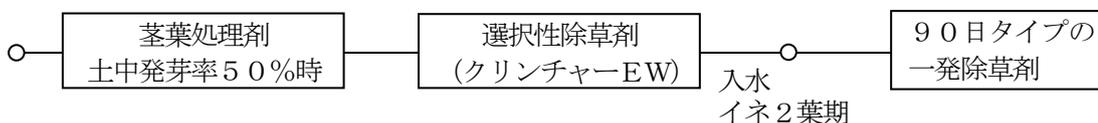
[注意事項]

- ・同一除草剤の2回使用は避ける。
- ・使用する薬剤の成分ごとの使用回数にも留意し、薬剤を選択する。
- ・SU抵抗性雑草の発生に注意する。

(イ) 乾田直播



[V字直播 (愛知県の栽培指針を参照)]

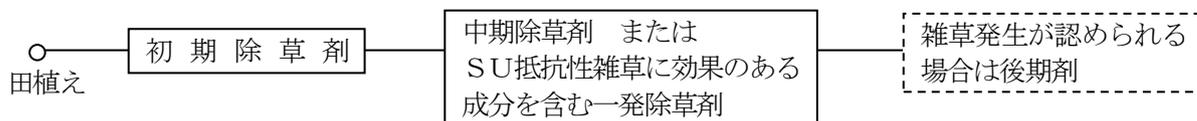


③ スルホニルウレア系（SU）抵抗性雑草に対する除草体系

SU剤は少量で効果的で、多くの一発剤に混合されてきたところだが、SU剤に抵抗性のあるアゼナ、ホタルイ、コナギ等の発生が認められている。残草が多く、SU剤を連用してきたところはその疑いがある。

SU抵抗性雑草であることを確認した場合は、以下の除草体系により防除する。
栽培期間の途中からSU抵抗性雑草を防除する場合は、後期剤で対応する。

(ア) 体系除草



(イ) 一発除草剤



(注) SU抵抗性雑草を抑えるためには、初期剤と中期剤の体系処理が最も効果的である。一発除草剤を使う場合は、雑草の葉齢が進んでいない、できるだけ早い使用時期（適用範囲）に使用する。

<参考1>

ホタルイが多発する水田での対応について

近年のホタルイの葉齢進展は、ノビエとほとんど同じである（下図）。

初中期一発除草剤のホタルイの限界葉齢は2葉期のものが多いため、ノビエの葉齢だけを見て除草剤を使用すると、ホタルイが限界葉齢を超えており、枯殺できないことがある。ホタルイの防除可能な葉齢は除草剤のラベルに記載されているので、よく確認してから散布を行うようにする。

また、5月中の気温が高いと雑草の生育が早く進み、限界葉齢で処理を行うと取りこぼすことがあるため、葉齢に余裕を持って散布を行うと効果が高まる。

ホタルイが水田内で目立つようになるのは花茎が伸びだしてからであり、その時には一発除草剤はほとんど効果が見られないので、すみやかに中後期剤を処理する。

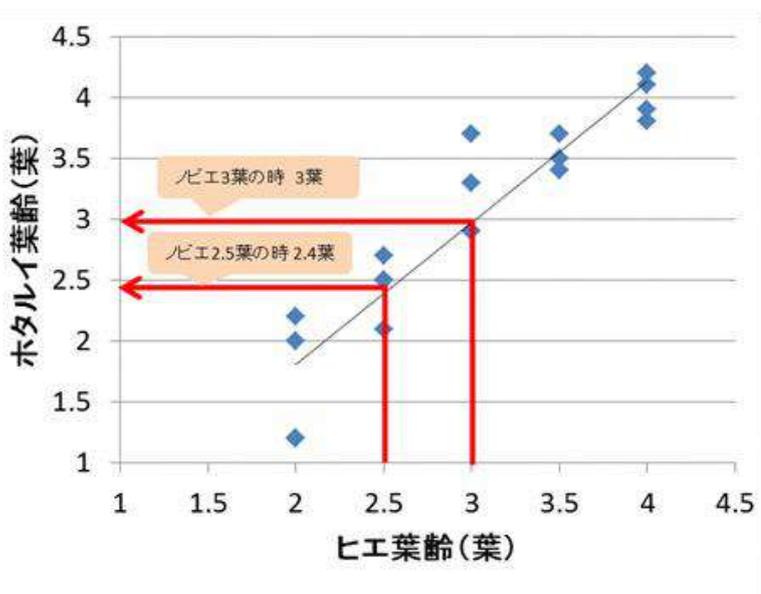
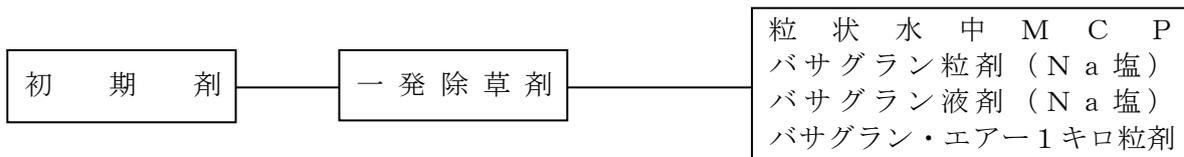


図 ヒエとホタルイの葉齢進展の関係

(福井県農業試験場、H25～29 適2 試験の平均、移植栽培)

④ 多年生雑草（ウリカワ、ホタルイ、オモダカ、ミズガヤツリ）多発田の場合



多年生雑草に対する除草有効期間は非常に狭いので、適期に散布する。
⑨と組み合わせることでさらに高い効果がある。

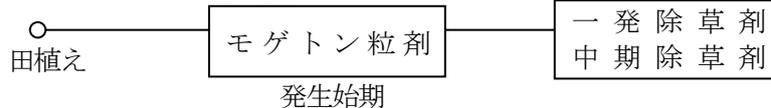
⑤ ノビエ取りこぼし田

クリンチャー1キロ粒剤 ヒエクリーン1キロ粒剤 ワンステージ1キロ粒剤 ヒエクッパエース1キロ粒剤 クリンチャーEW トドメMF1キロ粒剤 トドメMF乳剤	移植：ノビエ4葉期まで、直播：ノビエ3葉期まで 移植：ノビエ4葉期まで、直播：ノビエ4葉期まで 移植：ノビエ5葉期まで、直播：ノビエ5葉期まで 移植：ノビエ6葉期まで、直播：ノビエ5葉期まで 移植：ノビエ5葉期まで、直播：ノビエ4葉期まで 移植：ノビエ7葉期まで、直播：ノビエ6葉期まで
---	--

⑥ ノビエも広葉雑草も目立つ田

クリンチャーバスME液剤	移植：移植後15日～ノビエ5葉期、収穫50日前まで 直播：播種10日後～ノビエ5葉期、収穫50日前まで
ヒエクリーンバサグラン粒剤	移植：移植後15日～ノビエ4葉期、収穫60日前まで 直播：イネ3葉期～ノビエ4葉期、収穫60日前まで
ワイドアタックSC	移植：移植後20日（稲5葉期以降）～ノビエ6葉期まで 収穫30日前まで 直播：イネ3葉期～ノビエ5葉期、収穫30日前まで
アレイルSC	移植：移植後20日～ノビエ5葉期、収穫45日前まで 出穂始期15日前まで 直播：稲4葉期～ノビエ5葉期、収穫45日前まで 出穂始期15日前まで
ワイドパワー粒剤	移植：移植後20日～ノビエ5葉期、収穫60日前まで 直播：稲4葉期～ノビエ4葉期、収穫60日前まで
ロイヤント乳剤	移植：移植後20日～ノビエ5葉期、収穫45日前まで 直播：稲3葉期～ノビエ5葉期、収穫45日前まで <u>ホタルイは適用雑草ではない</u>
シアゲMF1キロ粒剤	移植：移植後20日～ノビエ4.5葉期、収穫60日前まで 直播：稲3.5葉期～ノビエ4.5葉期、収穫60日前まで

⑦ ウキクサ、藻類多発田



ウキクサ、藻類の多発田のみ使用する。

トリアジン系中期除草剤を直ちに散布するときは、使用する必要はない。

⑧ 中後期剤を使用する場合

中後期剤は、対象草種の葉齢等にあった除草剤を選択し、適量を散布する。ただし、それ以前に散布した除草剤と同じ成分の入ったものの使用は避ける。また、粒状水中MCPを使用する場合、有効分げつ終止期以前に散布すると、十分な有効茎が確保できない場合があるので注意する。

⑨ 稲刈取後の雑草防除

ミズガヤツリ、クログワイ、セリ、オモダカなど難防除雑草の多い圃場で使用する。

ア) 刈取後なるべく早めに除草剤を散布し、地上部を枯死させ、地下茎の形成を阻害する。

イ) 塊茎形成時期はかなり幅があり、早いものは9月中～下旬にすでに塊茎の形成がみられる。

ウ) 散布時期が遅れるほど塊茎の数が多くなるので除草効果が劣る（9月中下旬まで）。

エ) 2年連続で秋散布をすると、ほぼ根絶が可能となる。

(散布上の注意)

- 散布前後に降雨があると効果が落ちるので、天候をよく見極めて散布すること。
- 田面がワラで覆われているときは、雑草が発生してから散布し、茎葉に薬剤をよく付着させる。
- 散布する場合、圃場周辺の作物の薬害防止に細心の注意を払う。

*薬剤は例

上記以外の薬剤は、(7) 本田除草剤の使用方法を参照すること。

3 水稻植物成長調整剤

(1) 湛水直播栽培の発芽率向上、苗立歩合の安定

薬 剤 名	使用時期	処 理 量	処理方法	回数	注 意 事 項
カルパー粉粒剤16 過酸化カルシウム 16%	は 種 前 浸 種 後	乾燥籾重 量の等倍 ～2倍量	湿 粉 衣	1	<ul style="list-style-type: none"> ・は種前日に粉衣する。 ・発芽した籾は使用しない。 ・陰干しし、薬剤が固化してから播種する。 ・眼に強い刺激性があるので、眼に入らないように注意する。 ・直射日光を避け、酸類と隔離し乾燥した場所に密封して保管する。 ・無人ヘリコプターによる散播時にも使用可。
タチガレエースM粉剤 ヒドロキシイソキサゾール 4% メタラキシルM 0.25%	は 種 前	乾籾重量 の 3 %	過酸化カルシウム剤に添加して種籾に粉衣する	1	・根の生育促進による苗立の安定
オクソスDS 過酸化カルシウム 19%	は 種 前	乾燥種籾 重量の 0.5倍～ 等倍量	種子粉衣 (湿粉衣)	1	・苗立の安定

(2) 節間短縮による倒伏軽減

薬 剤 名	使用時期	10a当たり 処 理 量	処理方法	回数	注 意 事 項
スマレクト粒剤 パクロトラゾール 0.6%	出穂15～ 10日前 (登録は出穂20 ～7日前)	2～3kg	湛水散布	1	<ul style="list-style-type: none"> ・均一散布 ・散布後7日間は落水やかけ流しをしない。 ・砂壌土では2kg/10a施用とする。 ・本剤を使用した水田土を野菜類の育苗用床土に使用しない。
ビビフル粉剤DL プロヘキサジオンカルシウム塩 0.12%	出穂10～ 5日前	3～4kg	散 布	1	<ul style="list-style-type: none"> ・均一散布 ・散布の際はマスクを着用し、作業後はうがいをする。
ロミカ粒剤 ウニコナゾール P 0.04%	出穂25～ 10日前	2～3kg	湛水散布	1	<ul style="list-style-type: none"> ・均一散布 ・黒ボク土壌では効果が劣る場合がある。 ・散布後7日間は落水やかけ流しをしない。 ・スマレクト粒剤の注意事項を参照。

Ⅱ 大麦（小麦）、だいでず・そば・あずき

1 麦類病害虫

麦類病害虫重点防除指導方針

大麦（小麦）は、水田営農の活性化を図る基幹作物として位置付けられている。
生産安定および品質向上を図るため、耕種的防除対策に努めるとともに、病害虫の発生動向に注意して適正な薬剤防除を推進する。

1 耕種的防除の推進

大麦（小麦）の栽培にあたり排水対策を十分に行うとともに、融雪促進を推進する。

2 主要病害虫の防除技術

種子伝染性の病害を防ぐため、健全種子への更新および種子消毒を推進する。

赤かび病の発生は、品質を低下させ商品価値をなくすので、穂揃期（開花期）とその7～10日後の2回防除を基本とする。多発が予想される場合には、使用時期を厳守しながらもう1回の薬剤散布を実施する。

(1) 大麦・小麦薬剤一覧

RPA

病害虫名		薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	備考	
斑葉病	播種前	トリフミン水和剤	トリフミン水和剤	3		種子重量の0.5%	-	は種前	種子粉衣	1回		
		ベントコート	チラム・ベントコート	1,M3		乾燥種子重量の0.5%		は種前	種子粉衣	1回	小麦、大麦	
		ベント水和剤20	チラム・ベント水和剤	1,M3			乾燥種子重量の0.5%		は種前	種子粉衣	1回	小麦、大麦
										10～20分間種子浸漬	1回	
										6～24時間種子浸漬	1回	
		ホマイ水和剤	チラム・チオファネートメチル水和剤	1			種子重量の0.5～1.0%		は種前	種子粉衣	1回	麦類(小麦を除く)
										6～24時間種子浸漬	1回	麦類(小麦を除く)
種子重量の0.5～1.0%	1回									小麦		
6～24時間種子浸漬	1回									小麦		
なまぐさ黒穂病	播種前	トリフミン水和剤	トリフミン水和剤	3		種子重量の0.5%	-	は種前	種子粉衣	1回		
		ベントコート	チラム・ベントコート	1,M3		乾燥種子重量の0.5%		は種前	種子粉衣	1回	小麦、大麦	
		ベント水和剤20	チラム・ベント水和剤	1,M3			乾燥種子重量の0.5%		は種前	種子粉衣	1回	小麦、大麦
										10～20分間種子浸漬	1回	
										6～24時間種子浸漬	1回	
		ホマイ水和剤	チラム・チオファネートメチル水和剤	1			種子重量の0.5～1.0%		は種前	種子粉衣	1回	麦類(小麦を除く)
										6～24時間種子浸漬	1回	麦類(小麦を除く)
種子重量の0.5～1.0%	1回									小麦		
6～24時間種子浸漬	1回									小麦		
裸黒穂病	播種前	トリフミン水和剤	トリフミン水和剤	3		種子重量の0.5%	-	は種前	種子粉衣	1回	麦類	
		ベントコート	チラム・ベントコート	1,M3		乾燥種子重量の0.5%		は種前	種子粉衣	1回	小麦、大麦	
		ベント水和剤20	チラム・ベント水和剤	1,M3			乾燥種子重量の0.5%		は種前	種子粉衣	1回	小麦、大麦
										6～24時間種子浸漬	1回	
10～20分間種子浸漬	1回											
雲形病	播種前	ベント水和剤20	チラム・ベント水和剤	1,M3		乾燥種子重量の0.5%		は種前	種子粉衣	1回	小麦、大麦	
	3月下旬～4月上旬	フルト乳剤25	プロビコナゾール乳剤	3		1000倍	60～150%/10a	収穫21日前まで	散布	1回	大麦	
雪腐病	根雪前	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1000～2500倍	60～150%/10a	根雪前	散布	3回以内(出穂期以降は2回以内)	小麦	
						1000～2500倍	60～150%/10a	根雪前	散布	3回以内(出穂期以降は1回以内)	麦類(小麦を除く)	
うどんこ病	発生初期	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1000～2000倍	60～150%/10a	収穫30日前まで	散布	3回以内(出穂期以降は1回以内)	麦類(小麦を除く)	
						1000～2000倍	60～150%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内(出穂期以降は2回以内)	小麦	
赤かび病	1回目 開花期(穂揃期) 2回目 1回目の7～10日後	シルバキアフロアブル	プロビコナゾール水和剤	3		2000倍	60～150%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	小麦	
						2000倍	60～150%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	大麦	
						16倍	0.8%/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	2回以内	大麦	
						16倍	0.8%/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	小麦	
		ストロビフロアブル	クレシキメチル水和剤	11			2000～3000倍	60～150%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	麦類(小麦を除く)
							2000～3000倍	60～150%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	小麦
		フルト乳剤25	プロビコナゾール乳剤	3			8倍	800mL/10a	収穫21日前まで	無人航空機による散布	1回	大麦
							8倍	800mL/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内	小麦
							1000～2000倍	60～150%/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	小麦
							1000～2000倍	60～150%/10a	収穫21日前まで	散布	1回	大麦
		トップジンMゾル	チオファネートメチル水和剤	1			8倍	0.8%/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	3回以内(出穂期以降は2回以内)	小麦
							8倍	0.8%/10a	収穫21日前まで	無人航空機による散布	3回以内(出穂期以降は1回以内)	麦類(小麦を除く)
		トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1			1000～1500倍	60～150%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内(出穂期以降は2回以内)	小麦
							1000～1500倍	60～150%/10a	収穫30日前まで	散布	3回以内(出穂期以降は1回以内)	麦類(小麦を除く)
		トップジンM粉剤DL	チオファネートメチル粉剤	1			3～4kg/10a		収穫14日前まで	散布	3回以内(出穂期以降は2回以内)	小麦
4kg/10a							収穫14日前まで	散布	3回以内(出穂期以降は1回以内)	麦類(小麦を除く)		
トリフミン水和剤	トリフミン水和剤	3			1000～2000倍	60～150%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内			
ミラビスフロアブル	ビジフルメトフェン水和剤	7			8～16倍	800mL/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	2回以内	大麦		
					1500～2000倍	60～150%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	大麦		
ワークアップフロアブル	メコナゾール水和剤	3			10～24倍	0.8%/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内			
					2000～3000倍	60～150%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内			
ワークアップ粉剤DL	メコナゾール粉剤	3			3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内			

(2) 大麦赤かび病の体系防除

大麦の赤かび病は、穂揃期（開花期）とその7～10日後に防除するのが最も防除効果が高い。
このため、2回防除を基本とする。

〔防除体系と防除効果〕

防除体系		1回目：穂揃期（開花期）	2回目：1回目の7～10日後	防除効果
体系1	液剤＋液剤	動 噴	動 噴	◎
		動 噴	無人航空機	◎
		無人航空機	無人航空機	◎
体系2	粉剤＋液剤	動 散	動 噴	○
		動 散	無人航空機	○
体系3	粉剤＋粉剤	動 散	動 散	○

〔体系1〕

液剤（噴霧機）＋液剤（噴霧機 or 無人航空機）

1回目＝穂揃期（開花期）	散布方法	+	2回目 ＝1回目防除の7～10日後	散布方法
トップジンM水和剤 シルバキュアフロアブル ミラビスフロアブル	噴霧機		ストロビーフロアブル トリフミン水和剤	噴霧機
			チルト乳剤25	

液剤（無人航空機）＋液剤（無人航空機）

1回目＝穂揃期（開花期）	散布方法	+	2回目 ＝1回目防除の7～10日後	散布方法
トップジンMゾル シルバキュアフロアブル ワークアップフロアブル ミラビスフロアブル	無人航空機		チルト乳剤25	無人航空機

〔体系2〕

粉剤（動散）＋液剤（噴霧機 or 無人航空機）

1回目＝穂揃期（開花期）	散布方法	+	2回目 ＝1回目防除の7～10日後	散布方法
トップジンM粉剤DL ワークアップ粉剤DL	動散		ストロビーフロアブル トリフミン水和剤	噴霧機
			チルト乳剤25 ミラビスフロアブル	

〔体系3〕

粉剤（動散）＋粉剤（動散）

1回目＝穂揃期（開花期）	散布方法	+	2回目 ＝1回目防除の7～10日後	散布方法
トップジンM粉剤DL	動散		ワークアップ粉剤DL	動散

(3) 麦類注意事項

なまぐさ黒穂病、裸黒穂病、雲形病

〔種子消毒〕

- ・浸漬薬液の量は種子容量と同等以上とし、液温は10℃以上で消毒する。
- ・浸漬消毒は、浸漬中に2～3回袋を上下するか種子を攪拌する。

〔耕種的防除〕

- ・採種圃産種子を使用する。
- ・発病株は、抜き取って処分する。

裸黒穂病

- ・黒穂株は健全株よりやや早く出穂するため、早期に抜き取り周辺株への伝染を防ぐ。

雲形病

〔耕種的防除〕

- ・播種期が早いと秋期の感染、発病が多くなるので、適期に播種する。
- ・厚撒き、窒素肥料過多で、発病が多くなる。
- ・発病跡地の刈り株、こぼれ麦は放置せず、地中にすき込むなどして処分する。

雪腐病

- ・紅色雪腐病は、排水の良い軽しょう土(火山灰土)や施肥量の少ない場合、発生しやすい。
- ・紅色雪腐病は、種子伝染する。
- ・褐色雪腐病は、排水不良など重粘土や融雪時に停滞水が多い場合に発生しやすい。
- ・雪腐小粒菌核病は、褐色雪腐病との併発が多い。病原力が弱く、被害は比較的少ないが、根雪の期間が長くなる山間、山沿い地帯に多い。

〔耕種的防除〕

- ・圃場の排水をはかる(うね立て時だけでなく、根雪前にも排水溝を整備する)。
- ・播種期が遅れると被害を受けやすくなるので、必ず適期に播種する。
- ・根雪前の窒素肥料の多用を避ける。
- ・前作に多発生した圃場は、作付けを避ける。

うどんこ病

- ・下葉から発生する。
- ・発病したら、早期に薬剤を散布する。
- ・薬剤は下葉にも十分にかかるよう散布する。

赤かび病

- ・ 出穂後、開花時に平均気温が 15℃以上で、降雨が続くとき多発する。
- ・ 本病発病麦は別仕分けを行い、食用や飼料用に使用しない。
- ・ 薬剤を選ぶ際は RAC コードを確認し、同一成分の薬剤連用は避ける。
- ・ 使用時期が「収穫 30 日前まで」の薬剤は、2 回目の使用を避ける。
- ・ トリフミン水和剤は出穂期から使用できるが、穂揃期での使用が効果的である。

株腐病

- ・ 暖冬年に発生が多い。

〔耕種的防除〕

- ・ 播種前に、消石灰などを 100～150kg/10a 施用する。
- ・ 播種期が早いと秋期の感染が多くなるため、適期に播種する。
- ・ 春の発病を減らすため、厚播きを避ける。
- ・ 発病が多い場合は、連作を避ける。
- ・ 被害麦稈を取り除く。

2 だいでず・そば・あずき病虫害

だいでず・そば・あずき病虫害重点防除指導方針

だいでず、そば等は、大麦のあとの周年型作物として位置付けられている。
特に、そばは中山間地域等における地域特産物として生産されている。
収量・品質の高位安定化を図るため、耕種的防除対策に努めるとともに、病虫害の発生動向に注意して適正な防除を推進する。

1 耕種的防除の推進

だいでず、そばの栽培にあたり、排水対策を十分に行うとともに圃場および圃場周辺の雑草の刈り取りを推進する。

2 主要病虫害の防除技術

紫斑病等種子伝染性病害を防ぐため、健全種子への更新および種子消毒を推進する。

葉焼病、ウコンノメイガは発生状況を確認し、遅れずに防除（臨機）を行う。

カメムシ類、シロイチモジマダラメイガ、フタスジヒメハムシを防除するため、子実肥大期を中心に3回（基幹）防除を推進する。

(1) だいず病害虫の要防除水準

カメムシ類の要防除水準

圃場内での調査を行い、カメムシ類の発生状況を的確に把握した上で、要防除水準に基づく効率的な防除を実施し、環境負荷の少ない防除を推進する。

1 要防除水準

8月下旬（圃場侵入期）は100茎あたり0.3頭以上、9月中旬（発生最盛期）は100茎あたり4.0頭以上の場合は防除する。

2 調査方法

8月下旬と9月中旬に、1圃場あたり100茎ずつ3か所の見とり調査を行う。

フタスジヒメハムシの要防除水準

1 要防除水準

8月下旬（第2世代成虫発生最盛期）に払い落としを行い、1.5m、2条当たり約70頭以上の場合は直ちに防除する。

2 調査方法

長さ150cm、幅80cmの払い落とし用シートを条間に広げてシートの両端から2人で両側の株をたたき、成虫をシート上に落とす。1圃場につき、3か所行う。

葉焼病の要防除水準

1 要防除水準

開花期に発病葉率16.5%以上は、ただちに防除する。

2 調査方法

開花期に圃場内で発生が多い場所を選び、10株以上の全葉数および発病葉数を調べ、発病葉率を求める。

(2) だいず薬剤一覧

RPA

病害虫名	防除時期	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	備考
紫斑病	播種前	キヒゲンR-270アブル	チラム水和剤	M3		乾燥種子1kg 当り原液20mL		は種前	塗沫処理	1回	
		クルザ-MAXX	チアトキサム・フルジ・オキソニル・メタラキシルM水和剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
	開花期後 20～30日	アミスター-2070アブル	アゾキストロピン水和剤	11		2000～3000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	
		ファンタジスタアブル	ビリベシカルア水和剤	11		1000～2000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
						16倍	0.8%/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	3回以内	
		アミスターレボンSE	エトフェンブ・ロックス・アゾキストロピン水和剤	3A,1 1		1000倍	100～400%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	
	トライアアブル	テブフロキソ水和剤	U16		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内		
8倍					0.8%/10a	収穫14日前まで	無人航空機による散布	2回以内			
開花期後 15～30日	Zボルト-粉剤DL	銅粉剤	M1		3kg/10a		-	散布	-		
葉焼病	初発時 (7月下旬頃)	フェスティバルC水和剤	ジメトモル・銅水和剤	M1,4 0		600倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
茎疫病	播種前	クルザ-MAXX	チアトキサム・フルジ・オキソニル・メタラキシルM水和剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
アブラムシ類	播種前	クルザ-FS30	チアトキサム水和剤	4A		乾燥種子1kg 当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	
		クルザ-MAXX	チアトキサム・フルジ・オキソニル・メタラキシルM水和剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
	生育期	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	
		マラソン粉剤3	マラソン粉剤	1B		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
タネバエ	播種前	クルザ-FS30	チアトキサム水和剤	4A		乾燥種子1kg 当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	
		クルザ-MAXX	チアトキサム・フルジ・オキソニル・メタラキシルM水和剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
ネキリムシ類	播種前	クルザ-FS30	チアトキサム水和剤	4A		乾燥種子1kg 当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	
		クルザ-MAXX	チアトキサム・フルジ・オキソニル・メタラキシルM水和剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
カメムシ類	若莢～子実肥大期 8～9月	アルパリン粉剤DL	ジメテフラン粉剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
		エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		カスケード乳剤	フルフェノキサロン乳剤	15		4000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
						32倍	0.8%/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
		スタークル液剤10	ジメテフラン液剤	4A		1000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
						8倍	0.8%/10a	収穫7日前まで	空中散布	2回以内	
						8倍	0.8%/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
		スタークル粉剤DL	ジメテフラン粉剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
		スミチオン粉剤3DL	MEP粉剤	1B		4kg/10a		収穫21日前まで	散布	4回以内	
		ダントツH粉剤DL	クロチアジメチン粉剤	4A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
	トレボン乳剤	エトフェンブ・ロックス乳剤	3A		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内		
	トレボン粉剤DL	エトフェンブ・ロックス粉剤	3A		-	4kg/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	豆類(種実)	
	アミスターレボンSE	エトフェンブ・ロックス・アゾキストロピン水和剤	3A,1 1		1000倍	100～400%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内		
8倍					800mL/10a	収穫21日前まで	無人航空機による散布	2回以内			
若莢～子実肥大期 8月	ダイヤジン粉剤5	ダイヤジン粉剤	1B		4～6kg/10a		収穫30日前まで	散布	4回以内		
	ミネクトエクストラSC	シアントラニプロール・ルフェニロン水和剤	28,1 5		10000～12000 倍 40～80倍	100～300L/10a 0.8L/10a	収穫7日前まで 収穫7日前まで	散布 無人航空機による散布	2回以内 2回以内		
シロイモシマダ ライメイガ	若莢伸長期	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1500～2000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ダイヤジン粉剤5	ダイヤジン粉剤	1B		4～6kg/10a		収穫30日前まで	散布	4回以内	
		トレボン乳剤	エトフェンブ・ロックス乳剤	3A		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	
		バーマチオン水和剤	フェンハレト・MEP水和剤	1B,3 A	劇	1000～2000倍	100～300%/10a	収穫21日前まで	散布	3回以内	
		トレボン粉剤DL	エトフェンブ・ロックス粉剤	3A		-	4kg/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	豆類(種実)
マシクイガ	子実肥大初期 8月	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ミネクトエクストラSC	シアントラニプロール・ルフェニロン水和剤	28,1 5		10000～12000 倍 40～80倍	100～300L/10a 0.8L/10a	収穫7日前まで 収穫7日前まで	散布 無人航空機による散布	2回以内 2回以内	

病害虫名	防除時期	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	備考
タ'イ'サヤマ ハ'エ	開花終期～子実 肥大初期 8月上旬～中旬	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		8倍	800mL/10a	収穫21日前まで	無人航空機による散布	4回以内	
						1000倍	100～300% _{10a}	収穫21日前まで	散布	4回以内	
		ダ'イ'ジ'ノ'ン'粒'剤'5	ダ'イ'ジ'ノ'ン'粒'剤	1B		4～6kg/10a		収穫30日前まで	散布	4回以内	
ウ'コ'ノ'メ'イ'ガ'	7月下旬～8月 はじめ	ダ'ン'ツ'ク'粉'剤'DL	クロチアジ'ン'粉'剤	4A		4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
		ア'レ'バ'ソ'ン'フ'ロ'ア'ア'ル'5	クロチアジ'ン'ロ'ール'水'和'剤	28		4000倍	100～300% _{10a}	収穫7日前まで	散布	2回以内	
						16～32倍	0.8% _{10a}	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
		ヨ'バ'ル'フ'ロ'ア'ア'ル	テトラニ'ア'ロ'ール'水'和'剤	28		5000倍	100～300% _{10a}	収穫7日前まで	散布	2回以内	
						50倍	1.6% _{10a}	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
ハ'ス'モ'ノ'ト'ウ'	生育期 若齢幼虫期	エルザ'ン'乳'剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300% _{10a}	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ト'レ'ボ'ン'乳'剤	イトア'ン'ブ'ロ'ックス'乳'剤	3A		1000倍	100～300% _{10a}	収穫14日前まで	散布	2回以内	
		ト'レ'ボ'ン'粉'剤'DL	イトア'ン'ブ'ロ'ックス'粉'剤	3A		-	4kg/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	豆類(種実)
		ア'レ'バ'ソ'ン'フ'ロ'ア'ア'ル'5	クロチアジ'ン'ロ'ール'水'和'剤	28		16～32倍	0.8% _{10a}	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	
						4000倍	100～300% _{10a}	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ハ'ネ'ビ'ア'OD	シア'ン'ト'ラ'ニ'ア'ロ'ール'水'和'剤	28		2000～4000倍	100～300% _{10a}	収穫7日前まで	散布	3回以内	
		マ'ト'リ'ク'ク'フ'ロ'ア'ア'ル	クロマ'エ'ジ'ト'水'和'剤	18		2000～3000倍	100～300% _{10a}	収穫前日まで	散布	3回以内	
						8～16倍	800mL/10a	収穫前日まで	無人航空機による散布	3回以内	
ハ'タ'ニ'類'	生育期	マ'ラ'ソ'ン'粉'剤'3	マ'ラ'ソ'ン'粉'剤	1B		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	
フ'タ'ス'ジ'ヒ'メ'ハ'ム'シ'	播種前	ケ'ル'ザ' -FS30	フ'ア'メ'キ'サ'ム'水'和'剤	4A		乾燥種子1kg 当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	
		ケ'ル'ザ' -MAXX	フ'ア'メ'キ'サ'ム'・'フ'ル'ジ'オ'キ'ソ'ニ'ル'・'メ'タ'キ'シ'ル'M'水'和'剤	4A,1 2,4		原液	乾燥種子1kg当り8mL	は種前	塗沫処理	1回	
	8月下旬 第2世代発生期	ア'グ'ロ'ス'リ'ン'乳'剤	シ'ハ'ル'メ'ト'リ'ン'乳'剤	3A	劇	2000倍	100～300% _{10a}	収穫7日前まで	散布	3回以内	
		ア'ル'バ'リ'ン'粉'剤'DL	ジ'ネ'フ'ラ'ン'粉'剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ス'タ'ー'ク'ル'液'剤'10	ジ'ネ'フ'ラ'ン'液'剤	4A		1000倍	100～300% _{10a}	収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ス'タ'ー'ク'ル'粉'剤'DL	ジ'ネ'フ'ラ'ン'粉'剤	4A		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	2回以内	
		ダ'ン'ツ'ク'粉'剤'DL	クロチアジ'ン'粉'剤	4A		3～4kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内	

(3) だいでず注意事項

紫斑病

- ・子実肥大期に雨が多いと多発する。
- ・種子伝染するので、優良種子を使用しクルーザーMAXXによる種子消毒を行う。
- ・耐性菌が発生している。
- ・耐性菌の発生を抑制するために、系統の異なる2剤を選択し、開花後20日目とその10日後（開花後30日目）に体系で散布する。
- ・アミスター20フロアブルは、開花後20～30日目の1回散布でも効果がある。

葉焼病

- ・初発時に効果の高いフェスティバルC水和剤を施用し、病害の蔓延を防ぐ。
- ・発生が多いほど小粒比率が高くなり、減収する。
- ・里のほほえみで発生が多い。

黒根腐病

- ・排水不良田での発生が多く、一度発生すると根絶することが困難。
- ・立枯れした株を抜くとゴボウ根になっており、手応え無く抜ける。株元に赤い子囊殻が発生することがあり、発生が広がると減収する。
- ・発生した圃場は3年以上水稻を作付けし、菌の密度を下げる。

カメムシ

- ・8月20日頃と9月10日頃の2回防除すると効果が高い。
〔耕種的防除〕
- ・圃場周辺を除草する。

ダイズサヤタマバエ

- ・山間、山沿いで発生が多い。

ウコンノメイガ

- ・葉が巻きはじめる若齢幼虫期に防除する。
- ・山間、山沿いで発生が多い。

ハスモンヨトウ

- ・早期発見に努め、早めに防除する。
- ・白変葉が見え始めた時に、分散前に防除する。

(4) そば薬剤一覧

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
ハモンヨトウ	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A		2000倍	100～300 μ g/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-
	ロムダ [®] ソフロアブル	テブフェノジド [®] 水和剤	18		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内
	ロムダ [®] ソフロアブルDL	テブフェノジド [®] 粉剤	18		4kg/10a		収穫21日前まで	散布	2回以内
ハモンヨトウ雄成虫	フェロデ [®] インSL	リトルア剤				2～4個/ha	成虫発生初期から発生終期まで	本剤をトラップ 1台当たり1個を取付けて配置する。取付けた薬剤は1.5～2ヵ月間隔で更新する。	

(5) あずき薬剤一覧

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
アスキメカ [®]	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内
アブラムシ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000～3000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内
	マラソン粉剤3	マラソン粉剤	1B		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内
ハダニ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000～3000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内
	マラソン粉剤3	マラソン粉剤	1B		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	3回以内

3 大麦（小麦）、だいず、そば除草剤

(1) 使用上の注意事項

畑作では水田作に比べて効果の幅が大きいので、使用する場合は圃場条件の確保、気象条件、各薬剤の作用特性などを十分に配慮する。

- ① は種後の土壌処理については、砂質土、低湿地などでは薬害が生じるほか殺草効果も劣るので使用を避ける（薬剤によっては、適用土壌が「壤土～埴土」となっているものもあるので注意する）。
- ② 土壌処理剤は、覆土後、雑草の発生期前までに、土壌表面に均一散布する。
- ③ 土壌処理の場合、砕土率を高めて覆土はやや厚めとする。
また、は種は浅まきとにならないように注意する（薬害防止のため）。
- ④ 薬剤の土壌表面処理の場合、薬剤が土中深く入り、作物の種子や根に直接薬剤が作用することがないように十分注意する。
- ⑤ 土壌が乾燥して極端に水分の少ない場合は効果が劣るので、散布水量を多めにしたり（薬剤使用量は基準どおり）降雨後に散布する。
- ⑥ 処理直後に激しい降雨にあうと薬害が発生し出芽および根その他の生育を抑えるので、処理後1～2日間は降雨にあわないよう天気予報等に注意し散布する。
- ⑦ 排水不良田では薬害が生ずるおそれがあるため、使用を避ける。
- ⑧ 生育期処理は、作物の生育を考慮して雑草発生～初期に散布する。
散布の際に、付近の作物にかからないよう注意する。

(2) 使用方法

作物名	使用時期	除草剤名	使用回数	10アール当たり使用量	使用方法	注 意 事 項
大 麦 (小麦)	は 種 直 後 (雑草発生前)	クリアターン細粒剤F ベンチオカーブ 8.0% ペンディメタリン 0.80% リニュロン 1.2%	1 (1) (1) (1)	全面土壌散布 4～5kg	土壌全面均一に散布する。	<ul style="list-style-type: none"> ・対象雑草は1年生雑草。ただし、トレファノサイド乳剤、トレファノサイド粒剤2.5はツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く。 ・サターンバアロの適用土壌は、壤土～埴土である。 ・散播栽培等覆土を行わない場合は散布しない。 ・砂土、わらだけの覆土、芽だしまきのときは散布を行わない。 ・覆土が浅いと薬害が出やすいので、覆土は細かく砕き、やや厚めとする。 ・ (トレファノサイド乳剤)
	は 種 直 後 (雑草発生前)	クリアターン乳剤 ベンチオカーブ 50% ペンディメタリン 5% リニュロン 7.5%	1 (1) (1) (1)	全面土壌散布 500～700ml	70～100ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	
	は 種 後 ～ 発 芽 前 (雑草発生前)	サターンバアロ粒剤 ベンチオカーブ 8% プロメリン 0.8%	1 (1) (2)	全面土壌散布 3～5kg	土壌全面均一に散布する。	
	は 種 直 後 ～ 麦 出 芽 前	サターンバアロ乳剤 ベンチオカーブ 50% プロメリン 5%	1 (1) (2)	全面土壌散布 500～750ml	70～100ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	
	は 種 後 出 芽 前	トレファノサイド粒剤2.5 トリフルラリン 2.5%	2 (2)	全面土壌散布 4～5kg	土壌全面均一に散布する。	
	は 種 後 出 芽 前 (雑草発生前)	トレファノサイド乳剤 トリフルラリン44.5%	2 (2)	全面土壌散布 200～300ml	100ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	
	は 種 後 出 芽 前 (雑草発生前)	キックボクサー細粒剤F プロスルホカルブ 7% リニュロン 1.75%	1 (2) (1)	全面土壌散布 3～4kg	土壌全面均一に散布する。	
	は 種 後 出 芽 前 (雑草発生前)	ムギレンジャー乳剤 プロスルホカルブ46% リニュロン11.5%	1 (2) (1)	全面土壌散布 300～600ml	50～100ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	

作物名	使用時期	除草剤名	使用回数	10アール当たり使用量	使用方法	注意事項
大麦 (小麦)	は種後 出芽前～出 芽揃期 (雑草発生前)	バンバン細粒剤F エスプロカルブ6.0% ジフルフェニカン0.15%	1 (1) (1)	全面土壌散布 3～5kg	土壌全面均一 に散布する。	・対象雑草は1年生雑草。 ・その他注意事項は前頁参 照。 ・砂土を除く。
	は種後 出芽前 (雑草発生前)	バンバン乳剤 エスプロカルブ60% ジフルフェニカン1.5%	1 (1) (1)	全面土壌散布 300～500 ml	100 lの水に溶 かして全面均 一に散布す る。	
	は種後 出芽前 (雑草発生前)	ガレーズ乳剤 ジフルフェニカン 3.7% トリフルラリン 37%	1 (1) (2)	全面土壌散布 200～250ml	100 lの水に溶 かして全面均 一に散布す る。	
	は種後発芽前 (雑草発生前) または 麦1～2葉期 (雑草発生前 ～発生始期)	ガレーズG ジフルフェニカン 0.15% トリフルラリン 2%	1 (1) (2)	全面土壌散布 4～5 kg	土壌全面均一 に散布する。	・対象雑草は畑地1年生雑 草。 ・その他注意事項は前頁参 照。 ・砂土を除く。
	生育期処理 は種後～ 麦2(小麦)葉期 (雑草発生前 ～発生始期)	ボクサー プロスルホカルブ 78.4%	2 (2)	雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布 400～500ml	70～100 lの水 に溶かして全 面均一に散布 する。	・対象雑草は1年生雑草。 ・その他注意事項は前頁参 照。
	生育期処理 は種後～ 麦2葉期 (雑草発生前 ～イネ科雑 草1葉期ま で)	リベレーターG ジフルフェニカン 0.2% フルフェナセット 0.6%	1 (1) (1)	全面土壌散布 4～5 kg	土壌全面均一 に散布する。	・対象雑草は1年生雑草。 ・砂土を除く。
	生育期処理 は種後～ 麦3葉期 (雑草発生前 ～発生始期)	ハーモニー細粒剤F チフェンスルフロンメチル 0.15%	1 (1)	全面土壌散布 4～5 kg	土壌全面均一 に散布する。	・対象雑草は1年生広葉雑 草およびスズメノテッポウ。 ・砕土、整地、覆土を丁寧 に行い、均一に散布する。 ・発生前から発生始期のス ズメノテッポウや多くの一 年生雑草に優れた除草効 果を発揮する。 ・周辺の作物に飛散する恐 れがある場合は散布しな い。 ・砂土を除く。
	生育期処理 は種後～ 麦3葉期 (雑草発生前 ～イネ科雑 草1葉期ま で)	リベレーターフロアブル ジフルフェニカン 8.4% フルフェナセット 33.6%	1 (1) (1)	雑草茎葉散布 又は全面土壌 散布 60～80 ml	100 lの水に溶 かして全面均 一に散布す る。	・対象雑草は1年生雑草。 ・砂土を除く。

作物名	使用時期	除 草 剤 名	使用回数	10アール 当たり使用量	使用方法	注意事項
大 麦 (小麦)	生育期処理 は種後～ 節間伸長前 (但し、スズメ ノテッポウ5 葉期まで)	ハーモニー75DF水和剤 チフェンスルフロンメチル 75%	1 (1)	雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布 5～10g	50～100ℓの水 に溶かして全 面均一に散布 する。	<ul style="list-style-type: none"> ・対象雑草は1年生広葉雑草およびスズメノテッポウ。 ・生育期のスズメノテッポウや多くの一年生広葉雑草に優れた除草効果を発揮する。 ・周辺の作物に飛散する恐れがある場合は散布しない(ドリフトレスノズルの使用が望ましい)。 ・タンク及び使用器具は使用后すみやかに消石灰を用いて洗浄する。
	穂ばらみ期まで(雑草生育初期)	アクチノール乳剤 アイキシニル 30.0%	2 (2)	雑草茎葉散布 100～200ml	70～100ℓの水 に希釈して散布する。	<ul style="list-style-type: none"> ・対象雑草は畑地一年生雑草

※使用回数については農薬の使用回数、および成分毎の使用回数(成分名の記載と同じ行に記載される括弧書きの数字)を記載した。

作物名	使用時期	除草剤名	使用回数	10アール当たり使用量	使用方法	注意事項
だいず	は種直後 (雑草発生前)	クリアターン細粒剤F ベンチオカーブ 8% ペンディメタリン 0.8% リニュロン 1.2%	1 (1) (1) (2)	全面土壌散布 4~5 kg	土壌全面均一に散布する。	<ul style="list-style-type: none"> 対象雑草は1年生雑草。また、トレファノサイド乳剤および同粒剤2.5はツクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く。 覆土は細かく砕いた土を用い3cm位丁寧に行い、土壌表面をなるべく均平にする。 散布直後に多量の降雨が予想される場合は散布を延期する。 土壌が極端に乾燥していると効果が劣るので散布水量を多めにするか降雨後に散布する。 直径2cm以下の土塊重量が全体の60%以上になるよう砕土する。 雑草発生前(は種後日数を置かない)に土壌表面にムラなく均一に散布する。 粒剤は乳剤よりも効果が変動するので注意する。 ☉(トレファノサイド乳剤、プロールプラス乳剤) エコトップP細粒剤F、エコトップP乳剤、プロールプラス乳剤は砂土を除く全土壌。 散布後は散布器のタンクやホース・ノズル十分に洗浄する。 対象雑草は1年生広葉雑草 前処理として土壌処理剤を使用。 砂土では使用しない。 展着剤を加用しない。 周辺作物に影響を与える可能性があるので飛散に注意する。
		クリアターン乳剤 ベンチオカーブ 50% ペンディメタリン 5% リニュロン 7.5%	1 (1) (1) (2)	全面土壌散布 500~800ml	70~100ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	
	は種後～ 出芽前 (雑草発生前)	サターンバアロ粒剤 ベンチオカーブ 8% プロメトリン 0.8%	1 (1) (1)	全面土壌散布 4~6 kg	土壌全面均一に散布する。	
	は種後出芽前	サターンバアロ乳剤 ベンチオカーブ 50% プロメトリン 5%	1 (1) (1)	全面土壌散布 600~1000 ml	70~100ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	
		トレファノサイド粒剤2.5 トリフルラリン 2.5%	1 (2)	全面土壌散布 4~6 kg	土壌全面均一に散布する。	
		トレファノサイド乳剤 トリフルラリン 44.5%	1 (2)	全面土壌散布 200~300ml	100ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	
	は種後出芽前 (雑草発生前)	エコトップP細粒剤F ジメテナミドP 1% リニュロン 1.4%	1 (1) (2)	全面土壌散布 4~6 kg	土壌全面均一に散布する。	
		エコトップP乳剤 ジメテナミドP 8.5% リニュロン 12%	1 (1) (2)	全面土壌散布 400~600ml	100ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	
		プロールプラス乳剤 ジメテナミドP 6.7% ペンディメタリン 6.5% リニュロン 11.4%	1 (1) (1) (2)	全面土壌散布 400~600ml	70~150ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	
		フルミオWDG フルミオキサジン 50%	1 (1)	土壌全面散布 5~10g	100ℓの水に溶かして全面均一に散布する。	
出芽直前～3 葉期まで(雑 草発生始期 ～2葉期)	パワーガイザー液剤 イマザモックスアンモニウム塩 0.85%	1 (2)	雑草茎葉散布 又は全面土壌 散布 200~300ml	100ℓの水に溶かして全面均一に散布する。		

作物名	使用時期	除草剤名	使用回数	10アール当たり使用量	使用方法	注意事項
だいず	雑草生育期 イネ科雑草 3～5葉期 (収穫60日前まで)	ワンサイドP乳剤 フルアジホップP 17.5%	1 (1)	雑草茎葉散布 75～100mℓ	25～100ℓの水に溶かして散布する。	<ul style="list-style-type: none"> 対象雑草は一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)。 ワンサイドP乳剤はシバムギ、レッドトップにも登録がある。 イネ科雑草に優れた効果があるが、広葉雑草およびカヤツリグサには効果がない。 遅効性のため、枯殺するまで日数を要する。 周辺のイネ科作物にかからないように散布する。
	雑草生育期 イネ科雑草 3～5葉期 (収穫30日前まで)	ナブ乳剤 セトキシジム 20%	1 (1)	雑草茎葉散布 150～200mℓ	100～150ℓの水に溶かして散布する。	
	雑草生育期 イネ科雑草 6～8葉期 (収穫30日前まで)			雑草茎葉散布 200mℓ	100ℓの水に溶かして散布する。	
	耕起前または 出芽前まで	ラウンドアップ マックスロード グリホサートカリウム塩 48%	2 (4)	雑草茎葉散布 200～500mℓ	50～100ℓの水に溶かして散布する。	対象は1年生雑草。
	雑草生育期: 畦間処理収穫 前日まで		2 (4)	200～500mℓ		
	雑草生育期 落葉終期～ 収穫14日前 まで		1 (4)	雑草茎葉散布 500mℓ		
	雑草生育期 イネ科雑草 3～10葉期 (収穫30日前まで)	ポルトフロアブル キザロホップエチル 7%	1 (1)	雑草茎葉散布 または 全面散布 200～300mℓ	50～100ℓの水に溶かして散布する。	対象雑草は一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)。
	雑草生育初期 ～6葉期 (大豆2葉期 ～開花前まで) (収穫45日前まで)	大豆バサグラン液剤 (ナトリウム塩) ペンタゾン 40%	1 (2)	雑草茎葉散布 100～150mℓ	100ℓの水に溶かして散布する。	<ul style="list-style-type: none"> 対象雑草は1年生雑草(イネ科を除く) 広葉雑草に効果を示すが、効果がない雑草草種もあるので注意する。 (3)-1参照。 大豆に葉害が生じる場合があるので(3)-1 注意事項を遵守する。
本葉2葉期 ～開花前 (雑草生育期) (収穫45日前まで)	アタックショット乳剤 フルチアセットメチル 2.0%	1 (1)	雑草茎葉散布 または 全面散布 30～50mℓ	100ℓの水に溶かして散布する。	<ul style="list-style-type: none"> 土壌処理剤との体系で使用する。 他の除草剤との混用、展着剤の加用はしない。 処理後6時間以内の降雨があると効果が劣る場合があるので注意する。 	

作物名	使用時期	除草剤名	使用回数	10アール当たり使用量	使用方法	注意事項
だいず	大豆本葉3葉期以降 雑草生育期 (収穫30日前まで)	ロロックス リニュロン 50%	1 (1)	雑草茎葉兼 土壌散布 (畦間・株間処理) 100～200g	70～150ℓの水 に溶かして散 布する。	<ul style="list-style-type: none"> 対象雑草は一年生雑草。 専用ノズルを使用し、噴口をなるべく低くして作物の葉にかからないようにする(作物の成長点付近に薬剤を付着させない)。 イネ科雑草には効果が劣る場合がある。
	雑草生育期 ・は種後出芽前 ・畦間処理 (収穫28日前まで)	バスタ液剤 グルホシネート 18.5%	3 (3)	雑草茎葉散布 300～500ml	100～150 ℓの 水に溶かして 散布する。	<ul style="list-style-type: none"> 対象雑草は一年生雑草。 作物に飛散しないようになるべくドリフトレスノズルを使用し、雑草の茎葉全体に付着するように散布する。 風のない日に散布する。
	雑草生育期 畦間処理 (収穫28日前まで)	ザクサ液剤 グルホシネートPナトリウム塩 11.5%	3 (3)	雑草茎葉散布 300～500ml	100～150 ℓの 水に溶かして 散布する。	<ul style="list-style-type: none"> 対象雑草は一年生雑草。 作物に飛散しないようになるべくドリフトレスノズルを使用し、雑草の茎葉全体に付着するように散布する。 風のない日に散布する。
	雑草生育期 畦間処理 (本葉5葉期 以降) (収穫30日前まで)	ダイロンゾル DDVU 50%	1 (1)	雑草茎葉散布 又は全面土壌 散布 100～200ml	100 ℓの水に 溶かして散 布する。	<ul style="list-style-type: none"> 対象雑草は一年生雑草。 作物に飛散しないようになるべくドリフトレスノズルを使用し、雑草の茎葉全体に付着するように散布する。 風のない日に散布する。
	雑草生育期 畦間処理 (雑草の草丈 30cm以下) (収穫3日前まで)	プリグロックス L ジクワット 7% パラコート 5%	4 (4) (4)	雑草茎葉散布 600～1000ml	100～150 ℓの 水に溶かして 散布する。	<ul style="list-style-type: none"> 対象雑草は一年生雑草。 作物に飛散させない。 毒物。☞

※ 使用回数については農薬の使用回数、および成分毎の使用回数(成分名の記載と同じ行に記載される括弧書きの数字)を記載した

作物名	使用時期	除草剤名	使用回数	10アール 当たり使用量	使用方法	注意事項
そば	播種前 (雑草生育期)	ザクサ液剤 グルホシネートPナトリウム塩 11.5%	3 (3)	300～500ml	100～150ℓの 水に溶かして 散布する(雑 草茎葉散布)。	<ul style="list-style-type: none"> ・対象雑草は一年生雑草。 ・養魚田およびその付近では使用しない。
	耕起前または 播種前 (雑草生育期)	ラウンドアップ マックスロード グリホサートカリウム塩 48%	2 (2)	200～500ml	50～100ℓの 水に溶かして 散布する(雑 草茎葉散布)。	<ul style="list-style-type: none"> ・対象雑草は一年生および多年生雑草。 ・散布後2時間以内に降雨が予想される場合は散布を見合わせる。 ・専用ノズルを使用する。 ・排水溝および排水溝まで飛散する恐れがある所では使用しない。 ・養魚田およびその付近では使用しない。 ・眼に入らないよう注意する。 ・皮膚に付着しないよう注意する。

※使用回数については農薬の使用回数、および成分毎の使用回数(成分名の記載と同じ行に記載される括弧書きの数字)を記載した。

(3) 大豆バサグラン液剤の使用について

① 使用方法

作物名	対象雑草名	使用時期	除草剤名	10アール当たり使用量	使用方法	使用回数
だいず	一年生雑草 (イネ科を除く)	一年生広葉雑草の 生育初期～6葉期 (ダイズの2葉期～ 開花前まで、但し 収穫45日前まで)	大豆バサグラン液剤(Na 塩) ベンタゾン 40%	100～ 150ml	100 ℓ の水に 溶かして散布 する(雑草茎 葉散布)。	1 回

② 使用上の注意事項

だいずの除草対策は、は種覆土直後の除草剤散布と中耕・培土2回による雑草の発生抑制を基本とする。

中耕・培土が適正に実施できず畑地一年生広葉雑草が問題となる圃場で、開花前の早い時期に散布する。

ア だいずの品種によっては薬害(葉に斑点、色抜け、黄変、縮葉症状等の一過性のもの)により減収する場合があるので、本剤の使用にあたっては指導機関に相談するなど十分注意する。また、使用者の責任において事前に使用品種における薬害の程度を十分確認してから使用する。

イ 適用雑草は一年生広葉雑草であるが、アカザ科、ヒユ科、トウダイグサ科の雑草には効果が劣る。

ウ 本県では、「エンレイ」および「里のほほえみ」に使用可能である。「あやこがね」は薬害が強くなる可能性があるため使用を避ける。

エ 除草効果を高め、薬害の発生および助長を防ぐため、薬液が雑草全体によく付着し、だいずへの付着量が極力少なくなるように散布する。また、薬害を助長するので重複散布はしない。

オ ①著しい高温が続く場合、②日射が強く蒸散が盛んな場合、③低温、湿害、肥料不足等によりだいずが生育不良の場合は薬害を助長することがあるので、使用を避ける。

カ 降雨後の土壌が湿潤な状態(溝に停滞水がある)で散布すると、散布薬剤がだいずに吸収され、株全体が黄化等の薬害を起すため、このような状態では使用を避ける。

キ 他剤との混用は避ける。

ク 散布後、曇天、降雨日が長く続くと効果が劣ることがあるので留意する。

ケ 周辺作物にかからないように注意する。

コ 本剤を使用した場合は、えだまめ用途としない(えだまめでは登録がない)。

(4) ラウンドアップマックスロード(だいずの落葉終期)の使用について

- 1) 落葉終期とは、だいずの葉の大部分が落葉した時期とする。
- 2) 薬液がだいずにかからないように散布する。
- 3) 水分含量の高い果実をつけた雑草では、茎葉が枯れても果実が残る場合があり、汚損粒の原因となるので収穫前に除去等を行うこと。また、雑草の茎水分含量が高い場合も汚損粒の原因になるので、収穫前に除去等を行うこと。
- 4) 気温が低下する条件での処理であり、効果の完成まで2週間以上の期間を要するので、収穫時期は処理後3週間を目安とする。

(5) 大麦（小麦）の圃場内の周縁部における除草剤使用について

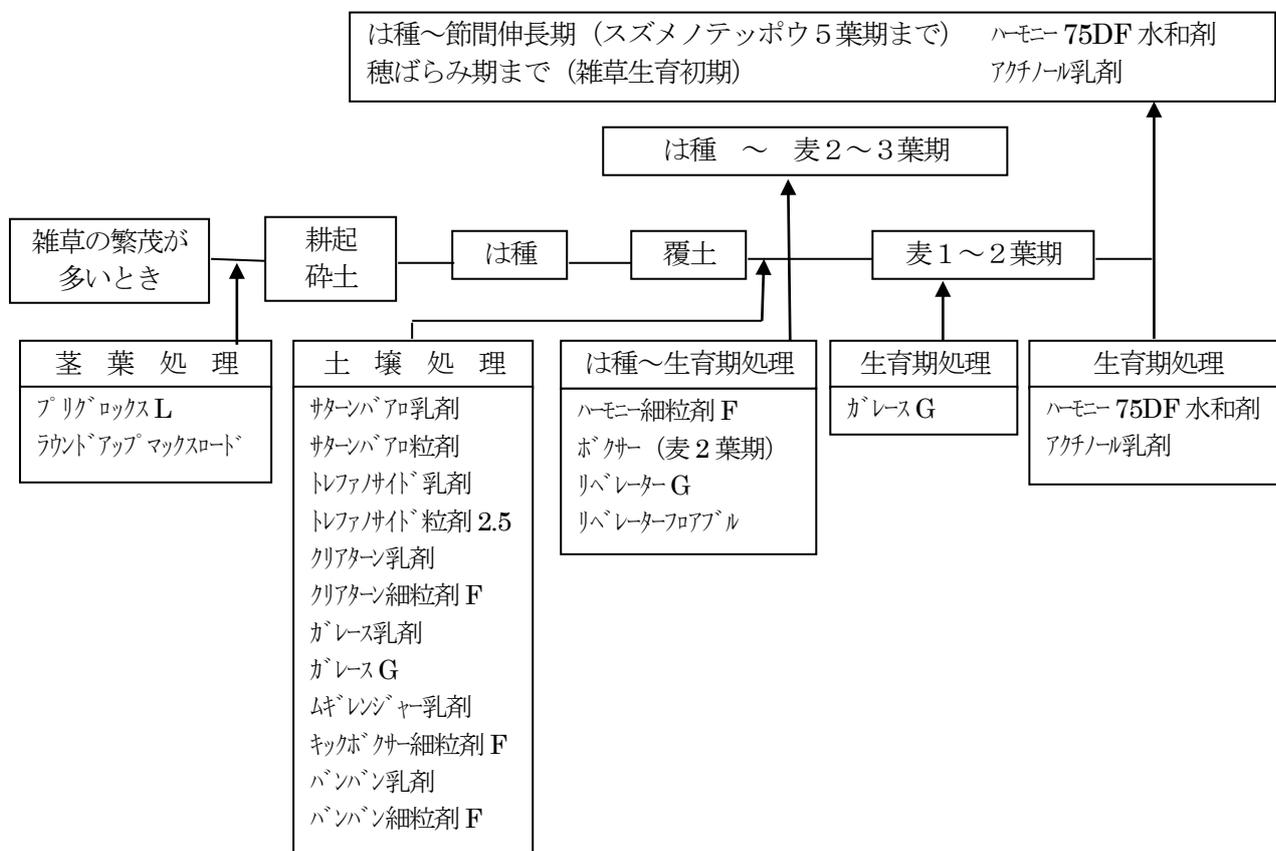
「圃場内の周縁部」とは、圃場内であって作物が植えられていない周縁部分を示す。排水溝内に農薬を散布すると水を介して河川等へ飛散、流入する可能性がある場合は、排水溝内への散布は控える。

(6) 水田転換畑の麦類・だいず等の畦畔で除草剤を使用する際の注意点

除草剤の中で適用場所が「水田畦畔」と限定されているものについては、その水田で「水稻」が栽培されている場合に限って使用できる。麦類・だいず等の水稻以外の作物が栽培されている水田の畦畔には、「水田畦畔」で登録がある除草剤でも使用できない。水田畦畔には、水田で栽培されている作物（麦類やだいず）に適用がある除草剤を、登録内容を遵守して使用しなければならない。

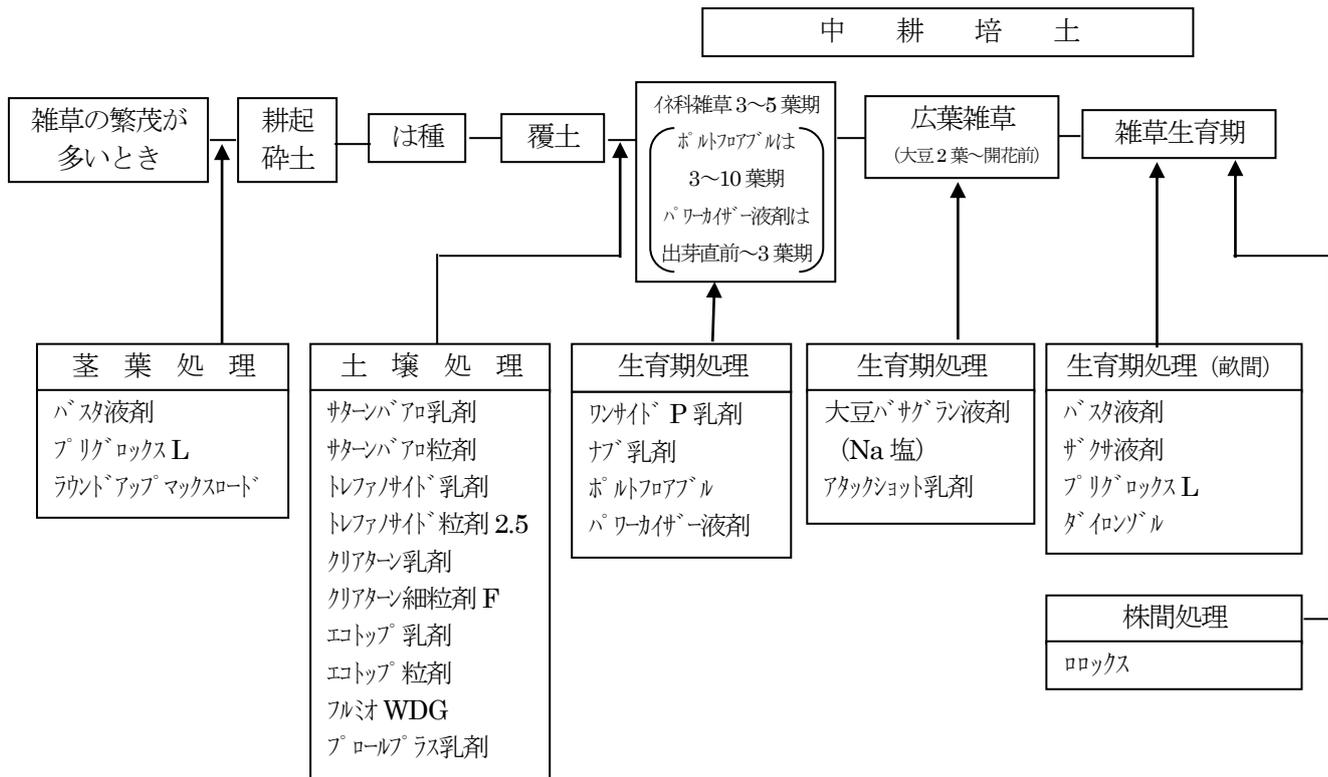
(7) 除草剤体系（例）

① 大麦の除草



- ・サターンバアロ乳剤・粒剤とクリアターン乳剤・細粒剤 F は、いずれか一つを 1 回だけ使用できる。
- ・クリアターン乳剤・細粒剤 F とムギレンジャー乳剤、キックボクサー細粒剤 F は、いずれか一つを 1 回だけ使用できる。
- ・ガレス乳剤・G とバンバン乳剤・細粒剤 F とリベレーター G・フロアブルは、いずれか一つを 1 回だけ使用できる。
- ・ハーモニー細粒剤 F とハーモニー 75DF 水和剤は、いずれか一つを 1 回だけ使用できる。
- ・早まきは、温暖なため雑草の出芽や再生にも好適なことから、雑草が多発しやすい。
- ・春、雑草が目立ってからでは除草できないので、越冬前の除草に努める。

② だいずの除草



- ・ 生育期処理の除草剤は、使用できる時期（収穫前日数）に制限があるので、処理の際に注意する。
- ・ だいずの生育量を確保し、抑草効果を高める。
- ・ 排水対策の徹底に努め、碎土、は種、覆土を丁寧に行い、特にだいずの出芽および初期生育を促す。
- ・ 中耕・碎土を早めに丁寧に実施し、雑草の小さいうちに確実に覆う。
- ・ 収穫期に残った大きな雑草は、コンバイン収穫すると汚損粒の原因となるので、手で抜き取る。

Ⅲ 野菜・いも類

1 野菜・いも類病害虫

野菜・いも類病害虫重点防除指導方針

本県農業の活性化および農業所得の向上を図るためには、これまで以上に野菜振興への取り組みが重要であり、収量・品質の高位安定化が必要である。

防除の指導に当たっては、それぞれの病害虫の生態等を熟知して耕種的防除対策に努めるとともに、病害虫の発生動向を的確に把握して、環境に配慮しながら、薬剤の性質を生かした適正な防除を実施する。

1 耕種的防除の推進

- ・排水対策を徹底するとともに、有機物の施用や深耕等による土づくりを行う。
- ・抵抗性品種・台木や無病苗を利用する。
- ・作型に応じた品種を使う。
- ・輪作や整枝・剪定・ハウスの換気など栽培環境の改善を行う。
- ・近紫外線カットフィルムや防虫ネット等を利用する。
- ・被害残渣の処理等、圃場衛生を心掛け、圃場の病原菌・害虫の密度を下げる。
- ・太陽熱利用による土壤消毒法など環境にやさしい手法を推進し、土壤伝染性病害虫の防除を徹底する。

2 農薬による防除技術

- ・薬剤防除は、予防および発生初期防除を基本とする。
- ・薬剤の効果を最大限引き出すため、薬剤がかかりやすいよう整枝、剪定を行う。
- ・耐性菌、抵抗性害虫の発生しやすい病害虫は、同一系統薬剤の連用による効果の低下を防ぐため、他系統の薬剤とのローテーションを図る。
- ・集団産地の防除組織の育成強化を図り、安全かつ効率的な防除を推進する。

3 天敵等による防除技術

- ・天敵、生物農薬、フェロモン等の有効活用を図る。

(1) トマト

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	インプレッションクリア	パチルスアミロクエファシエンス水和剤	BM2		1000～2000倍	100～300 μ g/10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類
	カリケリン	炭酸水素カリウム水溶剤	NC		800～1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	-	トマト
	クロスアウトフロアブル	ピリオフェノ水和剤	50		3000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ジ-ファイン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	M1,NC		750～1000倍	150～500 μ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なすを除く)
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		800倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ネクスターフロアブル	イソピラザム水和剤	7		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ハモイト水溶剤	炭酸水素ナトリウム水溶剤	NC		800～1000倍	150～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
	園芸ボルドー	硫黄・銅水和剤	"UN(I*),M1		800倍	100～300 μ g/10a	-	散布	-	トマト
疫病	Zボルドー	銅水和剤	M1		400～600倍	100～300 μ g/10a	-	散布	-	トマト
	カスミンボルドー	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	ザンパロDMフロアブル	アムトクワジノン・ジメトモル水和剤	40,45		1500倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		800倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
かいよう病	カスミンボルドー	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
菌核病	カンタストライフロアブル	ボスカリド水和剤	7		1000～1500倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ゲッター水和剤	ジ-エトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1000～1500倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	スクレアフロアブル	マンデストロビン水和剤	11		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
すすかび病	シグナムWDG	ピラクrostロビン・ボスカリド水和剤	11,7		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		3000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	園芸ボルドー	硫黄・銅水和剤	"UN(I*),M1		500倍	100～300 μ g/10a	-	散布	-	トマト
苗立枯病	オーソサイト水和剤80	キャブタン水和剤	M4		800倍	2 μ g/m ²	は種後から2～3葉期まで	灌注	5回以内	トマト
					種子重量の0.2～0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	トマト
苗立枯病(リゾクトニア菌)	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	3 μ g/m ²	は種時又は活着後 但し、定植14日後まで	土壌灌注	2回以内	トマト
	バシタック水和剤75	メブロン水和剤	7		750～1500倍	3 μ g/m ²	は種時～子葉展開時	土壌灌注	1回	トマト
					種子重量の0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	トマト
灰色かび病	アフェットフロアブル	ベンチオピラド水和剤	7		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	インプレッションクリア	パチルスアミロクエファシエンス水和剤	BM2		1000～2000倍	100～300 μ g/10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類
	カンタストライフロアブル	ボスカリド水和剤	7		1000～1500倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ゲッター水和剤	ジ-エトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1000～1500倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	シグナムWDG	ピラクrostロビン・ボスカリド水和剤	11,7		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	スミレックス水和剤	プロシロジン水和剤	2		1000～2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	セイバーフロアブル20	フルジホキノール水和剤	12		1000～1500倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	バレード20フロアブル	ピラジフルミド水和剤	7		2000～4000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ピクシオDF	フェンピラザミン水和剤	17		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリハソカルブ水和剤	11		2000～3000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	フルビカフロアブル	メバニピリム水和剤	9		2000～3000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	ボトキラー水和剤	パチルスズプロチス水和剤	BM2		1000倍	150～300 μ g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類
					300g/10a	6～10 μ g/10a	発病前～発病初期	常温煙霧	-	野菜類
					7.5～15g/10a/日		発病前～発病初期	ダクト内投入	-	トマト
	ボリキシンAL水和剤	ボリキシン水和剤	"[-](I*)		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ロワラル水和剤	イロシオン水和剤	2		1000～1500倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
				200g/10a	5 μ g/10a	収穫前日まで	常温煙霧	3回以内	トマト	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
葉かび病	カスミンボルトー	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶剤	NC		800倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	-	トマト
	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1000～1500倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		800倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ドーシヤスフロアブル	シアゾファミド・TPN水和剤	21,M5		1000倍	150～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	ニマイバール水和剤	ジエトフェンカルブ・ベニミル水和剤	1,10		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ネクスターフロアブル	イピラジラム水和剤	7		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	バレード20フロアブル	ピラジフルミド水和剤	7		2000～4000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリハソカルブ水和剤	11		2000～3000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	園芸ボルトー	硫黄・銅水和剤	"UN(I*),M1		500倍	100～300 μ g/10a	-	散布	-	トマト
斑点細菌病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500倍	100～300 μ g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	カスミンボルトー	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
斑点病	ロブラル水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
輪紋病	Zボルトー	銅水和剤	M1		400～600倍	100～300 μ g/10a	-	散布	-	トマト
	カスミンボルトー	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		800倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
アザミカ類	スピノース顆粒水和剤	スピノサド水和剤	5		5000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
アブラムシ類	アドマイア水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	アベル粒剤	アセタミプリド・シアントラニリアール粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	トマト
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	トマト
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	トマト
	チェス顆粒水和剤	ピメトジソン水和剤	9B		5000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ベリマークSC	シアントラニリアール水和剤	28		400株当たり25mL	400株当たり10～20 μ g(1株当たり25～50mL)	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	トマト
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	材カガ	アファーム乳剤	エマメクシン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内
エスマルクDF		BT水和剤	11A		1000倍	100～300 μ g/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類
カスケード乳剤		フルフェノクスロン乳剤	15		2000～4000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
スピノース顆粒水和剤		スピノサド水和剤	5		5000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
マッチ乳剤		ルフェスロン乳剤	15		2000～3000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
マトリックフロアブル		クロマフェノジド水和剤	18		1000～2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
オシツコナジラミ		アディオ乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000～3000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	トマト
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	トマト
オシツコナジラミ幼虫	アプロート水和剤	ブプロフェジソン水和剤	16		1000～2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名	
コナジラミ類	アグリメック※	アバメクチン乳剤	6	劇	500～1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	
	アドマイヤ-水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト	
	アネキ乳剤※	レピメクチン乳剤	6		1000～2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	
	アヘール粒剤	アセタミプリド・シアントラニリアロール粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	トマト	
	アルハリン顆粒水溶剤※	ジノフラン水溶剤	4A		100倍		セル成型育苗トレイ1箱または $\bar{\bar{e}}$ - $\bar{\bar{h}}$ - $\bar{\bar{b}}$ ット1冊(30 \times 60cm・使用土壌約1.5～4.0 μ g)当り0.5 μ g	鉢上時又は定植時	灌注	1回	トマト
					2000～3000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト	
	グレース乳剤	フルキサミド乳剤	30		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト	
	コルト顆粒水和剤※	ピリフルキサゾン水和剤	9B		4000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	
	スタークル顆粒水溶剤※	ジノフラン水溶剤	4A		100倍		セル成型育苗トレイ1箱または $\bar{\bar{e}}$ - $\bar{\bar{h}}$ - $\bar{\bar{b}}$ ット1冊(30 \times 60cm・使用土壌約1.5～4.0 μ g)当り0.5 μ g	鉢上時又は定植時	灌注	1回	トマト
					2000～3000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト	
	ダブルシューター-SE	脂肪酸グリセリド・ステノサド水和剤	「-」,5		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト	
	チェス顆粒水和剤	ピメトジソン水和剤	9B		5000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	
	トランスフォームフロアブル	スルホキサフロム水和剤	4C		1000～2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト	
	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト	
	アリロックス粒剤オメガ	シアントラニリアロール粒剤	28		2g/株		育苗期後半～定植時	株元散布	1回	トマト	
					2g/株		鉢上げ時	育苗培土混和	1回	トマト	
	ヘーストガード粒剤	ニテンピラム粒剤	4A		1～2g/株		育苗期	株元処理	1回	トマト	
					1～2g/株		定植時	植穴処理 土壌混和	1回	トマト	
					5g/培土 μ g		は種時又は鉢上げ時	育苗培土混和	1回	トマト	
					セル成型育苗トレイ1箱または $\bar{\bar{e}}$ - $\bar{\bar{h}}$ - $\bar{\bar{b}}$ ット1冊(30 \times 60cm、使用土壌約1.5～4 μ g)当り50g		育苗期後半	散布	1回	トマト	
ヘネピアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト		
ヘリマークSC	シアントラニリアロール水和剤	28		400株当り25mL	400株当り10～20 μ g(1株当り25～50mL)	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	トマト		
モレスタン水和剤	キネキサリン系水和剤	"UN(I*)		1500～2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト		
ラノテープ	ピリプロキシフェン剤	7C		10～50 μ m ² /10a		栽培期間中	作物体の付近に設置する。	1回	野菜類(施設栽培)		
粘着くん液剤	デノン液剤	「-」		100倍	150～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類		
トマトサビダニ	アファーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト	
	イカワフロアブル	水和硫黄剤	"UN(I*)		400倍	100～300 μ g/10a	発生初期	散布	-	トマト	
	マッチ乳剤	ルフェスロン乳剤	15		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト	
ネコブセンチュウ	ガードホブ液剤	ホスチアセート液剤	1B	劇	4000倍	2 μ g/m ²	収穫前日まで	土壌灌注	1回	トマト	
ハスモンヨトウ	マッチ乳剤	ルフェスロン乳剤	15		3000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト	
ハダニ類	ダブルシューター-SE	脂肪酸グリセリド・ステノサド水和剤	「-」,5		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
ハモクノリハノイ類	アファム乳剤	エマメチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	アベノル粒剤	アセチアクト・シアンチンロニプロール粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	トマト
	ダブノルシューターSE	脂肪酸グリセリド・ステノノサトノ水 和剤	「-」,5		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ベネビノアOD	シアンチンロニプロール水和剤	28		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ベノリマノクSC	シアンチンロニプロール水和剤	28		400株当り25mL	400株当り10～20 μ g (1株当り25～50mL)	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	トマト
マハモクノリハノイ	カスケードノ乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		2000～4000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
ミカンキイロアザノミウメ	カスケードノ乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	コテツノアザノル	クロルフェナピノル水和剤	13	劇	2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト

※ タバココナジラミバイオタイプQに効果あり（福井県農業試験場調べ）

トマト黄化葉巻病対策

1 トマト黄化葉巻病について

(1) 病原ウイルス

トマト黄化葉巻ウイルス(Tomato yellow leaf curl virus :TYLCV)

(2) 病徴

発病初期は、新葉が葉縁から退緑しながら葉巻症状となり、後に葉脈間が黄化し縮葉となる。
病勢が進むと頂部が叢生し、茎部の節間が短くなり株全体が黄化萎縮する。

(3) ウイルスの伝染源

罹病しているトマトと考えられる。

(4) ウイルスの伝染方法

タバココナジラミバイオタイプ B および Q によって媒介される。汁液伝染、種子伝染、土壌伝染、他の害虫(オンシツコナジラミなど)による虫媒伝染はしないが、接ぎ木伝染はする。

2 防除対策

物理的防除

- ・0.4mm 目以下の防虫ネットを展張し、タバココナジラミのハウス内への侵入を防ぐ(換気扇や遮光等施設内の高温対策が必要)。
- ・黄色粘着板を設置し、誘殺、発生消長の把握に用いる。
- ・太陽光反射マルチ、UV除去フィルムを利用し、タバココナジラミの侵入を阻止する。

耕種的防除

- ・冬期間中に無栽培期間を設け、伝染源となるトマトをなくす。また、ハウス内を寒さにあて、タバココナジラミの越冬を防ぐ。
- ・雑草はタバココナジラミの繁殖場所となるので、ハウス内外の除草を行う。
- ・発病株は見つけ次第すぐに抜き取る。その際、発病株は伝染源にならないよう土中に埋める、ビニール袋などで密封・枯死させてから廃棄する等して処分し、圃場周辺に放置しない。

化学的防除

- ・は種時にベストガード等の粒剤を混和する。購入苗は納入後すぐにベストガード等の粒剤を散布し、タバココナジラミの密度抑制に努める。(育苗期間の防除薬剤を確認しておくこと)
- ・タバココナジラミの発生が見られたら、すぐに防除する。
- ・散布時は、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。(次頁表参考)

【参考】トマトのタバコナジラミ(コナジラミ類)防除薬剤の一覧

IRAC コード	防 除 方 法			農 薬 使 用 基 準		注 意 事 項	バイオ タイプ	
	薬 剤 名	使 用 濃 度	10アール 当たり使用量	使用時期 (収穫何日 前まで)	使 用 回 数		B	Q
3A	トレボン乳剤	1,000倍	100~300ℓ	前日まで	2回		○	×
4A	ベストガード粒剤	植穴処理土壌混和 1~2g/株		定植時	1回		○	○
	ベストガード水溶剤	1,000~2,000倍	100~300ℓ	前日まで	3回		○	○
	アドマイヤー水和剤	2,000倍	100~300ℓ	前日まで	2回		○	△
	スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	2,000~3,000倍	100~300ℓ	前日まで	2回		○	○
	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	100~300ℓ	前日まで	3回		○	△
4A+28	アベイル粒剤		2g/株	育苗期後半~ 定植当日	1回		○	△
4C	トランスフォームフロアブル	1,000~2,000倍	100~300ℓ	前日まで	2回		○	○
5+未	ダブルシューターSE	1,000倍	100~300ℓ	前日まで	2回		○	○
6	アニキ乳剤	1,000~2,000倍	100~300ℓ	前日まで	3回		○	○
	アグリメック	500~1,000倍	100~300ℓ	前日まで	3回		○	○
7C	ラノーテープ		10~50㎡	栽培期間中	1回	施設栽培に限る	○	×
9B	チェス顆粒水和剤	5,000倍	100~300ℓ	前日まで	3回		○	○
	コルト顆粒水和剤	4,000倍	100~300ℓ	前日まで	3回		○	○
15	ノーモルト乳剤	2,000倍	100~300ℓ	前日まで	2回		○	△
16	アプロード水和剤	1,000倍	100~300ℓ	前日まで	3回	幼虫のみの登録	○	△
23	クリアザールフロアブル	2,000~4,000倍	100~300ℓ	前日まで	2回		○	○
28	ベネビアOD	2,000倍	100~300ℓ	前日まで	3回		○	○
	プリロソソ粒剤オメガ		2g/株	育苗期後半~ 定植時	1回		○	○
	ベリマークSC	25ml/400株	10~20ℓ/400株	育苗期後半~ 定植当日	1回		○	○
30	グレーシア乳剤	2,000倍	100~300ℓ	前日まで	2回		○	○
UN	モレスタン水和剤	1,500~2,000倍	100~300ℓ	前日まで	5回		○	△
未	粘着くん液剤	100倍	150~300ℓ	前日まで	—		○	○

※JA 全農、福井県農試調べ ○…効果あり △…効果あるものと劣るものがある ×…効果劣る

トマト灰色かび病、葉かび病、すすかび病防除対策

1 発生生態

灰色かび病…果実、花弁、葉、茎に発生。被害部が褐変して、灰色のかびを生じる。発病適温は 15～23℃ (22～23℃で、湿度が 85～90%以上の条件が続くと激発)。胞子の飛散は、曇雨天の時に多い。

葉かび病 …葉に発生。初め葉裏に灰黄色～緑褐色のビロード状のかびを生じ、その後灰褐色～灰紫色に変わる。多湿条件で発病し、適温は 20～25℃。感染から発病までの期間は約 2 週間。外観ですすかび病との区別は困難。

すすかび病…葉に発生。初め葉裏に不明瞭な淡黄緑色の病斑が生じ、やがて灰褐色粉状のかびを生じ、進展すると円形あるいは葉脈に囲まれた不整形病斑となり灰褐色～黒褐色に変わる。多湿条件で発病し、適温は 26～28℃。

2. 防除のポイント

- 1) 換気や灌水量に注意。低温時は暖房機や循環扇による通風により植物体への結露を防止し、施設内の湿度低下に努める。
- 2) マルチを行い、ハウス内の湿度の上昇や土壌からの病原菌の伝染を防止する。
- 3) 整枝、剪定により過繁茂を避け、採光や通風をよくする。また、適切な肥培管理に努め、健全な生育を促す。
- 4) 発病した果実や葉等は伝染源となるため、速やかに除去し圃場外で処分する。
- 5) 発病前から薬剤散布を行い、予防に努める。
- 6) 耐性菌の発生を抑えるため、同一系統および同一薬剤の連用は避け、系統をかえてローテーション散布を行う。

【参考】 トマトの灰色かび病、葉かび病、すすかび病防除薬剤

FRAC コード	農薬の名称	使用時期	灰色かび病	葉かび病	すすかび病	うどんこ病	輪紋病	疫病
2	ロブラール水和剤	収穫前日まで	○				○	
	スミレックス水和剤	収穫前日まで	○					
1+10	ゲッター水和剤	収穫前日まで	○	○				
	ニマイバー水和剤	収穫前日まで	○	○	○	○		
12	セイビアフロアブル 20	収穫前日まで	○					
9	フルピカフロアブル	収穫前日まで	○					
3+M3	テーク水和剤	収穫前日まで		○		○		○
3	トリフミン水和剤	収穫前日まで		○	○	○		
11	ファンタジスタ顆粒水和剤	収穫前日まで	○	○	○	○		
7	アフェットフロアブル	収穫前日まで	○	○	○	○		
	カンタスドライフロアブル	収穫前日まで	○	○				
	パレード 20 フロアブル	収穫前日まで	○	○	○	○		
	ネクスターフロアブル	収穫前日まで	○	○	○	○		
7+11	シグナム WDG	収穫前日まで	○	○	○	○		
M7	ベルコート水和剤	収穫前日まで	○	○				
21+M5	ドーシャスフロアブル	収穫前日まで		○			○	○
24+M1	カスミンボルドー	収穫前日まで		○			○	○
19	ポリオキシ AL 水和剤	収穫前日まで	○	○				
BM2	インプレッションクリア	発病前～発病初期まで	○	○	○	○		
	エコショット	収穫前日まで	○	○				
	ボトキラー水和剤	発病前～発病初期	○			○		
M5	ダコニール 1000	収穫前日まで	○	○	○	○	○	○
M3	ジマンダイセン水和剤	収穫前日まで		○			○	○
17	ピクシオ DF	収穫前日まで	○					
NC	カリグリーン	収穫前日まで	○	○		○		
	ハーモメイト水溶剤	収穫前日まで	○			○		

※農薬の使用にあたっては、必ず使用濃度、使用量、使用回数等を確認すること。

注) 地域により、灰色かび病、葉かび病に対する N-フェニルピロリジン系薬剤効果が低下しているところがあるので、注意する。

(2) ミニトマト

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶剤	NC		800～1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	ミニトマト
	クロスアウトフロアブル	ピリオフェノール水和剤	50		3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ミニトマト
	ハモイト水溶剤	炭酸水素ナトリウム水溶剤	NC		800～1000倍	150～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
	ボトキラー水和剤	バチルス・スプレックス水和剤	BM2		1000倍	150～300g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類
					15g/10a/日	発病前～発病初期	ダクト内投入	-	野菜類(トマトを除く)	
疫病	Zボルトー	銅水和剤	M1		400～600倍	100～300g/10a	-	散布	-	ミニトマト
	ザンブロDMフロアブル	アトクランジニ・ジメトール水和剤	40,45		1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ミニトマト
菌核病	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ミニトマト
すすかび病	トリフィン水和剤	トリフルシズール水和剤	3		3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ミニトマト
苗木枯病(リグネリア菌)	バシタック水和剤75	メダロニル水和剤	7		750～1500倍	3g/m ²	は種時～子葉展開時	土壌灌注	1回	ミニトマト
					種子重量の0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	ミニトマト
灰色かび病	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ミニトマト
	ボトキラー水和剤	バチルス・スプレックス水和剤	BM2		1000倍	150～300g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類
					300g/10a	6～10g/10a	発病前～発病初期	常温煙霧	-	野菜類
					10～15g/10a/日	発病前～発病初期	ダクト内投入	-	野菜類(トマトを除く)	
葉かび病	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶剤	NC		800倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	ミニトマト
	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ミニトマト
斑点細菌病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
輪紋病	Zボルトー	銅水和剤	M1		400～600倍	100～300g/10a	-	散布	-	ミニトマト
アブラムシ類	フェス顆粒水和剤	ピメトリン水和剤	9B		5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ミニトマト
材カビ	アファム乳剤	エマメチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ミニトマト
	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000倍	100～300g/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類
	マトリックフロアブル	クロマフェジド水和剤	18		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ミニトマト
コナジラミ類	フェス顆粒水和剤	ピメトリン水和剤	9B		5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ミニトマト
	ベストガード粒剤	ニテンピラム粒剤	4A		1～2g/株		育苗期	株元処理	1回	ミニトマト
					1～2g/株		定植時	植穴処理土壌混和	1回	ミニトマト
					5g/培土g		は種時又は鉢上げ時	育苗培土混和	1回	ミニトマト
					セル成型育苗トレイ1箱 またはベーパーポット 1冊(30×60cm、使用土壌約1.5～4g) 当り50g散布		育苗期後半	散布	1回	ミニトマト
ベリマークSC	シアントラニリアロール水和剤	28		400株当り25mL	400株当り10～20g(1株当り25～50mL)	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	ミニトマト	
				400株当り25mL	400株当り20～200g(1株当り50～500mL)	定植直後	株元灌注	1回	ミニトマト	
トマトザビダニ	アファム乳剤	エマメチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ミニトマト
	イオウフロアブル	水和硫黄剤	"UN(I*)		400倍	100～300g/10a	発生初期	散布	-	ミニトマト
ネコセンチュウ	ガードホープ液剤	ホスチアゼート液剤	1B	劇	4000倍	2g/m ²	収穫前日まで	土壌灌注	1回	ミニトマト
ハメグリバエ類	アファム乳剤	エマメチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ミニトマト

(3) なす

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	インブ レッションクリア	バチルスアミロリクエファシエンス水和剤	BM2		1000~2000倍	100~300g/10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類
	シグナムWDG	ビラクトロピリン・ホスカリド水和剤	11,7		1500倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	トリアミン水和剤	トリアミン水和剤	3		3000~5000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	なす
	バルミノ	キネキサリン系水和剤	"UN(I*)		2000倍	150~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	プロパティフロアブル	ビリオフィノ水和剤	50		3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	モレスタン水和剤	キネキサリン系水和剤	"UN(I*)		2000~3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
灰色かび病	カンタストライフロアブル	ホスカリド水和剤	7		1000~1500倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	スミレックス水和剤	プロシドリン水和剤	2		1000~2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	6回以内	なす
					250g/10a	5g/10a	収穫前日まで	常温煙霧	6回以内	なす
	ポリベリン水和剤	イミノクジン酢酸塩・ホリキシン水和剤	"[-](I*),M7		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
ロブラル水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000~1500倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	なす	
苗木枯病	オソサイト水和剤80	キャプタン水和剤	M4		800倍	2g/m ²	は種後から2~3葉期まで	灌注	5回以内	なす
					種子重量の0.2~0.4%		は種前	種子粉衣	1回	なす
アザミヤカ類	アドマイア-1粒剤	イミダクロプリド粒剤	4A		1~2g/株		定植時	植穴又は株元土壌混和	1回	なす
	アドマイア-水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	アベイル粒剤	アセタミプリド・シアントラニリブロール粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半~定植当日	株元散布	1回	なす
	ダブッシュター-SE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	"[-],5		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
アザラム類	アクトリン乳剤	シペルメトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	なす
	アドマイア-1粒剤	イミダクロプリド粒剤	4A		1~2g/株		定植時	植穴又は株元土壌混和	1回	なす
					1g/株		育苗期後半	株元散布	1回	なす
	アドマイア-水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	100g/10a	5g/10a	収穫前日まで	常温煙霧	2回以内	なす
					2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	アベイル粒剤	アセタミプリド・シアントラニリブロール粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半~定植当日	株元散布	1回	なす
	オルトラ粒剤	アセフェート粒剤	1B		3~6kg/10a(1~2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	なす
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3~6kg/10a(1~2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	なす
	ハクザップ水和剤	フェンハレト・マラソン水和剤	1B,3A	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	なす
	ベストガード水溶剤	ニテンピラム水溶剤	4A		1000~2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	マブリック水和剤20	フルバネート水和剤	3A	劇	4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000~3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	6回以内	なす
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
モベントフロアブル	スピロテトラマト水和剤	23		2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす	
				500倍	25~50mL/株	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	なす	
ロテイー乳剤	フェンプロパトリン乳剤	3A	劇	1000~2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	なす	
材カコガ	スピノエース顆粒水和剤	スピノサド水和剤	5		5000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	22A		2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
オンシツコナジラミ	アテ・イオン乳剤	ベルメリン乳剤	3A		2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	ホルラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布 又は植穴 処理	1回	なす
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布 又は植穴 処理	1回	なす
	ハクサップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	なす
チャノホリダニ	モレスタン水和剤	キキサリン系水和剤	"UN(1*)		2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
チャノホリダニ幼虫	アブ・ロート水和剤	アブ・ロフェジノン水和剤	16		1000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
テントウムシダマシ類	アテ・イオン乳剤	ベルメリン乳剤	3A		2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000～2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	なす
ネリムシ類	カルホス粉剤	イキサチオン粉剤	1B		6kg/10a		は種時又は植付時	土壌表面 散布土壌 混和处理	2回以内	なす
ハスモンヨトウ	アテ・ント水和剤	アクリナトリン水和剤	3A		1000倍	150～300%/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	なす
	ノームト乳剤	テアルベ・ンスロン乳剤	15		2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	マトリックフロアブル	クロマフェノジド水和剤	18		2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
ハダニ類	コテツフロアブル	クオルフェビール水和剤	13	劇	2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	なす
	コロマイト乳剤	ミルベ・メクチン乳剤	6		1500倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	ハ・ロックフロアブル	エトキサゾール水和剤	10B		2000倍	100～350%/10a	収穫前日まで	散布	1回	なす
	粘着くん液剤	デンプン液剤	「-」		100倍	150～300%/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
ミナキイロアザミウマ	コテツフロアブル	クオルフェビール水和剤	13	劇	2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	なす

(4) ピーマン

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	トリフミン水和剤	トリフルシロール水和剤	3		3000~5000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ピーマン
	モレスタン水和剤	キネキサリン系水和剤	"UN(I*)		2000~3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ピーマン
					20g/100立方 m(50m ² ×2m)	-	収穫前日まで	くん煙	3回以内	ピーマン
苗立枯病	オーソサイド水和剤80	キャブタン水和剤	M4		800倍	2g/m ²	は種後から2~3葉 期まで	灌注	2回以内	ピーマン
					種子重量の0.2 ~0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	ピーマン
灰色かび病	ロブラル水和剤	イブロン水和剤	2		1000~1500倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	ピーマン
斑点病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ピーマン
アザミカ類	アドマイヤ-1粒剤	イミダクロプリド粒剤	4A		1~2g/株		定植時	植穴又は株 元土壌混和	1回	ピーマン
アブラムシ類	アグロスリン乳剤	シベルメトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ピーマン
	アデイオン乳剤	ヘルメトリン乳剤	3A		2000~3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ピーマン
	アドマイヤ-1粒剤	イミダクロプリド粒剤	4A		1~2g/株		定植時	植穴又は株 元土壌混和	1回	ピーマン
					1g/株		育苗期後半	株元散布	1回	ピーマン
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000~3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ピーマン
	ロブイー乳剤	フェンプロパトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ピーマン
材カガ	アファーム乳剤	エマクチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ピーマン
	スピノース顆粒水和剤	スピノサト水和剤	5		2500~5000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ピーマン
カガ	アデイオン乳剤	ヘルメトリン乳剤	3A		2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ピーマン
	ランネット45DF	メソシル水和剤	1A	劇	1000~2000倍	100~300g/10a	収穫開始14日前ま で	散布	4回以内	ピーマン (露地栽培)
ネリムシ類	ダイアジノン粒剤3	ダイアジノン粒剤	1B		6~9kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	ピーマン
ハスモンヨトウ	ランネット45DF	メソシル水和剤	1A	劇	1000~2000倍	100~300g/10a	収穫開始14日前ま で	散布	4回以内	ピーマン (露地栽培)
ハダニ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000~3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ピーマン
	ロブイー乳剤	フェンプロパトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ピーマン

(5) すいか

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名	
うどんこ病	シグナムWDG	ビラクトロピリン・ボスカリド水和剤	11,7		1500~2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
	テーク水和剤	シメコゾール・マンゼブ水和剤	"UN(*),3		600~800倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	すいか	
	トリアミン水和剤	トリアルミン水和剤	3		3000~5000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	すいか	
	バレード 2070アブル	ビラジフルミド水和剤	7		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	うり類(成熟)	
	パソチオTF顆粒水和剤	シフルフェナト・トリアルミン水和剤	3,U6		2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか	
	モレスタン水和剤	キキサリン系水和剤	"UN(*)		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	すいか	
疫病	Zボルト-	銅水和剤	M1		500~800倍	100~300g/10a	-	散布	-	すいか	
褐色腐敗病	フォリオールド	メタキシルM・TPN水和剤	4,M5		800~1000倍	100~400g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	すいか	
	ホライズント ライフアブル	シモキサニル・ファモキサトニル水和剤	11,27		2500倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
菌核病	バレード 2070アブル	ビラジフルミド水和剤	7		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	うり類(成熟)	
炭疽病	アントラコール顆粒水和剤	ブロビネブ水和剤	M3		400~600倍	150~200g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか	
	キサン水和剤	キャブタン・有機銅水和剤	M1,M4		500~600倍	100~300g/10a	収穫14日前まで	散布	5回以内	すいか	
	シグナムWDG	ビラクトロピリン・ボスカリド水和剤	11,7		1500~2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
	ジマンダ イェン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(*)		400~600倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	7回以内	すいか	
	ストロピーフロアブル	クレキシメチル水和剤	11		2000~3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		700倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	すいか	
	テーク水和剤	シメコゾール・マンゼブ水和剤	"UN(*),3		600~800倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	すいか	
	ニマイブ水和剤	ジエトフェンカルブ・ヘノミル水和剤	1,10		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	すいか	
	ベルコート水和剤	イミノカタジンアルベシル酸塩水和剤	M7		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか	
	つる枯病	アフェットフロアブル	ベソチオピラド水和剤	7		2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
アントラコール顆粒水和剤		ブロビネブ水和剤	M3		400~600倍	150~200g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか	
シグナムWDG		ビラクトロピリン・ボスカリド水和剤	11,7		1500~2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
ジマンダ イェン水和剤		マンゼブ水和剤	"UN(*)		400~600倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	7回以内	すいか	
ストロピーフロアブル		クレキシメチル水和剤	11		2000~3000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
ダコニール1000		TPN水和剤	M5		700~1000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	すいか	
バレード 2070アブル		ビラジフルミド水和剤	7		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	うり類(成熟)	
ベルコート水和剤		イミノカタジンアルベシル酸塩水和剤	M7		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか	
ロブテール水和剤		イブロジオン水和剤	2		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか	
苗立枯病(リゾクトニア菌)	バシタック水和剤75	メフロニル水和剤	7		750~1500倍	3g/m ²	は種時~子葉展開	土壌灌注	1回	すいか	
						種子重量の0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	すいか
べと病	ジマンダ イェン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(*)		400~600倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	7回以内	すいか	
アザミカ類	アグリメック	アバメクチン乳剤	6	劇	500~1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
アブラムシ類	アグロスリン乳剤	シハルメトリン乳剤	3A	劇	1000~2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	すいか	
	アドマイヤー水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで(ただし、露地栽培については着果後)	散布	3回以内	すいか	
	ウララDF	フロニカミド水和剤	29		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか	
	ダントツ水溶剤	クロチアジン水溶剤	4A		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか	
	ベスタガード 粒剤	ニテンピラム粒剤	4A			1~2g/株		定植時	植穴処理	1回	すいか
						1g/株		育苗期	株元処理	1回	すいか
	マブリック水和剤20	フルバリネート水和剤	3A	劇	4000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	すいか	
	モスピラン粒剤	アセチアプリド粒剤	4A		1g/株		定植時	植穴土壌混和	1回	すいか	
	モベントフロアブル	スピロテトラト水和剤	23			2000倍		収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
						500倍	25~50mL/株	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	すいか

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
カリメカ	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
カリハシ	ダントツ水溶剤	クロチアジン水溶剤	4A		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
コナジラミ類	モベントフロアブル	スピロトラマト水和剤	23		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
					500倍	25～50mL/株	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	すいか
タネバエ	ダイアジノン粒剤3	ダイアジノン粒剤	1B		5～8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	すいか
ハモシトウ	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
ハダニ類	アグリメック	アバメクチン乳剤	6	劇	500～1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	カネマイトフロアブル	アセキシル水和剤	20B		1000～1500倍	150～300g/10a	収穫前日まで	散布	1回	すいか
	ハロックフロアブル	エトキサゾール水和剤	10B		2000倍	100～350g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
	モベントフロアブル	スピロトラマト水和剤	23		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
					500倍	50mL/株	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	すいか
ミナキイロアザミカ	ダントツ水溶剤	クロチアジン水溶剤	4A		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか

すいか炭疽病対策

1 すいか炭疽病について

すいか炭疽病は、コレトリカムというカビの一種によって引き起こされる病気である。発病適温は 22～28℃で、湿度が高いと 24 時間以内に胞子が発芽し、48 時間以内に組織に侵入し、1週間に以内に発病する。特に、降雨があると病斑状の胞子が飛散し、他の茎葉、果実に伝染し、蔓延する。露地栽培では、トンネルを除去したところから発病しはじめ、気温が低く、雨の多い年に多発する。また、窒素過多でも発生が多くなる。

2 防除対策

育苗期防除対策

- ・苗床やハウスでは多発することは少ない。
- ・苗床では高温多湿を避ける。
- ・苗床では発病前から予防散布を行い、健全な苗を確保する。
- ・発病を認めたら治療効果のある薬剤を7日おきに2～3回散布する。

圃場防除対策

- ・連作は避ける。排水の悪い圃場は、排水対策を実施する。
- ・降雨のはねかえりで感染するので、早めに敷きわらやポリマルチを行う。
- ・前年、炭疽病が発生した圃場は原則、作付けを避けるが、やむを得ず作付けする場合は、土壤消毒の実施や予防散布に努める。
- ・トンネル除去後は、感染の好適条件にもなることから、1 週間おきを目安に予防防除を行う。
- ・**ベンゾイミダゾール系剤(トップジン、ベンレート等)は耐性菌が発生しているので使用しない。**
- ・不要な側枝は早めに除去し、採光と通風しをよくする。摘果玉は圃場内に放置せず、圃場外に持ち出すか埋設する。
- ・降雨後は、薬剤散布量を十分取り、果実表面にも十分薬剤が付着するように散布する。
- ・炭疽病の発生を確認したら、治療効果のある薬剤を3～5日おきに少なくとも2～3回散布する。新しい病斑の形成がなくなったら、予防効果のある薬剤を7日おきに散布する。特に、果実付近の防除を徹底する。
- ・収穫時に降雨があった場合、果実表面が濡れたり土壌が付着したりしているものは、コンテナに積み込む前に固く絞ったタオルで十分拭き取る。
- ・収穫終了後、発病株の罹病部位(葉や果実)は圃場外に持ち出し、埋設する。

【参考】すいか炭疽病防除薬剤一覧

FRAC コード	農薬の名称	使用時期 (収穫何日 前まで)	その他の適用病害虫									効果		
			つる 枯 病	疫 病	褐 斑 細 菌 病	べ と 病	菌 核 病	う ど ん こ 病	褐 色 腐 敗 病	ハ ダ ニ 類	果 実 汚 染 細 菌 病	予 防	治 療	
M03	アントラコール顆粒水和剤	前日まで	○										○	
	ジマンダイセン水和剤	7日前まで	○	○	○	○							○	
M01	ドキリンフロアブル	前日まで	○									○	○	
M01+M04	オキシラン水和剤	14日前まで	○										○	
M04	オーソサイド水和剤80	14日前まで	○			○							○	
M05	ダコニール1000	3日前まで	○										○	
4+M05	フォリオゴールド	7日前まで	○							○			○	○
11+M05	アミスターオプティフロアブル	3日前まで	○					○	○	○			○	○
11+7	シグナムWDG	前日まで	○					○	○	○			○	○
11	アミスター20フロアブル	前日まで	○										○	○
	ストロビーフロアブル	前日まで	○						○				○	○
2+M01	スクレタン水和剤	7日前まで	○		○		○						○	○
21+M05	ドーシャスフロアブル	3日前まで	○							○			○	○
M07	バルケート水和剤	前日まで	○					○	○				○	
10+1	ゲッター水和剤	前日まで											○	○
3+M03	テーク水和剤	7日前まで	○						○				○	○
3	スコア顆粒水和剤	前日まで	○						○				○	○
10+1	ニマイバー水和剤	前日まで	○					○	○				○	○
11+M07	ファンベル顆粒水和剤	前日まで	○					○	○				○	○
40+M05	プロボーズ顆粒水和剤	3日前まで								○			○	○

*使用濃度、使用量、使用回数等は確認すること。

(6) メロン

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	ジ-ファイン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	M1,NC		750~1000倍	150~500g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なすを除く)
	トリアミン水和剤	トリアルミノール水和剤	3		3000~5000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	メロン
	パレド 2070アブル	ピラジフルミド水和剤	7		2000~4000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	うり類(成熟)
	パンチョTF顆粒水和剤	シフルフェナミド・トリアルミノール水和剤	3,U6		2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	メロン
	ベンジセイバー	ベンチピラト・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	メロン
	モレスタン水和剤	キノキサリン系水和剤	"UN(I*)		100g/10a	5g/10a	収穫3日前まで	常温煙霧	10回以内	メロン
				2000~4000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	10回以内	メロン	
疫病	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		400~600倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	メロン
菌核病	パレド 2070アブル	ピラジフルミド水和剤	7		2000~4000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	うり類(成熟)
つる枯病	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		400~600倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	メロン
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	メロン
	トップジンMベ-スト	チオファネートメチルベ-スト剤	1		原液		発病初期 但し、収穫21日前まで	塗布	1回	メロン
	パレド 2070アブル	ピラジフルミド水和剤	7		2000~4000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	3回以内	3回以内	うり類(成熟)
	ロブラル水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	メロン
斑点細菌病	Zボルト-	銅水和剤	M1		500倍	100~300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	カスミンボルト-	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	メロン
	コサイドボルト-	銅水和剤	M1		1000倍		-	散布	-	野菜類
べと病	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		400~600倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	メロン
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		700~1000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	メロン
	ヘトファイター顆粒水和剤	シモキサニル・ベンチアザリカルブイソプロピル水和剤	27,40		2000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	メロン
アブラムシ類	アリオン水和剤40	アラニカルブ水和剤	1A	劇	1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	メロン
	サンマイトアブル	ピリダベン水和剤	21A	劇	1000~1500倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	メロン
	ダントツ粒剤	クロチアニジン粒剤	4A		1~2g/株		育苗期後半	株元処理	1回	メロン
					1~2g/株		定植後 但し、収穫前日まで	株元散布	3回以内	メロン
					1~2g/株		定植時	植穴処理土 1回	メロン	
								壤混和		
ブロッソ粒剤オメガ	シアントラニリアロール粒剤	28		2g/株		育苗期後半~定植時	株元散布	1回	メロン	
ベストガード粒剤	ニテンピラム粒剤	4A		1~2g/株		定植時	植穴処理土 1回		メロン	
				1g/株		育苗期	株元処理	1回	メロン	
カリメカ	アリオン水和剤40	アラニカルブ水和剤	1A	劇	1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	メロン
カリハシ	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	メロン
コジラミ類	ダントツ粒剤	クロチアニジン粒剤	4A		1~2g/株		育苗期後半	株元処理	1回	メロン
					1~2g/株		定植時	植穴処理土 1回	メロン	
								壤混和		
	ベストガード粒剤	ニテンピラム粒剤	4A		1~2g/株		定植時	植穴処理土 1回		メロン
				1g/株		育苗期	株元処理	1回	メロン	
タネバエ	ダイヤジン粒剤3	ダイヤジン粒剤	1B		5~8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	メロン
トマトモクグリバエ	ダントツ粒剤	クロチアニジン粒剤	4A		2g/株		定植時	植穴処理土 1回		メロン
								壤混和		
ネコセンチュウ	ネマキック粒剤	イシアホス粒剤	1B		15~20kg/10a		定植前	全面土壌混和	1回	メロン
ミナミキアザミマ	ダントツ粒剤	クロチアニジン粒剤	4A		2g/株		定植時	植穴処理土 1回		メロン
								壤混和		
	ベストガード粒剤	ニテンピラム粒剤	4A		1~2g/株		定植時	植穴処理土 1回		メロン
								壤混和		

(7) きゅうり

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	アフェットフロアブル	ベンチオピラト水和剤	7		150g/10a	10%/10a	収穫前日まで	常温煙霧	3回以内	きゅうり
					2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶剤	NC		800~1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(トマト、ミニトマトを除く)
	ストロビ-フロアブル	クレキシメチル水和剤	11		3000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	トリアミン水和剤	トリアミン水和剤	3		3000~5000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	きゅうり
	ハッパ乳剤	なたね油乳剤	「-」		200倍	-	-	散布	-	きゅうり
	バンチョTF顆粒水和剤	シアルフェナト・トリアミン水和剤	3,U6		2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	きゅうり
	フルビカくん煙剤	メバニピリムくん煙剤	9	劇	くん煙室容積500立方 m(床面積250m ² ×高さ 2m)当り50g(1錠)	-	収穫前日まで	くん煙(通 常10~15時 間)	4回以内	きゅうり
	ベジセイバー	ベンチオピラト・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	モレスタン水和剤	キノキサリン系水和剤	"UN(I*)		2000~4000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
				20g/100立方m(50m ² × 2m)	-	収穫前日まで	くん煙	3回以内	きゅうり	
				50~100g/10a	5%/10a	収穫前日まで	常温煙霧	3回以内	きゅうり	
	リール水和剤	マイクロタニル水和剤	3		4000~8000倍	150~300%/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	きゅうり
疫病	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
褐斑病	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ストロビ-フロアブル	クレキシメチル水和剤	11		3000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	プロボース顆粒水和剤	ベンチアパリカルブイソプロピル・ TPN水和剤	40,M5		1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ベジセイバー	ベンチオピラト・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
菌核病	スミレックス水和剤	プロシミドン水和剤	2		1000~2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	6回以内	きゅうり
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500~2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	きゅうり
	ベンレート水和剤	ベンゾニル水和剤	1		2000~3000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ロブラル水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	きゅうり
黒星病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	12回以内	きゅうり
炭疽病	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	12回以内	きゅうり
つる枯病	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	トップジンMベ-スト	チオファネートメチルベ-スト剤	1		原液	-	発病初期	塗布	5回以内	きゅうり
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500~2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	きゅうり
苗立枯病	オゾンサイト水和剤80	キャブタン水和剤	M4		800倍	2%/m ²	は種後から2~3 葉期まで	灌注	5回以内	きゅうり
					種子重量の0.2~0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	きゅうり
苗立枯病(ビシム菌)	タチカレン液剤	ヒドロキシイキサゾール液剤	32		500~1000倍	3%/m ²	は種直後	土壌灌注	3回以内	きゅうり
苗立枯病(リゾクトニア菌)	バシタック水和剤75	メブニコル水和剤	7		750~1500倍	3%/m ²	は種時~子葉展 開時	土壌灌注	1回	きゅうり
					種子重量の0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	きゅうり
灰色かび病	スミレックス水和剤	プロシミドン水和剤	2		1000~2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	6回以内	きゅうり
					200g/10a	10%/10a	収穫前日まで	常温煙霧	2回以内	きゅうり
	フルビカくん煙剤	メバニピリムくん煙剤	9	劇	くん煙室容積500立方 m(床面積250m ² ×高さ 2m)当り50g(1錠)	-	収穫前日まで	くん煙(通 常10~15時 間)	4回以内	きゅうり
	フルビカフロアブル	メバニピリム水和剤	9		2000~3000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	きゅうり
	ロブラル水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000~1500倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	きゅうり
				200g/10a	5%/10a	収穫前日まで	常温煙霧	4回以内	きゅうり	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
斑点細菌病	ズボルトー	銅水和剤	M1		500倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	カスミンボルトー	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	きゅうり
	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類
べと病	ザンブ DM70アブル	アマトラジ・ジメトール水和剤	40,45		1500～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ストロビ-70アブル	クレスキシメチル水和剤	11		3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ゾーベックエンテクタSE	アミスルブ・ロム・ホキサチアピブ・ロリン水和剤	21,49		4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	きゅうり
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	12回以内	きゅうり
						33倍	10g/10a	収穫前日まで	常温煙霧	12回以内
	ブロボ-ズ 顆粒水和剤	ベソチアハリカルブ・イソプロピル・TPN水和剤	40,M5		1000～1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ベトファイター 顆粒水和剤	シモキサニル・ベソチアハリカルブ・イソプロピル水和剤	27,40		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ランマン70アブル	シアゾファミド水和剤	21		1000～2000倍	150～300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	きゅうり
リドミルコートMZ	マンゼブ・メタラキシルM水和剤	"UN(*),4		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり	
アブラムシ類	ベスタガード 水溶剤	ニテンピラム水溶剤	4A		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ベネビアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	粘着くん液剤	デソフソ液剤	[-]		100倍	150～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
ウリハムシ	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
オンシツコナジラミ	アデイオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	きゅうり
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	きゅうり
オンシツコナジラミ幼虫	アプロート水和剤	プロフェジソン水和剤	16		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
コナジラミ類	モレスタン水和剤	キキサリン系水和剤	"UN(*)		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
タネバエ	カルホス粉剤	イキサチオン粉剤	1B		4～6kg/10a		は種時	土壌表面散布 土壌混和 処理	1回	きゅうり
	ダイアジノン粒剤3	ダイアジノン粒剤	1B		5～8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	きゅうり

(8) かぼちゃ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
疫病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼ プ 水和剤	"UN(I*)		600倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	かぼちゃ
うどんこ病	シグナムWDG	ピラクトロピリンホスファイト水和剤	11,7		1500～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	かぼちゃ
	パンチョTF顆粒水和剤	シフルフェナミド・トリアルミゾール水和剤	3,U6		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	かぼちゃ
	モレスタン水和剤	キキサリン系水和剤	"UN(I*)		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	かぼちゃ
べと病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼ プ 水和剤	"UN(I*)		600倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	かぼちゃ
アブラムシ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	かぼちゃ
	マラソン粉剤3	マラソン粉剤	1B		3kg/10a		収穫前日まで	散布	5回以内	かぼちゃ
ウリハムシ	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	かぼちゃ
ウリハムシ幼虫	ダ イアジ ノン粒剤3	ダ イアジ ノン粒剤	1B		6～9kg/10a		植付時	土壌混和	1回	かぼちゃ
タネバエ	ダ イアジ ノン粒剤3	ダ イアジ ノン粒剤	1B		5～8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	かぼちゃ
ハダニ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	かぼちゃ
	マラソン粉剤3	マラソン粉剤	1B		3kg/10a		収穫前日まで	散布	5回以内	かぼちゃ

(9) いちご

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
萎黄病	ベンレート水和剤	ベニミル水和剤	1		500倍	-	仮植前	1～3時間苗根部浸漬	1回	いちご
					500倍	100mL/株	本圃定植後 但し、収穫30日前まで	灌注	1回	いちご
					500倍	50～100mL/株	育苗期	灌注	3回以内	いちご
うどんこ病	アフェットフロアブル	ベンチオピラト水和剤	7		2000倍	100～300 μ L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
	サンクス乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」		300～600倍	150～500 μ L/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類 (なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)
	シグナムWDG	ビラカストロピン・ボスカリド水和剤	11,7		2000倍	100～300 μ L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	いちご
	フルビカフロアブル	メバニピリム水和剤	9		2000～3000倍	100～300 μ L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
					50倍	5 μ L/10a	収穫前日まで	常温煙霧	3回以内	いちご
	ボリオキシAL水和剤	ボリオキシ水和剤	"「-」(I*)		1000倍	100～300 μ L/10a	収穫開始14日前まで	散布	3回以内	いちご
モレスタン水和剤	キキサリン系水和剤	"UN(I*)		3000～4000倍	100～300 μ L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	いちご	
じゃのめ病	トリアミン水和剤	トリアルミン水和剤	3		3000倍	100～300 μ L/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	いちご
炭疽病	アントラコール顆粒水和剤	ブロビネブ水和剤	M3		500倍	150～300 μ L/10a	仮植栽培期	散布	6回以内	いちご
	シグナムWDG	ビラカストロピン・ボスカリド水和剤	11,7		2000倍	100～300 μ L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	いちご
	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100～300 μ L/10a	仮植栽培期 但し収穫76日前まで	散布	6回以内	いちご
	セバアフロアブル20	フルジキソニル水和剤	12		1000倍	100～300 μ L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
灰色かび病	アフェットフロアブル	ベンチオピラト水和剤	7		2000倍	100～300 μ L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
	シグナムWDG	ビラカストロピン・ボスカリド水和剤	11,7		1500～2000倍	100～300 μ L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	いちご
	スミレックス水和剤	ブロシミン水和剤	2		2000倍	100～300 μ L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
	セバアフロアブル20	フルジキソニル水和剤	12		1000～1500倍	100～300 μ L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
	フルビカフロアブル	メバニピリム水和剤	9		2000～3000倍	100～300 μ L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
	ボリオキシAL水和剤	ボリオキシ水和剤	"「-」(I*)		1000倍	100～300 μ L/10a	収穫開始14日前まで	散布	3回以内	いちご
	ロブラル水和剤	イブロジオン水和剤	2		1500倍	100～300 μ L/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	いちご
アブラムシ類	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100倍	100～300 μ L/10a	収穫前日まで	散布	-	いちご
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300 μ L/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	いちご
イトトンボ	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000倍	100～300 μ L/10a	育苗期	散布	4回以内	いちご
					1000倍	100～300 μ L/10a	定植後生育初期	散布	4回以内	いちご
コガネムシ類幼虫	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	2～3 μ L/m ²	移植活着後(育苗期)	灌注	4回以内	いちご
ハダニ類	カネマイフロアブル	アセキシル水和剤	20B		1000～1500倍	150～300 μ L/10a	収穫前日まで	散布	1回	いちご
	ダニサラバフロアブル	シフルメフェン水和剤	25A		1000倍	100～350 μ L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	いちご
	マイトコネフロアブル	ビフェナゼート水和剤	20D		1000倍	100～300 μ L/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	いちご

(10) キャベツ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
菌核病	オルフィンフロアブル	フルビラム水和剤	"[-](*)		2000~3000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	1回	キャベツ
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1000~1500倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	ネクスターフロアブル	イピラザム水和剤	7		1000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	バレード207フロアブル	ピラジフルミド水和剤	7		100倍	セル成型育苗トレイ1箱または、 ペーパーポット1冊(約30× 60cm、使用土壌約1.5~4g) 当り0.5g	育苗期後半~定植当 日	灌注	1回	キャベツ
					2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
黒腐病	ゾルクトー	銅水和剤	M1		500倍	100~300g/10a	-	散布	-	野菜類 (キャベツ を除く)
	リゼメート粒剤	ブロンゾール粒剤	P2		6~9kg/10a		定植時	全面土壌 混和又は 作条土壌 混和	1回	キャベツ
	カスミンゾルトー	カスカイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	キャベツ
	ヨネン水和剤	ニルフェノールスルホン酸銅水和剤	M1		500倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	キャベツ
軟腐病	ゾルクトー	銅水和剤	M1		500~1000倍	100~300g/10a	-	散布	-	野菜類 (キャベツ を除く)
	カスミンゾルトー	カスカイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	キャベツ
	マスタース水和剤	シュートモナシロシア水和剤	「 (生)」		1000~2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	-	キャベツ
	ヨネン水和剤	ニルフェノールスルホン酸銅水和剤	M1		500倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	キャベツ
根こぶ病	ランマンフロアブル	シアゾファミド水和剤	21		2000倍	250mL/株	収穫14日前まで	株元灌注	1回	キャベツ
					500倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペ ーパーポット1冊(30×60cm、使用 土壌約2.5~7g)当り2g	定植前日~当日	灌注	1回	キャベツ
べと病	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(*)		400~600倍	100~300g/10a	収穫30日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100~300g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	キャベツ
アムシ	アキ乳剤	レピメクチン乳剤	6		1000~2000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	アファームイクセラ顆粒水和剤	エマメクチン安息香酸塩・ルフェニロン水和剤	15,6		1000~1500倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000~2000倍	100~300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	キャベツ
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3~6kg/10a(1~ 2g/株)		定植時	植穴処理	1回	キャベツ
	カスケード乳剤	フルフェクソン乳剤	15		16~24倍	0.8~1.6g/10a	収穫7日前まで	無人航空 機による 散布	2回以内	キャベツ
					2000~4000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	グレース乳剤	フルキサメタミド乳剤	30		2000~3000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	コテツフロアブル	クロルフェニル水和剤	13	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	キャベツ
	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		1000~1500倍	100~300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	キャベツ
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3~6kg/10a(1~ 2g/株)		定植時	植穴処理	1回	キャベツ
	ジュリボフロアブル	クロラントラニリブロール・チアマトキサム水和剤	28,4A		1000倍	苗地床1㎡当り2g	は種時~育苗期後半	灌注	1回	キャベツ
					200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペ ーパーポット1冊(約30×60cm、使 用土壌約1.5~4g)当り0.5g	育苗期後半~定植当 日	灌注	1回	キャベツ
					4000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
スビーエース顆粒水和剤	スビーサド水和剤	5		2500~5000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ	
ゼンタリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000~2000倍	100~300L/10a	発生初期 但し、収穫 前日まで	散布	-	キャベツ	
トロン乳剤	イトフェンブロックス乳剤	3A		1000~2000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名								
アムシ	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ								
	ブレイフアブル	ピリダリル水和剤	UN		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ								
	ブレイブソフアブル5	クワントラニリブロール水和剤	28		100倍	セル成型育苗トレイ1箱または ^ハ - ^ボ ット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4g)当り0.5g	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	キャベツ								
					2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ								
					500倍	苗地床1㎡当り2g	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	キャベツ								
	ベネブアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ								
	モスピラン粒剤	アセミアプリド粒剤	4A		0.5～1g/株		定植前日～定植当日	株元散布	1回	キャベツ								
1～2g/株						定植時	植穴土壌混和	1回	キャベツ									
ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	キャベツ									
アザミヤカ類	ベリマークSC	シアントラニリブロール水和剤	28		400倍	セル成型育苗トレイ1箱または ^ハ - ^ボ ット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4g)当り0.5g	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	キャベツ								
	モブントフアブル	スピロテトラマト水和剤	23		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ								
アブラムシ類	アクタラ顆粒水溶剤	チアマトキサム水溶剤	4A		100倍	セル成型育苗トレイ1箱または ^ハ - ^ボ ット1冊(30×60cm・使用土壌約3～4g)当り0.5g	育苗期後半	灌注	1回	キャベツ								
					2000～3000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ								
	ベネブアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ								
	ベリマークSC	シアントラニリブロール水和剤	28		400倍	セル成型育苗トレイ1箱または ^ハ - ^ボ ット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4g)当り0.5g	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	キャベツ								
									モスピラン粒剤	アセミアプリド粒剤	4A		0.5～1g/株		定植前日～定植当日	株元散布	1回	キャベツ
													1～2g/株		定植時	株元散布	1回	キャベツ
						1g/株		定植時	植穴土壌混和	1回	キャベツ							
モブントフアブル	スピロテトラマト水和剤	23		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ									
カガキ類	ベネブアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ								
カガキコガ	アネキ乳剤	レピメクチン乳剤	6		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ								
	ブレイフアブル	ピリダリル水和剤	UN		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ								
	ベネブアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ								
コガ	アタロン乳剤	クワルフルアスロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	キャベツ								
	アネキ乳剤	レピメクチン乳剤	6		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ								
	アファームエケセラ顆粒水和剤	エマメクチン安息香酸塩・ルフェスロン水和剤	15,6		1000～1500倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ								
	カスケード乳剤	フルフェノキサロン乳剤	15		16～24倍	0.8～1.6g/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	キャベツ								
					2000～4000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ								
	グレースシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	30		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ								
	コテツアブル	クワルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	キャベツ								
	ジュリボアブル	クワントラニリブロール・チアマトキサム水和剤	28,4A		1000倍	苗地床1㎡当り2g	は種時～育苗期後半	灌注	1回	キャベツ								
					200倍	セル成型育苗トレイ1箱または ^ハ - ^ボ ット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4g)当り0.5g	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	キャベツ								
					4000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ								
スピノース顆粒水和剤	スピノサト水和剤	5		2500～5000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ									
ゼンタリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	キャベツ									

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
コガ	トアロ-水和剤CT	BT水和剤	11A		1000~2000倍	100~300 μ g/10a	発生初期 但し収穫前日まで	散布	-	野菜類 (パセリ、えごま(葉)を除く)
	トクチオン乳剤	ブロチホス乳剤	1B		1000倍	100~300 μ g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	トレボン乳剤	エトフェンブロックス乳剤	3A		1000~2000倍	100~300 μ g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ノモルト乳剤	テフルベノズロン乳剤	15		16倍	1.6 μ g/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	キャベツ
					2000倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	バダソング水溶剤	カルタップ水溶剤	14	劇	1500倍	100~300 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	キャベツ
	ブレバソングアブル5	クロラントリニプロール水和剤	28		100倍	セル成型育苗トレイ1箱または ϕ 10cmポット1冊(約30 \times 60cm、使用土壌約1.5~4 μ g)当たり0.5 μ g	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	キャベツ
					2000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
					500倍	苗地床1 m^2 当たり2 μ g	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	キャベツ
	ベネビアOD	シアントラニプロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
モスピラン粒剤	アセチアミド粒剤	4A		0.5~1g/株		定植前日~定植当日	株元散布	1回	キャベツ	
				1~2g/株		定植時	植穴土壌混和	1回	キャベツ	
ネリムシ類	カルホス粉剤	イキサチオン粉剤	1B		6kg/10a		は種時又は植付時	土壌表面散布土壌混和处理	1回	キャベツ
	ダイアジノン粒剤3	ダイアジノン粒剤	1B		6~9kg/10a		収穫30日前まで	土壌混和	2回以内	キャベツ
	デナボン5%ベイト	NAC粒剤	1A		3~6kg/10a		収穫14日前まで	株元散布	3回以内	キャベツ
	ネリエースK	イキサチオン粒剤	1B		3kg/10a		は種時又は定植時	土壌表面株元処理	1回	キャベツ
ハイダラノメイガ	アファームエケセラ顆粒水和剤	エマメクチン安息香酸塩・ルフェキサゾン水和剤	15,6		1000~1500倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000~2000倍	100~300 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	ジュリボアアブル	クロラントリニプロール・チアメトキサム水和剤	28,4A		1000倍	苗地床1 m^2 当たり2 μ g	は種時~育苗期後半	灌注	1回	キャベツ
					200倍	セル成型育苗トレイ1箱または ϕ 10cmポット1冊(約30 \times 60cm、使用土壌約1.5~4 μ g)当たり0.5 μ g	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	キャベツ
					4000倍	100~300 μ g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ベネビアOD	シアントラニプロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
マトリックアアブル	クロマフェニゾド水和剤	18		2000倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	キャベツ	
ハモク	アクセルアアブル	メタフルミジン水和剤	22B		1000~2000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	アキ乳剤	レピメクチン乳剤	6		1000~2000倍	100~300 μ g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	コテツアアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	キャベツ
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500~5000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	キャベツ
	ハクサップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	1000~2000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	キャベツ
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28		2000~4000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	ブレオアアブル	ピリダリル水和剤	UN		1000倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	アフロアSC	アフロアニド水和剤	30		2000~4000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	ベネビアOD	シアントラニプロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	ベリマクSC	シアントラニプロール水和剤	28		400倍	セル成型育苗トレイ1箱または ϕ 10cmポット1冊(約30 \times 60cm、使用土壌約1.5~4 μ g)当たり0.5 μ g	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	キャベツ
	マツ乳剤	ルフェキサゾン乳剤	15		3000倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ランネット45DF	メソル水和剤	1A	劇	1000~2000倍	100~300 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	キャベツ

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
ヨトウムシ	アファームエケセラ顆粒水和剤	エマメクチン安息香酸塩・ルフェヌロン水和剤	15,6		1000~1500倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000~1500倍	100~300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	キャベツ
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3~6kg/10a(1~2g/株)		定植時	植穴処理	1回	キャベツ
	コテツアプロフル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	キャベツ
	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		1000~1500倍	100~300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	キャベツ
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3~6kg/10a(1~2g/株)		定植時	植穴処理	1回	キャベツ
	ジュリボフロアブル	クロラントラニリブロール・チアマトキサム水和剤	28,4A		1000倍	苗地床1㎡当り2g	は種時~育苗期後半	灌注	1回	キャベツ
					200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4g)当り0.5g	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	キャベツ
					4000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	スピノース顆粒水和剤	スピノサト水和剤	5		2500~5000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ゼンタリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000~2000倍	100~300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	キャベツ
	トレボン乳剤	エトフェンブロックス乳剤	3A		1000~2000倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ハウザップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	1000~2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	キャベツ
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミト水和剤	28		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	ベネブアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
ランネート45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000~2000倍	100~300g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	キャベツ	

キャベツ コナガ防除対策

防除のポイント

- 1) 育苗時または定植時に薬剤処理を行い、初期防除を徹底する。
- 2) 老齢幼虫や蛹では薬剤の効果が劣るため、早期発見に努め若齢幼虫期に防除を行う。
- 3) 幼虫は葉の裏に生息するので、葉の裏まで薬液がかかるように散布する。
- 4) 薬剤抵抗性が発達しやすいので同一系統の薬剤の連用は避け、系統をかえてローテーション散布を行う。

コナガに対する薬剤感受性 (2015年、2018年病害虫防除室調査)

- 低 (ほとんどの地域で防除効果 50%以下) …有機リン系、カーバメート系
- 地域によって変動するもの…ジアミド系
- 高 (ほとんどの地域で防除効果 80%以上) …ピリダリル、ピレスロイド系

※抵抗性の発達程度は地域により差があるため、効果が不十分であれば、使用を避ける。

(散布2～5日後に幼虫が多数生息している場合は、抵抗性が発達した可能性が高い)

- 5) 性フェロモンでの防除も有効である (→フェロモン剤使用方法を参照)。
- 6) 収穫残さで増殖するため、できるかぎり早く処分する。
- 7) 圃場周辺に自生しているアブラナ科雑草は、本虫の発生源となるため、こまめな除草を心がける。

【参考】キャベツのコナガ防除薬剤一覧

IRAC コード	農薬名	使用時期	コナガ	アブラ ムシ類	アオ ムシ	ハス モン ヨトウ	ヨトウ ムシ	タマナギ ンウワバ	ハイマ ダラン メイガ	オオタ バコガ
1A	ランネート45DF	収穫14日前まで	○	○	○	○	○	○		
1B	オルトラン粒剤、ジェイエース粒剤	定植時	○	○	○	○	○			
	オルトラン水和剤、ジェイエース水和剤	収穫30日前まで	○	○	○	○	○			
	トクチオン乳剤	収穫21日前まで	○	○	○	○	○	○ウワバ類		
	エルサン乳剤	収穫14日前まで	○	○	○	○	○		○	
3A	トレボン乳剤	収穫3日前まで	○	○	○	○				
4A	モスピラン粒剤	定植前日～定植当日	○	○	○	○			○	
5	スピノエース顆粒水和剤	収穫3日前まで	○		○		○	○	○	
	ディアナSC	収穫前日まで	○		○	○	○	○ウワバ類	○	○
6	アニキ乳剤	収穫3日前まで	○		○	○		○ウワバ類	○	○
11A	ゼンターリ顆粒水和剤	発生初期 (収穫前日まで)	○		○	○	○			○
	トアロー水和剤CT	発生初期 (収穫前日まで)	○		○		○			
13	コテツフロアブル	収穫前日まで	○		○	○	○	○	○	○
14	パダンSG水溶剤	収穫14日前まで	○	○	○				○	
15	ノーモルト乳剤	収穫7日前まで	○		○	○	○	○		
	アタブロン乳剤	収穫7日前まで	○		○	○	○	○	○	
	マッチ乳剤	収穫7日前まで	○		○	○	○		○	
	カスケード乳剤	収穫7日前まで	○		○	○	○	○	○	○
22B	アクセルフロアブル	収穫前日まで	○		○	○	○	○ウワバ類	○	○
23	モベントフロアブル	収穫7日前まで	○	○	○					
28	ベネビアOD	収穫前日まで	○	○	○	○	○	○ウワバ類	○	○
	プレバソン粒剤	育苗期後半～定植当日	○		○				○	
	プレバソンフロアブル5	育苗期後半～定植当日	○		○	○	○	○ウワバ類	○	○
	ベリマークSC	育苗期後半～定植当日	○	○	○	○	○	○ウワバ類	○	
	フェニックス顆粒水和剤	収穫前日まで	○		○	○	○	○ウワバ類	○	○
30	グレーシア乳剤	収穫7日前まで	○		○	○	○	○ウワバ類	○	○
UN	プレオフロアブル	収穫7日前まで	○		○	○	○	○ウワバ類	○	○
3A,1B	ハクサップ水和剤	収穫前日まで	○	○	○	○	○	○		○
6,15	アフームエクセラ顆粒水和剤	収穫7日前まで	○		○	○	○	○	○	
28, 4A	ジュリボフロアブル	は種時～育苗期後半	○	○	○	○	○		○	
		育苗期後半～定植当日	○	○	○	○	○		○	
		収穫3日前まで	○	○	○	○	○		○	○

※農薬の使用にあたっては、必ず使用濃度、使用量、使用回数等を確認する。

(11) ブロッコリー

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
花蕾腐敗病	マスタビース水和剤	シュート・モナス・ロデシア水和剤	「- (生)」		1000~2000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	-	ブロッコリー
黒腐病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500倍	100~300 μ g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	カスミンボルトー	カサマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	ブロッコリー
	ヨネボンド水和剤	ノニルフェノールスルホン酸銅水和剤	M1		500倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	ブロッコリー
軟腐病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500~1000倍	100~300 μ g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
根こぶ病	オラクル粉剤	アミルプロム粉剤	21		20kg/10a		定植前	作条土壌混和	2回以内	ブロッコリー
					30kg/10a		定植前	全面土壌混和	2回以内	ブロッコリー
	ランマンフロアブル	シアゾフアミド水和剤	21		2000倍	250mL/株	収穫14日前まで	株元灌注	1回	ブロッコリー
					500倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約2.5~7 μ g)当り2 μ g	定植前日~当日	灌注	1回	ブロッコリー
アムシ	スピノエース顆粒水和剤	スピノサド水和剤	5		5000倍	100~300 μ g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	ハクサップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	2000倍	100~300 μ g/10a	収穫30日前まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	ブレバソフフロアブル5	クロラントラニプロール水和剤	28		100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4 μ g)当り0.5 μ g	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	ブロッコリー
					2000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
					2000~4000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	ヘネビアOD	シアントラニプロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	モスピラン粒剤	アセタミプリド粒剤	4A		0.5~1g/株		定植前日~定植当日	株元散布	1回	ブロッコリー
1g/株						定植時	植穴土壌混和	1回	ブロッコリー	
アムシ類	ヘネビアOD	シアントラニプロール水和剤	28		2000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	モスピラン粒剤	アセタミプリド粒剤	4A		0.5~1g/株		定植前日~定植当日	株元散布	1回	ブロッコリー
1g/株						定植時	植穴土壌混和	1回	ブロッコリー	
コガ	アタフロン乳剤	クロルフルアズロン乳剤	15		2000倍	100~300 μ g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー
	カスケード乳剤	フルフェノキサロン乳剤	15		4000倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー
	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100~300 μ g/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー
	スピノエース顆粒水和剤	スピノサド水和剤	5		5000倍	100~300 μ g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	ゼンタリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000~2000倍	100~300L/10a	発生初期 但し、 収穫前日まで	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
	トアロー水和剤CT	BT水和剤	11A		1000~2000倍	100~300 μ g/10a	発生初期 但し収 穫前日まで	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
	ノモルト乳剤	テフルベンスロン乳剤	15		2000倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー
	バダソSG水溶剤	カルタップ水溶剤	14	劇	1500倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	ブロッコリー
	ブレバソフフロアブル5	クロラントラニプロール水和剤	28		100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4 μ g)当り0.5 μ g	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	ブロッコリー
					2000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
					2000~4000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	ヘネビアOD	シアントラニプロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	モスピラン粒剤	アセタミプリド粒剤	4A		0.5~1g/株		定植前日~定植当日	株元散布	1回	ブロッコリー
1~2g/株						定植時	植穴土壌混和	1回	ブロッコリー	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
ネキリムシ類	ダイアジノン粒剤3	ダイアジノン粒剤	1B		6~9kg/10a		収穫30日前まで	土壌混和	2回以内	ブロッコリー
ハイマダラノメイガ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000~2000倍	100~300 μ g/10a	収穫30日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー
ハスモンヨトウ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100~300 μ g/10a	収穫30日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー
	プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	UN		1000倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー
	ベネビオOD	シアントラニプロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
ヨトウムシ	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		6kg/10a(2g/株)		定植時	株元散布	1回	ブロッコリー
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		6kg/10a(2g/株)		定植時	株元散布	1回	ブロッコリー
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー

(12) かぶ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
根こぶ病	ダコソイル	TPN粉剤	M5		20~40kg/10a		は種前	作条施用土 壤混和	1回	かぶ
	ネビジン粉剤	フルスファミド 粉剤	36		20kg/10a		は種又は定植前	作条土壌混 和	1回	かぶ
					30kg/10a		は種又は定植前	全面土壌混 和	1回	かぶ
フロキサド 粉剤	フルアジナム粉剤	29		30~40kg/10a		は種又は定植前	全面土壌混 和	1回	かぶ	
アムシ	トアロ-フロアブ ルCT	BT水和剤	11A		1000~2000倍		発生初期 但し 収穫 前日まで	散布	-	野菜類
	マラソン乳剤50	マラソン乳剤	1B		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	かぶ
アラムシ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000~3000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	かぶ
カブラハチ	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	かぶ
キスジノミハムシ	ハチハチ乳剤	トルフェンビラト 乳剤	"21A(*)	劇	2000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	1回	かぶ
	フォース粒剤	テアルトリノ粒剤	3A	劇	4kg/10a		は種時	播溝土壌混 和	1回	かぶ
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミアリト 水溶剤	4A	劇	2000倍	100~300%/10a	収穫21日前まで	散布	1回	かぶ
コガ	トアロ-フロアブ ルCT	BT水和剤	11A		1000~2000倍		発生初期 但し 収穫 前日まで	散布	-	野菜類
ハイマダラメイガ	ハチハチ乳剤	トルフェンビラト 乳剤	"21A(*)	劇	2000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	1回	かぶ
ヨウムシ	トアロ-水和剤CT	BT水和剤	11A		500~1000倍	100~300%/10a	発生初期 但し 収穫 前日まで	散布	-	野菜類(パ セリ、えご ま(葉)を 除く)

(13) だいこん

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
亀裂褐変症(リゾトリア菌)	バシタック水和剤75	メブロニル水和剤	7		1000~1500倍	100~300g/10a	収穫21日前まで	散布	3回以内	だいこん
	バリダシン粉剤DL	バリダマイシン粉剤	U18		20kg/10a		収穫7日前まで	株元散布	4回以内	だいこん
黒斑細菌病	Zボルドー	銅水和剤	M1		500倍	100~300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
白さび病	ビシロックフロアブル	ビカルブトリアゾクス水和剤	U17		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	だいこん
軟腐病	Zボルドー	銅水和剤	M1		500~1000倍	100~300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100~300g/10a	-	散布	-	野菜類
	スターナ水和剤	オキソニク酸水和剤	31		1000倍	100~300g/10a	収穫14日前まで	散布	5回以内	だいこん
	バイクーパー水和剤	非病原性エルビニアカトホーラ水和剤	「-(生)」		500~2000倍	150~300g/10a	発病前~発病初期	散布	-	野菜類(かぼちゃ、ズッキーニを除く)
ワッカ症	ビシロックフロアブル	ビカルブトリアゾクス水和剤	U17		1000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	だいこん
アオムシ	アタフロン乳剤	クロルフルアズロン乳剤	15		2000倍	100~300g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	だいこん
	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000~2000倍	100~300g/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類
	ハクサップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	1000~2000倍	100~300g/10a	収穫35日前まで	散布	3回以内	だいこん
	プレオフロアブル	ビリダリル水和剤	UN		1000倍	100~300g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	だいこん
	ベネビアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	だいこん
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000~2000倍	100~300g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	だいこん
	アブラムシ類	ホルラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3~4kg/10a		は種前	作条散布	1回
ジェイエース粒剤		アセフェート粒剤	1B		3~4kg/10a		は種前	作条散布	1回	だいこん
ベネビアOD		シアントラニリアロール水和剤	28		2000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	だいこん
マラソン乳剤		マラソン乳剤	1B		1000~3000倍	100~300g/10a	収穫14日前まで	散布	6回以内	だいこん
キスジノミハムシ	フォース粒剤	テフルリン粒剤	3A	劇	4~9kg/10a		は種時	播溝土壌混和	1回	だいこん
					6~9kg/10a		は種時	全面土壌混和	1回	だいこん
					6kg/10a		収穫14日前まで	株元散布	1回	だいこん
コガ	アタフロン乳剤	クロルフルアズロン乳剤	15		2000倍	100~300g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	だいこん
	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000~2000倍	100~300g/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類
	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000~1500倍	100~300g/10a	収穫30日前まで	散布	2回以内	だいこん
	トアロー水和剤CT	BT水和剤	11A		1000~2000倍	100~300g/10a	発生初期 但し収穫前日まで	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
	トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	22A		2000倍	100~300g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	だいこん
	バダソグ水溶剤	カルタップ水溶剤	14	劇	1500倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	だいこん
	プレオフロアブル	ビリダリル水和剤	UN		1000倍	100~300g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	だいこん
	ベネビアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	だいこん
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000~2000倍	100~300g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	だいこん
	ネキリムシ類	カルホス粉剤	イソキサチオン粉剤	1B		6kg/10a		は種時	土壌表面散布 土壌混和处理	1回
デナボン5%ペイト		NAC粒剤	1A		3~6kg/10a		収穫30日前まで	株元散布	4回以内	だいこん
ネキリエースK		イソキサチオン粒剤	1B		3kg/10a		は種時又は定植時	土壌表面株元処理	1回	だいこん
ネグサレセンチュウ	ネマクリン粒剤	フルベラム粒剤	"「-」(I*)		20kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	だいこん
	ビレーラム粒剤	フルベラム粒剤	"「-」(I*)		20kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	だいこん
ネコバセンチュウ	ネマクリン粒剤	フルベラム粒剤	"「-」(I*)		20kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	だいこん
	ビレーラム粒剤	フルベラム粒剤	"「-」(I*)		20kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	だいこん

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
ハイダラメイカ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000～2000倍	100～300 μ g/10a	収穫30日前まで	散布	2回以内	だいこん
	トルネード エースDF	インドキサカルブ水和剤	22A		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	だいこん
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28		2000～4000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	だいこん
	ベネビアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	だいこん
ヨトウムシ	アタフロン乳剤	クロルフルアズロン乳剤	15		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	だいこん
	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000倍	100～300 μ g/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類
	ハクサップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	1000～2000倍	100～300 μ g/10a	収穫35日前まで	散布	3回以内	だいこん
	ベネビアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		4000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	だいこん
	マトリックフロアブル	クロマフェジト水和剤	18		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	だいこん

(14) はくさい

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
黒斑病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
軟腐病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500～1000倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	スターナ水和剤	オキソリニック酸水和剤	31		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	はくさい
	バイクーパー水和剤	非病原性エルビニアカトポラー水和剤	「- (生)」		500～2000倍	150～300g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類(かぼちゃ、ズッキーニを除く)
	バリダシ液剤5	バリダマイシ液剤	U18		500倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	はくさい
根くびれ病	ダコソイル	TPN粉剤	M5		30～40kg/10a		は種又は定植前	作条施用土 壤混和	1回	はくさい
根こぶ病	ダコソイル	TPN粉剤	M5		10g/植穴1穴		は種又は定植前	植穴処理土 壤混和	1回	はくさい
					30～40kg/10a		は種又は定植前	全面施用土 壤混和	1回	はくさい
					30kg/10a		は種又は定植前	作条施用土 壤混和	1回	はくさい
	セージン粉剤	フルスファミド粉剤	36		20～30kg/10a		は種又は定植前	全面土壌混 和	1回	はくさい
					20kg/10a		は種又は定植前	作条土壌混 和	1回	はくさい
	フロンサイト粉剤	フルアジナム粉剤	29		15～20kg/10a		は種又は定植前	作条土壌混 和	1回	はくさい
					30～40kg/10a		は種又は定植前	全面土壌混 和	1回	はくさい
	ランマンフロアブル	シアゾファミド水和剤	21		2000倍	250mL/株	収穫14日前まで	株元灌注	1回	はくさい
500倍					セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1 冊(30×60cm、使用 土壌約2.5～7g)当 り2g	定植前日～当日	灌注	1回	はくさい	
白斑病	シグナムWDG	ビラクトロピリン・ホスカリド水和剤	11,7		1500～2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	はくさい
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
	ペンレート水和剤	ペニシル水和剤	1		2000～3000倍	100～300mL/m ²	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
2000～3000倍					100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい	
べと病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
アムシ	アタフロン乳剤	クロルフルアズロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	はくさい
	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1500～2000倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	はくさい
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～ 2g/株)		定植時	植穴処理	1回	はくさい
	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	はくさい
	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		1500倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	はくさい
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～ 2g/株)		定植時	植穴処理	1回	はくさい
	ハクザップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	はくさい
	ブレイフロアブル	ピリダリル水和剤	UN		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
	ブレイソフロアブル5	クロラントリニプロール水和剤	28		100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1 冊(約30×60cm、使 用土壌約1.5～4g) 当り0.5g	育苗期後半～定植 当日	灌注	1回	はくさい
					2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	はくさい
	ランネット45DF	メソシル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	はくさい

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
アブラムシ類	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1500～2000倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	はくさい
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	はくさい
	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		1500倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	はくさい
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	はくさい
	ベリマークSC	シアントラニリア ロール水和剤	28		400倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはベリマークSC 1 冊(約30×60cm、使用 土壌約1.5～4g) 当り0.5g	育苗期後半～定植 当日	灌注	1回	はくさい
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	はくさい
コナジラミ	アタックロン乳剤	クロルフルアスロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	はくさい
	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000～1500倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	3回以内	はくさい
	コテツプロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	はくさい
	トアロフロアブルCT	BT水和剤	11A		1000～2000倍		発生初期 但し 収穫 前日まで	散布	-	野菜類
	ノモルト乳剤	テフルベンスロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
	バダックSG水溶剤	カルタップ水溶剤	14	劇	1500倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	はくさい
	プレハブソフプロアブル5	クロラントラニリア ロール水和剤	28		100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはベリマークSC 1 冊(約30×60cm、使用 土壌約1.5～4g) 当り0.5g	育苗期後半～定植 当日	灌注	1回	はくさい
					2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	はくさい
ネキリムシ類	カルホス粉剤	イソキサチオン粉剤	1B		6kg/10a		は種時又は植付時	土壌表面散 布土壌混和	1回	はくさい
	デナポックス5%ベイト	NAC粒剤	1A		3～6kg/10a		収穫21日前まで	株元散布	3回以内	はくさい
ハイマダラノメイガ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	3回以内	はくさい
ヨトウムシ	アタックロン乳剤	クロルフルアスロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	はくさい
	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1500倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	はくさい
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	はくさい
	コテツプロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	はくさい
	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		1500倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	はくさい
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	はくさい
	ハクザップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	はくさい
	プレオフロアブル	ピリタリル水和剤	UN		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	はくさい

(15) 非結球あぶらな科葉菜類

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
白斑病	ベンレート水和剤	ベンゾミル水和剤	1		4000倍	100～300mL/m ²	収穫21日前まで	散布	1回	非結球あぶらな科葉菜類(みずな、チンゲンサイを除く)
					4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫21日前まで	散布	1回	非結球あぶらな科葉菜類(みずな、チンゲンサイを除く)
根こぶ病	オラクル粉剤	アミスターロム粉剤	21		20～30kg/10a		は種前又は定植前	全面土壌混和	2回以内	非結球あぶらな科葉菜類
アムシ	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
	トアロ水和剤CT	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発生初期 但し収穫前日まで	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
アブラムシ類	アルパリン粒剤	ジノテフラン粒剤	4A		6kg/10a		は種時	播溝土壌混和	1回	非結球あぶらな科葉菜類(チンゲンサイを除く)
	スタークル粒剤	ジノテフラン粒剤	4A		6kg/10a		は種時	播溝土壌混和	1回	非結球あぶらな科葉菜類(チンゲンサイを除く)
キスジノミハムシ	アルパリン粒剤	ジノテフラン粒剤	4A		6kg/10a		は種時	播溝土壌混和	1回	非結球あぶらな科葉菜類(チンゲンサイを除く)
	スタークル粒剤	ジノテフラン粒剤	4A		6kg/10a		は種時	播溝土壌混和	1回	非結球あぶらな科葉菜類(チンゲンサイを除く)
	フォース粒剤	テフルリン粒剤	3A	劇	4kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	非結球あぶらな科葉菜類(からしなを除く)
コガ	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	非結球あぶらな科葉菜類(こまつな、チンゲンサイ、なばな類を除く)
	トアロ水和剤CT	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発生初期 但し収穫前日まで	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
ハスモンヨトウ	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	非結球あぶらな科葉菜類(こまつな、チンゲンサイ、なばな類を除く)
ヨトウムシ	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
	トアロ水和剤CT	BT水和剤	11A		500～1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発生初期 但し収穫前日まで	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)

(16) ほうれんそう

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
苗木枯病(リゾクトニア菌)	バシタック水和剤75	メアロニル水和剤	7		1000倍	-	は種前	24時間種子浸漬	1回	ほうれんそう
					200倍	-	は種前	1時間種子浸漬	1回	ほうれんそう
					750~1500倍	3% ² /m ²	は種時~子葉展開時	土壌灌注	1回	ほうれんそう
					種子重量の0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	ほうれんそう
べと病	ビシロックフロアブル	ビカルトロン ² 水和剤	U17		1000倍	100~300% ² /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ほうれんそう
	フェステイパ ² ル水和剤	ジメトモル水和剤	40		2000倍	100~300% ² /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ほうれんそう
アブラムシ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000~3000倍	100~300% ² /10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	ほうれんそう
シロビノメイガ	カスケード ² 乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100~300% ² /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ほうれんそう
ハスモンヨトウ	カスケード ² 乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100~300% ² /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ほうれんそう
ホレンソウナガコダニ	カスケード ² 乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100~300% ² /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ほうれんそう
	コテツフロアブル	クロルフェナピ ² ル水和剤	13	劇	4000~6000倍	100~300% ² /10a	2葉期まで 但し、収穫14日前まで	散布	1回	ほうれんそう
	コテツバ ² イト	クロルフェナピ ² ル粒剤	13		3~6kg/10a		は種時~2葉期まで 但し、収穫14日前まで	全面土壌散布	1回	ほうれんそう
マハモグ ² リハ ² エ	カスケード ² 乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100~300% ² /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ほうれんそう
ヨウムシ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100~300% ² /10a	収穫21日前まで	散布	1回	ほうれんそう
	ノモルト乳剤	テフルベ ² ンス ² ロン乳剤	15		2000倍	100~300% ² /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ほうれんそう

ハウレンソウケナガコナダニの総合的防除

ハウレンソウケナガコナダニ（以下「コナダニ」）の防除は、化学農薬の散布が一般的であるが、ハウレンソウに登録のある農薬は少なく、生育後半には使用できないため、農薬散布に代わる耕種的防除技術を導入した総合的防除体系を実践する。

1 完熟堆肥の施用

1年以上堆積した完熟堆肥は、施用後のコナダニの生息数の増加を低く抑えることができる。

堆積期間が3ヵ月未満の未熟な堆肥を施用するとコナダニの生息数が増加するので使用しない。（図1）

2 品種の選定

開張性の品種は株間の湿度が高くなり、コナダニの生育数が増加する。コナダニの被害発生には、品種間差が大きい。

発芽揃いが良く、草姿が立性の品種を使用すると、被害を低く抑えることができる。（表1）

3 水管理による防除

土壌タイプでは、砂壌土の方が水持ちの良い粘質土より被害の発生が多くなる。

コナダニは、土壌が乾燥するとハウレンソウに移動し被害を出す。かん水チューブを2列間隔で下向きに設置し、収穫7日前まで土壌表面だけが湿る程度の少量かん水を続けることによって、コナダニの土壌中からハウレンソウ株への移動を減らし、被害を抑制することができる。（表2）

4 播種直前の土壌中のコナダニの生息密度と防除の目安

福井県農業試験場が開発した簡易な土壌中生息密度計測法（※）による生息密度が5頭以上の時、収穫時の被害株率は約10%となり化学農薬による防除が必要である（図2）。播種前の土壌中のコナダニの生息密度を調査することによって、防除の要否を判断することができる。

5 化学的防除の効果の向上

殺虫剤を散布する際、機能性展着剤であるアプローチB Iを添加すると土壌中のコナダニの死虫率が高くなり、防除効果が向上する。

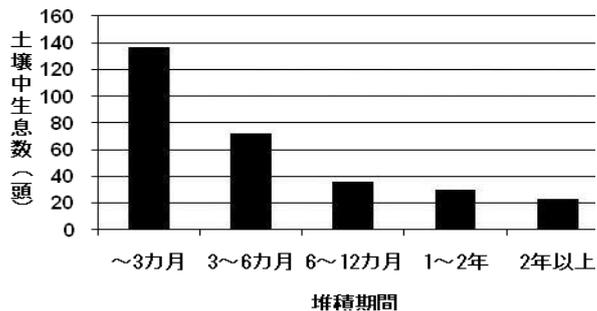


図1 堆肥の堆積期間と施用後のコナダニの生息数

表1 主要品種のコナダニによる被害発生状況

品種名	草姿	は種7日後 発芽率(%)	収穫時の 被害株率 (%)
アクティオン	開張性	37.8	23.0
トリトン	開張性	78.6	14.2
リード	半立性	45.2	20.8
アンナ	半立性	76.4	9.4
ミラージュ	立性	82.4	4.2
トラッド7	立性	86.8	4.4
クロノス	立性	82.0	3.0

表2 土壌タイプおよび灌水方法とコナダニの被害の発生

処理区	土壌中の生息密度 (頭)		収穫時の 被害株率 (%)	収穫時の草丈 (cm)
	は種前	収穫期		
慣行(砂壌土)	19.8	78.0	19.2	28.7
慣行(粘質土)	18.2	39.2	8.0	32.6
かん水多(砂壌土)	18.4	27.6	7.2	33.9
かん水チューブ下向き	19.2	24.8	5.2	31.0

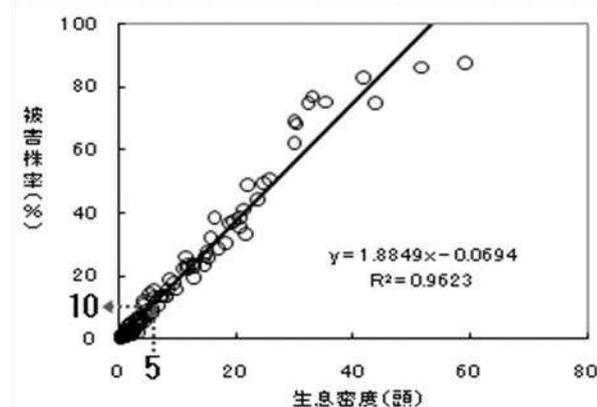


図2 土壌中のコナダニの生息密度と被害の関係

※コナダニの簡易な土壌中生息密度計測法

- 土200g^(注1)を採取し、チャック式ビニール袋に入れ、平らに広げる。
- シール式耐水紙（直径5cmの円形に切り取る）の粘着面に乾燥酵母を均一につけ、酵母面が内側になるように二つに折り（トラップ）、図のように土の上に3枚並べる。
- 新聞紙をかけて室温^(注2)で3日間静置し、ルーペでトラップの内側に集まったコナダニ頭数を数える。トラップ一枚あたり5頭以上で要防除水準である。

注1 土はビニール袋の内側が少し曇ってくる程度の軽い湿りをもたせる。湿りすぎは×。

注2 室温は20～25℃ 新聞紙は暗くするためにかける。

図



(17) ねぎ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
萎凋病	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約5%) 当り1%	定植前	苗床灌注	1回	ねぎ
					50倍	-	定植直前	5~30分間苗根部浸漬	1回	ねぎ
黒斑病	アミスター2070アンプル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	4回以内	ねぎ
	シグナムWDG	ビラクトロビン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ストロビーフロアブル	クレソキシメチル水和剤	11		2000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		600倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
さび病	アミスター2070アンプル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	4回以内	ねぎ
	オンリーワンフロアブル	テブコナゾール水和剤	3		1000倍	150~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ジオゼット水和剤	ボリオキシ水和剤	"[-](I*)		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	シグナムWDG	ビラクトロビン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ストロビーフロアブル	クレソキシメチル水和剤	11		2000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		600倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	バレット2070アンプル	ビラジフルミド水和剤	7		2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ねぎ
	ベジセイバー	ベンチオビラト・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	メジャーフロアブル	ビコキシストロビン水和剤	11		2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ねぎ
	ラリ水和剤	ミクロタニル水和剤	3		2000倍	150~300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
白絹病	アフェットフロアブル	ベンチオビラト水和剤	7		1000~2000倍	1%/m ²	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	2回以内	ねぎ
					2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ねぎ
	ジオゼット水和剤	ボリオキシ水和剤	"[-](I*)		500倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ディートラックス油剤	メチルイソシアネート・D-D油剤	「-」→ 劇 8A,「-」 → 8F,8A,8F		30~40%/10a		は種又は植付の14日前まで	圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12~15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7~14日後にガス抜き作業を行う。	1回	ねぎ
	ベジセイバー	ベンチオビラト・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	ねぎ
モカット粒剤	フルタニル粒剤	7			4~6kg/10a	土寄せ時 但し、収穫30日前まで	株元散布	4回以内	ねぎ	
モカリット粒剤	シメコナゾール粒剤	3			4~6kg/10a	土寄せ時 但し、収穫14日前まで	株元散布	3回以内	ねぎ	
軟腐病	オリゼート粒剤	ブローナゾール粒剤	P2			6kg/10a	土寄せ時 但し、収穫30日前まで	株元散布	2回以内	ねぎ
	ヨネボ水和剤	ノニルフェノールスルホン酸銅水和剤	M1		500倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	ねぎ
葉枯病	アミスター2070アンプル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	4回以内	ねぎ
	ブローズ顆粒水和剤	ベンチアハリカルブイソプロピル・TPN水和剤	40,M5		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
べと病	アミスター2070アンプル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	4回以内	ねぎ
	シグナムWDG	ビラクトロビン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		600倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ビシロックフロアブル	ビカルブトキサ水和剤	U17		1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	鱗茎類
	ブローズ顆粒水和剤	ベンチアハリカルブイソプロピル・TPN水和剤	40,M5		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ベジセイバー	ベンチオビラト・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	ねぎ
リドミルゴールドMZ	マンゼブ・メタラキシルM水和剤	"UN(I*),4		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
アザミヤカ類	アルパリン顆粒水溶剤	ジノテラン水溶剤	4A		1000倍	1% ² /m ²	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
					2000倍	100~300% ² /10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	ねぎ
					400倍	0.4% ² /m ²	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
					50倍	セル成型育苗トレイ1箱またはハバ-ポット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5~4.0% ²)当り0.5% ²	定植前日~定植時	灌注	1回	ねぎ
	アベンジヤーフロアブル	フロメキン水和剤	34	劇	1000~2000倍	100~300% ² /10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	ファインセーブフロアブル	フルキサミド 乳剤	30		2000~3000倍	100~300% ² /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	スターク顆粒水溶剤	ジノテラン水溶剤	4A		1000倍	1% ² /m ²	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
					2000倍	100~300% ² /10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	ねぎ
					400倍	0.4% ² /m ²	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
					50倍	セル成型育苗トレイ1箱またはハバ-ポット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5~4.0% ²)当り0.5% ²	定植前日~定植時	灌注	1回	ねぎ
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		700~1000倍	100~300% ² /10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500~5000倍	100~300% ² /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ねぎ
	ハチハチ乳剤	トルフェンビラト 乳剤	"21A(I*)	劇	1000倍	100~300% ² /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ
ベネビアOD	シアントラニア ロール水和剤	28		2000倍	100~300% ² /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ねぎ	
ベリマークSC	シアントラニア ロール水和剤	28		2000倍	0.5% ² /m ²	収穫7日前まで	株元灌注	1回	ねぎ	
				400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはハバ-ポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4% ²)当り0.5% ²	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	ねぎ	
シイロシヨク	アグロスリン乳剤	シベルメリン乳剤	3A	劇	1000倍	100~300% ² /10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	ねぎ
	ブレバソフロアブル5	クロラントラニア ロール水和剤	28		2000倍	100~300% ² /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ベリマークSC	シアントラニア ロール水和剤	28		2000倍	0.5% ² /m ²	収穫7日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
400倍					セル成型育苗トレイ1箱またはハバ-ポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4% ²)当り0.5% ²	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	ねぎ	
タネバエ	ダライゾン粒剤3	ダライゾン粒剤	1B		5~8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	ねぎ
ネギアザミヤカ	アベール粒剤	アセタミプリド・シアントラニア ロール粒剤	28,4A		セル成型育苗トレイ1箱またはハバ-ポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4% ²)当り40g		育苗期後半~定植当日	株元散布	1回	ねぎ
	ウララDF	フロニカミド 水和剤	29		1000~2000倍	100~300% ² /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ねぎ
	カスケード 乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100~300% ² /10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	コルト顆粒水和剤	ピリフルキサゾール水和剤	9B		2000倍	100~300% ² /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000~2000倍	100~300% ² /10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	ねぎ
	リーファード 顆粒水和剤	チオスクラム水和剤	14	劇	1500倍	100~300% ² /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ
ネギコカ	グレース乳剤	フルキサミド 乳剤	30		2000~3000倍	100~300% ² /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名	
ネギハダグリバエ	アベール粒剤	アセチアクト・シアンラニリアール 粒剤	28,4A		セル成型育苗トレイ1箱またはハダグリバエポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4%)当り40g		育苗期後半~定植当日	株元散布	1回	ねぎ	
	アベンジャーフロアブル ファインセーブフロアブル	フロメキン水和剤	34	劇	2000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	ねぎ	
	カスケード乳剤	フルフェノキサロン乳剤	15		4000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ	
	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ	
	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	「-」,5		1000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	鱗茎類 (にら、にら(花茎)を除く)	
	ディアナSC	スピネラム水和剤	5		2500~5000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ねぎ	
	リーガード顆粒水和剤	チオシラム水和剤	14	劇	1500倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ	
ネギニ類	アブロードフロアブル	アブロフェジン水和剤	16		500~1000倍	1~3%/m ²	収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ	
	ラグビーマC粒剤	カスサホスマイクロコプセル剤	1B		20kg/10a		定植前	全面処理土壌混和	1回	ねぎ	
ハダグリバエ類	グレース乳剤	フルキサミド乳剤	30		2000~3000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ	
	ブリーゾ粒剤オメガ	シアンラニリアール粒剤	28		6kg/10a		収穫前日まで	株元散布	3回以内	ねぎ	
	ベリマークSC	シアンラニリアール水和剤	28		2000倍	0.5%/m ²	収穫7日前まで	株元灌注	1回	ねぎ	
					400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはハダグリバエポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4%)当り0.5%	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	ねぎ	
	ミネクトデュオ粒剤	シアンラニリアール・チアマトキサム粒剤	28,4A		6kg/10a		収穫3日前まで	株元散布	3回以内	ねぎ	
					6kg/10a		定植時	作条散布	1回	ねぎ	
					6kg/10a		定植時	植溝土壌混和	1回	ねぎ	
	ヨハールフロアブル	テトラニリアール水和剤	28		200倍		セル成型育苗トレイ1箱またはハダグリバエポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4%)当り0.5%	育苗期後半~定植当日	灌注	1回	ねぎ
					2500~5000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ねぎ	
					25倍	1.6%/10a	収穫3日前まで	無人航空機による散布	3回以内	ねぎ	
展着剤	ドライバー	展着剤			2~10mL/散布液 10%(1000~5000倍)			添加		野菜類	

新しい病気ネギ褐色腐敗病の防除対策

1 はじめに

ネギは本県の水田園芸の基幹作物ですが、最近、褐色腐敗病が問題となっています。本病は葉鞘軟白部に褐色の条斑が発生する病気で、品質低下だけでなく、収量も低くなります(図1)。高温多湿条件で発生がしやすくなることから、8～9月に雨が続く時に、ヨネポン水和剤で軟腐病を防除すると本病も少なくなります。しかし、本病での登録はありません。そこで、耕種的な防除法を紹介します。



図1 軟白部褐色条斑症状

2 作型

本病は高温多湿条件で発生がしやすくなることから、8～9月に多発生するので(図2)、10月上旬までに収穫する作型では被害が問題となります。

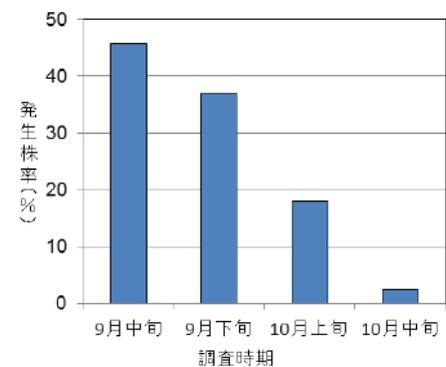


図2 褐色腐敗病の発生時期

3 品種

発生が心配される圃場では、夏扇パワー、夏の宝山の品種を植付けると発生を少なくすることができます(図3)。

4 消石灰とオオムギ緑肥施用

消石灰とオオムギ緑肥を土壤に混和すると病原菌密度が低くなる傾向があります。5月下旬にネギの条間にオオムギを播種すると、7月上旬には生育が旺盛となり、8月上旬には枯上がりします。8月上旬にオオムギを刈取り、消石灰を200 kg/10a施用し、8月中旬に同時にすき込むと、発病株率は7%と無処理区の約半分にすることができます。可販収量もわずかに増加します。また、消石灰の単独施用でも発病株率は8.2%と無処理より発生が少なくなります(表1)。

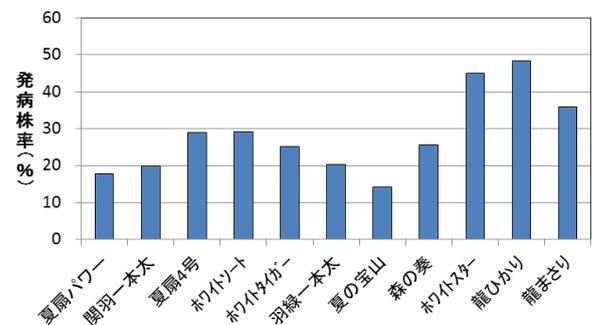


図3 各品種におけるネギ褐色腐敗病発生状況

ネギ褐色腐敗病の防除は作型、品種、消石灰およびオオムギ緑肥を組み合わせることによって総合的な対策が必要です。また、オオムギは天敵を保護するバンカープランツとしての効果が期待されます。

表1 消石灰とオオムギ緑肥による褐色腐敗病防除効果

処理	調査株数	発病株率(%)	収穫量(kg/10a)	比率	可販収量(kg/10a)	比率
消石灰	561	8.2	2845	100	2097	100
オオムギ緑肥	532	8.5	2947	104	2178	104
消石灰+オオムギ緑肥	557	7.0	2920	103	2128	102
無処理	558	15.6	2831	100	2092	100

(18) たまねぎ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
黒斑病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼ プ 水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300 μ g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	たまねぎ
白色疫病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼ プ 水和剤	"UN(I*)		400～500倍	100～300 μ g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	たまねぎ
	ベトファイター-顆粒水和剤	シモキサニル・ベンチアバ リカルブ イソプロピル水和剤	27,40		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	たまねぎ
	リド ミルコール MZ	マンゼ プ ・メタラキシルM水和剤	"UN(I*),4		500～1000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	たまねぎ
べと病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼ プ 水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300 μ g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	たまねぎ
	ベトファイター-顆粒水和剤	シモキサニル・ベンチアバ リカルブ イソプロピル水和剤	27,40		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	たまねぎ
	リド ミルコール MZ	マンゼ プ ・メタラキシルM水和剤	"UN(I*),4		500～1000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	たまねぎ
灰色かび病	スプレックス水和剤	ブ ロシド ン水和剤	2		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	たまねぎ
					16倍	2.4 μ g/10a	収穫前日まで	無人航空機による散布	5回以内	たまねぎ
	ダ コニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	6回以内	たまねぎ
	ロブ ラール水和剤	イブ ロジ オン水和剤	2		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	たまねぎ
軟腐病	ヨネホ ン水和剤	ノルフェノールスルホン酸銅水和剤	M1		500倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	たまねぎ
アザミウマ類	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		700～1000倍	100～300 μ g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	たまねぎ
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド 水溶剤	4A	劇	2000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	たまねぎ
タネバエ	ダ イジ ン粒剤3	ダ イジ ン粒剤	1B		5～8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	たまねぎ
タネキバエ	ダ イジ ン粒剤3	ダ イジ ン粒剤	1B		3～5kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	たまねぎ
ネギアザミウマ	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	たまねぎ

(19) らっきょう

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
乾腐病	ディートベックス油剤	メチルイソシアネート・D-D油剤	「-」→ 8A, 「-」 → 8F, 8A, 8 F	劇	30~40%/10a		は種又は植付の21 日前まで	圃場を耕起・整地 した後、所定量を 深さ約12~15cm に注入し、直ちに 覆土・鎮圧する。 薬剤処理7~14日 後にガス抜き作業 を行う。	1回	らっきょう
	トリアミン水和剤	トリアルミゾール水和剤	3		50倍	-	植付前	5~30分間種球浸漬	1回	らっきょう
	ベントレート水和剤20	チウム・ベントレート水和剤	1, M3		200倍	-	植付前	30分間種球浸漬	1回	らっきょう
	ベントレート水和剤	ベントレート水和剤	1		500倍	-	植付直前	30分間種球浸漬	1回	らっきょう
白色疫病	フォリオコート	メタキシルM・TPN水和剤	4, M5		1000倍	100~400%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	らっきょう
	フロニシド水和剤	フルアジン水和剤	29		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	5回以内	らっきょう
	ベントファイト顆粒水和剤	シモキサニル・ベントファイト顆粒水和剤	27, 40		2000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	らっきょう
さび病	アミスター2070アブル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	らっきょう
灰色かび病	フロニシド水和剤	フルアジン水和剤	29		2000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	5回以内	らっきょう
	ロブテール水和剤	イプロロジン水和剤	2		1000倍	100~300%/10a	収穫30日前まで	散布	3回以内	らっきょう
ネマ	ネマトリンエース粒剤	ホスチアゼート粒剤	1B		15kg/10a		植付前	植溝土壌混和	1回	らっきょう
ネマニ類	トクチオン細粒剤F	プロチオホス粉粒剤	1B		6kg/10a		定植時	植溝土壌混和	1回	らっきょう
	フォース粒剤	テフルトリン粒剤	3A	劇	6~9kg/10a		収穫14日前まで	株元散布	1回	らっきょう
					9kg/10a		定植前	植溝土壌混和	1回	らっきょう
					9kg/10a		定植前	全面土壌混和	1回	らっきょう

(20) にんにく

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
さび病	アミスター2070アブル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	にんにく
	シガナムWDG	ピラクロストロビン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100~300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	にんにく
	ストロビーフロアブル	クレスキシムメチル水和剤	11		2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	にんにく
葉枯病	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100~300g/10a	-	散布	-	にんにく
春腐病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	6回以内	にんにく

(21) レタス・非結球レタス

レタス

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
菌核病	シグナムWDG	ビラクトロピリン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	レタス
	スミレックス水和剤	ブロシメドン水和剤	2		1000~2000倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	レタス
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500~2000倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	レタス
					1500倍	1.5 μ g/m ²	収穫45日前まで	灌漑	1回	レタス
	ベンレート水和剤	ベンザル水和剤	1		2000~3000倍	100~300mL/m ²	収穫14日前まで	散布	4回以内	レタス
					2000~3000倍	100~300 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	レタス
ロブテール水和剤	イブロジオン水和剤	2		1000倍	100~300 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	レタス	
黒腐病	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100~300 μ g/10a	-	散布	-	野菜類
すそ枯病	シグナムWDG	ビラクトロピリン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	レタス
	バリダシン液剤5	バリダマイシン液剤	U18		800倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	レタス
	フロンサイト粉剤	フルアジナム粉剤	29		30kg/10a		は種又は定植前	全面土壌混和	1回	レタス
軟腐病	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100~300 μ g/10a	-	散布	-	野菜類
灰色かび病	スミレックス水和剤	ブロシメドン水和剤	2		1000~2000倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	レタス
	ロブテール水和剤	イブロジオン水和剤	2		1000~1500倍	100~300 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	レタス
腐敗病	Zボルト-	銅水和剤	M1		500~800倍	100~300 μ g/10a	-	散布	-	レタス
べと病	タコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100~300 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	レタス
材カガ	ベリマークSC	シアントラニリアロール水和剤	28		400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはベーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4 μ g)当り0.5 μ g	育苗期後半~定植当日	灌漑	1回	レタス
ネリムシ類	カルホス微粒剤F	イキサチオン粉粒剤	1B	劇	6kg/10a		は種時又は植付時	土壌表面散布土壌混和	2回以内	レタス
	カルホス粉剤	イキサチオン粉剤	1B		6kg/10a		は種時又は植付時	土壌表面散布土壌混和	2回以内	レタス
	ダイアジノン粒剤3	ダイアジノン粒剤	1B		6~9kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	レタス
ハモンシトウ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100~300 μ g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	レタス
	ベリマークSC	シアントラニリアロール水和剤	28		400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはベーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4 μ g)当り0.5 μ g	育苗期後半~定植当日	灌漑	1回	レタス
ヨウムシ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100~300 μ g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	レタス

非結球レタス

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
黒腐病	Zボルト-	銅水和剤	M1		500倍	100~300 μ g/10a	-	散布	-	野菜類 (キャベツを除く)
軟腐病	Zボルト-	銅水和剤	M1		500~1000倍	100~300 μ g/10a	-	散布	-	野菜類 (キャベツを除く)
腐敗病	Zボルト-	銅水和剤	M1		500~800倍	100~300 μ g/10a	-	散布	-	非結球レタス
ネリムシ類	ダイアジノン粒剤5	ダイアジノン粒剤	1B		6kg/10a		は種時又は定植時	全面土壌混和又は作条土壌混和	2回以内	非結球レタス

(22) にんじん

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
黒葉枯病	Zボルドー	銅水和剤	M1		500～800倍	100～300g/10a	-	散布	-	にんじん
	コサイドボルドー	銅水和剤	M1		1000倍		-	散布	-	にんじん
	シグナムWDG	ビラクトロピン・ボスカリド水和剤	11,7		2000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	にんじん
	ポリオキシAL水和剤	ポリオキシ水和剤	"[-] (I*)		500倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	にんじん
軟腐病	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類
	スターナ水和剤	オキソニック酸水和剤	31		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	にんじん
アブラムシ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	にんじん
キアゲハ	ベネビアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	にんじん
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	にんじん
ネグサレセンチュウ	ネマキック粒剤	イミダホス粒剤	1B			10～15kg/10a	は種前	全面土壌混和	1回	にんじん
	ネマクリン粒剤	フルベラム粒剤	"[-] (I*)			20kg/10a	は種前	全面土壌混和	1回	にんじん
	ビーム粒剤	フルベラム粒剤	"[-] (I*)			20kg/10a	は種前	全面土壌混和	1回	にんじん
ネコブセンチュウ	ネマクリン粒剤	フルベラム粒剤	"[-] (I*)			20kg/10a	は種前	全面土壌混和	1回	にんじん
	ビーム粒剤	フルベラム粒剤	"[-] (I*)			20kg/10a	は種前	全面土壌混和	1回	にんじん
ハスモンヨトウ	ベネビアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	にんじん
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	にんじん
ヒョウタンクウムシ類	アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	22B		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	にんじん
ヨトウムシ	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	にんじん
	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類 (キャベツ、はくさいを除く)
	ベネビアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	にんじん
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	にんじん

(23) 未成熟そらまめ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
赤色斑点病	ロブラル水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	未成熟そらまめ
輪紋病	ジマンダイオン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	3回以内	未成熟そらまめ
アブラムシ類	アディオン乳剤	ベルメリン乳剤	3A		3000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	未成熟そらまめ
	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	未成熟そらまめ

(24) えだまめ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
茎疫病	クルザ-MAXX	チアメトキサム・フルジ オキニル・メタラキシル M水和剤	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り 8mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
黒根腐病	クルザ-MAXX	チアメトキサム・フルジ オキニル・メタラキシル M水和剤	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り 8mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
紫斑病	クルザ-MAXX	チアメトキサム・フルジ オキニル・メタラキシル M水和剤	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り 8mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
苗立枯病(ヒシム菌)	クルザ-MAXX	チアメトキサム・フルジ オキニル・メタラキシル M水和剤	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り 8mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
アラムン類	クルザ-FS30	チアメトキサム水和剤	4A			乾燥種子1kg当り 原液6mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
	クルザ-MAXX	チアメトキサム・フルジ オキニル・メタラキシル M水和剤	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り 8mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
カムン類	アグロスリン乳剤	シベルメトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	えだまめ
	アルパリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	えだまめ
	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	えだまめ
タイズサキマバエ	アルパリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	えだまめ
	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	えだまめ
タネバエ	クルザ-FS30	チアメトキサム水和剤	4A			乾燥種子1kg当り 原液6mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
	クルザ-MAXX	チアメトキサム・フルジ オキニル・メタラキシル M水和剤	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り 8mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
ネリムシ類	クルザ-FS30	チアメトキサム水和剤	4A			乾燥種子1kg当り 原液6mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
	クルザ-MAXX	チアメトキサム・フルジ オキニル・メタラキシル M水和剤	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り 8mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
ワズシヒメムシ	アグロスリン乳剤	シベルメトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	えだまめ
	アルパリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		3000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	えだまめ
	クルザ-FS30	チアメトキサム水和剤	4A			乾燥種子1kg当り 原液6mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
	クルザ-MAXX	チアメトキサム・フルジ オキニル・メタラキシル M水和剤	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り 8mL	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ
	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		3000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	えだまめ
マシクイガ	アグロスリン乳剤	シベルメトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100~300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	えだまめ

(25) どうもろこし

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
アブラムシ類	アゲロシン乳剤	シハルメトリン乳剤	3A	劇	1000~2000倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	どうもろこし
	アゲイオン乳剤	ヘルメトリン乳剤	3A		2000~3000倍	100~300 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	どうもろこし
アノメカ	アゲロシン乳剤	シハルメトリン乳剤	3A	劇	1000~2000倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	どうもろこし
	アゲイオン乳剤	ヘルメトリン乳剤	3A		2000倍	100~300 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	どうもろこし
	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100~300 μ g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	どうもろこし
	ベネビアOD	シアントラニリア ロール水和剤	28		2000~4000倍	100~300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	未成熟どうもろこし
アノメカ	トレボロン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		1000倍	100~300 μ g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	どうもろこし
ネキリムシ類	ガードベイトA	ヘルメトリン粒剤	3A		3kg/10a		生育初期	株元散布	4回以内	どうもろこし

(26) ばれいしょ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
疫病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		500～1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	ばれいしょ
	フロンサイト水和剤	フルアジナム水和剤	29		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	ばれいしょ
					500倍	25g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	ばれいしょ
					800倍	40g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	ばれいしょ
黒あざ病	バリダシ粉剤DL	バリダマシ粉剤	U18		種いも重量の0.3%		植付前	種いも粉衣	1回	ばれいしょ
	リゾレックス水和剤	トルクロスメチル水和剤	14		50～100倍	-	貯蔵前又は植付け前	種いも浸漬(10分以内)	1回	ばれいしょ
そうか病	アタッキン水和剤	ストレプトマイシン・チオファネートメチル水和剤	1,25		40～60倍	-	植付前	5～10秒間種いも浸漬	1回	ばれいしょ
					40倍	種いも100kg当り2.5～3g	植付前	種いも散布	1回	ばれいしょ
	フロンサイド粉剤	フルアジナム粉剤	29		30～40kg/10a		植付前	全面土壌混和	1回	ばれいしょ
軟腐病	アグリマシン-100	オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤	25,41		1000～1600倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	ばれいしょ
アラムン類	アデイオン乳剤	ヘルメトリン乳剤	3A		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	ばれいしょ
	カルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		植付時	作条散布	1回	ばれいしょ
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a		植付時	作条散布	1回	ばれいしょ
けり	ダイアジン粒剤3	ダイアジン粒剤	1B		6～9kg/10a		植付前	土壌混和	1回	ばれいしょ
テントウムシダマシ幼虫	カルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	2回以内	ばれいしょ
テントウムシダマシ類	アデイオン乳剤	ヘルメトリン乳剤	3A		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	ばれいしょ
ネキリムシ類	ダイアジン粒剤3	ダイアジン粒剤	1B		6～9kg/10a		植付前	土壌混和	1回	ばれいしょ

(27) かんしょ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
黒斑病	ベンレート水和剤20	チラム・ベンミル水和剤	1,M3		200倍	-	植付前	30分間苗基部浸漬	1回	かんしょ
					20倍	-	植付前	1分間苗基部浸漬	1回	かんしょ
	ベンレート水和剤	ベンミル水和剤	1		500～1000倍	-	植付前	20～30分間苗基部浸漬	1回	かんしょ
					種いも重の0.4%	-	植付前	種いも粉衣	1回	かんしょ
アブラムシ類	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	かんしょ
コガネムシ類幼虫	ダイアジノン粒剤3	ダイアジノン粒剤	1B			5～10kg/10a	作付前及び収穫30日前まで	土壌混和	3回以内	かんしょ
ナガシロシバ	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	かんしょ
ハスモンヨトウ	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	かんしょ
ハリガネムシ類	フォース粒剤	テフルリン粒剤	3A	劇		9kg/10a	植付前	全面土壌混和又は作条土壌混和	1回	かんしょ

(28) さといも

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
疫病	アミスター20フロアブル	アゾキストロピン水和剤	11		2000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	さといも
	カンパネラ水和剤	ベンチアザリカルブイソプロピル・マン	"UN(1*),4		1000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	さといも
	ベネット水和剤	ゼブ水和剤	0							
	ジーフライン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	M1,NC		1000倍	150~500%/10a	収穫前日まで	散布	-	さといも
	ダイモ顆粒水和剤	アミスルフロム・シモキサニル水和剤	21,27		2000倍	100~300%/10a	収穫21日前まで	散布	3回以内	さといも
	ビシロックフロアブル	ピカルブトランクス水和剤	U17		1000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	さといも
	ランマンフロアブル	シアゾファミド水和剤	21		2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	さといも
黒斑病	ベンレート水和剤20	チウラム・ベノミル水和剤	1,M3		20倍	-	植付前	1分間種いも浸漬	1回	さといも
					種いも重量の0.4~0.5%	植付前	種いも粉衣	1回	さといも	
アブラムシ類	アドマイヤ-1粒剤	イミダクロプリド粒剤	4A		4kg/10a		植付時	植溝土壌混和	1回	さといも
					4kg/10a	植付時	植溝土壌混和	1回	さといも(葉柄)	
	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000~2000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	1回	さといも
カンザワハダニ	ビラニカEW	テブフェンピラト乳剤	"21A(1*)	劇	2000倍	150~300%/10a	収穫前日まで	散布	1回	さといも
ハモシトウ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	1回	さといも
	エルサン粉剤2	PAP粉剤	1B		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	1回	さといも
	ゼンタリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A		1000倍	100~300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
	トレボン乳剤	イトフェンプロックス乳剤	3A		1000倍	100~300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	さといも
					1000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	さといも(葉柄)
ブレオフロアブル	ピリタリル水和剤	UN		1000~2000倍	100~300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	さといも	
ブレバソフロアブル5	クロラントラニリブロール水和剤	28		2000倍	100~300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	さといも	
ハダニ類	マイトコーネフロアブル	ピフェナゼート水和剤	20D		1000倍	100~300%/10a	収穫3日前まで	散布	1回	さといも
ネグサレセンチュウ	ネマキック粒剤	イミシアホス粒剤	1B		20kg/10a		植付前	全面土壌混和	1回	さといも
	ネマクリーン粒剤	フルピラム粒剤	"[-](1*)		20kg/10a		植付前	全面土壌混和	1回	さといも
	ピラム粒剤	フルピラム粒剤	"[-](1*)		20kg/10a		植付前	全面土壌混和	1回	さといも

(29) やまのいも

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
青かび病	ベルコートフロアブル	イミダジノール [®] シル酸塩水和剤	M7		200倍	-	植付前	1～10分間種 いも浸漬	1回	やまのい も
炭疽病	ジマンダ [®] イオン水和剤	マンゼ [®] ブ [®] 水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300 ^g /10a	収穫21日前まで	散布	4回以内	やまのい も
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 ^g /10a	収穫30日前まで	散布	6回以内	やまのい も
葉洗病	ジマンダ [®] イオン水和剤	マンゼ [®] ブ [®] 水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300 ^g /10a	収穫21日前まで	散布	4回以内	やまのい も
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 ^g /10a	収穫30日前まで	散布	6回以内	やまのい も
アブラムシ類	トレボ [®] シン乳剤	エトフェンブ [®] ロックス乳剤	3A		1000倍	100～300 ^g /10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	やまのい も
ヤマ/イモガ	トレボ [®] シン乳剤	エトフェンブ [®] ロックス乳剤	3A		1000倍	100～300 ^g /10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	やまのい も

(30) 野菜類

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	イオフロアブル	水和硫黄剤	"UN(I*)		500～1000倍	100～300 μ g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類(すいか、かぼちゃ、トマト、ミニトマト、ねぎ、わけぎ、あさつき、いちごを除く)
	インプレッションクリア	バチルスアミロクエファシエンス水和剤	BM2		1000～2000倍	100～300 μ g/10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類
	カリグリーン	炭酸水素ナトリウム水溶液	NC		800～1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(トマト、ミニトマトを除く)
	ジ-7ファイン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	M1,NC		750～1000倍	150～500 μ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なすを除く)
	ハ-モイト水溶液	炭酸水素ナトリウム水溶液	NC		800～1000倍	150～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
	ボトキラー水和剤	バチルススプレックス水和剤	BM2		1000倍	150～300 μ g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類
	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く)
サンクスル乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」	「-」	300～600倍	150～500 μ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)	
					15g/10a/日	発病前～発病初期	夕外内投入	-	野菜類(トマトを除く)	
褐斑細菌病	ゾルトレ	銅水和剤	M1		500倍	100～300 μ g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300 μ g/10a	-	散布	-	野菜類
黒斑細菌病	ゾルトレ	銅水和剤	M1		500倍	100～300 μ g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300 μ g/10a	-	散布	-	野菜類
黒腐病	ゾルトレ	銅水和剤	M1		500倍	100～300 μ g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300 μ g/10a	-	散布	-	野菜類
さび病	カリグリーン	炭酸水素ナトリウム水溶液	NC		800倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(トマト、ミニトマトを除く)
	ハ-モイト水溶液	炭酸水素ナトリウム水溶液	NC		800倍	150～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
白さび病	ジ-7ファイン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	M1,NC		1000倍	150～500 μ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なすを除く)
軟腐病	ゾルトレ	銅水和剤	M1		500～1000倍	100～300 μ g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300 μ g/10a	-	散布	-	野菜類
	ジ-7ファイン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	M1,NC		1000倍	150～500 μ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なすを除く)
	バイオキパー水和剤	非病原性エルビニアカトパーラ水和剤	「-(生)」		500～2000倍	150～300 μ g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類(かぼちゃ、ズッキーニを除く)
灰色かび病	インプレッションクリア	バチルスアミロクエファシエンス水和剤	BM2		1000～2000倍	100～300 μ g/10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類
	カリグリーン	炭酸水素ナトリウム水溶液	NC		800倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(トマト、ミニトマトを除く)
	ハ-モイト水溶液	炭酸水素ナトリウム水溶液	NC		800倍	150～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
	ボトキラー水和剤	バチルススプレックス水和剤	BM2		1000倍	150～300 μ g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類
					300g/10a	6～10 μ g/10a	発病前～発病初期	常温煙霧	-	野菜類
					10～15g/10a/日	発病前～発病初期	夕外内投入	-	野菜類(トマトを除く)	
斑点細菌病	ゾルトレ	銅水和剤	M1		500倍	100～300 μ g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300 μ g/10a	-	散布	-	野菜類
べと病	ゾルトレ	銅水和剤	M1		500倍	100～300 μ g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
ビショム・リゾグロニウムによる病害(苗立枯病等)	オーソサイド水和剤80	キャブタン水和剤	M04		種子重量の0.2～0.4%		は種前	種子処理機による種子粉衣	1回	野菜類(いも類を除く)

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名		
リゾトリア菌による病害(苗立枯病等)	バシタック水和剤75	メブロニル水和剤	7		乾燥種子重量の0.4%		は種前	種子処理機による種子粉衣	1回	野菜類		
	アムシ	エスマルクDF	BT水和剤	11A	1000~2000倍	100~300g/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類	
		ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A	1000~2000倍	100~300L/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)	
		トアロ-水和剤CT	BT水和剤	11A	1000~2000倍	100~300g/10a	発生初期まで	但し収穫前日	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)	
アブラムシ類	エコビータ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100倍	100~300g/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類(いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く)	
		サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」		300倍	150~500g/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)
		粘着くん液剤	デンプン液剤	「-」		100倍	150~300g/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類
オオカガ	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000倍	100~300g/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類	
		ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A	1000倍	100~300L/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)	
コガ	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000~2000倍	100~300g/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類	
		ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A	1000~2000倍	100~300L/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)	
		トアロ-水和剤CT	BT水和剤	11A	1000~2000倍	100~300g/10a	発生初期まで	但し収穫前日	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)	
コナジラミ類	エコビータ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100~200倍	100~300g/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類(いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く)	
		サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」		300倍	150~500g/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)
		ラノ-テープ	ピリプロキシフェン剤	7C		10~50m ² /10a	栽培期間中		作物体の付近に設置する。	1回	野菜類(施設栽培)	
		粘着くん液剤	デンプン液剤	「-」		100倍	150~300g/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類
シイガイヨトウ	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A		1000倍	100~300L/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)	
ハモンヨトウ	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A		1000倍	100~300L/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)	
ハダニ類	エコビータ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100倍	100~300g/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類(いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く)	
		サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」		300~600倍	150~500g/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)
		粘着くん液剤	デンプン液剤	「-」		100倍	150~300g/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類
ヨウムシ	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000倍	100~300g/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類	
		ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A	1000~2000倍	100~300L/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)	
		トアロ-水和剤CT	BT水和剤	11A	500~1000倍	100~300g/10a	発生初期まで	但し収穫前日	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)	

< 参考 1 > 土壌病害虫

(殺菌剤)

薬剤名	適用 病害虫名	な	ビ	ト	ミ	き	す	メ	か	い	キ	ブ	は	だ	か	薬	非	ほ	ね	た	ら	に	レ	に	未	え	ス	ば	か	や	さ
		す	ン	ト	ト	リ	カ	ン	ヤ	ゴ	ツ	イ	ン	ぶ	類	科	う	ぎ	ぎ	う	く	ス	ん	め	め	ン	よ	よ	も	も	
オーソサイド水和剤80	苗立枯病	○	○	○		○	○	○	○				○								○										
タチガレン液剤	立枯病																								○						
	苗立枯病					○	○	○																							
タチガレン粉剤	苗立枯病					○																									
	立枯病																							○							
ダコソイル	根こぶ病										○	○	○	○	○																
	根くびれ病																														
ネビジン粉剤	根こぶ病										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	そうか病																														
	粉状そうか病																														
	菌核病											○													○						
バシタック水和剤75	黒あざ病																														
	苗立枯病 (リゾクシア菌)			○	○	○	○							○																	
	亀裂褐変症 (リゾクシア菌)													○																	
フロンサイド粉剤	根こぶ病										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	そうか病																														
	粉状そうか病																														
	白絹病 小菌核腐敗病																														
ランマンフロアブル	根こぶ病										○	○	○	○	○																
オラクル粉剤	根こぶ病										○	○	○	○	○	○															
	粉状そうか病																														
オラクル顆粒水和剤	根こぶ病										○	○	○	○	○	○															
	粉状そうか病																														

(殺虫剤)

薬剤名	適用 病害虫名	な	ピ	ト	ミ	き	す	メ	か	い	キ	ブ	は	だ	か	薬	非	ほ	ね	た	ら	に	レ	に	未	エ	ス	ば	か	や	さ
		す	マ	マ	ト	リ	カ	ン	ヤ	ゴ	ツ	リ	イ	ン	ぶ	類	科	う	ぎ	ぎ	う	く	ス	ン	め	メ	ン	よ	よ	も	も
ダイアジノン粒剤3	コガネムシ類 幼虫	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	○			○						○		
	ケネキリムシ類	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○					○	ケラ			○					○	○		
	タネバエ					○	○	○	○					○					○	○											
	ウリハムシ幼虫					○	○	○	○																						
	コオロギ																				○										
	タマネギバエ																				○										
デナボン5%ペイト	ネキリムシ類										○	○	○																		
	コオロギ ダンゴムシ										○	○																			
ネキリエースK	コオロギ類							○				○																			
	ネキリムシ類										○	○	○	○	○				○				○	○	○						○
カルホス粉剤	ネキリムシ類	○		○	○	○					○	○	○						○				○		○						
	タネバエ					○							○						○						○						
	コガネムシ類 幼虫										○																				
カルホス微粒剤F	ネキリムシ類						○	○	○	○	○	○							○				○		○						
	タネバエ																		○					○							
	コガネムシ類 幼虫										○																				
ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ	○	○	○	○	○	○	○	○				○											○				○	○	○	
	ネグサレセンチュウ									○			○									○		○					○	○	○
	ジャガイモシストセン チュウ																											○			
	ネダニ																					○									
バイデートL粒剤	ジャガイモシストセン チュウ																											○			
	ネコブセンチュウ		○	○	○	○	○	○					○										○	○					○	○	
	ネグサレセンチュウ			○	○	○	○						○										○	○					○		
ネマキック粒剤	ネグサレセンチュウ									○	○		○	○									○	○				○	○	○	○
	ネコブセンチュウ	○	○	○	○	○	○	○					○						○					○				○	○		
	ジャガイモシストセン チュウ																											○			

(殺菌・殺虫剤)

薬剤名	適用 病害虫名	な	ピ	ト	ミ	き	す	メ	か	い	キ	ブ	は	だ	か	葉	非	ほ	ね	た	ら	に	レ	に	未	え	ス	ば	か	や	さ				
		す	マ	マ	ト	リ	カ	ン	ヤ	ゴ	ツ	イ	ン	ブ	コ	コ	類	球	ぎ	ぎ	ぎ	う	く	ス	ん	め	め	ン	よ	よ	も	も			
ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤	苗立枯病 (ピシウム菌)				○																														
	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	○	○	○	○	○	○	○	○		○									○						○	○								
	青枯病	○	○	○	○						○																								
	苗立枯病																			○															
	根こぶ病											○	○	○	○	○	○																		
	半身萎凋病	○	○	○	○	○			○																										
	褐色根腐病			○	○																														
	根腐萎凋病			○	○																○														
	しみ腐病																									○									
	フザリウム 立枯病									○																									
	黒点根腐病								○																										
	黒変根腐症								○																										
	黒腐菌核病																				○	○	○	○											
	そうか病 粉状そうか病																															○			
	萎凋病	○	○	○							○										○	○				○				○					
	立枯病																				○														
	株腐病											○									○														
	根腐病																				○		○			○							○		
	萎黄病											○	○		○	○																			
	炭疽病										○																								
	つる割病					○	○	○																									○		
	乾腐病																					○	○			○								○	
	白絹病	○	○	○	○	○	○	○													○	○		○	○	○		○			○				
	小菌核腐敗病																				○														
	紅色根腐病			○	○				○												○	○		○											
	ネグサレ センチュウ														○										○									○	
	ネコブ センチュウ	○		○	○							○		○							○	○	○		○					○					
	紫紋羽病																															○			
	ホウレンソウ ケナガコナダニ																				○														

(殺菌・殺虫剤)

薬剤名	適用 病害虫名	な	ピ	ト	ミ	き	す	メ	か	い	キ	ブ	は	だ	か	あ	ほ	ね	た	ら	に	レ	に	未	豆	と	ば	か	や	さ		
		す	ン	ト	ト	リ	カ	ン	ヤ	ゴ	ツ	イ	ン	ブ	ダ	カ	キャベツ、こまつなを除く	ウ	ギ	ギ	ウ	ク	ス	ン	め	類	う	れ	ん	ま	と	い
クロールピクリン	苗立枯病	○		○	○	○	○	○									○	○	○													
	疫病	○	○	○	○	○	○	○	○									○														○
	青枯病	○	○	○	○																							○				
	根腐病																	○					○									○
	萎凋病		○	○	○													○	○													
	萎黄病										○	○	○	○	○	○	○															
	白絹病					○	○	○	○	○								○							○	○	○					
	つる割病					○	○	○	○	○																			○			
	立枯病																								○	○						○
	半身萎凋病	○		○	○																											
	根こぶ病											○				○																
	紋羽病																								○							○
	しみ腐病																								○							
	こぶ病																															
	黒点根腐病								○																							
	褐色腐敗病																															
	炭疽病										○																					
	黄化病																															
	根くびれ病													○																		
	軟腐病																															
	株腐病																								○							
	そうか病																													○		
	亀裂褐変症														○																	
ケネキリムシ類	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ハリガネムシ類																																
センチュウ類																																
フザリウム																																
立枯病									○																							
ビッグベイン病																							○									
ハウレンソウ																																
ケナガコナダニ																																

(殺菌・殺虫剤)

薬剤名	適用病害虫名	な	ビ	ト	ミ	き	す	メ	か	い	キ	ブ	は	だ	か	あ	ほ	ね	た	ら	に	レ	に	未	豆	と	ば	か	や	さ							
		す	ン	ト	ト	リ	カ	ン	ヤ	ゴ	ツ	イ	ン	ぶ	ら	な	科	野	菜	う	ぎ	ぎ	う	く	ス	ん	め	類	も	ろ	こ	し	よ	よ	い	も	
ドロクロール	フザリウム立枯病								○																												
	白絹病					○	○	○	○	↑(ウ科野菜)								○		○					○	○	○										
	つる割病					○	○	○	○	↑(ウ科野菜)																									○		
	萎黄病									○	○	○	○	○	○	○																					
	苗立枯病					○																															
	青枯病	○		○	○																															○	
	萎凋病	○	○	○																																	
	立枯病																									○	○								○		
	疫病					○																															○
	根腐病																							○													○
	半身萎凋病	○		○	○																																
	炭疽病																																				
	黒点根腐病								○																												
	黄化病 軟腐病 根くびれ病													○																							
	紋羽病																																				○
	亀裂褐変症																																				
	褐色腐敗病																																				○
ネキリムシ類 センチュウ類 ハリガネムシ類	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
クロルピクリン錠剤	青枯病	○	○	○	○																															○	
	萎凋病	○	○	○																																	
	疫病	○				○	○	○	○	○	↑(ウ科野菜)									○																	
	立枯病																									○	○									○	
	白絹病					○	○	○	○	○	↑(ウ科野菜)																○	○									
	紋羽病																										○									○	
	つる割病					○	○	○	○	○	↑(ウ科野菜)																										○
	萎黄病										○	○	○	○	○	○	○																				
	黄化病																																				
	黒点根腐病								○																												
	根腐病																																				○
炭疽病																																					
苗立枯病	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																			○	
半身萎凋病	○																																				
センチュウ類	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
クロピクフロー	萎凋病	○	○	○																																	
	萎黄病										○																										
	青枯病	○	○																																		
	つる割病					○	○																														○
	ネコブセンチュウ類 ネグサレセンチュウ	○	○	○	○	○	○																														○

(殺菌・殺虫剤)

薬剤名	適用病害虫名	な	ビ	ト	ミ	き	す	メ	か	い	キ	ブ	は	だ	か	葉	非	ほ	ね	た	ら	に	レ	に	未	え	ス	ば	か	や	さ		
		す	マ	ト	ト	リ	カ	ン	ヤ	ゴ	ツ	リ	ン	ブ	コ	コ	類	球	う	ま	ま	ま	ま	タ	ん	そ	だ	イ	れ	ん	ま	と	
ソイリーン	つる割病				○	○	○																										
	青枯病	○	○	○	○																							○					
	えそ斑点病							○																									
	黒点根腐病						○	○																									
	立枯病								○																				○				
	黄化病												○																				
	根くびれ病												○																				
	パーティシウム黒点病													○																			
	しみ腐病																								○								
	苗立枯病 (リゾクトニア菌)											○																					
	白絹病																		○														
	そうか病																												○				
	炭疽病										○																						
	根腐病 褐色腐敗病																														○		
	萎凋病			○	○														○														
	萎黄病										○																						
ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
D-D テロン	青枯病																																
	そうか病																												○				
	ジャガイモシストセンチュウ ジャガイモシロ シストセンチュウ																												○				
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	コガネムシ類幼虫	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	キルパー	萎黄病									○					○																	
		黒点根腐病							○																								
		乾腐病																		○		○											○
		萎凋病	○	○	○														○														
		しみ腐病																								○							
		つる割病					○	○																						○			
		白絹病																		○					○								
		すそ枯病 ビッグベイン病																								○							
		立枯病								○										○													
		そうか病																												○			
		根腐病																								○							○
根腐萎凋病																			○														
株腐病																			○														
根くびれ病														○																			
根こぶ病												○	○	○																			
半身萎凋病		○	○	○	○																												
半枯病	○																																
苗立枯病 (リゾクトニア菌)	○	○			○														○														
ネグサレセンチュウ										○			○											○									
ネコブセンチュウ	○	○	○	○	○	○	○				○													○				○	○				

① 焼土による土壤消毒法

病害虫名	防除時期	処理方法および留意点
各種病害虫	床土消毒	<ul style="list-style-type: none"> ・焼土 70°Cで10分間 ・作り方 鉄板上に砕土した床土を約20cmの高さに盛り、かん水して水分を飽和状態にする。この上にぬれたむしろを覆い下から加熱する。約50分間で温度が得られ、その後は、上の土が中央になるように積みあげて、温度を保つようにする。

② 太陽熱利用による土壤消毒法（ハウス内土壤病害虫）

病害虫名	防除時期	処理方法および留意点
【イチゴ】萎黄病 【ナス】 半身萎凋病、半枯病 【キュウリ】つる割病 【ホウレンソウ】 立枯病、センチュウ類 （雑草種子）	7 月 下 旬 ～ 8 月 中 旬	<ul style="list-style-type: none"> ・処理方法 <ol style="list-style-type: none"> ① 7月中～下旬に、稲わらなどの粗大有機物を1~2kg/m²施用する。 ② 石灰窒素0.1kg/m²施用する。 ③ 耕耘機でわらをなるべく深くすき込み、畦立てを行う。畦巾60~70 cm、高さ30 cmとして土の表面積を大きくし、太陽熱が深層に伝わりやすくする。 ④ ビニールで完全に被覆し、土の表面を密閉したのちハウスも密閉する。 ⑤ 直ちに畦間に水を入れ、全体を湿潤にして、そのまま放置する。 ・留意点 <ol style="list-style-type: none"> ① 精密機器、塩ビパイプ、石油類などは、処理期間中ハウス外に出しておく。 ② 本法は、TMV、青枯病に対しては効果が劣る。

③ 土壤還元消毒法（太陽熱と水とフスマまたは米糠などの有機物を用いた防除法）

病害虫名	防除時期	処理方法および留意点
【スイカ】急性萎凋病 【ホウレンソウ】 萎凋病、ケナガコナダニ 【ネギ】根腐萎凋病 【イチゴ】萎黄病 【トマト】 ネコブセンチュウ、 根腐萎凋病、褐色根腐病、 萎凋病など	平均気温 20 °C 以上 (6月～9月)	<ul style="list-style-type: none"> ・準備するもの フスマまたは米糠1kg/m²以上、透明マルチ、かん水チューブ、水100ℓ/m²以上 ・処理方法 <ol style="list-style-type: none"> ① 残さを除去する。土壌が乾いている場合は2～3日前までに深耕し、かん水しておく。 ② 消毒は晴天が続く日を選ぶ。 ③ フスマまたは米糠を1kg/m²均一に散布する。 ④ 散布後すぐに、土壌とフスマを深さ15~20cmに混和し、均平にする。 ⑤ かん水チューブを約60cm間隔で均一に配置し、透明なシートを全面に敷く。 ⑥ 100ℓ/m²以上均一にかん水する。 ⑦ ハウスを密閉する。 ⑧ 2～3日するとドブ臭がする。 ⑨ 地温30°C以上を20日間保つ。または、外気の最高気温30°C以上の日が7日以上あれば土壤消毒は完了する。 ⑩ ハウスを開放し、シートを除去する。数日間土壌を乾燥させ、乾いたら、改良資材・基肥を施用し、耕起、畦立て、作付けする。 ・留意点 <ol style="list-style-type: none"> ① 消毒後は深耕せず、土壌攪拌は最小限にする。 ② 消毒によってアンモニア態窒素、硝酸態窒素が増加するので、施肥前に土壌中の無機態窒素量を測定して、施肥量を決める。

④ 熱水土壤消毒（圃場に熱水を注入して滅菌する効果の安定的した土壤消毒法）

病害虫名	防除時期	処理方法および留意点
【ホウレンソウ】萎凋病 【ダイコン】 萎黄病、ネグサレセンチュウ 【ハクサイ】根こぶ病 【イチゴ】 ネグサレセンチュウ 【トマト】 青枯病、萎凋病、 褐色根腐病、 根腐萎凋病、 ネコブセンチュウ 【スイカ・メロン】 黒点根腐病、つる割病 ネコブセンチュウ 【ダイズ】 黒根腐病、シストセンチュウ	厳寒期を除き 通 年	<ul style="list-style-type: none"> ・準備するもの 熱水土壤消毒装置、A重油または灯油、200V三相電源、水100ℓ/m²以上、ビニールマルチ、かん水チューブ ・処理方法 <ol style="list-style-type: none"> ① 残さを除去する。できるだけ深くまで耕起し、均平にする。 ② かん水チューブを25~40cm間隔で設置し、ビニールマルチまたは耐熱シートをする。 ③ 熱水土壤消毒装置を設置する。 ④ 80~95°Cの熱水を注入する。注入量は深さ20cmまで消毒する場合には100ℓ/m²、30cmまで消毒する場合には150ℓ/m²、40cmまで消毒する場合には200ℓ/m²、ホウレンソウの不耕起栽培では60ℓ/m²とする。 ⑤ 翌日にはビニールマルチやシートを除去できる。 ⑥ 数日間土壌を乾燥させ、乾いたら、改良資材・基肥を施用し、耕起、畦立て、作付けする。 ・留意点 <ol style="list-style-type: none"> ① 透水性を良くするために普段から土づくりをしておく。 ② 消毒後は深耕せず、土壌攪拌は最小限にする。 ③ 消毒によってアンモニア態窒素、硝酸態窒素が増加するので、施肥前に土壌中の無機態窒素量を測定して、施肥量を決める。

表1 処理温度と加温時間が病原菌の生存に及ぼす影響 (1996・福井園試)

供試菌	処理温度	被加温時間 (h r.)										
		12	24	36	48	60	72	84	96	108	120	132
株腐病菌 <i>R.solani</i>	25°C	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	40°C	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	45°C	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	50°C	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
萎凋病菌 <i>F.oxysporum</i>	25°C	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	40°C	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	45°C	○	○	●	○	●	●	●	●	●	●	●
	50°C	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
立枯病菌 <i>P.ultimum</i>	25°C	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	40°C	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●
	45°C	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	50°C	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
立枯病菌 <i>P.aphanidermatum</i>	25°C	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	40°C	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	45°C	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	50°C	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

1) 各処理温度で12時間、残りの12時間は15°Cの変温処理とした。(25°Cは終日)

⑤ 低濃度エタノールを利用した土壌還元作用による土壌消毒法

病害虫名	防除時期	処理方法および留意点
【イチゴ】 萎黄病、炭疽病 【トマト】 褐色根腐病 【ハウレンソウ】 萎凋病 【ウリ科野菜】 ホモブシ根腐病 【キュウリ】 ネコブセンチュウ	7 月 下 旬 ~ 8 月 中 旬 地 下 20 cm の 平 均 気 温 が 30 °C を 超 え る 事 件	・ 処理方法 ① 土壌はできるだけ細かくし、圃場は均平にしておく。 ② フィルムを土壌に密閉させるため、処理前に除草しておく。 ③ 散水チューブを設置し、十分かつ均一に散布できることを確認する。 ④ ハウス内を密閉して定期的に散水する(土壌が湿っている方が深くまで地温が上がる)。 ⑤ 処理数日前に散水するとエタノールが均一に浸透し、消毒ムラが少なくなって、効果が安定する。 ⑥ 希釈用大型タンク500ℓを準備し、土壌還元消毒用エタノールを50~200倍に希釈する。 ⑦ 対象病害に応じた希釈水を準備する(表2参照)。 ⑧ 散水チューブは、散布口の数が多の方が均一に短時間で処理できる。土壌全体が均等に湿るように散水口の向きを調整する。 ⑨ 土壌を一定期間湛水または湿潤状態に維持するため、透明フィルムで散水チューブごと被覆する。 ⑩ 地温が高いほど効果が高まるため、土壌はフィルムで密閉し、ハウス内は気密性を高め ⑪ 2~3週間はそのままの状態を保つ。 ⑫ 土壌還元が進むと、エタノール消毒特有の発酵臭がする。 ⑬ 還元処理終了後、透明フィルムを取り外す。 ⑭ 圃場の耕起を行う。ただし、事前に再び病害虫等に汚染されないようにトラクタのタイヤ、耕起部、胴体を洗浄しておく。 ⑮ 通常の土壌水分や土壌温度、還元状態が元に戻れば、作付けする。 (は種等までに、1週間以上の期間をあける。) ・ 留意点 ① 水はけが良すぎる土壌での利用は避ける。 ② 土壌の還元状態は、ジピリジル反応や酸化還元電位(Eh)の測定で確認する。 ③ 土壌や処理後の環境条件によっては、消毒の程度が十分でないことがあるので、事前に試してから実施するか、事前に経験者に相談してから実施する。

表2 低濃度アルコール消毒の濃度と施用量

作物	対象病害虫名	エタノール濃度	1m ² あたり液量 ¹⁾
イチゴ ²⁾	萎黄病・炭疽病	0.5~2.0%	100ℓ
トマト	褐色根腐病	0.75%	200ℓ
ハウレンソウ	萎凋病	0.5~1.0%	100~200ℓ
ウリ科野菜 ³⁾	ホモブシ根腐病	1.0~2.0% ⁴⁾	100~200ℓ
キュウリ	ネコブセンチュウ	0.5~1.0%	100~200ℓ

(参照) 低濃度エタノールを利用した土壌還元作用による土壌消毒技術 実施マニュアル(農業環境科学研究所HP)

<https://www.naro.affrc.go.jp/archive/niaes/techdoc/ethanol/#manual2>

- 1) 砂地(ある程度水持ちがあること)では少ない液量でよい。また、液量が多いほど土壌深くまで還元による消毒効果が現れるので、作物の根域の深さや病害の種類に応じて液量を調整する。
- 2) 栽培方法により、処理濃度が異なる。
- 3) カボチャ、キュウリ、スイカ、メロンなど。
- 4) 地温が低いほど高濃度が必要。

〈参考2〉 ウイルス病

野菜のウイルス病と伝染方法

野菜名	病名	病原ウイルス	伝染方法					
			汁液	接触	土壌	種子・種イモ・種球	アブラムシ類	他媒介虫等
なす	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	△			○	
ピーマン	モザイク病	PMMoV (トウガラシ微斑ウイルス)	○	○	○	○		
		CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	△			○	
トマト	モザイク病	ToMV (トマトモザイクウイルス)	○	○	○	○		
		CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	○			○	
		PVX (ジャガイモXウイルス)	○	○				
	黄化えそ病	TSWV (トマト黄化えそウイルス)	○					アザミウマ類
	黄化葉巻病	TYLCV (トマト黄化葉巻ウイルス)						タバココナジラミ
	黄化病	ToCV (トマト退緑ウイルス)						コナジラミ類
きゅうり	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	△			○	
		WMV (スイカモザイクウイルス)	○	○			○	
		ZYMV (ズッキーニ黄斑モザイクウイルス)	○	△			○	
	緑斑モザイク病	KGMMV (キュウリ緑斑モザイクウイルス)	○	○	○	○		
	黄化病	BPYV (ビートシュードイエロースウイルス)						オンシツコナジラミ
すいか	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	△			○	
		WMV (スイカモザイクウイルス)	○	○			○	
	緑斑モザイク病	CGMMV (スイカ緑斑モザイクウイルス)	○	○	○	○		
	えそ斑点病	MNSV (メロンえそ斑点ウイルス)	○	○	○	○		オルピディウム菌
かぼちゃ	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	△			○	
		WMV (スイカモザイクウイルス)	○	○			○	
メロン	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	△			○	
		WMV (スイカモザイクウイルス)	○	○			○	
	緑斑モザイク病	CGMMV (スイカ緑斑モザイクウイルス)	○	○	○	○		
	えそ斑点病	MNSV (メロンえそ斑点ウイルス)	○	○	○	○		オルピディウム菌
いちご	ウイルス病	SMoV (イチゴ斑紋ウイルス)		?		?	○	種苗
		SMYEV (イチゴマイルドイエローエッジウイルス)		?		?	○	種苗
		SVBV (イチゴベインバンディングウイルス)		?		?	○	種苗
		SCV (イチゴクリンクルウイルス)		?		?	○	種苗
だいこん	モザイク病	TuMV (カブモザイクウイルス)	○	○			○	
		CMV (キュウリモザイクウイルス)	○				○	
		CaMV (カリフラワーモザイクウイルス)	○	?			○	
	ひだ葉モザイク病	RaMV (ダイコンモザイクウイルス)	○					キスジノミハムシ

野菜名	病名	病原ウイルス	伝染方法					
			汁液	接触	土壌	種子・種イモ・種球	アブラムシ類	他媒介虫等
ねぎ	萎縮病	SYSV (シャロット黄色条斑ウイルス)	○				○	
	えそ条斑病	IYSV (アイリス黄斑ウイルス)	○					ネギアザミウマ
たまねぎ	萎縮病	SYSV (シャロット黄色条斑ウイルス)	○				○	
	えそ条斑病	IYSV (アイリス黄斑ウイルス)	○					ネギアザミウマ
らっきょう	ウイルス病	SYSV (シャロット黄色条斑ウイルス)	○				○	
ほうれんそう	モザイク病	BtMV (ビートモザイクウイルス)	○				○	
		CMV (キュウリモザイクウイルス)	○				○	
		TuMV (カブモザイクウイルス)	○	○			○	
	えそ萎縮病	BBWV (ソラマメウイルトウイルス)	○				○	
レタス	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○				○	
		LMV (レタスモザイクウイルス)	○			○	○	
	ビッグベイン病	MiLBVV (レタスビッグベインミラフィオリウイルス)	○		○			オルピディウム菌
しゅんぎく	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○				○	
		TuMV (カブモザイクウイルス)	○	○			○	
にんじん	モザイク病	CeMV (セルリーモザイクウイルス)	○				○	
		CMV (キュウリモザイクウイルス)	○				○	
ばれいしょ	モザイク病	PVX (ジャガイモXウイルス)	○	○		○		
		PVY (ジャガイモYウイルス)	○			○	○	
	黄斑モザイク病	PAMV (ジャガイモ黄斑モザイクウイルス)	○			○	○	
	葉巻病	PLRV (ジャガイモ葉巻ウイルス)				○	○	
さといも	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	?			○	
		DsMV (サトイモモザイクウイルス)	○			○	○	
そらまめ	モザイク病	BYMV (インゲンマメ黄斑モザイクウイルス)	○			○	○	
		BBWV (ソラマメウイルトウイルス)	○				○	
		PSbMV (エンドウ種子伝染モザイクウイルス)	○			○	○	
にんにく	モザイク病	LYSV (リーキ黄色条斑ウイルス)	○				○	
トウモロコシ	えそモザイク病	MDMV (トウモロコシ萎縮モザイクウイルス)	○			○	○	

△:伝染しやすい条件で起こる

〈参考3〉野 ぞ

殺そ剤	適用作物	防除方法	注意事項
ヤンヂオン	野ゾが加害する農作物等	200～300g/10a 手まきによる防除 本剤5gをそのまま、あるいは5gの小袋詰をソ穴(ネズミの生息する穴)に投入するか野ゾの通路に配置する。	<ul style="list-style-type: none"> ・子供や家畜が毒餌を誤って食べる恐れがある場所での使用は避ける。 ・作業後は顔、手足など石鹸でよく洗う。

〈参考4〉器具、資材消毒

適用(場所)	対象	防除方法			注意事項
		薬剤名	使用濃度	使用方法	
農業資材	育苗箱(木箱、プラスチック箱) 育苗用ポット 支柱等資材	イチバン	500～1,000倍	瞬時浸漬又は ジョロ散布 水100当たり 10～20ml	・収穫用コンテナ・かごを除く
農業資材	催芽箱、育苗箱、育苗トレイ・ポット、植木鉢、果実類貯蔵箱、温室用資材、収穫用かご等農具の消毒	ケミクロンG	500倍	瞬間浸漬または ジョウロ散布 水100当たり 20g	<ul style="list-style-type: none"> ・金属類や木箱に使用した場合、必ずその後水洗する。 ・育苗トレイ、ポットを消毒する場合薬害(生育障害)を生じるおそれがあるので必ず水洗する。
			1,000倍	10分間浸漬 水100当たり 10g	

資材は残渣や土を落としてから消毒すること。

〈参考5〉コオロギ、カタツムリ類、ナメクジ類、ケラ

病害虫名	防除時期	防除方法				注意事項
		薬剤名	使用方法	10a当たり 使用量	使用 回数	
コオロギ	キャベツ： 収穫14日前 まで ハクサイ： 収穫21日前 まで	デナポン5%ベイト	株元散布	3～4kg	3回 以内	<ul style="list-style-type: none"> ・適用作物:キャベツ、ハクサイ ・圃場を波板(50cmぐらいの高さ)などで囲むと侵入防止になる。 ・ダンゴムシ、ネキリムシ類、ハスモンヨトウにも登録あり。
カタツムリ類 ナメクジ類	発生時	スラゴ	ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ及びヒメリンゴマイマイの発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置	1～5g/m ²	—	<ul style="list-style-type: none"> ・適用作物:ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等 ・適用場所:温室、ハウス、圃場、花壇
ケラ	作物により異なる	ダイアジノン粒剤3	土壌混和	作物により異なる	作物により異なる	<ul style="list-style-type: none"> ・適用作物ごとに時期や使用回数が異なるので、土壌病害虫の項参照。 ・販売会社により使用時期等の登録内容が異なることがあるため、使用においてはラベルを必ず確認すること。

〈参考6〉 主要野菜のチョウ目害虫の防除薬剤

IRACコード	系統	薬剤名	害虫名	キャベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	ねぎ	さといも	
1A	カーバメート	ランネート45DF	アオムシ	○		○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○							
			ヨトウムシ	○	○	○					
			コナガ	○		○	○				
			シロイチモジヨトウ						○		
			タマナギンウワバ	○							
			ハイマダラノメイガ				○				
1B	有機リン	エルサン乳剤	アオムシ	○	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○	○	○	○		○	
			ヨトウムシ	○	○	○	○	○			
			コナガ	○	○	○	○	○			
			ハイマダラノメイガ	○	○	○	○	○			
		オルトラン粒剤 ジェイエース粒剤	アオムシ	○	○(オルトラン)	○	○				
			ヨトウムシ	○	○	○					
			コナガ	○		○	○				
		オルトラン水和剤 ジェイエース水溶剤	アオムシ	○		○					
			ハスモンヨトウ	○		○					
			ヨトウムシ	○		○					
			コナガ	○		○					
		タマナギンウワバ	○								
			トクチオン乳剤	アオムシ	○						
				ハスモンヨトウ	○						
				ヨトウムシ	○						
				コナガ	○						
		シロイチモジヨトウ		○					○		
		マラソン乳剤	アオムシ	○	○	○	○	○			
3A	ピレスロイド	トレボン乳剤	アオムシ	○	○	○	○				
			ハスモンヨトウ							○	
			ヨトウムシ	○		○	○				
			コナガ	○		○	○				
			シロイチモジヨトウ						○		
		アグロスリン乳剤	アオムシ								
			ハスモンヨトウ								
			ヨトウムシ								
			コナガ								
			シロイチモジヨトウ						○		
			タマナギンウワバ								
1B 3A	有機リン・ ピレスロイド	ハクサップ水和剤	アオムシ	○	○	○	○				
			ハスモンヨトウ	○		○	○			○	
			ヨトウムシ	○		○	○				
			コナガ	○		○	○				
			オオタバコガ	○		○					
			タマナギンウワバ	○		○					
4A	ネオニコチノイド	モスピラン粒剤	アオムシ	○	○	○					
			ハスモンヨトウ	○							
			コナガ	○	○	○	○				
			ハイマダラノメイガ	○	○	○					

IRACコード	系統	薬剤名	害虫名	キャベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	ねぎ	さといも
5	スピノシン	スピノエース顆粒水和剤	アオムシ	○	○	○	○			
			ヨトウムシ	○		○				
			コナガ	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ	○					○	
			ハイマダラノメイガ	○		○				
			タマナギンウワバ	○		○				
			ディアナSC	アオムシ	○	○	○	○	○	
		ハスモンヨトウ	○	○	○		○		○	
		ヨトウムシ	○	○	○	○				
		コナガ	○	○	○	○	○			
		シロイチモジヨトウ		○				○		
		ハイマダラノメイガ	○	○	○	○				
		オオタバコガ	○	○	○					
		ウワバ類	○	○	○	○				
6	アベルメクチン	アニキ乳剤	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○	○				○
			コナガ	○	○	○	○	○		
			シロイチモジヨトウ	○	○				○	
			ハイマダラノメイガ	○		○	○			
			オオタバコガ	○		○				
			ウワバ類	○						
6 15	アベルメクチン ベンゾイル尿素	アフームエクセラ顆粒水和剤	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○	○				
			ヨトウムシ	○						
			コナガ	○	○	○	○			
			ハイマダラノメイガ	○	○		○			
			シロイチモジヨトウ	○	○				○	
			オオタバコガ	○		○				
			タマナギンウワバ	○						
11A	BT	トアロー水和剤CT 野菜類	アオムシ	○	○	○	○	○	○	○
			ヨトウムシ	○	○	○	○	○	○	○
			コナガ	○	○	○	○	○	○	○
		トアローフロアブルCT 野菜類	アオムシ	○	○	○	○	○	○	○
			オオタバコガ	○	○	○	○	○	○	○
			コナガ	○	○	○	○	○	○	○
		エスマルクDF 野菜類	アオムシ	○	○	○	○	○	○	○
			ヨトウムシ	○	○	○	○	○	○	○
			コナガ	○	○	○	○	○	○	○
			オオタバコガ	○	○	○	○	○	○	○
			ハイマダラノメイガ	○			○	○		
		エコマスターBT 野菜類	アオムシ	○	○	○	○	○	○	○
			ハスモンヨトウ	○	○	○	○	○	○	○
			ヨトウムシ	○	○	○	○	○	○	○
			コナガ	○	○	○	○	○	○	○
			オオタバコガ	○	○	○	○	○	○	○
			シロイチモジヨトウ	○	○	○	○	○	○	○
			ハイマダラノメイガ	○	○	○	○			
		ゼンターリ顆粒水和剤 野菜類 (キャベツ、はくさいを除く)	アオムシ	○	○	○	○	○	○	○
			ハスモンヨトウ	○	○		○	○	○	○
			ヨトウムシ	○	○	○	○	○	○	○
			コナガ	○	○	○	○	○	○	○
			シロイチモジヨトウ	○	○		○	○	○	○
オオタバコガ	○		○		○	○	○	○		

IRACコード	系統	薬剤名	害虫名	キャベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	ねぎ	さといも
13	ピロール	コテツフロアブル	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○					○
			ヨトウムシ	○	○	○		○		
			コナガ	○	○	○	○	○		
			シロイチモジヨトウ	○	○				○	
			ハイマダラノメイガ	○						
			オオタバコガ	○						
タマナギンウワバ	○									
14	ネライストキシン	パダンSG水溶剤	アオムシ	○		○	○			
			コナガ	○	○	○	○			
			ハイマダラノメイガ	○						
15	ベンゾイル尿素	マツチ乳剤	アオムシ	○		○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○					
			ヨトウムシ	○						
			コナガ	○		○	○			
			シロイチモジヨトウ						○	
			ハイマダラノメイガ	○						
		アタブロン乳剤	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○		○	○			
			ヨトウムシ	○		○	○			
			コナガ	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ						○	
			タマナギンウワバ	○	○	○				
		ハイマダラノメイガ	○							
		ノーモルト乳剤	アオムシ	○		○	○			
			ハスモンヨトウ	○						
			ヨトウムシ	○		○	○			
			コナガ	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ						○	
			タマナギンウワバ	○		○				
		カスケード乳剤	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○					
ヨトウムシ	○		○	○						
コナガ	○		○	○	○					
シロイチモジヨトウ	○						○			
ハイマダラノメイガ	○				○					
オオタバコガ	○									
タマナギンウワバ	○									
18	ジアシル-ヒドラジン	マトリックフロアブル	ハスモンヨトウ	○						○
			ヨトウムシ		○	○	○			
			シロイチモジヨトウ						○	
			ハイマダラノメイガ	○			○			
21A	METI剤	ハチハチ乳剤	アオムシ	○	○	○	○			
			コナガ	○	○	○	○	○		
			シロイチモジヨトウ						○	
			ハイマダラノメイガ	○		○	○	○		
22A	オキサジアジン	トルネードエースDF	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○					○
			ヨトウムシ	○		○	○			
			コナガ	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ	○	○	○			○	
			ハイマダラノメイガ	○		○	○			
ウワバ類	○		○							

IRACコード	系統	薬剤名	害虫名	キャベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	ねぎ	さといも	
22B	セミカルバゾン	アクセルフロアブル	アオムシ	○		○		○			
			ハスモンヨトウ	○	○	○				○	
			ヨトウムシ	○	○	○	○				
			コナガ	○	○	○		○			
			シロイチモジヨトウ						○		
			ハイマダラノメイガ	○		○	○				
			オオタバコガ	○							
			ウワバ類	○							
28	ジアミド	プレバソンフロアブル5	アオムシ	○	○	○	○				
			ハスモンヨトウ	○	○	○				○	
			ヨトウムシ	○		○	○				
			コナガ	○	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ						○		
			ハイマダラノメイガ	○	○	○	○				
			オオタバコガ	○	○	○					
			ウワバ類	○							
		フェニックス顆粒水和剤	アオムシ	○		○					
			ハスモンヨトウ	○	○	○					○
			ヨトウムシ	○	○	○					
			コナガ	○	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ						○		
			ハイマダラノメイガ	○	○		○	○			
			オオタバコガ	○		○					
			ウワバ類	○							
		ベリマークSC	アオムシ	○	○	○					
			ハスモンヨトウ	○	○	○					
			ヨトウムシ	○							
			コナガ	○	○	○					
			シロイチモジヨトウ	○	○	○			○		
			ハイマダラノメイガ	○	○	○					
			ウワバ類	○							
			ベネビアOD	アオムシ	○	○	○	○			
		ハスモンヨトウ		○	○	○					
		ヨトウムシ		○		○	○				
		コナガ		○	○	○	○				
		シロイチモジヨトウ		○	○	○			○		
ハイマダラノメイガ	○			○	○						
オオタバコガ	○										
ウワバ類	○			○							
28 4A	ジアミド・ ネオニコチノイド	ジュリボフロアブル	アオムシ	○	○						
			ハスモンヨトウ	○	○	○					
			ヨトウムシ	○		○					
			コナガ	○	○	○					
			ハイマダラノメイガ	○	○	○					
			オオタバコガ	○							

IRACコード	系統	薬剤名	害虫名	キャベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	ねぎ	さといも
30	イソキサゾリン	グレーシア乳剤	ア オ ム シ	○		○	○			
			ハスモンヨトウ	○		○				○
			ヨ ト ウ ム シ	○		○				
			コ ナ ガ	○		○	○	○		
			オオタバコガ	○		○				
			シロイチモジヨトウ	○		○			○	
			ハイマダラノメイガ	○		○	○			
			ウワバ類	○		○				
UN	ピリダリル	プレオフロアブル	ア オ ム シ	○		○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○			○		○
			ヨ ト ウ ム シ	○		○	○			
			コ ナ ガ	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ	○	○				○	
			ハイマダラノメイガ	○						
			オオタバコガ	○		○				
			ウワバ類	○						

〈参考7〉チョウ目害虫殺虫剤の特性と使用上のポイント

IRAC コード	系統名	農薬の名称	特徴	浸透 移行性 ¹⁾	効果の 発現 ²⁾	残効性 ³⁾	食毒 ⁴⁾	接触毒 ⁴⁾	忌避 ⁴⁾	使用上のポイント
1A	カーバメート系	ランネート45DF	・極めて速効的な効果 ・幅広い適用害虫 ・幅広い生育ステージへの効果 (コナガで抵抗性の発達が見られる)	○	○	×	○	○		・施設(ハウス)内での散布は絶対しない
1B	有機リン系	エルサン乳剤 オルトラン水和剤 トクチオン乳剤 マラソン乳剤	・非選択的の吸収毒である ・抵抗性が発達しやすい (コナガで抵抗性の発達が見られる)	○ ○ ○	○ △ △ ○	△ ○ ○ ×	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		・広範囲の害虫に有効 ・食害性害虫や吸汁性害虫に効果 ・チョウ目害虫、ハダニ類等に効果 ・吸汁性害虫に効果
3A	合成ピレスロイド系	トレボン乳剤 アグロスリン乳剤	・産卵抑制、忌避効果がある ・抵抗性が発達しやすい (一部地域のコナガで抵抗性発達が見られる)		○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	・広範囲の害虫に効果
1B 3A	有機リン系 +合成ピレスロイド系	ハクサップ水和剤	・産卵抑制、摂食阻害あり	△	○	○	○	○	○	・大型鱗翅目害虫に効果
4A	ネオニコチノイド系	モスピラン粒剤	・定植時の処理により害虫の発生を 長期間抑制 ・粒剤は天敵にやさしい	○	○	◎	○	○		・コナガ、アオムシ、アブラムシ類に有効
5	スピノシン系	スピノエース顆粒水和剤 ディアナSC	・チョウ目、アザミウマ目害虫に卓効		○ ○	○	○ ○	○ ○		・天然物由来殺虫剤 ・広い殺虫スペクトラム
6	ミルベメクチン系	アニキ乳剤	・チョウ目、ハモグリバエ類、コナジラミ類、ア ザミウマ類に殺虫活性	△	○		○	○		・既存薬剤に抵抗性を示す害虫にも効果
6 15	アベルメクチン系 +IGR脱皮阻害	アフームエクセラ顆粒水溶剤	・幅広い生育ステージで殺虫効果を発揮 ・殺卵効果を有す	△	○	○	○	○		・浸透移行性はないが、優れた進達性を有する
11A	BT(kurstaki)死菌	トアロー水和剤CT トアローフロアブルCT	・チョウ目害虫の幼虫に対し、選択的に作用 し安定した効果を発揮	×	△	△	○			・若齢幼虫期に時機を失せず散布する
11A	BT(aizawai)生菌	エスマルクDF エコマスターBT ゼンターリ顆粒水和剤	・食毒効果のみで、接触毒効果はない ・幼虫の食害がとまる	×	△	△	○			・若齢幼虫期に時機を失せず散布する
13	ピロール系	コテツフロアブル	・殺虫スペクトルが広い ・害虫のいずれの加害ステージにも効果を示 す	×	○		○			・結球前に使用し、かけむらのないよう十分 量を散布する
14	ネライストキシン系	パダンSG水溶剤	・特に食害性害虫に有効	○	△	○	○	○		・コナガに対し、強い殺卵作用、殺成虫作 用、幼虫に対する長い残効性がある
15	ベンゾイル尿素系 IGR(キチン合成阻害)	マッチ乳剤 アタブロン乳剤 ノーモルト乳剤 カスケード乳剤	・キチン生合成阻害 ・脱皮阻害	×	×	○	○			・幼虫主体の発生初期に散布する ・幼虫期のなるべく早くに散布する ・殺卵作用がある ・産下卵ふ化抑制
18	ジアシルーヒドラジン系 IGR(脱皮促進)	マトリックフロアブル	・チョウ目害虫に高い効果 ・脱皮変態の促進 ・摂食阻害作用		△		○			・チョウ目以外に脱皮促進効果はない
21A	METI剤	ハチハチ乳剤	・殺虫スペクトルが広い ・難防除害虫に高い効果を示す ・殺菌作用を有する	×	○			○		・かけ残しのないように葉の表裏に十分散布 する
22A	オキサジアジン系	トルネードエースDF	・大型チョウ目害虫にも、高い効果 ・中齢・老齢幼虫にも有効 ・食害をすぐに止める		○	○	○	○		・ねぎのシロイチモジヨトウを防除する場 合は、食入前の若令幼虫期に散布する
22B	セミカルバゾン系	アクセルフロアブル	・接触阻害効果 ・齢期の進んだチョウ目害虫の幼虫にも高い 効果	×	○		○			・かけ残しのないように葉の表裏に十分散布 する。
28	ジアミド系	プレバソフロアブル5	・幼虫に対する効果が高い ・速やかに摂食行動を停止させる	○	○	○	○			・灌注と散布のいずれでも使用可能
		ベリマークSC ベネビアOD	・幅広い殺虫スペクトラム ・速やかな摂食行動阻害	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○			・灌注処理 ・OD製剤は展着剤の機能も同時に兼ね備え る
		フェニックス顆粒水和剤	・チョウ目害虫に効果が高い ・害虫の筋肉を収縮させる	×	○	○	○			・かけ残しのないように葉の表裏に十分散布 する
28 4A	ジアミド系 +ネオニコチノイド系	ジュリボフロアブル	・チョウ目から吸汁性害虫まで幅広い殺虫効 果を示す	○	○	○	○			
30	イソキサゾリン系	グレーシア乳剤	・広範囲の害虫に効果 ・耐雨性が高い	△	○	○	○	○		・浸透移行性はないが、浸達性は高い
UN	ピリダリル系	プレオフロアブル	・既存の殺虫剤とは異なる作用性を有する ・散布後の降雨による効果の低下が少ない	△	○	○	○	○		

注1)浸透移行性:○強い △弱い ×なし 2)効果の発現:○速い △やや遅い ×遅い 3)残効性:○長い △やや長い ×短い 4)食毒、接触毒、忌避:○あり HP等による

〈参考8〉フェロモン剤による防除法

1 コナガコン-プラス(コナガ・オオタバコガ・ヨトウガ交信攪乱剤)

作物名	適用場所	使用目的	適用病害虫	使用量	使用時期	使用方法
アロニア	アロニア栽培地帯	交尾阻害	リンゴヒメシ ンクイ	100本/10a (22g/100本製剤)	対象作物 の栽培全 期間	ディスペンサーを対象作物 の枝に巻き付け、または挟み 込み設置する
コナガ、 オオタバ コガ、ヨ トウガが 加害する 農作物等	コナガ、 オオタバ コガ、ヨ トウガの 加害作物 栽培地帯		コナガ オオタバコガ ヨトウガ	100～120本/10a (22g/100本製剤)		作物の生育に支障のない高 さに支持棒等を立て、支持 棒 にディスペンサーを巻き付 け固定し、圃場に配置する
コナガ、 オオタバ コガが加 害する農 作物等	コナガ、 オオタバ コガの加 害作物栽 培地帯		コナガ オオタバコガ	20～40m/10a (55g/50m製剤)		支柱を立てロープ状の製剤 を対象作物の上部に張り渡 す

2 コンフューザーV(交信攪乱剤)

作物名	使用目的	適用害虫名	使用量	使用時期	使用方法
野菜類 いも類 豆類(種 実) 花卉類・ 観葉植物	交尾阻害	コナガ オオタバコガ ハスモンヨトウ タマナギンウワバ イラクサギンウワバ ヨトウガ	100～200本/10a (41g/100本製剤)	対象作物 の栽培全 期間	作物の生育に支障のない高 さに支持棒等を立て支持棒 にディスペンサーを巻き付 け固定し圃場に配置する
		シロイチモジヨトウ	100本/10a (41g/100本製剤)		

※キャベツでは100本/10a+BT剤(30a圃場)でも効果が期待できる。(H19普及に移す技術)

3 フェロディンSL(ハスモンヨトウ大量誘殺剤)

作物名	適用場所	使用目的	適用病害虫	使用量	使用時期	使用方法
あぶらな 科野菜 いちご いも類 たばこ なす科野菜 にんじん ねぎ類 まめ科牧草 豆類 レタス れんこん 等	ハスモン ヨトウ加 害作物栽 培地帯	誘引	ハスモンヨト ウ 雄成虫	2～4個/ha	成虫発生 初期から 発生終期 まで	本剤をトラップ1台当たり1 個を取付けて配置する。取付 けた薬剤は1.5～2ヶ月間 隔で更新する

3 その他の防除用フェロモン剤

ヨトウコン- S : 交尾阻害 : シロイチモジヨトウ 100～500本(20cmチューブ)/10a(露地)
ヨトウコン- H : 交尾阻害 : ハスモンヨトウ 20～200m/10a(20cmチューブの場合100～1000本)(露地)

〈参考9-1〉微生物由来の薬剤(殺菌剤)

作物名	適用病害虫	農薬種類名	商品名
野菜類	うどんこ病	タラロマイセス フラバス水和剤	タフパール
		ボーベリア バシアーナ乳剤	ボタニガードES
	うどんこ病 灰色かび病	バチルス アミロリクエファシエンズ水和剤	インプレッションクリア
		バチルス ズブチリス水和剤	ボトキラー水和剤 バイオワーク水和剤 バチスター水和剤 アグロケア水和剤(ニラ灰色かび病を除く) セレナーデ水和剤
		銅・バチルス ズブチリス水和剤	クリーンカップ ケミヘル
	灰色かび病	バチルス ズブチリス水和剤	エコショット
	菌核病	コニオチリウム ミニタンス水和剤	ミニタンWG
軟腐病	ラクトバチルス プランタラム水和剤	ラクトガード水和剤	
野菜類 (かぼちゃ、ズッキーニを除く)	軟腐病	非病原性エルビニア カロトボーラ水和剤	バイオキーパー水和剤 エコメイト
野菜類 (かぼちゃ、ズッキーニ、しょうがを除く)	軟腐病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
野菜類(施設栽培)	うどんこ病	ペキロマイセス テヌイペス乳剤	ゴッツA
いも類	うどんこ病	バチルス ズブチリス水和剤	セレナーデ水和剤
	灰色かび病		
	軟腐病	ラクトバチルス プランタラム水和剤	ラクトガード水和剤
ばれいしょ	軟腐病	非病原性エルビニア カロトボーラ水和剤	バイオキーパー水和剤 エコメイト
だいこん	黒斑細菌病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
にんじん	黒葉枯病	銅・バチルス ズブチリス水和剤	クリーンカップ ケミヘル
にんにく	黒腐菌核病	コニオチリウム ミニタンス水和剤	ミニタンWG
ねぎ			
きゅうり	褐斑病	銅・バチルス ズブチリス水和剤	クリーンカップ ケミヘル
	斑点細菌病 べと病		
かぼちゃ	うどんこ病	バチルス ズブチリス水和剤	セレナーデ水和剤
	軟腐細菌病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
		非病原性エルビニア カロトボーラ水和剤	バイオキーパー水和剤 エコメイト
トマト ミニトマト	疫病	銅・バチルス ズブチリス水和剤	クリーンカップ ケミヘル
	すすかび病 葉かび病		
	茎えそ細菌病 かいよう病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
	灰色かび病 葉かび病	タラロマイセス フラバス水和剤	タフパール
	葉かび病 すすかび病	バチルス アミロリクエファシエンズ水和剤	インプレッションクリア
	葉かび病	バチルス ズブチリス水和剤	バイオワーク水和剤 エコショット アグロケア水和剤 バチスター水和剤 セレナーデ水和剤
ミニトマト	斑点病	バチルス ズブチリス水和剤	アグロケア水和剤
なす	すすかび病	タラロマイセス フラバス水和剤	タフパール
		バチルス アミロリクエファシエンズ水和剤	インプレッションクリア
		バチルス ズブチリス水和剤	アグロケア水和剤
ピーマン	黒枯病	バチルス アミロリクエファシエンズ水和剤	インプレッションクリア
		バチルス ズブチリス水和剤	アグロケア水和剤
ブロッコリー	花腐腐敗病 黒腐病	シュードモナス フルオレッセンス水和剤	ベジキーパー水和剤
	花腐腐敗病 黒斑細菌病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
	根こぶ病	バリオボラックス パラドクス水和剤	フィールドキーパー水和剤
キャベツ	黒腐病	シュードモナス フルオレッセンス水和剤	ベジキーパー水和剤
	黒腐病 黒斑細菌病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
	根こぶ病	バイオボラックス パラドクス水和剤	フィールドキーパー水和剤
はくさい	黒腐病 黒斑細菌病	シュードモナス フルオレッセンス水和剤	ベジキーパー水和剤
	黒斑細菌病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
	根こぶ病	バイオボラックス パラドクス水和剤	フィールドキーパー水和剤
レタス 非結球レタス	斑点細菌病 腐敗病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
	腐敗病	シュードモナス フルオレッセンス水和剤	ベジキーパー水和剤
ほうれんそう	白斑病	バチルス ズブチリス水和剤	アグロケア水和剤
いちご	炭疽病	タラロマイセス フラバス水和剤	タフパール

〈参考9-2〉微生物由来の薬剤【BT:バチルス・チューリンゲンシス】(殺虫剤)

薬剤名	死菌	生菌	使用倍率	10a当り 使用量	野菜類										その他の品目等	使用 時期
					コ ナ ガ	ア オ ム シ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ガ	ウ リ ノ メ イ ガ	タ マ ナ ギ ン ウ ワ バ	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ			
トアロー水和剤 CT	○		1,000～2,000倍	100～ 300g	○	○									果樹類:ハマキムシ類(500～1,000倍) ストック:コナガ(1,000倍)	発生初期、 ただし収穫前日まで
			500～1,000倍				○									
トアローフロアブルCT	○		1,000～2,000倍		○	○										
			500～1,000倍							○						
ゼンターリ顆粒水和剤		○	1,000～2,000倍	100～ 300g	○	○	○							はくさい:アオムシ、コナガ、ヨトウムシ(2,000倍) ウリ科野菜:ウリノメイガ(1,000倍) いも類:ハスモンヨトウ(1,000倍) とうもろこし:オオタバコガ(1,000倍)		
			1,000倍					○	○	○						
エスマルクDF		○	1,000～2,000倍	100～ 300g	○	○								キャベツ、だいこん、かぶ:ハイマダラノメイガ(1,000倍)		
			1,000倍				○		○							
バシレックス水和剤		○	1,000～2,000倍	100～ 300g	○	○								かき:イラガ類、カキノヘタムシガ(1,000倍)		
			1,000倍								○					
			500倍				○	○								
デルフィン顆粒水和剤		○	1,000倍	100～ 300g	○	○		○	○	○	○	○	○	やまのいも:ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ(1,000倍) いも類(ヤマノイモを除く):ハスモンヨトウ、オオタバコガ(1,000倍) とうもろこし:オオタバコガ(1,000倍)		
チューンアップ顆粒水和剤		○	2,000～3,000倍	100～ 300g	○	○				○			○	水稻:ニカメイチュウ(1,000～2,000倍)、フタオビコヤガ、コブノメイガ、イネツトムシ(2,000～4,000倍) ストック:コナガ(2,000倍)		
			3,000倍						○							
			2,000倍				○									
フローバックDF		○	1,000～2,000倍	100～ 300g	○	○			○				にんにく:ネギコガ(1,000～2,000倍) キャベツ、だいこん:ハイマダラノメイガ(1,000倍)			
			1,000倍				○	○		○						
クオークフロアブル		○	400～800倍	150～ 300g	○	○	○						きゅうり:ウリノメイガ(400倍)			
			400倍				○		○							
サブリーナフロアブル		○	1,000～1,500倍	100～ 300g	○								はくさい:コナガ(1,000～1,500倍)、アオムシ、ヨトウムシ(1,000倍)			
			1,000倍				○	○								
			500～750倍					○								
			500倍						○							

死菌:バチルス チューリンゲンシス菌の産生する結晶毒素(7.0%)

生菌:バチルス チューリンゲンシス菌の生芽胞及び産生結晶毒素(10.0%)

〈参考 9-3〉 微生物由来の薬剤(殺虫剤)

作物名	適用病害虫	農薬種類名	商品名
野菜類	アザミウマ類	ボーベリア バシアーナ乳剤	ボタニガードES
	アブラムシ類		
	コナガ		
	コナジラミ類		
	ハダニ類		
	ネコブセンチュウ	パスツーリア ペネトランス水和剤	パストリア水和剤
	ハスモンヨトウ	スタイナーネマ カーボカブサエ剤	バイオセーフ
野菜類(施設栽培)	アザミウマ類	ボーベリア バシアーナ水和剤	ボタニガード水和剤
	ワタアブラムシ	ペキロマイセス フモソロセウス水和剤	プリファード水和剤
	コナジラミ類	ペキロマイセス フモソロセウス水和剤	プリファード水和剤
		ボーベリア バシアーナ水和剤	ボタニガード水和剤
いも類	ネコブセンチュウ	パスツーリア ペネトランス水和剤	パストリア水和剤
かんしょ(茎葉)	アリモドキゾウムシ	スタイナーネマ カーボカブサエ剤	バイオセーフ
	イモゾウムシ		
ねぎ	クロバネキノコバエ類	スタイナーネマ カーボカブサエ剤	バイオセーフ
トマト	コナジラミ類	ボーベリア バシアーナ水和剤	ボタニガード水和剤
ミニトマト		ボーベリア バシアーナ乳剤	ボタニガードES
キャベツ	アオムシ	ボーベリア バシアーナ乳剤	ボタニガードES
レタス	オオタバコガ	ボーベリア バシアーナ乳剤	ボタニガードES
いちご(施設栽培)	ハダニ類	ペキロマイセス フモソロセウス水和剤	プリファード水和剤

〈参考10〉天敵昆虫剤

作物名	適用病害虫	商品名
野菜類	ハダニ類	スパイカルEX
		スパイカルプラス
野菜類(施設栽培)	チャノホコリダニ	スワルスキープラス
		リモニカ
	ハダニ類	ミッチトップ
		チリトップ
		スパイデックスバイタル
		チリガブリ
		チリカ・ワーカー
		ミヤコトップ
		ミヤコスター
		システムミヤコくん
		アザミウマ類
	メリトップ	
	ククメリスEX	
	スワルスキープラス	
	オリスターA	
	タイリク	
	トスパック	
	リクトップ	
	リモニカ	
	アブラムシ類	アフィパール
		コレトップ
		チャバラ
		テントトップ
カメノコS		
コナジラミ類	エンストリップ	
	エルカード	
	スワルスキープラス	
	リモニカ	
オンシツコナジラミ	ツヤトップ25	
ハモグリバエ類	ミドリヒメ	
野菜類(施設栽培、 ただし、トマト、ミニトマトを除く)	チャノホコリダニ	システムスワルくん
		システムスワルくんロング
	アザミウマ類 コナジラミ類	システムスワルくん
		スワマイト システムスワルくんロング
野菜類(露地栽培)	ハダニ類	システムミヤコくん
	アザミウマ類	スワルスキープラス
いも類(施設栽培)	チャノホコリダニ アザミウマ類 コナジラミ類	スワルスキー
いも類(露地栽培)	アザミウマ類	スワルスキー
きゅうり(施設栽培)	アザミウマ類	バコトップ
トマト・ミニトマト(施設栽培)	コナジラミ類	バコトップ
なす(施設栽培)	アブラムシ類	ギフパール
ピーマン(施設栽培)	アブラムシ類	ギフパール
とうがらし類(施設栽培)		
ほうれんそう(施設栽培)	ケナガコダナニ	ククメリスEX
いちご(施設栽培・露地栽培)	ハダニ類	ミヤコスター
		システムミヤコくん

〈参考11〉 展着剤

分類	薬剤名	作物名	散布液100 当たり使用量	使用 方法	適用農薬名	湿 展 性	浸 透 性	分 散 性	可 溶 化 力	固 着 性	懸 垂 性
機能性展着剤 (アジュバント)	アプローチBI	野菜類	10mℓ	添加	殺虫剤、殺菌剤	○	◎	○	◎	○	○
		野菜類、いも類	5mℓ		殺虫剤、殺菌剤	◎	◎	○	◎	○	○
	スカッシュ	野菜類、いも類	5～10mℓ		殺虫剤、殺菌剤	◎	◎	○	◎	○	○
	ドライバー	野菜類	2～10mℓ		殺虫剤、殺菌剤	◎	○	△	○		△
ミックスパワー	キャベツ、ハクサイ、 キュウリ等	3.3mℓ	有機リン剤、カーバメート 剤等の殺虫剤。無機銅剤、 有機銅剤等の殺菌剤		◎	◎	△	◎	○	○	
一般展着剤 (スプレッダー)	グラミンS	キャベツ等の薬液のつきにくい作物	1～3mℓ		有機リン剤、カーバメート剤などの 殺虫剤。殺菌剤。銅剤、硫 黄剤、抗生物質剤などの殺 菌剤	◎	○	△	○	○	△
		はくさい、きゅうり、ば れいしょ等の薬液のつき やすい作物	0.5～1mℓ			◎	○	◎	○	○	◎
	ダイコート	薬液のつきにくい農作物 等	5mℓ		イミダジン酢酸塩剤、有機銅 剤、イプロロニル剤等の殺菌剤	◎	◎	△	○	○	△
	ベタリン-A	キャベツ、ねぎ等で展着 しにくい作物	2～4mℓ		有機リン剤、カーバメート剤等の殺 虫剤。ホルダー液、銅剤、硫黄 剤、抗生物質剤等の殺菌剤	◎	○	△	○	○	○
		野菜等で薬液のつきや すい作物	1～2mℓ								
	マイリノー	キャベツ、ねぎ等の薬液 のつきにくい作物	1～2mℓ	抗生物質剤、銅剤などの殺 菌剤。有機リン剤、カーバメート 剤などの殺虫剤	○	△	△	○	○	△	
		野菜等で薬液のつきや すい作物	0.5～1mℓ								
	アグラー	野菜類、その他の一般 畑作物	5000～10000 倍	硫黄剤、銅剤などの殺菌 剤。塩素剤、リン剤などの 殺虫剤。植物成長調整剤、 除草剤	◎	○	△	○	○	○	
まくぴか	野菜類、いも類	1～3.3mℓ	殺菌剤・殺虫剤	◎	△	△	○				
ブレイクスルー	野菜類、いも類	1～2mℓ	殺菌剤・殺虫剤	◎	△	△	◎	○	○		

※ 作物によっては薬害が出やすいことがあるので、必ず使用する展着剤に関する情報を確認し、初めて使用する際は小面積で使用する。

- クミアイ農薬総覧より引用。
- 表に示した湿展性～懸垂性等の6項目の性質は、界面活性剤単成分の一般的性質で、使用場面では相手の農薬との相性があるので、必ずしもこの表のとおりになるとは限らない。また、浸透性はろ紙法による結果であり、必ずしも動植物体への浸透性を示すもの
- 濡れやすい作物では、展着剤を加えすぎると薬液が流亡し、かえって付着量が少なくなることがあるので注意する。
- 表に示した性質以外に、泡立ちがある。
- 展着剤の特性
 - (1) 湿展性:植物や病害虫の表面にぬれて広がり、薬液を均一に付着させる性質
 - (2) 浸透性:薬剤が植物組織体へ浸透し、効果を高める性質
 - (3) 分散性:懸濁や乳化により、水に不溶性または難溶性の薬剤を均一に拡散させ、薬剤粒子間の凝集を防ぐ性質
 - (4) 可溶化力:ミセルを形成することより、不溶性または難溶性の薬剤を水に均一に溶解させる性質
 - (5) 固着性:薬剤の付着量を増すとともに、風雨などによる流亡を防ぐ性質
 - (6) 懸垂性:水和剤粒子が水に均一に分散した状態を維持させて、沈降を遅らせる性質

濡れの程度	該当作物名
良い	キュウリ、インゲンマメ、トウモロコシ、カンショなど
中程度	ナス、トマト、メロン、イチゴなど
悪い	キャベツ、ネギ類、サトイモなど

- 農薬を溶かす手順
 - ・混用により卓越した薬効の増強が期待できるが、薬害の発生しやすい条件や薬害の出やすい農薬との混用時には注意が必要である。
 - ・一般的に、界面活性剤を多く含む製剤を先に入れた方が、後から加える薬剤の攪散を助ける。
 - ・水→展着剤→乳剤→フロアブル剤→水和剤の順番に加える。
 - ・乳剤は、加えた後均一に白くなるまで攪拌する。
 - ・フロアブル剤は、前日に容器を反転させておく。調整時は容器をよく振って、ビンの中の薬剤を均一にしてから加える。
 - ・水和剤は、調製した薬液を静置すると少しずつ沈殿するので、できるだけ早く散布する(攪拌しながら散布することが望ましい)。

〈参考12〉発生予察用資材

過剰な農薬使用を防ぐとともに、環境に与える負荷を軽減したIPM(総合的病害虫・雑草管理)を推進するためには、病害虫の発生予察に基づき、適切な防除を行う必要がある。そのため、各圃場に発生予察用資材を設置し、害虫の発生状況を調査すると防除の要否が判断できる。

1 発生予察用フェロモン剤

発生予察用フェロモン剤によるモニタリング調査可能な害虫一覧

対象作物名	対象害虫名	利用可能トラップ			誘引シート	有効期間	調査
		粘着式	乾式	ファネル			
野菜類	ハスモンヨトウ用	○	○	○		1ヶ月	毎日
	シロイチモジヨトウ用	○		○			
	ヨトウガ用	○					
	オオタバコガ用	○		○			
	タバコガ用	○					
	カブラヤガ用	○					
	タマナヤガ用	○					
	タマナギンウワバ用	○					
	コナガ用	○		○			
	アワノメイガ用	○					
	ハウレンソウケナガコナダニ用				○		

(使用方法)

- 粘着式…フェロモン剤を粘着トラップの中央に接着し、圃場内に地面から離れた状態で設置する。
- 乾式、ファネル…フェロモン剤を内部に入れ、圃場内に地面から離れた状態で設置する。
- 誘引シート…シートを圃場の地表面に設置する。

(注意事項)

- 有効期間内にフェロモン剤を交換し、使用済みのフェロモン剤は回収後破棄する。
- 発生予察用フェロモン剤は、防除目的に使用できない。
- ハウレンソウケナガコナダニ「コナダニ見張番」は長期間放置すると、発生源となる恐れがあるので、遅くとも1週間以内に回収する。
- 対象作物・害虫によって、トラップの設置高が異なるので注意する。

【参考】

一般社団法人 日本植物防疫協会 発生予察用資材フェロモンとその利用

<https://jppa.or.jp/wpsite/wp-content/uploads/pheromones.pdf>

2 カラー粘着板

粘着板の色彩と誘引される害虫

粘着板の色彩	対象害虫名	調査
黄色	アブラムシ類、ハモグリバエ類、コナジラミ類、アザミウマ類	7日ごと
青色	アザミウマ類(みなみ)	

- 野菜類を加害する上記の微小昆虫を誘引・捕殺する粘着板を利用することで、圃場内の発生状況を知ることができる。
- 粘着板は圃場内に数ヵ所設置し、7日ごとに調査を行い、圃場への侵入時期・発生量の目安とする。
- 一般に微小昆虫は成虫の発生から1週間前後で次世代幼虫が増加してくるので、害虫の生育ステージに効果的な薬剤を選定する。
- 要防除水準は、作目、害虫の種類により異なるが、ウイルス病の媒介が懸念される場合には、粘着板への誘引、捕殺を確認次第、薬剤防除を実施する。

2 野菜・いも類除草剤

(1) 使用上の注意事項

- ① 使用薬量は散布実面積当たりの量であり、畝内散布面積を前もって算出し、その面積当たりの薬量を厳守する。
- ② 土壌処理剤は、雑草の発芽期に土壌表面を細かく砕いて散布する。
- ③ 残効害防止のために、除草剤は均一に散布すること。
- ④ 土壌処理は適当な湿度が必要で、乾燥状態では効果が少なく湿潤すぎると薬害の恐れがある。
- ⑤ 水量は、土の湿り具合で増減する。噴霧器は、低圧～中圧で下向き噴口のものを使用する。
また、風が強いときなどは、散布を避けること。
- ⑥ マルチ、トンネル、ハウスなどは薬害が出やすいので、極端な高温、乾燥状態では使用せず、薬量を少なめにする。

(2) 農薬使用基準（各農薬の使用時期・使用回数は適用作物毎に異なるので確認の上使用する）

(3) 使用方法

除草剤名	なす	ピーマン	トマト	ミニトマト	きゅうり	すいか	メロン	かぼち	いちご	キヤベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	葉菜類	非結球あぶらな	ほうれんそう	ねぎ	たまねぎ	らっきょう	にんにく	レタス	にんじん	未成熟そらまめ	スイートコーン	ばれいし	かんのしい	やまのしい	さといも	
トレファノサイド乳剤	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○				○	○	○	
トレファノサイド粒剤2.5	○		○	○	○	○	○			○	○	○						○	○	○	○	○				○	○	○	○	
ナブ乳剤			○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	↑(豆類(未成熟))	○	○	○	○	
バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ゲザプリムフロアブル																								○	↑(とうもろこし)					
ラッソー乳剤									○	○	○	○	○	○			○								○	○	○			
クレマート乳剤	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○						○	○	○	○	○	○			○		○	○	
クレマートU粒剤			○		○	○	○			○								○	○							○	○	○	○	
ゴーゴーサン乳剤										○	○							○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	
ゴーゴーサン細粒剤F										○	○							○	○						○	○		○		
フィールドスターP乳剤										○	○								○						○	○				
クロロIPC									○	○								○	○					○						
ロロックス																		○		○	○				○	○	○	○	○	
ラウンドアップマックスロード	○	○	○	↑	○	↑	↑	↑	↑	○	↑	○	○	↑	○	↑	○	○	○	○	↑	○	○	○	↑	○	○	↓(いも類)	○	○

※↑は野菜類で登録、または（ ）内に記載の品目で登録

IV 果 樹

1 果樹病害虫

果樹病害虫重点防除指導方針

本県の主要樹種としてウメ・ナシ・カキがあり、その他にブドウやイチジクが比較的多く栽培されている。

果樹では病害虫の発生動向に注意し、病害虫の生態や薬剤の性質を踏まえた防除を指導するとともに、栽培環境の整備や栽培上の工夫・改善によって安全で効率的な防除方法の普及をはかる。さらに、農薬の適正使用を徹底し、果物の安全性・農業者の健康保持・環境保全に努める。

1 耕種的防除の推進

- (1) 病害虫抵抗性品種・台木を利用する。
- (2) 新規に果樹品目を導入する場合は、品目の中で早生種とされる品種を優先し、病害虫の罹病・加害リスクを下げる。
- (3) 有機物の投入や土壌の深耕など土づくりを行い、樹体生育の健全化により、病害虫への抵抗性を高める。
- (4) 果樹園およびその周辺において被害部位は焼却や地中埋設により迅速に処分し、病害虫の発生源や越冬場所の減少を通して、栽培環境の改善をはかる。

2 主要病害虫の防除技術

- (1) 薬剤による防除は、予防散布および病害虫の発生初期散布を基本とする。
- (2) 防除効果を高めるため、組織による効率的な防除を推進する。

(1) ウメ

〔果樹類＞落葉果樹＞核果類＞小粒核果類＞うめ〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
黒 星 病	生 育 期 (開花終了 ～ 5 月)	・果実への感染から発病までの潜伏期間は30日以上ある。 ・4月中旬～5月上旬の天候が低温多雨になると発生が多くなる可能性がある。 ・風通しや日照の悪い園で多発する。多発園では散布間隔を10日以内にする。
	収 穫 後 (8～9月)	・翌年の発生源になる枝病斑を減らすとともに、花枝生産をする場合はその品質向上をはかるため、収穫後から9月末までに薬剤を散布する。
かいよう病	葉芽発芽前 ま で (休眠期)	・常発地では休眠期防除が不可欠だが、強風を受けやすい園では防風垣や防風ネットによる防風対策が必須である。
	果実肥大期 (4月上旬～ 5月上旬)	・強風や降雹等で傷害を受けた場合は、治療効果のある抗生物質剤を速やかに散布する。 ・かいよう病の防除対策は欄外参照。
灰色かび病	生 育 期 (開花終了直後 ～4月中旬)	・開花後のガクや雄しべで発病が始まり、幼果では多くの場合、果梗周辺にやや窪んだ病斑を生じる。好適な条件が揃うと、果実全体が菌糸で覆われ落果する。 ・開花盛期から開花終期までの日数が10日以上に長引くと発生が多くなる傾向にある。
すす斑病	生 育 期 (5月下旬～6 月上旬)	・5、6月に雨の多い年や収穫期が遅い谷あいの園で多発しやすい。 ・ネット収穫を行う場合は、収穫開始時期を考慮して最終薬剤散布の時期を調整する。
環紋葉枯病 葉炭疽病	収 穫 後 (7～8月)	・発生前の予防散布または発生初期に薬剤散布を行う。
切り口および傷口のゆ合促進	剪定整枝時、 病患部削り取 直後、及び 病枝切除後	・切り口にトップジンMペーストを適量塗布する。
アブラムシ類	生 育 期 (4月～ 5月中旬)	・幼木や窒素過多で生育旺盛な樹に発生が多い。 ・展葉期から5月に高温、乾燥が続くと多発しやすい。 ・展葉直後の新梢や幼果に寄生して吸汁する。新梢に寄生すると葉は萎縮する。
ノコトガリキリガ (モモノハナムシ)	開花終了直後 ～ 幼果期	・花蕾および幼果に貫入・食害する。
コスカシバ	休 眠 期 (落葉後～ 萌芽前)	・この時期にガットキラー乳剤を用いる場合、樹幹部および主枝に十分散布する。新芽の被害を避けるため、萌芽前に散布を終える。
	幼虫発生期 (5月～10月)	・生物農薬を用いる場合は、効果を高めるため晴天時の散布は避け、曇天または少雨時に散布するのが望ましい。 ・虫糞が見られるところを中心に主幹部全体に散布する。
	成虫発生期 (5月上中旬)	・この時期は成虫の交尾阻害により密度低下をはかる性フェロモン剤を用いる。 ・ディスペンサーを枝に巻き付け固定する。効果は1シーズン限りなので毎年付け替える。 ・効果を高めるために、広範囲一斉設置と併せて防風垣の設置を行う。
ケムシ類	幼虫発生期	・ウメを食害するケムシ類としては、春季に発生するマイマイガ、オビカレハ、夏秋季に発生するモンクロシャチホコ等がある。
	[耕種的防除]	・せん定時に越冬卵塊を取り除く。 ・卵は1か所に固めて産み付けられ、若齢幼虫のうちは狭い範囲に群がる性質がある。分散前の若齢幼虫のうちに発見し、捕殺する。
ハマキムシ類 アメリカシロヒトリ	収 穫 後 (8～9月)	・害虫の早期発見に努める。

病害虫名	防除時期	摘 要
カイガラムシ類 カイガラムシ類 幼 虫	第1世代発生期 (4月下旬 ～5月中旬)	<ul style="list-style-type: none"> ・ウメシロカイガラムシ、タマカタカイガラムシの防除対策は欄外参照。 ・成虫のカイガラをめぐって、産卵～幼虫ふ化時期を把握し、発生初期に散布する。 ・ウメシロカイガラムシは幼虫発生初期および7～10日後の2回防除すると効果が高い。 ・休眠期防除参照。
	第2世代発生期 (7月中下旬)	
ウメシロ カイガラムシ	第3世代発生期 (8月下旬 ～9月上旬)	
ケシキスイ類 アカマダラ ケシキスイ	収 穫 前	<ul style="list-style-type: none"> ・ウメ果実を食害するのはアカマダラケシキスイであり、落果後、数時間で幼虫が果実へ侵入し始める。 ・成虫は5月中旬～秋まで発生し、幼虫は6月上旬～8月上旬まで発生する。
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ・園内に落ちている梅が増殖源となるため、早急に園外へ撤去する。 ・落下果実をなるべく地面に接触させないよう、ネット収穫では朝夕2回以上こまめに果実の回収を行う。

② かいよう病の防除

本病は、果実に病斑を作り商品価値を低下させるだけでなく、開花期に花梗付近に感染したものは後に黒変して、落花(落果)につながることが多い。また、感染した枝は、病斑部分で亀裂を生じたり、折れたりすることがある。しかし、本病に対して卓越した効果のある防除体系は確立されていないので、次の各項目により総合的な対応を行う。

・防風垣・防風ネットの設置

風雨によってできた傷口が主な感染経路となるので、樹園地の周囲に防風垣や防風ネットを整備して、風当たりを和らげることが薬剤散布よりも重要である。なお、防風対策は、ミツバチなどの訪花昆虫の活動にも良い影響をもたらす。

・抗生物質薬剤の散布

暴風雨や降雹があった場合、天候回復後すみやかに散布する。また、常発園では4月中旬に散布すると発生抑制効果が高い。

・ボルドー剤の散布

防風対策が不十分な場合、果実肥大期の薬剤散布だけでは、十分な効果が認められない事例が多い。葉芽発芽までのボルドー剤散布によって、かいよう病の越冬菌密度を低下させることができ、果実肥大期に散布する薬剤の効果を高めることができる。

③ カイガラムシ類の防除

ウメシロカイガラムシ

- ・年3回発生し、5月上旬に発生する第1世代が果実にも加害する(次頁図)。
- ・多数の幼虫や成虫が集団でウメ樹に寄生するため、樹勢の低下やこうやく病の発生原因になる。
- ・ふ化から2週間程度でカイガラを形成するため、ふ化直後に薬剤散布しないと防除効果が著しく低下する。
- ・薬剤の効果を得るためには、雌成虫のカイガラをめぐって産卵時期を把握しながら、ふ化時期を正しく判断し、ふ化最盛期に適切な薬剤を用いて防除を行う。

タマカタカイガラムシ

- ・幼虫と雌成虫が寄生して、吸汁加害する。多発すると落葉が早まったり、枝が枯死する恐れがある。
- ・年1回発生する。2齢幼虫で越冬し、5月下旬～6月上旬にふ化する(次頁図)。
- ・もっとも有効な防除時期はふ化直後の5月末頃であり、日陰部を好んで定着するため、樹の下から吹き上げて薬剤を散布すると効果が安定する(平成29年度実用化技術)。

ウメシロカイガラムシとタマカタカイガラムシの発生消長



④ モモヒメヨコバイの生態と防除

本県でのモモヒメヨコバイの発生は、令和6年に初めて確認（同定）された。成虫は、体長3～3.5mmで、体色は黄緑色から緑色。幼虫は若齢の時は薄い黄色で、老齢になるにつれて濃くなり、成虫と同じ緑色になる。複眼は黒く、頭頂部に特徴的な黒点がある。詳しい生態は明らかにされていないが、成虫で越冬する可能性があり、1年に複数の世代が発生すると考えられる。

幼虫・成虫が葉を吸汁することで加害し、葉がかすり状に白く脱色し、やがて黄化する。被害量が多いと早期落葉し、翌年の樹勢、収量への影響があると考えられる。被害葉の裏側には、幼虫の白い脱皮殻が付着していることが多い。

国内ではウメ、モモ、ハナモモ等のバラ科の果樹や花木への加害が確認されており、海外ではナシ、リンゴ、ポポー等への加害も報告されている。

春先から圃場内をよく見回り、発生、被害の早期発見に努める。防除の際には、必ず登録のある薬剤を散布する。通常の薬剤防除を行っている生産園地では、本種による大きな被害は確認されていないが、放棄園など管理不足の園地では急速な増殖が見られることから、地域で連携した防除対策が重要である。

⑤ スプリンクラー防除

薬剤散布の作業を省力化できるが、薬液量は手散布の約2倍必要になる。また、枝葉が繁茂した状態では枝幹への薬液の付着が劣るため、カイガラムシ等の枝幹害虫に対する防除や5月中旬以降のすす斑病防除は、従来どおり手散布で行う必要がある。

ウメ【殺菌剤・その他】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）								
									かいよう病	すす斑病	すす斑病（うめ）	灰色かび病	環紋葉枯病	黒星病	切り口及び傷口のゆ合促進	葉炭疽病	銅水和剤による薬害の軽減
うめ	ICボルト-66D	銅水和剤	M1		葉芽発芽前まで	-	200~700g/10a	散布	50倍								
うめ	Zボルト-	銅水和剤	M1		葉芽発芽前まで	-	200~700g/10a	散布	500倍								
うめ	イオウアンプル	水和硫黄剤	"UN(*)		発病前~発病初期	-	200~700g/10a	散布						500倍			
うめ	インダ-70アンプル	フェノコナ-ル水和剤	3		収穫前日まで	2回以内	200~700g/10a	散布		5000倍				5000倍			
うめ	ホルフィン-ラスアンプル	フェノコナ-ル・フルピラミ水和剤	"[-](*)、3		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布						3000倍			
うめ	カスミン液剤	カスミン液剤	24		収穫30日前まで	2回以内	200~700g/10a	散布	500倍								
うめ	サルファ-70	水和硫黄剤	"UN(*)		発病前~発病初期	-		散布						500倍			
うめ	スコア顆粒水和剤	ジフェノコナ-ル水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布		2000~3000倍				2000~3000倍			
うめ	ストロビ-ト-ライアンプル	クソキシムメチル水和剤	11		収穫7日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布		2000~3000倍		2000倍	2000倍	2000~3000倍			
うめ	デランアンプル	ジチアノ水和剤	M9	劇	収穫14日前まで	2回以内	200~700g/10a	散布		1500~2000倍				1500~2000倍			
うめ	ナリアWDG	ピラクトロピ-ン・ボスカリド水和剤	11,7		収穫7日前まで	2回以内	200~700g/10a	散布		2000倍			2000倍	2000倍			
うめ	バリダ-5	バリダ-5液剤	U18		収穫7日前まで	4回以内	200~700g/10a	散布	500倍								
うめ	ベルクトアンプル	イミダジンアルル酸塩水和剤	M7		収穫30日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布		2000倍		2000倍		2000倍			
うめ	ベルクト水和剤	イミダジンアルル酸塩水和剤								2000倍		2000倍	2000倍	2000倍			
うめ	ボリベ-リン水和剤	イミダジン酢酸塩・ボリベ-リン水和剤	"[-](*)、M7		収穫30日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布				1000倍		1000倍			
うめ	マイコシールド	オキシテラサイクリン水和剤	41		収穫21日前まで	4回以内	200~700g/10a	散布	1500倍								
うめ	ロブ-ラル水和剤	イプロジ-オン水和剤	2		収穫45日前まで	2回以内	200~700g/10a	散布				1000~1500倍	1000~1500倍				
小粒核果類	オソサイド水和剤80	キャブタン水和剤	M4		収穫21日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布		800倍				800~1000倍			
小粒核果類	カナメアンプル	インビ-ルフルキサム水和剤	7	劇	収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布			4000倍			4000倍			
小粒核果類	トップジンMベ-スト	チオファネ-トメチルベ-スト剤	1		【A】	3回以内		塗布							原液		
小粒核果類	トップジンM水和剤	チオファネ-トメチル水和剤	1		収穫21日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布				1000~1500倍	1000~1500倍		1000~1500倍		
小粒核果類	ネクスターアンプル	イソピラジ-ム水和剤	7		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布						1500倍			
小粒核果類	パレ-ト15アンプル	ピラジ-フルミド水和剤	7		収穫前日まで	2回以内	200~700g/10a	散布			2000倍	2000~3000倍		2000~3000倍			
小粒核果類	フル-ツセイバ-	ベンチオピラ-ト水和剤	7		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布						1500~2000倍			
小粒核果類	マスタビ-ス水和剤	シュート-モスロピ-シア水和剤	「-(生)」		収穫前日まで	-	200~700g/10a	散布	1000~2000倍								
小粒核果類	ミキ720アンプル	イプフルフェキソ水和剤	52		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布						2000倍			
小粒核果類(すももを除く)	スターナ水和剤	オキソリニク酸水和剤	31		収穫7日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布	1000倍								
小粒核果類(すももを除く)	ムッシュボルト-DF	銅水和剤	M1		葉芽発芽前まで	-	200~700g/10a	散布	500倍								
うめ	クレアノン	炭酸カルシウム水和剤	-		-	-		【Z】									200倍

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

使用方法：【Z】 銅水和剤に混用して散布

ウメ【殺虫剤・その他】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度(希釈倍率)											
									アカマダラシキイ	アブラムシ類	アザミソビ	ウメシロカイラムシ	カイガラムシ類	カイガラムシ類幼虫	ケンキイ類	ケムシ類	コスシバ	ノコギリキリガ	ハマキムシ類	
うめ	アカタ顆粒水溶剤	チアトキム水溶剤	4A		収穫7日前まで	2回以内	200~700%/10a	散布		2000~3000倍										
うめ	アディオン乳剤	ヘルムトリン乳剤	3A		収穫前日まで	2回以内	200~700%/10a	散布		3000倍										
うめ	アブロードフロアブル	アブロードフロアブル水和剤	16		収穫7日前まで	2回以内	200~700%/10a	散布						1000倍						
	アブロード水和剤			収穫後~落葉前							1000倍									
うめ	ガットキラー乳剤	MEP乳剤	1B		休眠期(落葉後~萌芽前)	2回以内		【Z】									100倍			
	スミチオン乳剤			収穫14日前まで	200~700%/10a	散布			1000~2000倍	1000倍										
うめ	ダントツ水溶剤	クロチアジソン水溶剤	4A		収穫前日まで	3回以内	200~700%/10a	散布		2000~4000倍					2000倍	2000~4000倍				
うめ	パリアード顆粒水和剤	チアクロリド水和剤	4A	劇	収穫前日まで	2回以内	200~700%/10a	散布	4000倍	2000~4000倍										
うめ	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤	28		開花期まで	1回	5~200%/10a	【Z】									200倍			
				劇	収穫前日まで	2回以内	200~700%/10a		散布							4000倍	4000倍			
うめ	マブリック水和剤20	フルベリネット水和剤	3A	劇	収穫21日前まで	2回以内	200~700%/10a	散布		4000倍						4000倍				
うめ	モスビラン顆粒水溶剤	アセタムリド水溶剤	4A	劇	収穫前日まで	3回以内	200~700%/10a	散布		2000~6000倍			2000倍		2000倍				2000倍	
小粒核果類	アルパリン顆粒水溶剤	ジメチアソン水溶剤	4A		収穫前日まで	3回以内	200~700%/10a	散布		2000倍										
小粒核果類	ウララDF	プロニカミド水和剤	29		収穫7日前まで	2回以内	200~700%/10a	散布		2000~4000倍										
小粒核果類	コチツフロアブル	クロルフェナチル水和剤	13	劇	収穫前日まで	2回以内	200~700%/10a	散布				2000倍								
小粒核果類	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン水和剤	9B		収穫前日まで	3回以内	200~700%/10a	散布		2000~4000倍			2000倍							
小粒核果類	スタークル顆粒水溶剤	ジメチアソン水溶剤	4A		収穫前日まで	3回以内	200~700%/10a	散布		2000倍										
小粒核果類	モベントフロアブル	スピロトラマト水和剤	23		収穫7日前まで	3回以内	200~700%/10a	散布		2000倍			2000倍							
小粒核果類(すももを除く)	ダイアジノン水和剤34	ダイアジノン水和剤	1B	劇	収穫21日前まで	2回以内	200~700%/10a	散布		1000~1500倍	1000~1500倍									1000~1500倍
果樹類	ハイセーブ	スタイナーネカーボカブサエ剤			「(生)」	幼虫発生期	-	25%	【Y】										2500万頭(約10g)	
果樹類	スシバコンL	シナンセリア剤				成虫発生初期から終期			【X】								8g/100本製剤			

使用方法：【Z】樹幹部及び主枝に散布、【Y】虫糞が見られる所を中心に主幹部全体に散布、【X】ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け設置する

(2) ナ シ

〔果樹類>落葉果樹>仁果類>なし〕

① 防除のポイント・注意点

病害虫名	防除時期	摘 要
黒 斑 病	幼 果 期	<ul style="list-style-type: none"> ・「二十世紀」では袋かけ直前に薬剤を散布し、防除後は時間を空けないで袋かけを行う。 ・5月下旬～6月は感染最盛期なので、7日おきに防除し、梅雨時期には展着剤を必ず使用する。
黒 星 病	脱 苞 期 ～ 開 花 前	<ul style="list-style-type: none"> ・りん片がずれ始めた頃に薬剤を散布すると効果が高い。
	幼 果 期 ～ 果 実 肥 大 期 お よ び 収 穫 期	<ul style="list-style-type: none"> ・春先に降雨が多く、低温の年は多発する。 ・防除が必要なときは、雨の止み間や少雨でも防除する。 ・9～10月は秋季発生期であり、収穫期間中でも使用基準を守って薬剤散布する。
	収 穫 後	<ul style="list-style-type: none"> ・休眠期防除参照
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ・病斑がついている枝や芽は切り取り、園外で焼却処分する。 ・欄外参照
赤 星 病	・開花直前～5 月 上 旬	<ul style="list-style-type: none"> ・多発園では、初発期とさらにその1週間後に散布する。
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ・中間宿主であるビャクシン類を周辺(1km程度)から取り除く。
輪 紋 病 (いぼ皮病)	剪定整枝時 及 び 病 患 部 削 り 取 り 直 後	<ul style="list-style-type: none"> ・枝幹部のいぼにトップジンMペーストを塗布して、いぼからの孢子飛散を封じ込める。
	6 月 上 旬 ～ 7 月 下 旬	<ul style="list-style-type: none"> ・摘果直後・梅雨期・果実肥大後期が、防除適期である。
胴 枯 病	剪定(整枝)時及 び病患部削り取り 直 後	<ul style="list-style-type: none"> ・せん定直後の切り口にトップジンMペースト、またはバッチレート塗布する。 ・特に、「幸水」は予防効果が高い。 ・生育期にも病患部の早期発見に努め、見つけ次第、病患部を大きめに完全に削りとり、その傷あとおよび周辺部に十分塗布する。
白 紋 羽 病 欄外参照	収穫30日前ま で	<ul style="list-style-type: none"> ・休眠期処理では、根を露出させ病患部切除後に薬剤をかん注する。 ・生育期処理では、土を掘り返さず、かん注器により土壤に注入する。

病害虫名	防除時期	摘 要
カメムシ類	5 月 中 旬 ～ 9 月 上 旬	・成虫が山林から果樹園に飛来し、幼果期から収穫期まで加害するため、常に発生動向に注意する。
ナシゲンバイ	5 月 下 旬 ～ 6 月 中 旬	・夏から秋にかけて高温、乾燥が続く年は発生に注意する。
ヤ ガ 類 (果実吸汁蛾類)	[被害時期] 7 月 中 旬 ～ 収 穫 期	・幼虫が山林原野で発育し、成虫が夜間のナシ園に飛来して果実を吸汁する。近くに山林原野があると被害を受けやすい。 ・ナシを加害するヤガとしてアケビコノハ、フクラスズメ、ナシケンモンがある。
	[耕種的防除]	・ 薬剤による防除法はなく、多目的防災網等でナシ園全体を被覆し、成虫の侵入防止をはかる。 ・忌避効果のある黄色灯を設置し、夜間に点灯する。
アブラムシ類	5 月 上 旬 ～ 7 月 下 旬	・展葉期には葉の薬害が発生しやすいので注意する。
カイガラムシ類	5 月 上 旬 ～ 7 月 中 旬	・特に春先の発生に注意する。 ・5月上～中旬、7月上～中旬頃の幼虫ふ化期から若齢幼虫期に防除する。 ・ 休眠期防除参照
クワコナ カイガラムシ		
コナカイガラムシ類若齢幼虫	7 月 上 旬 ～ 中 旬	
	[コナカイガラムシ類の耕種的防除: バンド誘殺法]	・9月下旬までに主枝や亜主枝にクラフト紙を巻きつけ、12月～2月に取り外して焼却、駆除する。
ナシホソガ (ナシノカワモグリ)	6 月 下 旬 ～ 7 月 上 旬	・6月下旬から7月上旬頃の越冬世代成虫発生最盛期を中心に防除する。
シンクイムシ類	7月上旬～中旬	・「豊水」では、さらに8月中～下旬の間に薬剤防除を行う。
ナシヒメシンクイ	成虫発生初期	・性フェロモン剤は、ディスペンサーを細枝などに巻き付け、圃場内で均一になるように設置する。晩生品種には残効が及ばないことがあるので、8月中旬に50本/10aを追加で設置する。
	[耕種的防除]	・被害枝、被害芽は切除後に焼却する。
ハマキムシ類	5 月 中 旬 ～ 6 月 下 旬	・発生状況を見ながら、ふ化幼虫の最盛期に防除する。
ハダニ類	[耕種的防除]	・雑草中で増殖を繰り返すので、草刈りを励行する。なお、草刈りに合わせて薬剤を散布する。 ・9月中旬に樹幹部にコモ等をまきつけ、バンド誘殺する。
	欄外参照	
	休眠期防除参照	
ニセナシサビダニ	5 月 上 旬 ～ 6 月 上 旬	・本種は、ナシの徒長枝先端部の新葉に寄生して吸汁加害するほか、増殖すると葉にさび症状を呈する被害を発生させる。被害葉は褐変、変形し、被害が進行すると早期に落葉する。 ・被害の発生程度には品種間差があり、「二十世紀」など葉に繊毛の多い品種で著しい。 ・ 休眠期防除参照
	欄外参照	

② 黒星病防除

発生の特徴

- ・9月以降の罹病落葉とりん片病斑が伝染源となり、翌年の3月中旬頃から5月下旬頃にかけて降雨のたびに胞子が飛散し、伝染する。その後、病斑上に形成された分生子は、降雨時に分散して伝染を繰り返す。
- ・開花直前から開花後約2週間までに、降雨日が多いと感染が増大する。
- ・葉・葉柄・りん片・花そう基部・果実・新梢に、発病する。もともと感受性が高い「幸水」では、満開40日後頃には感受性がいったん低下するが、その後再び徐々に高まり、満開75～90日後に最盛期に達する。

防除法

- ・もともと重要な防除時期は、開花直前から開花後2週間までであり、この時期の薬剤防散布を徹底する。
- ・落葉は、集めて土中に埋めるか焼却する。乗用草刈機での粉碎、ロータリーでの粉碎、すき込みも効果がある。
- ・りん片および芽基部の病斑は、開花直前までに切除する。
- ・施肥量の適正化とともに、風通し・日当たりを良くして、健全な樹に育てる。

③ 白紋羽病防除

発生の特徴

- ・春季の発芽が遅れ、新梢伸長が悪くなる。葉色はやや淡くなり、果実は小玉傾向となる。
- ・花芽の数が多くなり、秋季の紅葉、落葉が早くなる。
- ・地上部にこのような症状が出た樹の根を掘り上げてみて、根に真っ白い菌糸が扇状に密着している場合は、白紋羽病と診断される。

防除法

- ・上記のような特徴が一見して分かる場合は、防除が困難な場合が多いので、園内をよく見回り早期発見、防除に努める。
- ・重症の樹では休眠期処理とし、樹の周囲の半径1m、深さ15cm程度の土を掘り上げ、根を露出させる。病根を除去した後、薬剤かん注し、埋め戻す土と薬液がよく混ざるようにしながら埋め戻す。
- ・軽症樹や重症樹の隣接樹では、生育期に土壌かん注器を用いて、薬剤をかん注処理する。

④ ハダニ類、ニセナシサビダニの防除

ダニ剤の特性と使用上のポイント

- ・前年多発した園では、休眠期防除とともに展葉後なるべく早い時期に防除する。
- ・ハダニ類は繁殖が早く、高密度になると防除が困難になるので、発生初期に薬剤散布する。
- ・多発園では、5～6日おきに系統の異なる薬剤で2～3回防除する。
- ・浸透移行性がない薬剤は、かけ残しのないように葉の表裏に丁寧に散布する。
- ・成虫に対する防除効果がない薬剤は、薬剤の効果発現には10日程度を要する。

ナシ【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度(希釈倍率)								
									黒星病	黒斑病	傷口のゆ合促進	赤星病	切り口及び傷口のゆ合促進	胴枯病	白紋羽病	輪紋病	
なし	ICボルト-48Q	銅水和剤	M1		収穫後～開花前	-	200～700g/10a	散布	30倍								
なし	アクサー70アブル	ジフェノコナゾール・フルキサビロキサト水和剤	3,7		収穫14日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000倍	2000倍		2000倍					2000倍
なし	アリエティック水和剤	キャブタン・ホセチル水和剤	M4,P7		収穫14日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布		400～800倍							400～800倍
なし	アントラコール顆粒水和剤	プロビネブ水和剤	M3		休眠期	1回	300～400g/10a	散布		250倍							
					収穫45日前まで	4回以内	200～700g/10a	散布	500倍	500倍		500倍					
なし	インダ-70アブル	フェンブコナゾール水和剤	3		収穫7日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	5000～12000倍			8000～12000倍					5000倍
なし	オーシャイン水和剤	ホスホコナゾールフル酸塩水和剤	3		収穫前日まで	5回以内	200～700g/10a	散布	3000～4000倍	2000倍			3000～4000倍				
なし	オキシラン水和剤	キャブタン・有機銅水和剤	M1,M4		収穫3日前まで	9回以内	200～700g/10a	散布	500～600倍	500～600倍							500～600倍
なし	オンリーワンアブル	テブコナゾール水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000～4000倍	2000倍			2000～4000倍				2000倍
なし	カナメアブル	イビフルキサム水和剤	7	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	4000～8000倍	4000倍			4000～8000倍				4000倍
なし	キノド-水和剤80	有機銅水和剤	M1		収穫3日前まで	9回以内	200～700g/10a	散布	1200～2000倍	1200～2000倍							1200倍
なし	キノド-顆粒水和剤				収穫3日前まで	9回以内	200～700g/10a	散布	1000倍	1000倍							
なし	ジマダ イセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(*)		収穫30日前まで	5回以内	200～700g/10a	散布	400～600倍	400～600倍			400～600倍				400～600倍
なし	スクレアアブル	マンデストロビン水和剤	11		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000～3000倍								2000～3000倍
なし	スコア顆粒水和剤	ジフェノコナゾール水和剤	3		収穫14日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000～4000倍	2000倍			2000～4000倍				2000倍
なし	ストロート-ライアブル	クレスキシメチル水和剤	11		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	3000倍	2000～3000倍							2000～3000倍
なし	セルカデイスD70アブル	ジチアノフルキサビロキサト水和剤	7,M9	劇	収穫60日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	1500倍	1500倍			1500倍				
なし	チオノックアブル	チラム水和剤	M3		収穫30日前まで	5回以内	200～700g/10a	散布	500倍	500倍			500倍				
なし	テランアブル	ジチアノ水和剤	M9	劇	収穫60日前まで	4回以内	200～700g/10a	散布	1000倍	1000倍			1000倍				1000倍
なし	トキリンアブル	有機銅水和剤	M1		収穫3日前まで	9回以内	200～700g/10a	散布	1000倍	1000倍							1000倍
なし	トップジンM [®] -スト	チオファネートメチル [®] -スト剤	1		【A】	3回以内		塗布					原液				
					【B】					原液		原液		原液			
なし	トリフミン水和剤	トリフルミン水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000～3000倍			2000～3000倍					
なし	トレノックスアブル	チラム水和剤	M3		収穫30日前まで	5回以内	200～700g/10a	散布	500倍	500倍			500倍				
なし	ナリアWDG	ビラクトロビン・ボスカリト水和剤	11,7		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000倍	2000倍							2000倍
なし	ネクター70アブル	イビラザム水和剤	7		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	1500～3000倍	1500倍			1500～3000倍				1500倍
なし	パシタック水和剤75	メブロール水和剤	7		収穫60日前まで	5回以内	200～700g/10a	散布					500～1000倍				
なし(西洋なしを除く)	パスト顆粒水和剤	TPN水和剤	M05		収穫後～落葉終了まで	3回以内	200～700L/10a	散布	1000倍								

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）							
									黒星病	黒斑病	傷口のゆ合促進	赤星病	切り口及び傷口のゆ合促進	胴枯病	白紋羽病	輪紋病
なし	パッチレト	有機銅塗布剤	M1		【C】	3回以内		【Z】			原液			原液		
なし	パレード1570アブル	ビラジフルミド水和剤	7		収穫前日まで	2回以内	200～700g/10a	散布	2000～3000倍	2000倍		2000～3000倍				2000～3000倍
なし	ファンタジスタ顆粒水和剤	ビリンカルブ水和剤	11		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	3000～4000倍	3000～4000倍						3000～4000倍
なし	フルツセイバー	ベンチオビラド水和剤	7		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	1500～3000倍			1500～3000倍				
なし	フロンサイドSC	フルアジナム水和剤	29		収穫30日前まで	1回	100～200g/樹	土壌灌注							1000倍	
							200～700g/10a	散布	2000～2500倍	2000～2500倍					2000倍	
							50～100g/樹	土壌灌注							500倍	
なし	ペランティールアブル	メフェントリフルコゾール水和剤	3		収穫14日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	8000倍							
なし	ベルクトアブル	イミノクサジソールベシ酸塩水和剤	M7		収穫14日前まで	5回以内	200～700g/10a	散布	1500倍	1500倍						1500倍
なし	ベルクト水和剤				収穫14日前まで	5回以内	200～700g/10a	散布	1000～1500倍	1000～1500倍						
なし	ボリベリン水和剤	イミノクサジ酢酸塩・ボリキシン水和剤	"[-] (I*),M7		収穫14日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	1500倍	1500～2000倍						1500倍
なし	ミキ720アブル	イブフルフェキソ水和剤	52		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000～4000倍							
なし	ユニックス顆粒水和剤47	シプロジニル水和剤	9		収穫21日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000倍	1000～2000倍						
なし	ロブラル水和剤	イブロン水和剤	2		収穫14日前まで	5回以内	200～700g/10a	散布		1000～1500倍						

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後、

【B】 剪定整枝時及び病患部削り取り直後、

【C】 剪定時及び病患部削り取り直後

使用方法：【Z】 剪定枝の切口、病患部の削除あとに塗布

ナシ【殺虫剤・その他】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度(希釈倍率)											
									アブラムシ類	カイガラムシ類	カメムシ類	クワカバハムシ	コナカイガラムシ類若齢幼虫	シロイヌムシ類	ナシノハダニ	ナシノカ	ニセナシバダニ	ハダニ類	ハマキムシ類	
なし	アデント水和剤	アクリナリン水和剤	3A		収穫7日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布	1000倍		1000倍				1000倍				1000倍	
なし	アディオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		収穫前日まで	2回以内	200~700g/10a	散布	2000~3000倍		2000倍				2000~3000倍					2000倍
なし	ウララDF	フロニカミド水和剤	29		収穫14日前まで	2回以内	200~700g/10a	散布	2000~4000倍											
なし	オリオン水和剤40	アニコルブ水和剤	1A	劇	収穫3日前まで	2回以内	200~700g/10a	散布	1000倍	1000倍					1000倍					1000倍
なし	コロマイト水和剤	ミルベメクチン水和剤	6		収穫前日まで	1回	400~700g/10a	散布												2000倍
なし	サムコルフロアブル10	クロラントラニプロール水和剤	28		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布							2500~5000倍					2500~5000倍
なし	サンマイト水和剤	ビリダベン水和剤	21A	劇	収穫21日前まで	1回	200~700g/10a	散布	1000~1500倍									1000~1500倍	1000~1500倍	
なし	スカウトフロアブル	トラロストリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	5回以内	200~700g/10a	散布	1500~2000倍		1500倍				2000倍					↑ミカンハダニを除くハダニ類
なし	スターマイトフロアブル	シエビラフェン水和剤	25A		収穫前日まで	1回	200~700g/10a	散布												2000倍
なし	ダニコングフロアブル	ビフルブミド水和剤	25B		収穫前日まで	1回	200~700g/10a	散布												2000倍
なし	ダニサラバフロアブル	シフルメトフェン水和剤	25A		収穫前日まで	2回以内	200~700g/10a	散布												1000~2000倍
なし	ダニトロンフロアブル	フェンビロキシメト水和剤	21A		収穫14日前まで	1回	200~700g/10a	散布										1000~2000倍	1000~2000倍	
なし	ディアナWDG	スピネトラム水和剤	5		収穫前日まで	2回以内	200~700g/10a	散布							5000~10000倍					5000~10000倍
なし	トランスフォームフロアブル	スルホキサフルム水和剤	4C		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布	2000~4000倍	1000~2000倍										
なし	ニソラン水和剤	ヘキシチアグクス水和剤	10A		収穫7日前まで	1回	200~700g/10a	散布												2000~3000倍
なし	パーマチオン水和剤	フェンハレレート・MEP水和剤	1B,3A	劇	収穫30日前まで	5回以内	200~700g/10a	散布	1000~2000倍		1000~2000倍				1000~2000倍	1000倍	1000倍	1000~2000倍		1000倍
なし	ハチハチフロアブル	トルフェンビラト水和剤	"21A(1*)	劇	収穫30日前まで	1回	200~700g/10a	散布	2000倍			2000倍							2000倍	
なし	パロックフロアブル	エトキサゾール水和剤	10B		収穫14日前まで	2回以内	200~700g/10a	散布												2000倍
なし	ビラニカ水和剤	テブフェンビラト水和剤	"21A(1*)	劇	収穫14日前まで	1回	200~700g/10a	散布										1000倍	1000~2000倍	
なし	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤	28		収穫前日まで	2回以内	200~700g/10a	散布							4000倍					4000~6000倍
なし	ベストガード水溶剤	ニフェンラム水溶剤	4A		収穫14日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布	1000~2000倍		1000~2000倍									
なし	マトリックフロアブル	クロマフェジド水和剤	18		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布												1000~2000倍
なし	モスピラン顆粒水溶剤	アセチアミド水溶剤	4A	劇	収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布	2000~4000倍	2000~4000倍	2000~4000倍				2000~4000倍		4000倍			
なし(無袋栽培)	スミチオン水和剤40	MEP水和剤	1B		収穫21日前まで	6回以内	200~700g/10a	散布	800~1200倍		800~1000倍	800~1200倍		800~1200倍	800~1000倍					800~1200倍
なし(有袋栽培)					収穫14日前まで				800~1200倍		800~1000倍	800~1200倍		800~1200倍	800~1000倍					800~1200倍
なし(無袋栽培)	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		収穫21日前まで	6回以内	200~700g/10a	散布	1000~2000倍		1000倍	1500倍		1000倍	1000倍	1000倍				1000倍
なし(有袋栽培)					収穫14日前まで				1000~2000倍		1000倍	1500倍		1000倍	1000倍	1000倍				1000倍
日本なし	ダイヤジノ水和剤34	ダイヤジノ水和剤	1B	劇	収穫14日前まで	6回以内	200~700g/10a	散布	1000~1500倍				1000~1500倍	1000倍	1000~1500倍					1000~1500倍
果樹類	ナシヒメコン	トリフルア剤	- (7E)		成虫発生初期から終期		50~100本/10a	【A】							50~100本/10a	←ナシヒメコン				

使用方法：【A】ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、または巻き付け設置する。

(3) カキ

〔果樹類>落葉果樹>かき〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
炭 疽 病	生 育 期	・一般に甘柿品種群で発生が多い。 ・若木や強せん定により新梢伸長の旺盛な樹で発生が多い。
	[耕種的防除]	・炭疽病が発生している枝は切り取って、焼却する。
落 葉 病	生 育 期	・円星落葉病と角斑落葉病があり、著しい落葉によって、果実が早期に軟化して落果する被害となる。 ・落葉病は5～7月に防除を行う。発病後の薬剤防除は効果がない。
	[耕種的防除]	・落葉病に罹病した落葉は、埋設または焼却処分を行う。
うどんこ病	生 育 期	・初発を抑制する5月および病徴が見え始める8月の薬剤散布が有効である。 ・窒素肥料過多の樹に発病しやすいので、肥培管理を適切に行う。
すす点病	生 育 期	・カキ以外の宿主植物が多い山間部で発生が増加しやすい。
	[耕種的防除]	・密植や過繁茂を避け、通風を良好にする。
切り口および傷口のゆ合促進	剪定整枝時、 病患部削り取り 直後、及び 病枝切除後	・切り口に適量のトップジンMペーストを塗布する。
アザミウマ類	生 育 期	・カキクダアザミウマおよびチャノキイロアザミウマがカキを加害する。
カキクダ アザミウマ	展 葉 期 ～ 幼 果 期	・4月中旬頃から越冬成虫がカキに飛来する。未展開葉の中を加害し、被害葉の葉縁は内側にカールする。6月上旬頃から幼果を加害する。
チャノキイロ アザミウマ	開 花 始 期 ～ 幼 果 期	・一般に「平核無」等の渋柿で発生が多く、甘柿での発生は少ない。 ・多様な植物に寄生し年間5～8回発生する。カキでは着果期を通して加害するが、開花から1か月間の薬剤散布が重要である。
	[耕種的防除]	・光の乱反射により飛来量が減少し被害が軽減されるので、地面に反射シート等を敷設する。 ・雑草が繁殖場所になるので、圃場内外の除草を行う。また、除草に合わせて防除を行う。
カキノヘタムシガ (カキミガ)	生 育 期	・発芽盛期から1週間後(4月中旬頃)が防除適期である。
	[耕種的防除]	・粗皮下において前蛹態で越冬するので、休眠期に粗皮削りを行う。
イラガ類 (イラガ)	生 育 期	・雑食性で、園地以外の樹でも発生するため、園周辺の樹も見回り、適宜、発生幼虫を駆除する。
カイガラムシ類	生 育 期	・排泄物に発生するカビが「すす病」となって果実を汚染する。
	[耕種的防除]	・粗皮下で越冬するので、休眠期に粗皮削りを行う。
フジコナ カイガラムシ	生 育 期	・第1世代(7月上旬～中旬頃)の薬剤散布が効果的である。
カメムシ類	6 月 上 旬 ～ 8 月 上 旬	・カメムシは夜間活動性なので、日暮れ前の薬剤散布が効果的である。
ハマキムシ類	開 花 後 ～ 8 月 上 旬	・ハマキムシの幼虫は巻葉の中において薬剤がかかりにくいいため、加害部に薬剤がよくかかるよう注意して散布する。

カキ【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度(希釈倍率)				
									うどんこ病	すす点病	切り口及び傷口のゆ合促進	炭疽病	落葉病
かき	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		収穫45日前まで	2回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布				400~800倍	400~800倍
かき	スコア顆粒水和剤	ジフェノコゾール水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	3000倍			3000倍	3000倍
かき	ストロビートライフロアブル	クレスキシムメチル水和剤	11		収穫14日前まで	3回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	3000倍			3000倍	3000倍
かき	テーク水和剤	シメコゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*), 3		収穫45日前まで	2回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	600倍			600倍	600倍
かき	デランフロアブル	ジチアン水和剤	M9	劇	収穫90日前まで	5回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	2000倍			2000倍	2000倍
かき	トップジンMペースト	チオファネートメチルペースト剤	1		【A】	3回以内		塗布			原液		
かき	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫前日まで	6回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	1000~1500倍	1000~1500倍		1000~1500倍	1000~1500倍
かき	ナリアWDG	ピラクrostロビン・ボスカリト水和剤	11,7		収穫前日まで	2回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	2000~3000倍			2000~3000倍	2000~3000倍
かき	ネクスターフロアブル	イソピラザム水和剤	7		収穫前日まで	3回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	1500倍				1500倍
かき	ペルコート水和剤	イミノタジナルペシル酸塩水和剤	M7		収穫14日前まで	3回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	1000~1500倍	1000~1500倍		1000~1500倍	1000~1500倍
かき	ペルコート水和剤	ペニシル水和剤	1		収穫前日まで	6回以内	200~700 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	散布	2000~3000倍	2000~3000倍		2000~3000倍	2000~3000倍

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

カキ【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）										
									アザミウマ類	イガ	イガ類	カイラムシ類	カキタアザミウマ	カキハタムシ	カメムシ類	チャ/キイロアザミウマ	ハマキムシ類	アジコナカイガラムシ	
かき	アグロリン水和剤	シベルトリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	1000～2000倍					1000～2000倍	1000～2000倍				
かき	アトマイヤー水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	収穫7日前まで【A】	3回以内	200～700g/10a	散布	1000～2000倍						1000倍				
かき	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		収穫45日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布					1500倍	1500倍		1500倍			1500倍
かき	カスケード乳剤	フルフェノキサロン乳剤	15		収穫14日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布					2000～4000倍	2000～4000倍					
かき	キラップフロアブル	エチプロル水和剤	2B		収穫7日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布	2000倍						2000倍				
かき	コテツフロアブル	クロルフェピル水和剤	13	劇	収穫14日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布	2000～4000倍		2000～4000倍			2000～4000倍					
かき	コルト顆粒水和剤	ピリプロキニオン水和剤	9B		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布				2000～3000倍				2000～3000倍			
かき	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		収穫45日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布					1500倍	1500倍		1500倍			
かき	スカウトフロアブル	トラロトリン水和剤	3A	劇	収穫7日前まで	5回以内	200～700g/10a	散布	2000倍					1500～2000倍	1500倍				
かき	スミチオン水和剤40	MEP水和剤	1B		収穫30日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布			800～1000倍			800～1200倍	800～1000倍				800～1200倍
かき	ダントツ水溶剤	クロチアジソン水溶剤	4A		収穫7日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000～4000倍					2000～4000倍	2000～4000倍				
かき	トクチオン乳剤	プロチオス乳剤	1B		収穫75日前まで	2回以内	200～700g/10a	散布	1000倍					1000倍				1000倍	1000倍
かき	パーマチオン水和剤	フェンハレート・MEP水和剤	1B,3A	劇	収穫30日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布	1000～2000倍		1000倍			1000～2000倍	1000～2000倍			1000～2000倍	
かき	パダンSG水溶剤	カルタップ水溶剤	14	劇	収穫45日前まで	4回以内	200～700g/10a	散布		1500倍				1500～3000倍		1500倍			
かき	モスビラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布	2000～4000倍			2000～4000倍		2000～4000倍	2000～4000倍				

使用時期：【A】（ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く。）

(4) ブドウ

〔果樹類>落葉果樹>ベリー類等の小粒果実類>ぶどう〕

① 防除のポイント・注意事項

病虫害名	防除時期	摘要
褐斑病	休眠期	・発芽前から、予防散布する。
	幼果期 生育期	・病原菌は葉裏から侵入するので、薬液が葉裏に十分かかるように散布する。 ・葉で発病し、多発すると黄変して早期落葉する。 ・米国系品種で、発生が多い。
	[耕種的防除]	・古くなった粗皮をはがし、落葉を回収して、いずれも園外で処分する。 ・巻きヒゲや病斑のある結果母枝を除去して、園外で処分する。
晩腐病	休眠期	・萌芽直前、新梢伸長期、開花期、落花期～小豆粒期、袋かけ直前、袋かけ後～梅雨期が、防除適期である。
	生育期	・6月初めから7月中旬まで、降雨が多いと越冬源からの一次伝染が多くなる。また、成熟期に降雨が多いと二次伝染が助長され、激発する。 ・摘粒を迅速に終わらせて、袋かけ・笠かけ前の薬剤散布後は薬液が乾き次第、袋かけをすみやかに行う。
	[耕種的防除]	・袋かけでは、袋の中に雨滴が入らないように、止め金をしっかり果軸に巻く。 ・病原菌は結果母枝・果梗・巻きヒゲなどで越冬するため、果梗・巻きヒゲ・不要な結果母枝は取り除く。また、二番成り果房は格好の発生源になるので、見つけ次第、除去する。 ・露地栽培で発生が多く、多湿条件でより発病しやすいが、ハウスや簡易雨よけなどの施設栽培により、発生の減少をはかることができる。
黒とう病	休眠期	・萌芽直後、新梢伸長期、開花期、落花期～小豆粒期、袋かけ直前、袋かけ後～梅雨期が、防除適期である。
	幼果期 生育期	・萌芽直前から梅雨明けまでの感染期に降雨が多いと多発し、特に4～5月の連続降雨は、発病を著しく助長する。
	[耕種的防除]	・巻きヒゲや病斑のある結果母枝を除去して、園外で処分する。 ・落花後の花冠(花カス)を落とす。
灰色かび病	開花期～ 幼果期	・病原菌は低温・多湿条件を好むため、春に天候不順の時に突発的に発病する。 ・開花期前後から、予防散布を行う。
	[耕種的防除]	・密閉した湿度が高いハウスで発病しやすいので、換気により湿度を低下させる。 ・発病した花穂や果房は、見つけ次第取り除き、園外(ハウス外)に埋設する。
べと病	開花期～ 果実肥大期	・欧州系品種は罹病性が高く、米国系品種は耐病性である。 ・梅雨や秋雨により病徴が急速にまん延するので、必ず予防的な薬剤散布を行う。 ・病原菌は気孔から侵入するので、薬液が葉裏に十分かかるように散布する。
さび病	幼果期～ 果実肥大期	・病原菌は葉裏から侵入するので、薬液が葉裏に十分かかるように散布する。
	[耕種的防除]	・アワブキ属植物が中間宿主となるので、可能な限り周辺のアワブキを伐採する。 ・被害葉が伝染源となるので、発生園では落葉を収集し、園外で処分する。
うどんこ病	開花期～ 果実肥大期	・欧州系品種は罹病性が高く、米国系品種は耐病性である。 ・通風不良園やハウス栽培で、発生しやすい。 ・適度な湿度が保持され、4～5月の日照時間が長いほど発病が多くなる傾向がある。 ・開花前後から予防散布を行う。

病虫害名	防除時期	摘要
切り口および傷口のゆ合促進	剪定整枝時、 病患部削り 取り直後、 及び 病枝切除後	・切り口に、適量のトップジンMペーストを塗布する。
カイガラ ムシ類 コナカイガラ ムシ類	開花前 または 袋かけ以降	・薬剤防除は、ふ化直後の幼虫をねらって行う。 ・粗皮の間隙やせん定切り口など、暗くて狭いところに好んで寄生する習性があるので、枝幹にも薬液がたっぷりかかるように散布する。
	[耕種的防除]	・雌成虫が粗皮下で越冬するので、粗皮削りを行う。
アザミウマ類 チャノキイロ アザミウマ	開花前 落花後 袋かけ直前	・チャノキイロアザミウマでは、穂軸の褐変や果皮のコルク化が発生する。 ・幼果になってからでは防除効果が低いため、開花前から袋かけ直前まで防除につとめる。 ・袋かけ直前に薬剤を散布し、袋内への害虫侵入を防ぐため隙間がないように留め金を巻き付ける。 ・成虫の発生予察には、黄色粘着トラップが有効である。
フタテン ヒメヨコバイ	生育期	・幼虫・成虫ともに葉裏から吸汁することで、葉の表面に灰白色のカスリ症状を示す。 ・ハウス内での発生が多く、激発すると排泄物で果粒を汚染する。 ・5～6月に防除すると、その後の発生は少なくなる。
スカシバ類 ブドウ スカシバ クビアカ スカシバ	5月中旬旬 収穫直後	・ブドウを食害するスカシバ類として、ブドウスカシバおよびクビアカスカシバがある。 ・ブドウスカシバは、5月下旬～6月に幼虫が主に新梢の髓(中心部)を食害する。 ・クビアカスカシバは、スズメバチに擬態した成虫が6～8月に発生し、7月下旬以降に幼虫食害部から虫糞木くずが目立つ。 ・クビアカスカシバに対しては、枝幹部や株元に薬剤を散布する。
	[耕種的防除]	・クビアカスカシバは、虫糞の噴出部を見つけ、捕殺する。 ・薬剤付着および虫糞発見の効率を高めるため、粗皮はがしを行う。
ブドウ トラカミキリ	休眠期	・越冬幼虫を対象に、休眠期防除は樹全体に薬剤を散布する。 ・新芽・新葉に薬害を生じる恐れがあるので、萌芽前に散布を終える。
ハダニ類 カンザワハダニ ナミハダニ ブドウサビダニ	生育期 または 休眠期	・ハウス内での発生が多く、吸汁により葉が黄褐色や赤褐色に変色する。 ・緑系品種で、収穫期に加害されると果粒表面に茶褐点を生じる。 ・ナミハダニが激発すると、クモの巣状の糸張りが見られる。 ・発生初期に、薬剤を葉裏まで散布する。また、発生が多い場合は、散布間隔を短くする。 ・雑草中で繁殖するので、草刈りに合わせて薬剤を散布する。 ・抵抗性を発達させないように、同じ(系統)薬剤の連用はしない。 ・ 休眠期防除参照
	[耕種的防除]	・粗皮の下で越冬するため、休眠期に粗皮削りを行い、園外に持ち出す。
コガネムシ類 コガネムシ類 成虫	生育期	・主にドウガネブイブイ、ヒメコガネの成虫が葉を食害し、発生が多くなると果実も食害される。
	[耕種的防除]	・成虫は衝撃を与えると落下するので、反応の鈍い早朝に捕殺する。
ハマキムシ類	生育期	・チャノココクモンハマキが花穂では蕾、花、花梗を綴り合せて食害し、果穂では果粒と果梗の間に糸を張り、果皮や果肉を食害する。
モンキクロノ メイガ	生育期	・施設栽培に、寄生が多い傾向がある。 ・6～8月除葉被害の発生初期が、防除適期である。

ブドウ【殺菌剤・その他】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度(希釈倍率)								
									うどんこ病	さび病	べと病	灰色かび病	褐斑病	黒とう病	切り口及び傷口のゆがみ促進	晩腐病	銅水和剤による葉害の軽減
ぶどう	ICボルドー66D	銅水和剤	M1		-	-	200~700g/10a	散布		50倍	25~200倍					100倍	
ぶどう	Zボルドー	銅水和剤	M1		-	-	200~700g/10a	散布		500~800倍	500~800倍		500~800倍				
ぶどう	アリエティ水和剤	ホセリン水和剤	P7		収穫30日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布			800倍						
ぶどう	オーサイト水和剤80	キヤブタン水和剤	M4		収穫30日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布			800倍	800倍	800倍	800倍		800倍	
ぶどう	オマリワンアブル	ラコゾール水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布	2000倍	2000倍		2000倍	2000倍	2000倍		2000倍	
ぶどう	キノド水和剤80	有機銅水和剤	M1		収穫45日前まで	4回以内(開花後は1回)	200~700g/10a	散布			1200倍				1200~1600倍		
ぶどう	ゲッター水和剤	ジエトフェンホルブ・チファネートチル水和剤	1,10		収穫45日前まで	1回	200~700g/10a	散布				1000~1500倍					
ぶどう	コサイト3000	銅水和剤	M1		-	-	200~700g/10a	散布		2000倍	2000倍						
ぶどう	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		収穫45日前まで	2回以内	200~700g/10a	散布		1000倍	1000倍		1000倍	1000倍		1000倍	
ぶどう	ストロビドライアブル	キノキシムチル水和剤	11		収穫14日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布	3000倍	3000倍	2000~3000倍	2000~3000倍	2000~3000倍	2000~3000倍		2000~3000倍	
ぶどう	テランアブル	ジチアノ水和剤	M9	劇	休眠期	1回	200~700g/10a	散布							200倍	200倍	
					【A】	2回以内					1000倍		1000倍				
ぶどう	ドキノアブル	有機銅水和剤	M1		収穫45日前まで	4回以内(開花後は1回)	200~700g/10a	散布			600倍				600倍		
ぶどう	トップジンMベスト	チファネートチルベスト剤	1		【B】	3回以内		塗布									原液
ぶどう	トップジンM水和剤	チファネートチル水和剤	1		収穫45日前まで	1回	200~700g/10a	散布	1000~2000倍			1000~2000倍	1000~2000倍	1000~2000倍		1000倍	
ぶどう	トリアミン水和剤	トリアミン水和剤	3		収穫7日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布	2000~3000倍						2000倍		
ぶどう	ブルーセイバー	ベンチピラト水和剤	7		収穫7日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布	1500倍	1500倍		1500倍	1500倍	1500倍		1500倍	
ぶどう	フルビカアブル	メバニピリン水和剤	9		収穫30日前まで	2回以内	200~700g/10a	散布	2000~3000倍			2000~3000倍					
ぶどう	ベント水和剤	ベノミル水和剤	1		休眠期	1回	200~700g/10a	散布							200~500倍	200~500倍	
					収穫45日前まで	3回以内			2000~3000倍		2000~3000倍	2000~3000倍	2000倍	2000~3000倍			
ぶどう	ホライズンドライアブル	シモザニル・ファモキサド水和剤	11,27		収穫21日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布			2500~5000倍		2500倍	2500倍		2500倍	
ぶどう	ボリベリン水和剤	イミダクダジン酢酸塩・ボリベリン水和剤	"「-」(I*),M7		収穫60日前まで	2回以内	200~700g/10a	散布	750~2000倍			750~1500倍	750~1000倍	750~1000倍		750~1000倍	
ぶどう	ムッシュボルドーDF	銅水和剤	M1		-	-	200~700g/10a	散布		500倍	500倍						
ぶどう	ランマンアブル	シアブファミド水和剤	21		収穫14日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布			1000~2000倍						
ぶどう	ロアール水和剤	イブロン水和剤	2		【C】	3回以内	200~700g/10a	散布				1000~1500倍		1000倍			
ぶどう	クレフソ	炭酸カルシウム水和剤						【a】									100倍

使用時期：【A】落弁期まで、但し、収穫75日前まで、【B】剪定整枝時、病患部取り直後、及び病枝切除後、【C】開花期~幼果期、但し、収穫60日前まで

使用方法：【a】銅水和剤に混用して散布

(5) ミカ ン

〔果樹類>かんきつ>みかん〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
そうか病	展葉初期 落葉期 梅雨期	・まん延すると防除困難になるので、発生初期に防除する。 ・展葉初期および落葉期の薬剤散布が、重要である。
	[耕種的防除]	・り病している枝や葉は、せん定時に取り除く。 ・湿度が高いと多発するので、谷間での栽培や密植・過繁茂状態を避ける。
黒点病	果実肥大期	・枯れ枝や園内に残したせん定枝が伝染源となり、降雨のたびに枯れ枝等から病原菌が飛散する。このため、多雨年や老木園で発生が多い。 ・幼果期・梅雨期・秋雨期前(8月中下旬)の防除効果が高い。
	[耕種的防除]	・枯れ枝はせん定で常時除去し、枯れ枝・せん定枝は園外で処分する。 ・ミカンの切り株がある場合には、肥料袋等をかぶせて病原菌の飛散を防ぐ。 ・適切なせん定により樹冠内部への採光を図り、枯れ枝の発生を抑える。
貯蔵病害 (青かび病 緑かび病)	収穫の10 ～30日前	・病原菌は土壌中にあり、秋季に土ぼこりとともに胞子が飛散して、果実に付着する。 ・果実表面の傷口から感染し、貯蔵中に発病する。
	[耕種的防除]	・着果期間中は、枯れ枝をこまめに除去し、果実の傷つきを防止する。収穫以後の果実では、収穫・運搬・選別などで果実に傷をつけないよう取扱いに注意する。 ・降雨時や降雨後または朝露など果実に水滴がある状態での収穫は、絶対に避ける。 ・貯蔵中は過湿にならないよう換気するとともに、腐敗果は見つけ次第除去する。
切り口および傷口のゆ合促進	剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	・切り口に、適量のトップジンMペーストを塗布する。
カイガラムシ類 カイガラムシ類 幼虫	生 育 期	・ヤノネカイガラムシ越冬雌成虫の産卵は2か月にわたるため、第1世代幼虫は5～6月にかけて発生する。第2世代幼虫は、7月下旬頃に発生する。幼虫のふ化最盛期～ふ化直後に、薬剤散布する。 ・休眠期のマシン油乳剤の効果が高い。 休眠期防除参照
ヤノネカイガラムシ (幼虫～未成熟成虫)	[耕種的防除]	・天敵寄生蜂の生息を保護するため、寄生蜂産卵期(7月・9月)の殺虫剤散布はなるべく控える。 ・整枝せん定によって、通風、採光を良好に保つ。
ミカンハダニ	防寒被覆 除去後	・越冬虫に対しては、マシン油乳剤の効果が高い。 休眠期防除参照
ミカンサビダニ	落花直後 (5月下旬 ～6月下旬)	・晴天で乾燥が続くと、発生が増加しやすい。 ・そうか病および黒点病との同時防除を行う。
	梅雨明け後 (7月中旬 ～9月上旬)	・梅雨明け後から盛夏期にかけてダニ類は急激に増殖するので、初期発生に注意し、かけ残しのないように丁寧に散布する。
アザミウマ類	生 育 期	・チャノキイロアザミウマは、年7～8回も発生を繰り返す。ミカン園内での繁殖は少なめで、周辺の間宿主で繁殖した個体が、繰り返しミカン園に飛来する。
チャノキイロ アザミウマ	[耕種的防除]	・イヌマキ、サングジュ等の生垣、茶樹は中間宿主となるので、防風対策は防風ネットを用いる。 ・忌避効果のあるタイベックシートを樹冠下に敷設する。
アブラムシ類	生 育 期	・温州ミカンは、カンキツトリステザウイルス耐病性であるが、アブラムシの吸汁によって温州ミカンから伝播したウイルスが中晩柑類で発病するため、温州ミカンと中晩柑類の混植園などでは、アブラムシ類の発生に注意する。

病害虫名	防除時期	摘 要
カミキリムシ類	生 育 期 (6～7月)	<ul style="list-style-type: none"> 成虫は、枝や葉を食害する。幼虫は地際部から主幹部に食入し、樹勢低下や樹体枯死を引き起こす。 成虫は、6月中旬頃から発生し、6月下旬～8月上旬頃に主幹部へ産卵する。 成虫防除は、樹冠全体へ散布し、幼虫防除は主幹部等へ散布または塗布する。
ゴマダラ カミキリ ゴマダラ カミキリ成虫	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> 主幹部の雑草を除去し、隠れ家を減らす。 園内を見回って、成虫を捕殺する。 幼虫は、枝幹部の穴やひび割れを観察して、捕殺する。幼虫の食害痕には、トップジンMペースト等を塗布して、傷口のゆ合促進をはかる。 通風、採光を良好にする。
ミカ ン ハモグリガ	生 育 期 (7月下旬 ～9月上旬)	<ul style="list-style-type: none"> 7月以降に発生する夏秋梢に発生しやすい。 幼虫は、葉の内部を食害しながら進むため、不規則な曲がりくねった食害痕となる。 被害葉は、葉肉内に雨水が入ることで、かいよう病の発生が多くなる。 多発すると葉奇形となり、新梢生育が抑制される。
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> 食害された新梢は、せん定で除去する。

ミカン【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）					
									そうか病	灰色かび病	黒点病	切り口及び傷口のゆ合促進	貯蔵病害（青かび病）	貯蔵病害（緑かび病）
みかん	エムダ イファ-水和剤	マンゼブ 水和剤	M3		収穫60日前まで	2回以内	200～700 ^g / _{10a}	散布			600～800倍			
みかん	キノト-水和剤40	有機銅水和剤	M1		収穫30日前まで	5回以内	200～700 ^g / _{10a}	散布	500倍		400～500倍			
みかん	ジマンダ イセン水和剤	マンゼブ 水和剤	"UN(I*)		収穫30日前まで	4回以内	200～700 ^g / _{10a}	散布	400倍		400～800倍			
みかん	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫前日まで	5回以内	200～700 ^g / _{10a}	散布	1000～1500倍	1000～1500倍			2000～3000倍	2000～3000倍
みかん	ベ-ンレート水和剤	ベ-ンシル水和剤	1		収穫前日まで	4回以内	200～700 ^g / _{10a}	散布	2000～3000倍	2000～3000倍			4000～6000倍	4000～6000倍
かんきつ	ストロビ-ト ライフロアブル	クレソキシムメチル水和剤	11		収穫14日前まで	3回以内	200～700 ^g / _{10a}	散布	2000～3000倍	2000～3000倍	2000～3000倍			
かんきつ	トップジンMベ-ースト	チオファネートメチルベ-ースト剤	1		【A】	3回以内		塗布				原液		
かんきつ	フロンサイト SC	フルアジナム水和剤	29		収穫30日前まで	1回	200～700 ^g / _{10a}	散布	2000～2500倍	2000～2500倍	2000倍			

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

ミカン【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度(希釈倍率)											
									アザミカ類	アザミカ類	アザミカ類	アザミカ類	アザミカ類	アザミカ類	アザミカ類	アザミカ類	アザミカ類	アザミカ類	アザミカ類	
みかん	アゾロックス水和剤	アゾロックス水和剤	16		収穫14日前まで	3回以内	200~700% /10a	散布												
みかん	アゾロックス水和剤																			
みかん	ガットサイトS	MEP乳剤	1B		【A】	1回	- 100~1000mL/樹	【X】												
みかん	アゾロックス水和剤	アゾロックス水和剤	3A	劇	収穫3日前まで	5回以内	200~700% /10a	散布												
みかん	ノモルト乳剤	アゾロックス水和剤	15		収穫21日前まで	3回以内	200~700% /10a	散布												
みかん	ピラコ水和剤	アゾロックス水和剤	21A(*)	劇	収穫前日まで	1回	200~700% /10a	散布												
みかん	マツ乳剤	アゾロックス乳剤	15		収穫14日前まで	3回以内	200~700% /10a	散布												
みかん	アゾロックス水和剤20	アゾロックス水和剤	3A	劇	収穫21日前まで	2回以内	200~700% /10a	散布												
かんきつ	アゾロックス水和剤	アゾロックス水和剤	13	劇	収穫前日まで	2回以内	200~700% /10a	散布												
かんきつ	アゾロックス水和剤	アゾロックス水和剤	21A	劇	収穫3日前まで	2回以内	200~700% /10a	散布												
かんきつ	アゾロックス水和剤	アゾロックス水和剤	21A		収穫前日まで	2回以内	200~700% /10a	散布												
かんきつ	アゾロックス水和剤	アゾロックス水和剤	4A		収穫前日まで	3回以内	200~700% /10a	散布												
かんきつ	アゾロックス乳剤	アゾロックス乳剤	3A		収穫前日まで	3回以内	200~700% /10a	散布												
かんきつ	アゾロックス水和剤	アゾロックス水和剤	4A	劇	収穫14日前まで	3回以内	200~700% /10a 30~75% /10a	散布 【Z】												
かんきつ	アゾロックス水和剤	アゾロックス水和剤	23		収穫7日前まで	3回以内	200~700% /10a	散布												

使用時期：【A】6~7月(産卵初期~産卵最盛期直前)但し収穫90日前まで

使用方法：【X】樹幹の地際部から約30~40cmの高さまで塗布、【Y】樹幹の地際部から約30~40cmの高さまで散布、【Z】主幹から株元に散布

(6) イチジク

〔果樹類>落葉果樹>いちじく〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
病 害 全 般	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> 圃場全体の排水改善を図り、なるべく高いうねに植栽する。また、ハウス栽培を行う。 株元にマルチや敷き藁を行い、水滴による病原菌のはね上がりを防ぐ。 通風、採光の改善を図る。 発病部位(主に葉、果実、時には株全体)はすみやかに除去し、園外で焼却か土中深く埋める。 せん定によって切り取った枝や落葉も、園外で粉碎、焼却または土中深く埋める。
炭 疽 病	生 育 期	<ul style="list-style-type: none"> 果実だけに発病する。最初は暗褐色の小斑点が形成され、内部が淡褐色で周辺が濃褐色のへこんだ病斑に進展する。病徴が進むと鮭肉色の粘液を分泌する。 薬剤による防除法は確立していないため、耕種的防除を徹底する。
疫 病	6 ～ 9 月	<ul style="list-style-type: none"> 地際から根に発病し株全体を枯死させる「立枯れタイプ」、および葉、果実、新梢に発病する「樹上タイプ」がある。立枯れタイプは、株枯病との判別が付きにくい。 疫病による立枯れでは、地下部の表皮が溶けるように腐敗し、軟化する。 土壌中の病原菌が雨滴やかん水ではね上がり感染することから、露地栽培で発生が多い。
黒 か び 病	8 ～ 9 月	<ul style="list-style-type: none"> 酵母菌腐敗病と初期症状が似ているが、酵母菌腐敗病では発酵臭がある。 発病後の防除では、効果が上がりにくい。収穫開始までに、薬剤を予防散布する。
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ハウス栽培でも発生するので、晴天時には換気して湿度低下を図る。
そ う か 病	新 梢 伸 長 期	<ul style="list-style-type: none"> 葉・新梢・果実に発病し、降雨によって拡散するため、露地栽培で5～6月に降雨が多いと発生しやすい。 「蓬菜柿」、「カドタ」は発生しやすく、「ドーフィン」は発病が少ない。 新梢伸長初期および最下段の着果確認時が、薬剤散布の重点時期である。
さ び 病	7 ～ 8 月	<ul style="list-style-type: none"> 葉だけに発病し、葉裏に黄褐色や赤褐色の微細な病斑を形成する。 著しい発病により落葉し、果実肥大に悪影響を及ぼす。 盛夏期に、2週間間隔で薬剤を散布する。
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ハウス栽培でも発生するので、晴天時には換気して湿度低下を図る。
株 枯 病	定植時及び生育期	<ul style="list-style-type: none"> 最初は地際部の表皮が濃褐色のあざ症状になり、ひび割れが観察される。 上記症状は上部へ拡大し、主幹や主枝の内部が褐変腐敗し、株が枯死する。 土壌に病原菌が残存しやすく、改植しても高率で再発する。 定植時および5～10月に、月1回ずつ株元に薬剤を灌注する。
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> 保菌した挿し穂や苗木が感染源となるので、苗木や穂木は未発病地に由来するものを用いる。
切り口および傷口のゆ 合 促 進	剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	<ul style="list-style-type: none"> 切り口に適量のトップジンMペーストを塗布する。
ショウジョウバエ類 (酵母腐敗病)	果実成熟期	<ul style="list-style-type: none"> ショウジョウバエ等の昆虫が酵母腐敗病を媒介する主な原因となるので、ショウジョウバエに対して薬剤を散布する。
	[酵母腐敗病の耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> 過熟果がショウジョウバエを誘引するので、適期収穫を行う。

病害虫名	防除時期	摘 要
アザミウマ類	生育期 (7月末まで)	<ul style="list-style-type: none"> ・除草に合わせて、薬剤を散布する。 ・圃場内に粘着板を設置し、発生状況を把握する。 ・収穫初期(低節位の着果)に被害が多く、中～高節位では被害は減少する。
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ・光の乱反射により飛来量が減少し、被害が軽減されるので、地面に反射シート等を敷設する。 ・雑草が繁殖場所になるので、圃場内外の除草を徹底する。
カイガラムシ類 (幼虫)	幼虫発生期	<ul style="list-style-type: none"> ・6月上～中旬が、防除適期である。 ・休眠期防除参照
カミキリムシ類	4～7月	<ul style="list-style-type: none"> ・噴射式缶入り殺虫剤を用い、食入孔にノズルを差し込んで薬剤を噴射する。
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ・成虫は、見つけ次第捕殺する。幼虫は、食入痕に針金を差し込み、刺殺する。 ・ハウス栽培により、害虫の侵入を防ぐことができる。
キボシカミキリ 幼虫	産卵期～ 幼虫喰入期	<ul style="list-style-type: none"> ・生物農薬を使用する。生物農薬は、昆虫に寄生する性質を持ったセンチウを製剤化した天敵農薬であり、効果を高めるため晴天時の散布は避け、曇天または少雨時に散布するのが望ましい。
クワカミキリ	4～7月	<ul style="list-style-type: none"> ・噴射式缶入り殺虫剤を用い、食入孔にノズルを差し込んで薬剤を噴射する。
ネコブ センチウ	5月または 収穫終了後	<ul style="list-style-type: none"> ・樹勢低下がみられたら、根こぶの有無を確認する。
ハダニ類	5月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・白い紙で葉裏をこすった時に付く赤い汁の有無で、発生を診断する。 ・前年多発した園では、休眠期防除とともに展葉後なるべく早い時期に防除する。 ・高密度に発生すると各薬剤とも効果を発揮しにくくなるので、発生初期にかけ残しのないよう丁寧に散布する。 ・多発園では、5～6日おきに系統の異なる薬剤で2～3回防除する。 ・休眠期防除参照

イチジク【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）					
									さび病	そうか病	疫病	株枯病	黒かび病	切り口及び傷口のゆ合促進
いちじく	Zボルト-	銅水和剤	M1		-	-	200~700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{10a}}$	散布			1000倍			
いちじく	アミスター1070アブル	アゾキストロビン水和剤	11		収穫前日まで	3回以内	200~700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{10a}}$	散布	1000倍	1000倍	1000倍			
いちじく	ホリワンアブル	テブコナゾール水和剤	3		生育期但し、収穫前日まで	3回以内	5~10 $\frac{\mu\text{g}}{\text{樹}}$	灌注				2000倍		
いちじく	コサイト3000	銅水和剤	M1		-	-	200~700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{10a}}$	散布			1000倍			
いちじく	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		収穫前日まで	2回以内	200~700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{10a}}$	散布	2000倍		2000倍		2000倍	
いちじく	デランアブル	ジチアゾン水和剤	M9	劇	収穫75日前まで	3回以内	200~700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{10a}}$	散布		1000倍				
いちじく	トップジンMペースト	チオファネートメチルペースト剤	1		【A】	3回以内		塗布						原液
いちじく	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫7日前まで	5回以内	200~700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{10a}}$	散布		1000~1500倍			1000~1500倍	
					収穫前日まで	6回以内	1~10 $\frac{\mu\text{g}}{\text{株}}$	灌注			500倍			
いちじく	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200~700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{10a}}$	散布	2000倍	2000倍				
					収穫前日まで	4回以内	1~10 $\frac{\mu\text{g}}{\text{株}}$	灌注			500倍			
いちじく	ペンレート水和剤	ペニシル水和剤	1		収穫30日前まで	5回以内	1~10 $\frac{\mu\text{g}}{\text{樹}}$	株元灌注			1000倍			
いちじく	ラリ水和剤	ミクロブタニル水和剤	3		収穫前日まで	4回以内	200~700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{10a}}$	散布	2000倍					
いちじく	ランマンアブル	シアゾファミド水和剤	21		収穫前日まで	3回以内	200~700 $\frac{\mu\text{g}}{\text{10a}}$	散布			2000倍			

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

イチジク【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）								
									アザミウマ類	カイガラムシ類	カイガラムシ類 幼虫	カミキリ類	キバシカミキリ	キバシカミキリ 幼虫	クワカミキリ	ショウジョウバエ類	ネコアセンチュウ
いちじく	アデント水和剤	アクリナリン水和剤	3A		収穫前日まで	2回以内	200～700% /10a	散布							1000倍		1000倍
いちじく	アディオン乳剤	ベルメリン乳剤	3A		収穫前日まで	2回以内	200～700% /10a	散布	2000倍								
いちじく	アプロードフロアブル	アプロフェン水和剤	16		収穫14日前まで	2回以内	200～700% /10a	散布			1000倍						
いちじく	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		収穫45日前まで	1回	200～700% /10a	散布	2000倍								
いちじく	ガットサイトS	MEP乳剤	1B		【Z】	3回以内	-	【a】									
いちじく	コロマイト水和剤	ミルベメクセン水和剤	6		収穫前日まで	1回	200～700% /10a	散布									2000倍
いちじく	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		収穫45日前まで	1回	200～700% /10a	散布	2000倍								
いちじく	スカウトフロアブル	トラロメリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700% /10a	散布	2000倍								
いちじく	ダニコングフロアブル	ビフルミド水和剤	25B		収穫前日まで	1回	200～700% /10a	散布									2000倍
いちじく	ダニラハフロアブル	シフルメフェン水和剤	25A		収穫前日まで	2回以内	200～700% /10a	散布									1000～ 2000倍
いちじく	ダニロンフロアブル	フェンピロキシメト水和剤	21A		収穫3日前まで	1回	200～700% /10a	散布									1000～ 2000倍
いちじく	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	4A		収穫3日前まで	3回以内	200～700% /10a	散布	2000～ 4000倍			2000倍					
いちじく	ディアナWDG	スピネトラム水和剤	5		収穫前日まで	2回以内	200～700% /10a	散布	5000倍						10000倍		
いちじく	ニッソラン水和剤	ヘキシチアゾクス水和剤	10A		収穫前日まで	2回以内	200～700% /10a	散布									2000～ 3000倍
いちじく	ネマトリンエース粒剤	ホスチアゼート粒剤	1B		収穫60日前まで	1回		樹冠下処理								20kg/10a	
いちじく	バイセーフ	スタイナーネカボカブサイ剤	「-（生）」		産卵期～幼虫喰入期	-	2.5%	【b】				2500万頭 (約10g)					
いちじく	バロックフロアブル	エトキサール水和剤	10B		収穫前日まで	1回	200～700% /10a	散布									2000倍
いちじく	マイトコネフロアブル	ビフェネート水和剤	20D		収穫前日まで	1回	200～700% /10a	散布									1000倍
いちじく	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700% /10a	散布	2000倍	2000倍			2000倍				
いちじく	園芸用キンチョールE	ベルメリンエアゾール	3A		収穫前日まで	2回以内		【c】									
果樹類	スパイカルEX	ミヤコカブリダニ剤	「-（生）」		発生初期	-		放飼									2.4～ 12mL/樹
果樹類(施設栽培)	スパイデックス	リカブリダニ剤	「-（生）」		発生初期	-		放飼									100～ 300mL/10a
【A】	ロビンフード	フェンプロパトリンエアゾール	3A		収穫前日まで	5回以内		【d】					原液				

作物名：【A】 果樹類（かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、すもも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴーを除く）

使用時期：【Z】 4～7月但し収穫7日前まで

使用方法：【a】 株元から結果母枝まで塗布

【b】 主幹及び主枝の産卵箇所に薬液が滴るまで塗布又は散布

【c】 食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射

【d】 樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射

(7) キウイフルーツ

〔果樹類>落葉果樹>キウイフルーツ〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
花腐細菌病	休眠期	<ul style="list-style-type: none"> ・樹皮や休眠芽で越冬した細菌が雨滴で蕾に飛散し、がくの裂開とともに花蕾の中へ侵入し、花では不受精や奇形果・落果を生じる。 ・開花期に、雨が多いと発生が増加する。
	生育期 (4月中旬～下旬)	
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ・強風が吹き抜ける場所での栽培を避け、防風対策を行う。 ・せん定枝は、園外に持ち出して処分する。 ・通風・採光・排水を改善し、多肥を避けて、落ち着いた樹勢で管理する。 ・開花の1か月前(3月下旬～4月中旬頃)に、主幹部を5mm幅で、環状はく皮する。
かいよう病	【共通】	<ul style="list-style-type: none"> ・品種によって2倍体・4倍体・6倍体に分かれるが、2倍体品種(「紅妃」等)は抵抗性が低く、6倍体品種(「ヘイワード」等)は抵抗性が高い傾向にあるので、品種選定で抵抗性(り病性)に注意する。 ・病原菌にはpsa1～5の系統があり、中でもpsa3で病徴や感染力が著しい。
	生育期 (4月中旬～下旬)	<ul style="list-style-type: none"> ・罹病した枝幹部から2～4月に暗赤色の細菌液が漏出し、雨滴で飛散する。 ・気孔や傷口から菌が侵入し、葉での発病は4～6月に最盛期となる。 ・春や秋の強風雨で、広範囲に伝染する。冬季の低温で、発生が助長される。
	落葉期～休眠期	<ul style="list-style-type: none"> ・せん定による切り口は菌が侵入しやすいので、トップジンMペーストを塗布しておく。
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ・強風が吹き抜ける場所での栽培を避け、防風対策を行う。 ・発病枝のせん定に用いた鋏、鋸は消毒して次の健全樹に用いる。
灰色かび病	開花期～落花期	<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨期の多雨や過繁茂状態で、発生しやすい。 ・傷果や濡れ果は、収穫しない。
果実軟腐病	着果期 6～7月および9～10月	<ul style="list-style-type: none"> ・貯蔵中に発病した果実は、すみやかに除去する。
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季のせん定および夏季の徒長枝除去により、通風、採光を良好に保つ。
切り口および傷口のゆ合促進	剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	<ul style="list-style-type: none"> ・切り口に、適量のトップジンMペーストを塗布する。
カイガラムシ類	5月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>休眠期防除参照</u> ・休眠期は石灰硫黄合剤またはマシン油乳剤を散布する。
カイガラムシ類	7月上旬	
幼虫	9月上旬	
カメムシ類	果実肥大期	<ul style="list-style-type: none"> ・カメムシ類は夜間活動性なので、日暮れ前の防除が効果的である。
キイロマイコガ	果実肥大期 成熟期	<ul style="list-style-type: none"> ・果実接合部やへた部等に糸を張った巣の有無で、発生状況を確認する。
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> ・果実が重ならないよう、適正摘果に努める。

キウイフルーツ【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度(希釈倍率)					
									かいよう病	果実軟腐病	花腐細菌病	灰色かび病	切り口及び傷口のゆ合促進	
キウイフルーツ	ICボルト®-66D	銅水和剤	M1		収穫後～発芽前	-	200～700g/10a	散布	25～50倍					
キウイフルーツ	アグ リマイシン-100	オキシテラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤	25,41		落花期まで	3回以内	200～700g/10a	散布	1000倍		1000倍			
キウイフルーツ	アグ レプト水和剤	ストレプトマイシン水和剤	25		収穫90日前まで	4回以内		散布	1000倍		1000倍			
キウイフルーツ	カスミンボルト®-	カスカマイシン・銅水和剤	24,M1		休眠期	4回以内	200～700g/10a	散布	500倍		500倍			
キウイフルーツ	カスミン液剤	カスカマイシン液剤	24		収穫90日前まで	4回以内	200～700g/10a	散布	400倍		400倍			
キウイフルーツ	ストロビート® ライフロアブル	クレンキシムメチル水和剤	11		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布				2000～3000倍		
キウイフルーツ	タコニール1000	TPN水和剤	M5		収穫60日前まで	7回以内	200～700g/10a	散布		500～1000倍				
キウイフルーツ	トップジンM®-スト	チオファネートメチル®-スト剤	1		【A】	3回以内		塗布						原液
キウイフルーツ	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫前日まで	5回以内	200～700g/10a	散布		1000倍				
キウイフルーツ	リアWDG	ピラクrostロビン・ボスクリド水和剤	11,7		収穫前日まで	2回以内	200～700g/10a	散布		2000倍		2000倍		
キウイフルーツ	フロンサイト® SC	フルアジナム水和剤	29		収穫30日前まで	1回	200～700g/10a	散布		2000倍		2000倍		
キウイフルーツ	ベルコート水和剤	イミクタジナル®-シル酸塩水和剤	M7		収穫前日まで	5回以内	200～700g/10a	散布		1000倍		1000倍		
キウイフルーツ	ベント水和剤	ベノミル水和剤	1		収穫7日前まで	5回以内	200～700g/10a	散布		2000倍				
キウイフルーツ	ムッシュボルト®-DF	銅水和剤	M1		-	-	200～700g/10a	散布	1000倍					
キウイフルーツ	ロブテール水和剤	イプロジオン水和剤	2		開花期～落花期	4回以内	200～700g/10a	散布				1000～1500倍		
					収穫前日まで	4回以内	200～700g/10a			1000～1500倍				

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

キウイフルーツ【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）			
									カイガラムシ類	カイガラムシ類 幼虫	カメムシ類	キロマイカ*
キウイフルーツ	アデオン乳剤	ペルメトリン乳剤	3A		収穫7日前 まで	5回 以内	200～700g /10a	散布			2000倍	2000～ 3000倍
キウイフルーツ	アプロート水和剤	プロフェジン水和剤	16		収穫前日 まで	2回 以内	200～700g /10a	散布		1000倍		
キウイフルーツ	アルパリン顆粒水溶剤	ジノフェラン水溶剤	4A		収穫前日 まで	3回 以内	200～700g /10a	散布			1000～ 2000倍	
キウイフルーツ	スカウトフロアブル	トラメトリン水和剤	3A	劇	収穫前日 まで	5回 以内	200～700g /10a	散布				1500～ 2000倍
キウイフルーツ	スタークル顆粒水溶剤	ジノフェラン水溶剤	4A		収穫前日 まで	3回 以内	200～700g /10a	散布			1000～ 2000倍	
キウイフルーツ	ダントツ水溶剤	クチアジン水溶剤	4A		収穫前日ま で	3回 以内	200～700g /10a	散布			2000～ 4000倍	
キウイフルーツ	パダンSG水溶剤	カルタップ水溶剤	14	劇	収穫30日 前まで	3回 以内	200～700g /10a	散布				1500倍
キウイフルーツ	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤	28		収穫7日前 まで	3回 以内	200～700g /10a	散布				4000倍
キウイフルーツ	マブリック水和剤20	フルバリン水和剤	3A	劇	収穫7日前 まで	2回 以内	200～700g /10a	散布				2000倍
キウイフルーツ	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	収穫7日前 まで	3回 以内	200～700g /10a	散布	2000倍			

(8) モモ

〔果樹類>落葉果樹>核果類>もも類>もも〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
【全般】	[耕種的防除]	・果実の病害虫被害を予防・軽減するためには、袋かけ栽培が望ましい。
黒星病	開花期 ～袋かけ前	・多くの病気は花感染が原因であり、満開期防除を行うとともに、その後は袋かけまで定期的な防除に努める。 ・袋かけは、生理落果が終わったのこ確認し、満開60日後を目安に実施する。
縮葉病	開花直前	・発病後に治療する方法はないので、必ず3月の発芽前に石灰硫黄合剤を散布する。 ・ <u>休眠期防除参照</u>
	9～10月	・縮葉病の越冬菌は、樹皮に付着して冬期間は増殖しないことから、この時期にボルドー剤を散布すれば、翌年の発芽前防除に代えることができる。
せん孔細菌病	【共通】	・ <u>欄外参照</u>
	果実肥大期	・暴風雨が発生した場合は、速やかに抗生物質薬剤を単剤で散布する。
	生育期 (9月以降)	・早期落葉や夏型枝病斑の発生が見られる場合の対策は、 <u>欄外参照</u> 。
	[耕種的防除]	・冬季せん定で罹病した枝は、切除して園外で焼却または埋設処分する。 ・栽培期間中も、罹病した枝も随時、同様に処分する。
灰星病	開花直後 ～成熟期	・収穫直前の成熟果に発生するが、収穫時に健全に見えても貯蔵中に急激に発病することも珍しくない。 ・発病果実を見つけたら、園外に持ち出して土中などで処分する。また、発病果実に触れた手で、他の果実に触れないように注意する。
	[耕種的防除]	・発病果や枯れ枝は、有力な伝染源なので除去に努める。 ・摘果後は、すみやかに袋かけを行う。
ホモブシス腐敗病	成熟期	・灰星病とともに果実腐敗を起こす代表的な病害である。灰星病と同様に、樹上果実や収穫後果実にも、急激に発病する。 ・晩生ほど感染期間が長く、発生が多くなりやすい。
	[耕種的防除]	・枯れ枝は、有力な伝染源なので、せん定で取り除く。 ・摘果後は、すみやかに袋かけを行う。
切り口および傷口のゆ合促進	剪定整枝時・病患部削り取り直後・及び病枝切除後	・切り口に、適量のトップジンMペーストを塗布する。
うどんこ病	果実肥大期	・病原菌は、被害果実、被害落葉で越冬し、果実は5月～6月にかけて発病する。
果実赤点病	果実肥大期 (6月～7月)	・ウメシロカイガラムシの加害症状と酷似するが、吸汁痕の有無で識別する。
すすかび病	果実肥大期 (5月～6月)	・風通しの悪い園や袋掛けが遅れた園、冷夏・長雨が連続と発生が多い。 ・5月上旬から袋掛け前までに数回、幼果に薬剤が付着するようにいねいに散布する。
	[耕種的防除]	・収穫時期が遅くなると、発病が多くなるので、適期収穫を心がける。 ・冬季せん定で罹病した枝は、切除して園外で焼却または埋設処分する。 ・果実への感染を防ぐため、袋かけを行う。また、密植を避けて、風通しをよくする。

病虫害名	防除時期	摘 要
黒 斑 病	落 下 後 ～ 生 育 期	<ul style="list-style-type: none"> この病気は、「清水白桃」に特異的に発生が多く、多発すると大きな被害を生じる。 風通しの悪い園や5月～梅雨期及び9月に気温が高く降雨が多いと発生が多い。 落花後から幼果の肥大期までの散布が重要である。
	[耕 種 的 防 除]	<ul style="list-style-type: none"> 「清水白桃」以外の品種へ、転換する。 発病樹は伐採し、発病果、発病枝は見つけしだい処分する。 密植、過繁茂、多窒素栽培を避ける。
白 紋 羽 病	植 付 時	<ul style="list-style-type: none"> 植え付け前に、根部を10分間、殺菌剤で浸漬後植え付ける。
	[耕 種 的 防 除]	<ul style="list-style-type: none"> 着果過多を避ける。
炭 疽 病	果 実 肥 大 期	<ul style="list-style-type: none"> 4～6月の果実肥大期に降雨が多いと発病が多く、樹勢の劣る樹では発病が助長される。
	[耕 種 的 防 除]	<ul style="list-style-type: none"> 発病しにくい「白桃」、「大久保」などの品種を植え付ける。
胴 枯 病	[耕 種 的 防 除]	<ul style="list-style-type: none"> 凍害、着果過多、樹勢の低下、強せん定、排水不良等によって発生が助長される。 胴枯病菌は凍害による傷だけでなく、様々な傷から感染するため、樹体の保護に努める。 せん定後は、切り口を速やかに癒合剤で塗布し、傷口を保護する。
アブラムシ類	展 葉 期 ～ 新 梢 伸 長 期	<ul style="list-style-type: none"> モモでは主にモモアカアブラムシ、モモコフキアブラムシ、ウメコブアブラムシが加害し、常に軟らかな新葉部分から吸汁し、葉巻き症状を引き起こす。 モモの葉が硬化する5月下旬以降は別の植物へ移動し、10～11月にモモ樹に戻ってきて産卵し越冬する。
カメムシ類	果 実 肥 大 期	<ul style="list-style-type: none"> モモでは主にチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシが加害する。 冬季は落葉下で越冬し、年に1～3回発生する。 発生予察情報に注意するとともに、自園での発生状況の把握に努める。発生が見られたら、早期に薬剤を散布する。
モモハモグリガ	果 実 肥 大 期	<ul style="list-style-type: none"> 幼虫が大きくなると効果が低下するため、早期発見して薬剤を散布する。
シンクイムシ類 (モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガ、ナシヒメシンクイ)	果 実 肥 大 期 ～ 成 熟 期	<ul style="list-style-type: none"> モモシンクイガは、土中繭内にて幼虫の形態で越冬し、4～5月になると冬繭から脱出して蛹になり、6～8月に成虫となる。成虫は果実表面に産卵し、ふ化幼虫は果皮を食い破って果肉に侵入し、果実内を縦横に食害する。老熟後は果面に1～2mmの穴をあけて脱出し、地表面近くで夏繭をつくる。 モモノゴマダラノメイガは、果実のみを加害し、有袋果であっても袋の裂け目から侵入する。 ナシヒメシンクイの越冬世代成虫は4月下旬から発生し、新梢先端部に産卵、新梢内を食害して心折れ被害となる。6月下旬以降に産卵、ふ化した幼虫は果実に移動して食入する。 果実の中まで薬剤の効果は届かないので、果実への食入前に薬剤を散布する。
カイガラムシ類	休 眠 期	<ul style="list-style-type: none"> 休眠期防除参照
	生 育 期	<ul style="list-style-type: none"> モモを加害するカイガラムシは、ウメシロカイガラムシ、タマカタカイガラムシが主な種類である。いずれの種類とも、ふ化から1～2週間でカイガラを形成し、薬剤の効果が著しく低下するので、薬剤散布はふ化直後に実施する。 5-1ウメ(4)カイガラムシ類の防除参照

病害虫名	防除時期	摘 要
コスカシバ	休眠期 (落葉後～ 萌芽前)	・幼虫は樹皮下で越冬し、翌春も食害を続け、樹皮下で蛹化する。越冬幼虫の発育は不揃いで、成虫になる時期も揃わないため、成虫の発生期間は5～10月と幅がある。 ・あらかじめ虫糞を取り除き、樹幹部および主枝に十分散布する。 ・新芽の葉害を避けるため、萌芽前に散布を終える。
	幼虫発生期	・薬剤は、虫糞が見られるところを中心に、主幹部全体に散布する。 ・生物農薬は、効果を高めるために、晴天時の散布は避け、曇天または少雨時に散布するのが望ましい。
	成虫発生初期から 終期 (5月上～中旬)	・性フェロモン剤を枝に巻き付け、園内で片寄りのないように設置する。 ・効果を高めるために、広範囲一斉設置と併せて防風垣や防風ネットを設置する。 ・効果は1シーズン限りなので、毎年付け替える。
ハダニ類	生育期	・梅雨明け後～盛夏期に、無降雨が続くと発生しやすい。 ・高温乾燥期には園内での発生状況に注意し、必ず発生初期に防除する。 ・収穫間際や収穫期に発生することがあり、その際には薬剤ごとの収穫前日数に十分注意する。
モモサビダニ	生育期	・葉の表面全体の葉緑素が抜けて銀白色に輝いて見え、短時間で樹全体に拡大するため、早期発見に努め発生初期に防除する。
ハマキムシ類	生育期	・中齢以上の幼虫になると巻いた葉の中で生存するため、葉裏に寄生している若齢期に防除することが効果的である。
ドウガネ ブイブイ	果実肥大期	・薬剤散布により成虫の忌避効果が高い薬剤を使用する。
モモチョッキリ ゾウムシ	落花後	・成虫の捕殺に努める。
	[耕種的防除]	・発病して落下した果実や枯れ枝は有力な伝染源になるため、園外に持ち出し、焼却または処分するか、土中に深く埋める。

② せん孔細菌病の防除

本病は、果実に病斑を作り商品価値を低下させるだけでなく、早期落葉を引き起こし、果実肥大や糖度が低下する原因になる。周年的な対策が必要なので、次の各項目により総合的な対策を行う。

・防風垣、防風ネットの設置

風雨によってできた植物体表面の微細な傷口が病原菌の侵入口となるので、樹園地の周囲に防風垣や防風ネットを整備して、風当たりを和らげることが薬剤散布以前に重要である。また、新たにモモを植栽する場合は、風当たりの強い場所を避ける。

・ボルドー剤の散布

開花直前のボルドー剤散布によって、せん孔細菌病の越冬菌密度の低下をはかる。

・薬剤のローテーション散布と微生物殺菌剤の利用

薬剤耐性菌の発生を防止するため、異なる系統の薬剤を交互に使用するよう努める。また、化学農薬とは異なる作用機構である微生物殺菌剤により効果的に細菌病害の発生を抑えるため、袋かけまでは防除の際に微生物殺菌剤を混用する。

・果実の袋かけ

5月以降、葉に病斑が見られる園地では、果実の袋かけを行う。袋かけ直前に本冊子に記載した薬剤を散布し、病原菌の果実袋内への包み込みを防止する。

・夏型枝病斑への対応

夏場になって新梢に発生する「夏型枝病斑(サマーキャンカー)」は二次伝染源になるので、見つけ次第切除して、園外へ持ち出して処分する。

・抗生物質薬剤の散布

暴風雨や降雹があった場合には、天候回復後すみやかに抗生物質薬剤を散布する。また、生育期には定期的に薬剤を散布して、発生抑制をはかる。

モモ【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度(希釈倍率)														
									うどんこ病	すすかび病	せん孔細菌病	柿フシ腐敗病	果実赤点病	灰星病	黒斑病	黒星病	縮葉病(休眠期)	切り口及び傷口のゆ合促進	白紋羽病	炭疽病			
もも	ICボルドー412	銅水和剤	M1		-	-	200~700g/10a	散布															
もも	イカワアブガル	水和硫黄剤	"UN(*)		発病前~発病初期	-	200~700g/10a	散布															
もも	オルフィンブラスアブガル	チオコナゾール・フルボキサム水和剤	"[-]"(*)、3		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布	3000倍														
もも	カルアアブガル	水和硫黄剤	"UN(*)		発病前~発病初期	-		散布															
もも	ジマンダ・イセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(*)		収穫21日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布	600倍														
もも	スコア顆粒水和剤	ジフェノコナゾール水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布															
もも	スターナ水和剤	ホリニック酸水和剤	31		収穫7日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布															
もも	ストロピートライアブガル	クレキシムメチル水和剤	11		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布															
もも	チオノックアブガル	チウラム水和剤	M3		収穫7日前まで	5回以内	200~700g/10a	散布															
もも	テランアブガル	ジチアノ水和剤	M9	劇	収穫7日前まで	4回以内	200~700g/10a	散布															
もも	トップジンMベスト	チオアネートメチルベスト剤	1		【A】	3回以内		塗布															
もも	トップジンM水和剤	チオアネートメチル水和剤	1		収穫前日まで	6回以内	200~700g/10a	散布															
もも(苗木)	トップジンM水和剤	チオアネートメチル水和剤	1		植付前	1回	-	10分間根部浸漬															
もも	トリフィン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布	1500~2000倍														
もも	トレックアブガル	チウラム水和剤	M3		収穫7日前まで	5回以内	200~700g/10a	散布															

(9) スモモ

〔果樹類>落葉果樹>核果類>小粒核果類>すもも〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
【病害全般】	[耕種的防除]	・果実の病害虫被害を予防・軽減するために、袋かけ栽培が望ましい。
灰 星 病	開 花 期 および 果実肥大終期	・花では、花弁やガクが腐敗して褐変する。成熟期の果実で発病すると褐色に軟腐し、果実全体が灰色の胞子で覆われる。 ・雨が多いと発生が増加する。 ・花腐れを防ぐには、開花直前と満開直後に薬剤を散布する。 ・果実に少しでも発生すると、急激に二次感染が進むので、収穫の1か月前～収穫直前に薬剤を散布する。
ふくろみ病	休 眠 期 ～ 開 花 直 前	・開花終了後まもなく果実が異常生育し、豆さや状に肥大する。 ・「ソルダム」系品種は発病しやすいので、対策が必須である。 ・発生に気付いた時点で手遅れなので、必ず休眠期や発芽前に薬剤を散布する。 ・ <u>休眠期防除参照</u> 。
環 紋 葉 枯 病	生 育 期	・収穫期～梅雨明けの期間が低温多雨で推移すると、谷合などで発生しやすい。 ・発生初期に防除する。
黒 斑 病 か い よ う 病	[耕種的防除]	・スモモに発生する細菌病として、黒斑病(モモのせん孔細菌病と同一の細菌)やかいよう病がある。 ・枝や果実表面のキズを防ぐため、防風垣や防風ネットを設置する。
	休 眠 期	・ボルドー剤を散布する。
	生 育 期	・袋かけが終了するまでの防除には、毎回、生物殺菌剤を混用し、感染予防に努める。ただし、抗生物質薬剤は生物殺菌剤の生菌を死滅させるため、生物殺菌剤と抗生物質薬剤は混用しない。 ・暴風雨が発生した場合は、速やかに抗生物質薬剤を単剤で散布する。
切り口および傷口 の ゆ 合 促 進	剪定整枝時、 病患部削り取り 直後、及び 病枝切除後	・切り口に、適量のトップジンMペーストを塗布する。
アブラムシ類	展 葉 期 ～ 新 梢 伸 長 期	・モモアカアブラムシ、モモコフキアブラムシ等が加害する。 ・常に軟らかな新葉部分から吸汁し、葉巻き症状を引き起こす。 ・スモモの葉が硬化する5月下旬以降は別の植物へ移動し、10～11月にスモモ樹に帰ってきて産卵し越冬する。
コスカシバ	休 眠 期 (開花期まで)	・幼虫は樹皮下で越冬し、翌春も食害を続け、樹皮下で蛹化する。越冬幼虫の発育は不揃いで、成虫になる時期も揃わないため、成虫の発生期間は5～10月と幅がある。 ・あらかじめ虫糞を取り除き、樹幹部および主枝に薬剤を散布する。 ・新芽の薬害を避けるため、萌芽前に散布を終える。
	幼 虫 発 生 期	・主幹や主枝、特に虫糞が見られるところを中心に薬剤を散布する。 ・生物農薬は、効果を高めるために晴天時の散布は避け、曇天または少雨時に散布するのが望ましい。
	成 虫 発 生 初 期 (5月上～中旬)	・この時期は、成虫の交尾阻害により密度低下をはかる性フェロモン剤を用いる。効果を高めるために、広範囲一斉設置と併せて、防風垣や防風ネットを設置する。効果は1シーズン限りなので、毎年付け替える。

病害虫名	防除時期	摘 要
カメムシ類	果実肥大期	・これらの害虫は発生が見られたら、すみやかに薬剤を散布する。
ケムシ類 (イラガ)	生育期	
ハマキムシ類	生育期	
シンクイムシ類	果実肥大期 ～成熟期	・果実への食入が始まる前に、薬剤を散布する。
カイガラムシ類	(共 通)	・スモモを吸汁加害するカイガラムシ類として、ウメシロカイガラムシやナシマルカイガラムシがある。
カイガラムシ類 幼虫	休眠期	・ <u>休眠期防除参照</u>
	生育期	・カイガラを形成すると薬剤の効果が著しく低下するので、幼虫のふ化を確認して、ふ化最盛期に薬剤を散布する。
ハダニ類	生育期	・梅雨明け後～盛夏期に、無降雨が続くと発生しやすい。 ・手遅れにならないよう、発生初期に防除する。 ・収穫期と重なることがあるので、収穫前日数に注意する。
スモモミハハチ	開花期～ 落弁期	・成虫は開花期のがくに産卵し、幼虫は落弁直後に幼果に食入するため、満開期から落弁期に薬剤を散布する。

すもも【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度(希釈倍率)					
									かいよう病	ふくろみ病	灰星病	環紋葉枯病	黒斑病	切り口及び傷口のゆ合促進
すもも	ICボルト-412	銅水和剤	M1		-	-	200~700g/10a	散布					30倍	
すもも	アミスター1070アブル	アジキストロビン水和剤	11		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布			1000倍			
すもも	スコア顆粒水和剤	ジフェノコナゾール水和剤	3		収穫前日まで	2回以内	200~700g/10a	散布			2000~3000倍			
すもも	スターナ水和剤	キリニック酸水和剤	31		収穫7日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布					1000倍	
すもも	ストロートライフロアブル	クレンキシムメチル水和剤	11		収穫7日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布				2000倍		
すもも	チオノックフロアブル	チラム水和剤	M3		収穫14日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布		500倍				
すもも	トリフミン水和剤	トリアルミン水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布			1000倍			
すもも	トレノックスフロアブル	チラム水和剤	M3		収穫14日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布		500倍				
すもも	ナリアWDG	ピラクトロビン・ボスクリド水和剤	11,7		収穫前日まで	2回以内	200~700g/10a	散布		2000倍	2000倍			
すもも	バリダシン液剤5	バリダマイシン液剤	U18		収穫3日前まで	4回以内	200~700g/10a	散布					500倍	
すもも	ベルクトフロアブル	イミダクジンアルベシ酸塩水和剤	M7		収穫3日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布			2000倍			
すもも	マイコンコート	キシトサイクリン水和剤	41		収穫21日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布					2000倍	
すもも	ムッシュボルト-DF	銅水和剤	M1		葉芽発芽前まで	-	200~700g/10a	散布		500倍			500倍	
すもも	ロブラル水和剤	イプロジオン水和剤	2		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布			1000~1500倍			
小粒核果類	トップジンMベスト	チオファネートメチルベスト剤	1		【A】	3回以内		塗布						原液
小粒核果類	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫21日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布			1000~1500倍	1000~1500倍		
小粒核果類	フルツセイバー	ベンチピラト水和剤	7		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布			1500倍	1500倍		
小粒核果類	マスタビス水和剤	シュートモスロピア水和剤	「-(生)」		収穫前日まで	-	200~700g/10a	散布	1000~2000倍					
小粒核果類(うめを除く)	オルフィンプラスフロアブル	テブコナゾール・フルピラム水和剤	「-(生)」(I*),3		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布			3000倍			

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

スモモ【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度(希釈倍率)												
									アブラムシ類	ウメシロカイガラムシ	カイガラムシ類	カイガラムシ類 幼虫	カメムシ類	ケムシ類	コスカシバ	シツクイムシ類	ハダニ類	ハマキムシ類	スモモハバチ		
すもも	アブロードフロアブル	アブロフェジン水和剤	16		収穫14日前まで	2回以内	200~700g/10a	散布				1000倍									
すもも	ガットキラー乳剤	MEP乳剤	1B		【A】	1回		【Z】							100倍						
すもも	カネイトフロアブル	アセキシル水和剤	20B		収穫3日前まで	1回	200~700g/10a	散布									1000~1500倍				
すもも	サムルフロアブル10	クロラントリニプロール水和剤	28		収穫3日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布					2500~5000倍		2500倍			2500~5000倍			
すもも	スカウトフロアブル	トラロメトリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布	2000~3000倍							2000倍					
すもも	ダントツ水溶剤	クロチアメジン水溶剤	4A		収穫3日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布	2000~4000倍			2000~4000倍									
すもも	ハチハチフロアブル	トルフェンピラド水和剤	"21A(1*)	劇	収穫14日前まで	2回以内	200~700g/10a	散布	2000倍												
すもも	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤	28		開花期まで	1回	5~200g/10a	【Z】						200倍							
					収穫前日まで	2回以内	200~700g/10a	散布				4000倍	4000倍	4000倍		4000倍					
すもも	モスビラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布	2000~4000倍		2000倍					2000~4000倍				2000~4000倍	
すもも	ロディール水和剤	フェンプロパトリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	2回以内	200~700g/10a	散布								2000倍					
果樹類	ハイセーフ	スタイナーネカボカブサエ剤	「-(生)」		幼虫発生期	-	25%	【X】							2500万頭(約10g)						
果樹類	スカンパコンL	シナセキア剤			【B】		40~100本/10a	【Y】							8g/100本製剤						
小粒核果類	アデントフロアブル	アクリナトリン水和剤	3A		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布							2000倍	2000倍					
小粒核果類	アデント水和剤	アクリナトリン水和剤	3A		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布								1000倍					
小粒核果類	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	収穫前日まで	2回以内	200~700g/10a	散布		2000倍				イガ類 2000倍		オトコダニ 2000倍					
小粒核果類	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン水和剤	9B		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布	2000~4000倍		2000倍										
小粒核果類	ダニゲッターフロアブル	スピロメシフェン水和剤	23		収穫前日まで	1回	200~700g/10a	散布								2000倍					
小粒核果類	ダニサラバフロアブル	シフルメトフェン水和剤	25A		収穫前日まで	2回以内	200~700g/10a	散布								1000~2000倍					
小粒核果類	マイトコネフロアブル	ピフェネート水和剤	20D		収穫3日前まで	1回	200~700g/10a	散布								1000~1500倍					

使用時期：【A】休眠期(落葉後~萌芽前)、【B】成虫発生初期から終期

使用方法：【Z】樹幹部及び主枝に散布

【Y】ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け設置

【X】虫糞が見られる所を中心に主幹部全体に散布

(10) リンゴ

〔果樹類>落葉果樹>仁果類>りんご〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
【病害全般】	[耕種的防除]	・発病部位(主に葉・枝・果実)は発見次第すみやかに除去し、園外で焼却か土中深く埋める。 ・落葉やせん定によって切り取った枝も、園外で粉碎・焼却または土中深く埋める。
黒 星 病	開 花 前 ～ 幼 果 期	・一次伝染の防止が重要なので、開花期前後の薬剤散布に重点を置く。
	果 実 肥 大 期	・銅水和剤を使用する場合は、サビ果防止のため炭酸カルシウム剤を混用する。
	収 穫 後	・ 休眠期防除参照
斑点落葉病	落 花 期	・フロンサイドSCの前後にボルドー剤を散布する場合は、7日以上の間隔をあける。
	収 穫 前	・収穫までの日数を考慮して、使用時期「前日まで」等、日数が短い薬剤を使用する。
	収 穫 後	・この時期は、主に有機銅剤を用いる。
褐 斑 病	梅 雨 明 け 前 後	・低温多雨の年に発生が多くなり、早期落葉につながる。
すす斑病 すす点病	5 月 中 旬 ～ 9 月 下 旬	・夏に降雨の多い年に、発生が多い。 ・有袋栽培で発生が多いので、袋かけ前に防除する。
赤 星 病	4 月 下 旬 ～ 5 月 中 旬	・多発園では、初発期とさらにその1週間後に散布する。
	[耕種的防除]	・中間宿主であるビャクシン類を周辺(1km程度)から取り除く。
輪 紋 病 (いぼ皮病)	6 月 中 旬 ～ 8 月 上 旬	・高温多雨条件が続くと、感染頻度が高くなる。
腐 ら ん 病	剪定時及び病 患 部 削 り 取 り 直 後	・トップジンMペーストまたはバッチレートを原液のまま使用する。 ・せん定時には、せん定直後の切り口に塗布する。 ・病斑を見つけた場合は、すみやかに病患部を大きめに削り取り、傷あと及びその周辺に十分塗布する。 ・ 休眠期防除参照
切り口および 傷口のゆ合促進	剪定整枝時、 病患部削り取り直 後、及び 病枝切除後	・せん定直後の切り口に、トップジンMペーストまたはバッチレートを塗布する。
アブラムシ類	5 月 上 旬 ～ 7 月 下 旬	・展葉初期の防除を徹底する。
カイガラムシ 類	【 共 通 】	・ 休眠期防除参照
	幼 虫 ふ 化 直 後	・5月上～中旬、7月上～中旬頃の幼虫ふ化期から若齢幼虫期に薬剤を散布する。
	[耕種的防除]	・9月下旬までに主枝や垂主枝にコモ等を巻き付けて、バンド誘殺を行う。

病害虫名	防除時期	摘 要
コナカイガラ ムシ類 クワコナカイガラ ムシ(若齢幼虫)	幼 虫 ふ 化 直 後	・5月上～中旬、7月上～中旬頃の幼虫ふ化期から若齢幼虫期に防除する。 ・ 休眠期防除参照
カメムシ類	6 月 中 旬 ～ 9 月 下 旬	・成虫が山林から果樹園に飛来し、幼果期から収穫期まで加害する。 ・落果に注意しながら樹を揺すって、成虫の有無を確認する。
ハマキムシ類	展 葉 期	・発生状況を見ながら、ふ化幼虫の最盛期に防除する。
	果 実 肥 大 期	・果実肥大期間中は、ふ化幼虫最盛期に防除する。
	[耕種的防除]	・葉と果実の接触部分に生息しやすいので、葉摘みを行う。
ハダニ類 (リンゴハダニ) (ナミハダニ)	6 月 下 旬 ～ 9 月 上 旬	・ハダニ類は、短期間で増加し、増加すると防除困難になるので、発生初期にかけ残しのないように丁寧に散布する。 ・高温・乾燥が続くと発生しやすいので、注意する。 ・ 休眠期防除参照
シンクイムシ類	6 月 下 旬 ～ 9 月 上 旬	・リンゴを加害するシンクイムシ類として、モモシンクイガおよびナシヒメシンクイがある。 ・世代間の重なりが大きく、連続的に発生するので、継続的な防除対策が必要である。また、果実への食入前に防除する。
キンモンホソガ	幼 果 期	・食入虫の防除よりも食入防止に重点を置き、成虫発生期から産卵期にかけての散布が効果的である。
	果 実 肥 大 期	・7月下旬から8月上旬の第3世代の卵および無脚幼虫期に散布する。
	[耕種的防除]	・冬期に落葉を焼却するか、または土中に埋める。
ギンモン ハモグリガ	4 月 ～ 9 月	・老熟幼虫がぶら下がるのを確認し、その10日～2週間後に卵期を迎えるので、その時期に薬剤を散布する。
カミキリムシ類	6 ～ 7 月	・産卵初期～産卵最盛期直前に、処理する。 ・主幹地際部から約50cmの高さまで塗布または散布する。 ・薬液が果実や葉に付着しないように、注意して散布する。

リンゴ【殺菌剤・その他】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度 (希釈倍率)												
									すす点病	すす斑病	褐斑病	黒星病	傷口のゆ 合促進	赤星病	切り口及 び傷口の ゆ合促進	斑点落葉 病	腐らん病	輪紋病	銅水和剤 による薬 害軽減		
りんご	ICボルドー412	銅水和剤	M1		-	-	200~700 ^g /10a	散布			30~50倍	30~50倍	2000倍			20~50倍			20~40倍		
りんご	アグサーフロアール	ジフェノコゾール・フルキサトール水和剤	3,7		収穫14日前まで	3回以内	200~700 ^g /10a	散布			2000倍	2000倍	2000倍			2000倍					
りんご	アリエティック水和剤	キャブタン・ホセチル水和剤	M4,P7		収穫前日まで	3回以内	200~700 ^g /10a	散布	800倍	800倍	800倍	800倍				800倍			800倍		
りんご	アントラコール顆粒水和剤	プロピネ水和剤	M3		収穫45日前まで	4回以内	200~700 ^g /10a	散布	500倍	500倍	500倍	500倍				500倍			500倍		
りんご	インダーフロアール	フェンコゾール水和剤	3		収穫14日前まで	3回以内	200~700 ^g /10a	散布	10000倍	10000倍	10000倍	5000~ 12000倍				8000~ 12000倍					
りんご	オージャイク水和剤	オクスボコゾール 7マル酸塩水和剤	3		収穫7日前まで	5回以内	200~700 ^g /10a	散布	3000倍	3000倍		3000~ 4000倍				3000~ 4000倍					
りんご	オオサイド水和剤80	キャブタン水和剤	M4		収穫前日まで	6回以内	200~700 ^g /10a	散布	600~ 800倍	600~ 800倍	600~ 800倍	600~ 1000倍				600~ 800倍			600~ 800倍		
りんご	オキリア水和剤	キャブタン・有機銅水和剤	M1,M4		収穫14日前まで	4回以内	200~700 ^g /10a	散布	500~ 600倍	500~ 600倍	500~ 600倍	500~ 800倍				500~ 800倍			500~ 800倍		
りんご	ホルフィンブラス70777ル	ブコゾール・7 ルビラム水和剤	"[-] (*)",3		収穫7日前まで	3回以内	200~700 ^g /10a	散布	2000倍	2000倍	2000倍	2000~ 3000倍				2000~ 3000倍					
りんご	キノド水和剤40											500~ 800倍				500~ 800倍					
りんご	キノド水和剤80	有機銅水和剤	M1		収穫14日前まで	4回以内	200~700 ^g /10a	散布	1200倍	1200倍	1200倍	1200~ 1600倍				1200~ 1600倍			1200倍		
りんご	キノド-顆粒水和剤								1000倍	1000倍	1000倍	1000倍				1000倍			1000倍		
りんご	コサイド 3000	銅水和剤	M1		-	-	200~700 ^g /10a	散布	2000倍	2000倍	2000倍	2000倍				2000倍			2000倍		

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度 (希釈倍率)										
									すす点病	すす斑病	褐斑病	黒星病	傷口のゆ 合促進	赤星病	切り口及 び傷口の ゆ合促進	斑点落葉 病	腐らん病	輪紋病	銅水和剤 による薬 害軽減
りんご	ジマダ イセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(*)		収穫30日 前まで	3回 以内	200～700% /10a	散布	すす点病 500～ 600倍	すす斑病 500～ 600倍	褐斑病 500～ 600倍	黒星病 500～ 600倍	傷口のゆ 合促進	赤星病 500～ 600倍	切り口及 び傷口の ゆ合促進	斑点落葉 病 500～ 600倍	腐らん病	輪紋病 500～ 600倍	銅水和剤 による薬 害軽減
りんご	スクラフロアブル	マンデストロピ ン水和剤	11		収穫前日 まで	3回 以内	200～700% /10a	散布				2000～ 3000倍						2000～ 3000倍	
りんご	スコア顆粒水和剤	ジフェノコゾ ール水和剤	3		収穫14日 前まで	3回 以内	200～700% /10a	散布			2000～ 3000倍	3000～ 4000倍							
りんご	ストロピートドライフロアブル	クレキシムメチル水 和剤	11		収穫前日 まで	3回 以内	200～700% /10a	散布	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍	3000倍				1500～ 3000倍		2000～ 3000倍	
りんご	セルカデイスDフロアブル	ジチアソフ ルキサビ ピロキサト ン水和 剤	7,M9	劇	収穫60日 前まで	3回 以内	200～700% /10a	散布			1000～ 1500倍	1000～ 1500倍				1000～ 1500倍		1000～ 1500倍	
りんご	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		収穫45日 前まで	3回 以内	200～700% /10a	散布				1000倍				1000倍			
りんご	チオックフロアブル	チウラム水和剤	M3		収穫30日 前まで	5回 以内	200～700% /10a	散布	500倍	500倍	500倍	500倍				500倍		500倍	
りんご	テランフロアブル	ジチアソフ ルキサビ ピロキサト ン水和 剤	M9	劇	収穫60日 前まで	3回 以内	200～700% /10a	散布			1000～ 2000倍	1000～ 2000倍				1000～ 2000倍		1000～ 2000倍	
りんご	トキフロアブル	有機銅水和剤	M1		収穫14日 前まで	4回 以内	200～700% /10a	散布	800～ 1000倍	800～ 1000倍	800～ 1000倍	800～ 1000倍				800～ 1000倍		800～ 1000倍	

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度 (希釈倍率)													
									すす点病	すす斑病	褐斑病	黒星病	傷口のゆ 合促進	赤星病	切り口及 び傷口の ゆ合促進	斑点落葉 病	腐らん病	輪紋病	銅水和剤 による薬 害軽減			
りんご	トップジンM [®] -スト	チオファネートメチル ペ-スト剤	1		【A】 3回 以内		塗布															
りんご	トップジンM水和剤	チオファネートメチル 水和剤	1		【B】 収穫前日 まで	6回 以内	200～700 ^g /10a	散布	1000～ 1500倍	1000～ 2000倍	1000～ 2000倍	1000～ 2000倍	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍	1000～ 1500倍	1000～ 1500倍	原液		原液			
りんご	トリミク水和剤	トリフルミゾ-ル水 和剤	3		収穫前日 まで	3回 以内	200～700 ^g /10a	散布				2000～ 3000倍			2000～ 3000倍							
りんご	トレノックフロアブル	チクラム水和剤	M3		収穫30日 前まで	5回 以内	200～700 ^g /10a	散布	500倍	500倍	500倍	500倍			500倍						500倍	
りんご	ナリアWDG	ピラジロストロビ ン・ホスカリド [®] 水 和剤	11,7		収穫前日 まで	3回 以内	200～700 ^g /10a	散布	2000倍	2000倍	2000倍	2000倍			2000倍						2000倍	
りんご	ネクスターフロアブル	イピラザム水 和剤	7		収穫前日 まで	3回 以内	200～700 ^g /10a	散布				1500～ 3000倍			1500倍							
りんご	パッチレート	有機銅塗布剤	M1		【A】 3回 以内			【Z】					原液					原液				
りんご	パレード 1570フロアブル	ピラジフルミド 水和剤	7		収穫前日 まで	2回 以内	200～700 ^g /10a	散布	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍			2000倍						2000～ 3000倍	
りんご	ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリパ [®] ンカルブ 水和剤	11		収穫前日 まで	3回 以内	200～700 ^g /10a	散布	3000～ 4000倍	3000～ 4000倍	3000～ 4000倍	3000～ 4000倍			3000～ 4000倍						3000～ 4000倍	
りんご	フルツセ(パ-	ペンチオピラト [®] 水和剤	7		収穫前日 まで	3回 以内	200～700 ^g /10a	散布	1500～ 3000倍	1500～ 3000倍	1500～ 3000倍	1500～ 3000倍			1500～ 3000倍						1500～ 2000倍	
りんご	700サイト SC	フルアジ [®] ナム水和 剤	29		収穫45日 前まで	1回	200～700 ^g /10a	散布	2000～ 2500倍	2000～ 2500倍	2000～ 2500倍	2000～ 2500倍			2000～ 2500倍						2000～ 2500倍	

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度 (希釈倍率)																				
									すす点病	すす斑病	褐斑病	黒星病	傷口のゆ 合促進	赤星病	切り口及 び傷口の ゆ合促進	斑点落葉 病	腐らん病	輪紋病	銅水和剤 による薬 害軽減										
りんご	バルクトプロアル	イミダジンアル ベシ酸塩水和 剤	M7		収穫前日 まで	6回 以内 (但 し、 開花 期以 降散 布は 3回 以内)	200～700 ^g /10a	散布	すす点病	1000～ 1500倍	すす斑病	1000～ 1500倍	褐斑病	1000～ 1500倍	黒星病	1000～ 1500倍	傷口のゆ 合促進	赤星病		切り口及 び傷口の ゆ合促進	1000～ 1500倍	斑点落葉 病	1000～ 1500倍	腐らん病		輪紋病	1000～ 1500倍	銅水和剤 による薬 害軽減	
りんご	バルクト水和剤								1000倍						1000～ 2000倍							1000～ 2000倍				1000倍			
りんご	ペンレート水和剤		1		収穫前日 まで	4回 以内	200～700 ^g /10a	散布	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍	2000～ 3000倍									2000～ 3000倍	2000～ 3000倍				
りんご	ユニック顆粒水和剤47	ジプロジニル水 和剤	9		収穫14日 前まで	4回 以内	200～700 ^g /10a	散布					2000倍	1000～ 2000倍									1000～ 2000倍						
りんご	クレフソ	炭酸カルシウム水 和剤	その他			-		【Y】																				80～ 100倍	

使用時期：【A】剪定時及び病患部削り取り直後、

【B】剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

使用方法：【Z】剪定枝の切口、病患部の削除あとに塗布、【Y】銅水和剤に混用して散布

(11) クリ

〔果樹類>落葉果樹>くり〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
【病害共通】	[耕種的防除]	・空のイガ、発病した毬果、落葉、発病枝、せん定枝は、感染源となるため、可能な限りすみやかに回収して、園外で焼却または地中に埋設する。
胴 枯 病	病患部削り取り直後	・病斑を見つけ次第、病患部を大きめに完全に削り取り、傷あとおよびその周辺にトップジンMペーストを十分塗布する。
	[耕種的防除]	・枝幹害虫の被害跡や凍害による枯死部から病原菌の繁殖が始まるので、害虫防除や凍害対策を行う。
実炭疽病	果実肥大期	・薬剤による防除適期は、毬果肥大期～成熟期(7月中旬～8月下旬)である。 ・10日間隔で2～3回、イガに薬剤が十分かかるように散布する。
	[耕種的防除]	・極早生品種および晩生品種は発生が少ないので、品種構成を考慮する。
切り口及び傷口のゆ合促進	剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	・切り口に適量のトップジンMペーストを塗布する。
【害虫共通】	[耕種的防除]	・空のイガ・食害された毬果・落葉は、生育や越冬の場所となるため、可能な限りすみやかに回収して、園外で焼却または地中に埋設する。
クスサン	[耕種的防除]	・休眠期に卵塊を集めて焼却する。 ・生育期は早期発見に努め、若齢幼虫期に捕殺する。
カミキリムシ類	6月下旬～8月上旬	・薬剤は樹幹部に十分量散布する。
	[耕種的防除]	・成虫は見つけ次第捕殺する。幼虫は食入痕に針金を差し込み、刺殺する。
コウモリガ	4～6月	・登録薬剤を地際部から約1.5m～2mの高さまでの主幹及び主枝に塗布または散布する。
クリタマバチ	発芽直前	・越冬幼虫を対象に、登録薬剤を休眠期に樹冠全体を散布する。
	成虫活動期(7月上旬～中旬)	・成虫が虫こぶから脱出して野外を活動する時期以外は薬剤の効果が低い。 ・羽化脱出期(特に羽化初期)を見計らって薬剤を散布する。
	[耕種的防除]	・新梢の伸びが少ないとクリタマバチが寄生しやすくなるので、やや強めのせん定や適切な施肥によって樹勢を強く維持する。 ・品種により本虫に対する抵抗性が異なるので、抵抗性品種を選んで栽培する。
アブラムシ類	生育期	・主なアブラムシ種として、クリイガアブラムシ、クリオオアブラムシがある。 ・クリオオアブラムシには、ふ化直後に薬剤散布する。
	[耕種的防除]	・クリオオアブラムシの樹皮に付着した越冬卵は、見つけ次第すりつぶす。
クリイガアブラムシ	6月	・成虫の移動期に薬剤を散布する。
	[耕種的防除]	・主幹や主枝などに両面テープを巻いて、成虫の移動を阻止する。

病害虫名	防除時期	摘 要
モモノゴマ ダラノメイガ	8 月 上 旬 ～ 9 月 中 旬	・早生種は8月上旬～中旬、中生種は8月中旬～下旬、晩生種は8月下旬～9月上旬に重点を置き薬剤を散布する。
ネスジキノ カワガ	6 月 下 旬 ～ 7 月 上 旬	・第2世代成虫による被害がもっとも多いので、第2世代成虫の産卵最盛期(6月下旬～7月上旬)に薬剤を穂果に行き渡るように散布する。
クリシギ ゾウムシ	8月下旬～9月 中 旬	・成虫が羽化する時期に薬剤を散布する。
クリミガ	9 月	・老熟幼虫で越冬し、8～9月の蛹期を経て、9月から成虫が羽化し産卵するため、9月下旬以降収穫の晩生品種で被害が多い。

くり【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）		
									実炭疽病	切り口及び傷口のゆ合促進	胴枯病
くり	ジマンダイオン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(1*)		収穫7日前まで	2回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	散布	600倍		
くり	トップジンM [®] ペースト	チオファネートメチルペースト剤	1		【A】	3回以内		塗布			原液
					【B】						
くり	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫3日前まで	4回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	散布	1000～1500倍		
くり	ヘルコート707 [®] フル	イミダジノール [®] シル酸塩水和剤	M7		収穫14日前まで	2回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	散布	1000倍		
くり	ペンレート水和剤	ペンシル水和剤	1		【C】	4回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	散布	2000～3000倍		

使用時期【A】：病患部削り取り直後

使用時期【B】：剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

使用時期【C】：裂果前（但し、収穫14日前まで）

クリ【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）										
									アブラムシ類	カミキリムシ類	クスサン	クリイガアブラムシ	クリシジウム	クリタマハチ	クリミガ	コウモリガ	ネズミキリガ	モモコマダラメイガ	
くり	アクリリン水和剤	シベトリン水和剤	3A	劇	収穫7日前まで	5回以内	200~700g/10a	散布					1000~3000倍	1000倍					
くり	アクリオン乳剤	ベトリン乳剤	3A		【A】 収穫14日前まで	5回以内	200~700g/10a	散布						1000~2000倍					
くり	アクリオン水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	収穫7日前まで(ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	3回以内	200~700g/10a	散布	1000倍										
くり	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	収穫14日前まで	4回以内	200~700g/10a	散布			1000倍								1000倍
くり	ガットサイトS	MEP乳剤	1B		【B】	1回	-	【Z】											1(原液)~1.5倍
くり	スミチオン水和剤40	MEP水和剤	1B		【C】	4回以内	200~700g/10a	散布					1000倍						1000倍
くり	ディアナWDG	スピネトラム水和剤	5		収穫前日まで	2回以内	200~700g/10a	散布											10000倍
くり	トクチオン乳剤	プロチホス乳剤	1B		【D】	5回以内	200~700g/10a	散布										1000倍	1000倍
くり	トラサイトA乳剤	マラソン・MEP乳剤	1B		発芽直前	1回	200~700g/10a	散布					200倍						
くり	トリサイトA乳剤	マラソン・MEP乳剤	1B		【C】	1回	0.5~2.0g/樹	樹幹部に十分散布			100~200倍								
くり	パーマチオン水和剤	フェンハート・MEP水和剤	1B,3A	劇	【C】	4回以内	200~700g/10a	散布			1000倍	1000倍							
くり	パダソグ水溶剤	カルタップ水溶剤	14	劇	裂果前	3回以内	200~700g/10a	散布										1500倍	1500倍
くり	フェニックスフロアブル	フルベソジアミド水和剤	28		収穫前日まで	2回以内	2~4g/10a	【X】			40倍								40倍
くり	フェニックスフロアブル	フルベソジアミド水和剤	28		収穫前日まで	2回以内	200~700g/10a	散布			4000倍								4000倍
くり	マブリック水和剤20	フルベソジアミド水和剤	3A	劇	収穫7日前まで	2回以内	2~4g/10a	【X】				40倍							
くり	マブリック水和剤20	フルベソジアミド水和剤	3A	劇	収穫7日前まで	2回以内	200~700g/10a	散布			2000倍	2000倍	2000倍						
くり	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	収穫7日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布	4000倍					2000~4000倍	2000~4000倍				2000倍

使用時期：【A】羽化脱出期但し収穫14日前まで、【B】裂果前まで但し収穫90日前まで

【C】裂果前但し収穫14日前まで、【D】裂果前まで(但し収穫7日前まで)

使用方法：【Z】樹幹の地際部から約1.5~2mの高さまでの主幹及び主枝に塗布

【Y】樹幹の地際部から約1.5~2mの高さまでの主幹及び主枝に散布

【X】無人航空機による散布

(12) 休眠期防除

① 石灰硫黄合剤

(分類コード F:M02, I:UN*)

作物名	病虫害名	防除方法			注意事項
		使用時期	使用濃度	使用回数	
果樹類	サビダニ類 ハダニ類	冬期	20～40倍	—	
落葉果樹	カイガラムシ類 ハダニ類 越冬病虫害	発芽前	7～10倍	—	
ウメ	縮葉病	発芽前	8倍	—	・薬害を防ぐため、12月は10倍液を用いる。開花直前は20倍とし、早咲き花が咲き始めた時に散布する。
ナシ	黒星病	発芽前	7倍	—	・リン片がずれ始めた頃の散布効果が高い。
ミカン	カイガラムシ類 ハダニ類	冬期	20～40倍	—	・防寒被覆除去7～10日後に散布する。
モモ	縮葉病 胴枯病 黒星病	発芽前	7倍	—	・生育期防除は効果が不十分なので、必ず休眠期に防除する。
スモモ	ふくろみ病	—	140倍	—	・発病してからは手遅れなので、必ず休眠期に防除する。
リンゴ	腐らん病	休眠期	10倍	—	・腐らん病の休眠期防除は、枝幹が十分に濡れるように行う。
	黒星病	発芽前	7倍	—	
	モニリア病	開花前	60～140倍	—	
クリ	芽枯病	発芽前	20～40倍	—	
【すべての防除方法に関する注意事項】					
・ボルドー剤、銅剤、マシン油乳剤との混用は避ける。					
・ボルドー剤は散布後3週間以上、マシン油乳剤は散布後1ヶ月以上の間隔をあける。					
・銘柄(製造会社)によって登録内容が異なるので、商品ごとに登録内容を必ず確認する。					

② マシン油乳剤(95%濃度)

(分類コード F:NC, I:未)

作物名	病虫害名	防除方法			注意事項
		使用時期	使用濃度	使用回数	
落葉果樹	カイガラムシ類 (ブドウを除く)	—	12～14倍	—	・ウメでは葉芽が動き出す前に散布する。ただし、開花期間中は散布しない。
落葉果樹 (ナシ、リンゴ、カキ、モモ)	カイガラムシ サビダニ類 ハダニ類 及びその越冬卵	—	16～24倍	—	・ナシ、カキは、原則として隔年散布とする。
モモ	アブラムシ類	発芽前	25倍	—	
カンキツ	ヤノネカイガラムシ その他カイガラムシ サビダニ ハダニ類の越冬卵	冬期	30～45倍	—	・カンキツでは、葉に油浸斑を生じることがあるが、日数の経過に従って消失する。
【すべての防除方法に関する注意事項】					
・石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性薬剤との混用は避ける。					
・銘柄(製造会社)によって登録内容が異なるので、商品ごとに登録内容を必ず確認する。					

2 果樹除草剤

(1) 使用上の注意事項

- ① 散布実面積当たりの使用薬量を厳守し、薬液が栽培樹の枝葉にかからないように注意して散布する。
- ② 少量散布の場合は、専用ノズルを用い、雑草の葉面が軽く均一に濡れる程度に散布する。
- ③ 土壌の流亡や法面の崩壊のおそれがあるため、傾斜のある園地では使用しない。
- ④ 散布後の降雨で効果が低下することがあるので、天気予報を把握したうえで散布する。
- ⑤ 地力低下を防ぐため、除草剤使用は年間1～2回にとどめ、堆肥などを補給して土づくりに取り組む。

(2) 使用方法

- ・ザクサ液剤、バスタ液剤、プリグロックスL、ラウンドアップマックスロードにおいて、ウメ、ナシ、カキ、ブドウ、ミカン(カンキツ)、イチジク、キウイフルーツ、モモ、スモモ、リンゴ、クリで登録がある。
- ・使用基準等については、各薬剤のラベル等を十分に確認する。

(3) イチジクの除草対策

- ・イチジクは水平方向に根が広く分布する浅根性の樹種であるため、除草剤の使用は極力避けて手取り除草を行う。
- ・反射シートの敷設は、雑草抑制に加えてアザミウマ類の被害防止対策に効果がある。

3 果樹植物成長調整剤

樹種	薬剤名	【対象品種等】 使用目的	使用 方 法				注 意 事 項	
			希釈倍数	使用時期	使用方法	回数		
ナシ	ジベレリンペースト	【日本なし】 ・果実肥大促進 ・熟期促進	(原液)	満開30～ 40日後	幼果1果当たり 20～30mgを 果梗部へ塗布	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤が果面に付着すると薬害が出るので、果実に付着しないように注意して塗布する。 ・定植後の新梢伸長促進では、全花除去した短果枝の新梢基部に塗布する。 ・ジベレリンを含む農薬の総使用回数は2回以内(果梗部塗布は1回以内、新梢基部塗布は1回以内)。 	
		【日本なし】 ・新梢伸長促進	(原液)	満開予定日 10日前～ 満開40日後	1枝当たり 100mgを新梢 基部へ塗布	1回		
		【日本なし】 (苗木) ・新梢伸長促進		萌芽期～新 梢新長期	頂芽基部塗 布または新梢 基部塗布	3回 以内		
	ストップール液剤	【赤なし】 (ただし、王秋を除く) ・収穫前落果防止	2,000～ 3,000倍	収穫開始 予定日の 14～7日前	立木全面散布 200～300 g/10a	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・樹勢の弱い樹では、早期落葉する恐れがあるので、樹勢を考慮して使用する。 ・展着剤は、加用しない。 ・散布後に降雨があっても、再散布はしない。 ・ジクロルプロップを含む農薬の使用回数は1回。 	
		【青なし】 ・収穫前落果防止	1,500～ 2,000倍					
		【王秋】 ・収穫前落果防止	2,000～ 3,000倍	収穫開始 予定日の 30～7日前				
ブドウ	アグレプト液剤 (ストレプトマイシン液剤) [RAC F:25]	・無種子化	1,000倍 (200ppm)	満開予定日 の14日前 ～開花始期	散布 200～700g/10a	1回		<ul style="list-style-type: none"> ・本剤は殺菌剤である。 ・展着剤は、加用しない。 ・ストレプトマイシンを含む農薬の使用回数は1回。
					花房散布 30～100g/10a			
				満開予定日 の14日前 ～満開期	花房浸漬 (第1回目 ジベレリン 処理と併用)			
					ジベレリン液に添加して使用する場合、第1回ジベレリン処理時に本剤を添加して花房浸漬処理し、第2回ジベレリン処理(単用)を必ず行う。			
温州 ミカン	フィガロン乳剤	・間引摘果	1,000～ 2,000倍	満開20～ 50日後で 生理落果 のある時	立木全面散布 葉先からした たははじめる程 度は250～500 g/10a	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・目的以外の植物に対してもごく微量で影響があるので、周辺の植物にはかからないようにする。 ・気象や生育の条件によって反応が大きく異なるので、使用に当たっては薬剤に添付された効果・薬害等の注意事項を熟読して理解し、適切に使用する。 ・エチクロゼートを含む農薬の使用回数は4回以内(1,000倍希釈散布は2回以内)。 	

樹種	薬剤名	【対象品種等】 使用目的	使用方法				注意事項
			希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
キウイ フルーツ	フルメット液剤	・果実肥大促進	ホルクロルフェニロン 1～5ppm	開花後 20～30日	果実浸漬 又は 果実散布	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・処理時期が早い場合には、変形果の発生、生理落果の増加、過剰肥大に伴う糖度低下を生じるおそれがある。 ・果頂部に薬液がたまると変形果発生につながるため、処理後、棚の針金等をゆすり、過量の薬液を振り落とす。 ・ホルクロルフェニロンを含む農薬の使用回数は1回以内。
リンゴ	ストップール液剤	・収穫前落果防止	1,000～ 1,500倍	収穫開始 予定日の 25～7日前	立木全面散布 300～600 l/10a	2回 以内	<ul style="list-style-type: none"> ・効果を安定させるために2回散布する場合は、10日程度間隔をあける。 ・展着剤は、加用しない。 ・散布後に降雨があっても、再散布はしない。 ・ジクロルプロップを含む農薬の総使用回数は2回以内。

※これ以降のブドウに関する薬剤の登録内容は、本県の推進品種である「シャインマスカット」、「藤稔」、「ブラックビート」、「サニールージュ」、および「巨峰」、「デラウェア」についてのみ記載する。

ブドウ[無核栽培] ジベレリン粉末

- ・降雨やフェーン現象などによる異常乾燥の心配が無い日を選んで処理する。
- ・着粒が安定するとともに果粒の肥大が促進されるので、着果過多（過密着）による裂果発生の恐れがある。

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
サニールージュを除く巨峰系4倍体品種 ※「藤稔」、「ブラックビート」、「巨峰」が該当	・無種子化 ・果粒肥大促進	第1回目： ジベレリン 12.5～ 25ppm	第1回目： 満開時～ 満開3日後	第1回目： 花房浸漬	2回以内 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内)	・ジベレリンを含む農薬の総使用回数は3回以内。但し降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内。
		第2回目： ジベレリン 25ppm	第2回目： 満開10～ 15日後	第2回目： 果房浸漬		
		ジベレリン 25ppm	満開3～ 5日後 (落花期)	花房浸漬 (ホルクロルフェニエロン 10ppm液に加用)	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	
	・無種子化	ジベレリン 12.5～ 25ppm	満開時～ 満開3日後	花房浸漬 (満開10～15日後にホルクロルフェニエロンによる果粒肥大促進処理を行うこと)	2回以内	
サニールージュ	・無種子化 ・果粒肥大促進	ジベレリン 3～5ppm	展葉3～ 5枚時	花房散布 30～100ℓ/10a	1回	
		第1回目： ジベレリン 12.5～ 25ppm	第1回目： 満開時～ 満開3日後	第1回目： 花房浸漬	2回以内 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内)	
		第2回目： ジベレリン 25ppm	第2回目： 満開10～ 15日後	第2回目： 果房浸漬		
	ジベレリン 25ppm	満開3～ 5日後 (落花期)	花房浸漬 (ホルクロルフェニエロン 10ppm液に加用)	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)		
	・無種子化	ジベレリン 12.5～ 25ppm	満開時～ 満開3日後	花房浸漬 (満開10～15日後にホルクロルフェニエロンによる果粒肥大促進処理を行うこと)	2回以内	
	・果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm	展葉3～ 5枚時	花房散布 30～100ℓ/10a	1回	
・着粒密度低減 ・果粒肥大促進	第1回目： ジベレリン 25ppm	第1回目： 満開予定日 14～20日前	第1回目： 花房浸漬 (ホルクロルフェニエロン 3ppm液に加用)	2回以内 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内)		
	第2回目： ジベレリン 25ppm	第2回目： 満開10～ 15日後	第2回目： 果房浸漬			

ブドウ[無核栽培] ジベレリン粉末 (続き)

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
2倍体欧州系品種 ※「シャインマスカット」が該当	・無種子化 ・果粒肥大促進	第1回目: ジベレリン 25ppm	第1回目: 満開時～ 満開3日後	第1回目: 花房浸漬	2回以内 (但し、降雨等 により再処理を 行う場合は合 計4回以内)	・ジベレリンを含む農 薬の総使用回数は 3回以内。但し、降 雨等により再処理を 行う場合は合計5回 以内。
		第2回目: ジベレリン 25ppm	第2回目: 満開10～ 15日後	第2回目: 果房浸漬		
ジベレリン 25ppm	満開3～ 5日後 (落花期)	花房浸漬 (ホルクロフェニロン 10ppm液に加用)	1回 (但し、降雨等 により再処理を 行う場合は合 計2回以内)			
・果房伸長促進	ジベレリン 3～5ppm	展葉3～ 5枚時	花房散布 30～100ℓ/10a	1回		
デラウェア	・無種子化 ・果粒肥大促進	第1回目: ジベレリン 100ppm	第1回目: 満開予定日 約14日前	第1回目: 花房浸漬	2回以内 (但し、降雨等 により再処理を 行う場合は合 計4回以内)	
		第2回目: ジベレリン 75～ 100ppm	第2回目: 満開 約10日後	第2回目: 果房浸漬 又は 果房散布 30～100ℓ/10a		
		第1回目: ジベレリン 100ppm	第1回目: 満開予定日 18～14日 前	第1回目: 花房浸漬 (ホルクロフェニロン1 ～5ppm液に加 用)		
		第2回目: ジベレリン 75～ 100ppm	第2回目: 満開 約10日後	第2回目: 果房浸漬 又は 果房散布 30～100ℓ/10a		

ブドウ[有核栽培] ジベレリン粉末

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
巨峰	・果粒肥大促進	ジベレリン 25ppm	満開10～ 20日後	果房浸漬	1回 (但し、降雨等 により再処理 を行う場合は 合計2回以内)	・ジベレリンを含む農 薬の使用回数は1回 以内。但し、降雨等 により再処理を行 う場合は合計2回以 内。

※品種や有核、無核など栽培方法によって登録内容が異なるため、製品に添付された取扱説明書の内容を必ず確認する。

ブドウ[無核栽培] フルメット液剤

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		濃度	使用時期	使用方法	回数	
サニールージュを除く巨峰系4倍体品種 ※「藤稔」、「ブラックビート」、「巨峰」が該当	・着粒安定	ホルクロルフェニロン 2～5ppm	開花始め～満開前 又は 満開時～満開3日後	開花始め～満開前に使用する 場合 花房浸漬 (ジベレリン第1回目及び第2回目処理は慣行) 満開時～満開3日後に使用する 場合 ジベレリンに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣行)	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホルクロルフェニロンを含む農薬の総使用回数は3回以内。但し、降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内。 ・ジベレリン以外の薬剤との混用は避ける。
	・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 5～10ppm	満開10～15日後	ジベレリンに加用するか又はホルクロルフェニロン単用で処理 果房浸漬 (満開時～満開3日後のジベレリンによる無種子化処理は慣行)		
	・無種子化 ・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 10ppm	満開3～5日後 (落花期)	ジベレリンに加用 花房浸漬		
	・花穂発育促進	ホルクロルフェニロン 1～2ppm	展葉6～8枚時	花房散布		
サニールージュ	・着粒安定	ホルクロルフェニロン 2～5ppm	開花始め～満開前 又は 満開時～満開3日後	開花始め～満開前に使用する 場合 花房浸漬 (ジベレリン第1回目及び第2回目処理は慣行) 満開時～満開3日後に使用する 場合 ジベレリンに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣行)		
	・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 5～10ppm	満開10～15日後	ジベレリンに加用するか又はホルクロルフェニロン単用で処理 果房浸漬 (満開時～満開3日後のジベレリンによる無種子化処理は慣行)		
	・無種子化 ・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 10ppm	満開3～5日後 (落花期)	ジベレリンに加用 花房浸漬		
	・着粒密度低減 ・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 3ppm	満開予定日 14～20日前	ジベレリンに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣行)		
	・花穂発育促進	ホルクロルフェニロン 1～2ppm	展葉6～8枚時	花房散布		

ブドウ[無核栽培] フルメット液剤(続き)

品種	使用目的	使用方法			注意事項
		濃度	使用時期	使用方法	
2倍体欧州系品種 ※「シャインマスカット」が該当	・着粒安定	ホルクロルフェニロン 2～5ppm	開花始め～満開前 又は 満開時～満開3日後	開花始め～満開前に使用する場合 花房浸漬 (ジベレリン第1回目及び第2回目処理は慣行) 満開時～満開3日後に使用する場合 ジベレリンに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣行)	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内) ・ホルクロルフェニロンを含む農薬の総使用回数は3回以内。但し、降雨等により再処理を行う場合は合計5回以内。 ・ジベレリン以外の薬剤との混用は避ける。
	・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 2～10ppm	満開10～15日後	ジベレリンに加用 果房浸漬 (ジベレリン第1回目処理は慣行)	
		ホルクロルフェニロン 5～10ppm	満開10～15日後	果房浸漬 (ジベレリン第1回目処理は慣行)	
	・無種子化 ・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 10ppm	満開3～5日後(落花期)	ジベレリンに加用 花房浸漬	
	・花穂発育促進	ホルクロルフェニロン 1～2ppm	展葉6～8枚時	花房散布	
デラウェア (施設栽培)	・ジベレリン処理 適期幅拡大	ホルクロルフェニロン 1～5ppm	満開予定日 18～14日前	ジベレリンに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣行)	・ホルクロルフェニロンを含む農薬の総使用回数は2回以内。但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内。 ・ジベレリン以外の薬剤との混用は避ける。
	・着粒安定	ホルクロルフェニロン 5～10ppm	開花始め～満開時	花房浸漬	
	・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 3～5ppm	満開 約10日後	ジベレリンに加用 果房浸漬 (ジベレリン第1回目処理は慣行)	
		ホルクロルフェニロン 3～10ppm		ジベレリンに加用 果房浸漬 (ジベレリン第1回目処理は慣行)	
デラウェア (露地栽培)	・ジベレリン処理 適期幅拡大	ホルクロルフェニロン 1～5ppm	満開予定日 18～14日前	ジベレリンに加用 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣行)	
	・着粒安定	ホルクロルフェニロン 2～5ppm	開花始め～満開時	花房浸漬	
		ホルクロルフェニロン 5ppm		花房散布	
	・果粒肥大促進	ホルクロルフェニロン 3～5ppm	満開 約10日後	ジベレリンに加用 果房浸漬 (ジベレリン第1回目処理は慣行)	
		ホルクロルフェニロン 3～10ppm		ジベレリンに加用 果房浸漬 (ジベレリン第1回目処理は慣行)	

※品種や有核、無核など栽培方法によって登録内容が異なるため、製品に添付された取扱説明書の内容を必ず確認する。

ブドウ[有核栽培] フルメット液剤

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		濃度	使用時期	使用方法	回数	
巨峰系4倍体品種 ※「藤稔」、 「ブラックビート」、 「サニールージュ」「巨峰」が該当	・果粒肥大促進	ホルフルフェニロン 5～10ppm	満開15～ 20日後	果房浸漬	1回 (但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内)	・ホルフルフェニロンを含む農薬の総使用回数は1回。但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内。 ・ジベレリン以外の薬剤との混用は避ける。

ブドウ フラスター液剤

品種	使用目的	使用方法				注意事項
		希釈倍数	使用時期	使用方法	回数	
巨峰系4倍体品種[巨峰・ピオーネを除く] ※「藤稔」、「ブラックビート」、 「サニールージュ」が該当	・着粒増加 ・新梢伸長抑制	500～ 800倍	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	散布 100～150 ℓ/10a	2回 以内	・重複散布にならないように注意する。 ・他の農薬との混用は避け、単用で使用する。 ・多品種の混植園やブドウ園同士が近接している場合、登録のない品種に薬液がかからないように注意する。
巨峰(露地栽培)		1,000倍		散布 300ℓ/10a		
巨峰(露地栽培) 巨峰(施設栽培)		500～ 800倍	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	散布 100～150 ℓ/10a	2回 以内	
シャインマスカット	・新梢伸長抑制	500倍	満開10～ 20日後 但し、収穫 60日前まで	散布 150ℓ/10a		
		1,000倍		散布 300ℓ/10a		
	・着粒増加	1,000～ 2,000倍	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	散布 100～150 ℓ/10a		
デラウエア (施設栽培) (露地栽培)	・新梢伸長抑制	800～ 1,000倍	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	散布 100～150 ℓ/10a	1回	
デラウエア (露地栽培)		1,500～ 2,000倍		散布 200～250 ℓ/10a		

V 花 き

1 花き病害虫

花き病害虫重点防除指導方針

本県農業の活性化および農業所得の向上を図るためには、これまで以上に園芸振興への取り組みが重要な課題となっている。

このため、数多くの品目の中から戦略的品目、基幹品目と地域特産品目を指定し、生産振興のための各種施策を積極的に実施している。

収量・品質の高位安定化を図るため、防除の指導に当たっては、それぞれの病害虫の生態や薬剤の性質を熟知し、耕種的防除対策に努めるとともに、病害虫の発生動向に注意して適正に防除する。

1 耕種的防除の推進

- (1) 有機物の施用、深耕等による土づくりを推進し、健全な生育に努める。
- (2) 排水対策、整枝剪定等により栽培環境を改善する。

2 農薬による防除技術

- (1) 主要病害虫の発生活消長を明らかにし、適期防除を推進する。
- (2) 農薬抵抗性害虫および耐性菌発生による防除効果の低下を回避するため、同一系統農薬の連用を避ける。
- (3) 同一成分を含む薬剤には使用回数制限があるので注意する。

例. オルトラン水和剤とジェイエース水和剤はそれぞれの薬剤の使用回数制限が2回以内とされている。しかし、両方の薬剤は同一成分（アセフェート）を含む農薬に該当しており、使用回数が両方の薬剤を通して2回以内でなければならない。

- (4) 生育後期には、商品価値を下げないため、葉面や花卉に汚れの少ない薬剤を使用する。
- (5) 薬剤によって品種が変わると薬害を起こすことがあるので、小規模散布を行って薬害のないことを確認する。
- (6) 多量散布、高温時の散布、極端な連用、近接散布などは薬害の出ることがあるので注意する。

(1) キク

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
褐斑病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300%/10a	発病前～発病初期	散布	6回以内
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500～2000倍	100～300%/10a	-	散布	5回以内
黒さび病	マネージ乳剤	イミベンコナゾール乳剤	3		500～1000倍	0.2～0.3%/㎡	発病初期	散布	6回以内
黒斑病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300%/10a	発病前～発病初期	散布	6回以内
さび病	エムダィファア水和剤	マンネブ水和剤	M3		400～650倍	100～300%/10a	発病初期	散布	8回以内
白絹病	クロルピクリン	クロルピクリンくん蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3～5mL<圃場>1穴当り 2～3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
	クロルピクリン錠剤	クロルピクリンくん蒸剤	8B	劇	1穴当り1錠			土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。<圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
	トロクロール	クロルピクリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3～6mL<圃場>1穴当り 2～3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
白さび病	アンビフルアゾール	ヘキサコナゾール水和剤	3		1000倍	150～300%/10a	発病初期	散布	7回以内
	カナメアゾール	インビフルキサム水和剤	7	劇	4000～8000倍	100～300%/10a	発病初期	散布	3回以内
	コナアゾール	水和硫黄剤	"UN(I*)		800倍	100～300%/10a		散布	-
	サポール乳剤	トリホリン乳剤	3		1000～1500倍	100～300%/10a	発病初期	散布	5回以内
	ジマンダィセンアゾール	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		500～800倍	150～300%/10a	-	散布	8回以内
	ストロビフルアゾール	クレスキシムメチル水和剤	11		2000～3000倍	100～300%/10a	発病初期	散布	3回以内
	フルト乳剤25	プロピコナゾール乳剤	3		3000倍	100～300%/10a	発病初期	散布	3回以内
	トリアミン水和剤	トリアルミン水和剤	3		1000倍	100～300%/10a	発病初期	散布	5回以内
	トリアミン乳剤	トリアルミン乳剤	3		1000倍	100～300%/10a	-	散布	5回以内
	バシタック水和剤75	メプロニル水和剤	7		500～1000倍	100～300%/10a	発病初期	散布	5回以内
	ビリカト乳剤	ジフルメトリム乳剤	39		1000倍	0.2～0.3%/㎡	発病初期	散布	6回以内
	マネージ乳剤	イミベンコナゾール乳剤	3		500～1000倍	0.2～0.3%/㎡	発病初期	散布	6回以内
	ラリ乳剤	ミクロブタニル乳剤	3		3000倍	200～300%/10a	発病初期	散布	5回以内
立枯病	クロルピクリン	クロルピクリンくん蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3～5mL<圃場>1穴当り 2～3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
	クロルピクリン錠剤	クロルピクリンくん蒸剤	8B	劇	1㎡当り6錠 1穴当り1錠			土壌くん蒸<圃場>「1㎡当り6錠処理」地表面に所定量を散布処理する。 土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。<圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内) 2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
	トロクロール	クロルピクリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3～6mL<圃場>1穴当り 2～3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
炭疽病	エムダィファア水和剤	マンネブ水和剤	M3		400～650倍	100～300%/10a	発病初期	散布	8回以内
灰色かび病	エムダィファア水和剤	マンネブ水和剤	M3		400～650倍	100～300%/10a	発病初期	散布	8回以内
半身萎凋病	クロルピクリン錠剤	クロルピクリンくん蒸剤	8B	劇	1穴当り1錠			土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。<圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
べと病	エムダィファア水和剤	マンネブ水和剤	M3		400～650倍	100～300%/10a	発病初期	散布	8回以内
アザミカ類	アファム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6		1000～2000倍	100～300%/10a	発生初期	散布	5回以内
	スピノース顆粒水和剤	スピノサド水和剤	5		5000倍	100～300%/10a	発生初期	散布	2回以内
	トクチオン乳剤	プロチオス乳剤	1B		1000倍	100～300%/10a	発生初期	散布	5回以内
	ハチハチ乳剤	トルフェンビラト乳剤	"21A(I*)	劇	1000倍	100～300%/10a	発生初期	散布	4回以内
	ファインセーブフロアゾール	フロメキン水和剤	34	劇	2000倍	100～300%/10a	発生初期	散布	2回以内
	モスピラン粒剤	アセタミプリド粒剤	4A		1g/株		生育初期	株元散布	1回

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
アブラムシ類	アデント水和剤	アクリナリン水和剤	3A		1000倍	150～300g/10a	発生初期	散布	5回以内
	ウララ50DF	フロニカミド水和剤	29		5000～10000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内
	オリオン水和剤40	アラニカルブ水和剤	1A	劇	1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000～2000倍	100～300g/10a	-	散布	6回以内
オオタバコガ	アネキ乳剤	レピメクチン乳剤	6		1000～2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内
	スピノース顆粒水和剤	スピノサト水和剤	5		2500～5000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	2回以内
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内
コガネムシ類幼虫	D-D	D-D剤	「-」→ 8A,8A	劇	15～20g/10a(1穴当たり1.5～2mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
	テロン	D-D剤	「-」→ 8A,8A	劇	15～20g/10a(1穴当たり1.5～2mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
センチュウ類	コロピクリン錠剤	コロピクリンくん蒸剤	8B	劇	1穴当たり1錠			土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴当たり1錠処理する。<圃場>「1穴当たり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
センチュウ類(ハカレセンチュウを除く)	カスタード微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
	バースアミド微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
ネグサレセンチュウ	D-D	D-D剤	「-」→ 8A,8A	劇	15～40g/10a(1穴当たり1.5～4mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
	テロン	D-D剤	「-」→ 8A,8A	劇	15～40g/10a(1穴当たり1.5～4mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
	ネマトリンエース粒剤	ホスチアベート粒剤	1B		20～25kg/10a		定植前	全面土壌混和	1回
ネコブセンチュウ	D-D	D-D剤	「-」→ 8A,8A	劇	15～20g/10a(1穴当たり1.5～2mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
	テロン	D-D剤	「-」→ 8A,8A	劇	15～20g/10a(1穴当たり1.5～2mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
ハスモンヨトウ	オリオン水和剤40	アラニカルブ水和剤	1A	劇	1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内
ハダニ類	コテツアロアブル	コロルフェナビル水和剤	13	劇	2000倍	150～300g/10a	発生初期	散布	2回以内
	スターマイトアロアブル	シエノピラフェン水和剤	25A		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	1回
	テルスター水和剤	ピフェントリン水和剤	3A		1000倍	150～300g/10a	-	散布	3回以内
	ピラニカEW	テフフェンピラト乳剤	"21A(I*)	劇	1000～2000倍	150～300g/10a	発生初期	散布	1回

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
ハモクノリノエ類	アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		1000～2000倍	1ℓ/㎡	発生初期	灌注	5回以内
	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		1000～2000倍	1ℓ/㎡	発生初期	灌注	5回以内
	スピノセス顆粒水和剤	スピノサド水和剤	5		5000倍	100～300ℓ/10a	発生初期	散布	2回以内
マハモクノリノエ	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000倍	100～300ℓ/10a	発生初期	散布	5回以内
	カスケード乳剤	フルフェノキサロン乳剤	15		2000倍	100～300ℓ/10a	発生初期	散布	3回以内
	ジエセス粒剤	アセフェート粒剤	1B		6～9kg/10a		発生初期	株元散布	5回以内
ミナキイロサミウマ	アデント水和剤	アクリナトリン水和剤	3A		1000倍	150～300ℓ/10a	発生初期	散布	5回以内
	オンコル粒剤5	ベンフラカルブ粒剤	1A		9kg/10a		生育期	株元散布	3回以内
	カスケード乳剤	フルフェノキサロン乳剤	15		2000倍	100～300ℓ/10a	発生初期	散布	3回以内
	ベストガード粒剤	ニテンピラム粒剤	4A		2g/株		発生初期	生育期株元散布	4回以内
ミナキイロサミウマ	オンコル粒剤5	ベンフラカルブ粒剤	1A		6～9kg/10a		定植時	植溝土壌混和又は株元散布	1回
					9kg/10a		生育期	植溝土壌混和又は株元散布	3回以内
	コテツロアール	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	150～300ℓ/10a	発生初期	散布	2回以内

(2) ストック

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
萎凋病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	30~40kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
	バスマド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	30~40kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
菌核病	ボリベリン水和剤	イミダクジン酢酸塩・ボリキシン水和剤	"[-](I*),M7		1000倍	100~300%/10a	発病初期	散布	8回以内
灰色かび病	ボリベリン水和剤	イミダクジン酢酸塩・ボリキシン水和剤	"[-](I*),M7		1000倍	100~300%/10a	発病初期	散布	8回以内
苗立枯病	ドロコロル	クロルピクリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3~6mL<圃場>1穴当り 2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土) 1回以内、圃場 1回以内)
苗腐病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
	バスマド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
コガ	オンコル粒剤5	ベンアラカルブ 粒剤	1A		0.5g/株		定植時	株元散布	1回
					9kg/10a		定植時	全面土壌混和	1回
	コテツアアアル	クロルフェニル水和剤	13	劇	2000倍	150~300%/10a	発生初期	散布	2回以内
	トアロー水和剤CT	BT水和剤	11A		1000倍	100~300%/10a	発生初期	散布	-
	ノモルト乳剤	テフルベンスロン乳剤	15		2000倍	100~300%/10a	発生初期	散布	2回以内
	マブリック水和剤20	フルバネート水和剤	3A	劇	2000倍	100~300%/10a	発生初期	散布	2回以内
ハイマダラノメイガ	モスピラン粒剤	アセタミプリド 粒剤	4A		0.5g/株		育苗期	株元散布	1回

(3) トルコギキョウ

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
炭疽病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼブ 水和剤	"UN(I*)		400倍	100~300%/10a	発病初期	散布	8回以内
アザミカ類	マブリック水和剤20	フルバネート水和剤	3A	劇	4000倍	100~300%/10a	発生初期	散布	2回以内
ハモンヨウ	トレボン乳剤	エトフェンブ ロックス乳剤	3A		1000倍	100~300%/10a	-	散布	6回以内

(4) スターチス

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
うどんこ病	フルビカアアアル	メバニピリム水和剤	9		2000倍	100~300%/10a	発病初期	散布	5回以内
	ボリベリン水和剤	イミダクジン酢酸塩・ボリキシン水和剤	"[-](I*),M7		1000倍	100~300%/10a	発病初期	散布	8回以内
灰色かび病	フルビカアアアル	メバニピリム水和剤	9		2000~3000倍	100~300%/10a	発病初期	散布	5回以内
	ボリベリン水和剤	イミダクジン酢酸塩・ボリキシン水和剤	"[-](I*),M7		1000倍	100~300%/10a	発病初期	散布	8回以内
	ロブテール水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000~1500倍	100~300%/10a	-	散布	8回以内
シロイロシヨウ	カスケード 乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100~300%/10a	発生初期	散布	3回以内
ハモンヨウ	カスケード 乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		2000倍	100~300%/10a	発生初期	散布	3回以内

(5) スイセン

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
球根腐敗病	ホーマイ水和剤	チラム・チオファネートメチル水和剤	1,M3		200倍	球根重量の1.0%	植付前又は貯蔵前	30分間球根浸漬	1回
							植付前又は貯蔵前	球根粉衣	1回

(6) ユリ

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
球根腐敗病	ホーマイ水和剤	チラム・チオファネートメチル水和剤	1,M3		200倍	球根重量の1.0%	植付前又は貯蔵前	30分間球根浸漬	1回
							植付前又は貯蔵前	球根粉衣	1回
茎腐病	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500～2000倍	100～300g/10a	-	散布	5回以内
灰色かび病	アフェットプロアブル	ベンチオキサロニル水和剤	7		2000倍	100～300g/10a	発病初期	散布	3回以内
	フルビカプロアブル	メバニピリム水和剤	9		2000～3000倍	100～300g/10a	発病初期	散布	5回以内
葉枯病	タニコール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	発病前～発病初期	散布	6回以内
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500～2000倍	100～300g/10a	-	散布	5回以内
	フルビカプロアブル	メバニピリム水和剤	9		2000～3000倍	100～300g/10a	発病初期	散布	5回以内
	フロキサド水和剤	フルアジナム水和剤	29		2000倍	100～300g/10a	発病初期	散布	3回以内
	ボリキシンAL水溶剤	ボリキシン水溶剤	"[-] (I*)		2500倍	100～300g/10a	発病初期	散布	8回以内
鱗茎さび症	フロキサド水和剤	フルアジナム水和剤	29		100～200倍	-	植付前	球根瞬間浸漬	1回
アラムン類	クララ50DF	フロニカミド水和剤	29		10000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内
	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		2000倍	100～300g/10a	-	散布	6回以内

(7) サクラ

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
てんぐ巣病	トップジンMベースト	チオファネートメチルベースト剤	1		原液		病枝切除後	塗布	5回以内
アメリカシトリ	アトラック液剤	チアトキサム液剤	4A			胸高直径(樹幹部)、 6～10cm 30mL、 11～15cm 60mL、 16～20cm 90mL、 21～25cm 120mL、26～30cm 180mL、30cm以上 は胸高直径が5cm 増すごとに30～ 60mLを増量する。	幼虫発生前～ 幼虫発生期	樹幹注入	3回以内
							発生初期	散布	5回以内
							発生初期	散布	5回以内
							発生初期	散布	-
コスカバ	スカバコンL	シナンテルア剤			40～100本 /10a(8g/100本製 剤)		成虫発生初期 から終期	ディスプレイ-を対 象作物の枝に巻 き付け設置す る。	
モンクシヤチコ	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000～1500倍	200～700g/10a	発生初期	散布	5回以内
	ジエイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		1000～1500倍	200～700g/10a	発生初期	散布	5回以内
	バシレックス水和剤	BT水和剤	11A		1000倍	200～700g/10a	発生初期	散布	-

(8) 花き類・観葉植物

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	備考
青枯病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	トコロール	クロルピクリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3~6mL<圃場>1穴当り 2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)	
	バースアミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
萎黄病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースアミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
萎凋病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースアミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
萎黄病(7ガリウム菌)	クロルピクリン	クロルピクリンくん蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3~5mL<圃場>1穴当り 2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)	
	トコロール	クロルピクリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3~6mL<圃場>1穴当り 2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)	
うどんこ病	アンビフルアゾール	ヘキサコゾール水和剤	3		1000倍	150~300g/10a	発病初期	散布	7回以内	ばら、きくを除く
	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100~200倍	100~300g/10a	発生初期	散布	-	
	ガッテン乳剤	フルチアル乳剤	U13		5000倍	100~300g/10a	発病前~発病初期	散布	2回以内	
	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶液	NC		800倍	150~500g/10a	発病初期	散布	-	きくを除く
	サンクスル乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」		600倍	150~500g/10a	-	散布	-	
	パンチョTF顆粒水和剤	シフルフェナミド・トリフルミゾール水和剤	3,U6		2000倍	100~300g/10a	-	散布	2回以内	
	ボリオキシAL水溶液	ボリオキシ水溶液	"「-」(I*)		2500倍	100~300g/10a	発病初期	散布	8回以内	
モレスタン水和剤	モノキリン系水和剤	"UN(I*)		2000~3000倍	100~300g/10a	発病初期	散布	10回以内	カーネーションを除く	
株腐病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースアミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	リゾレックス水和剤	トルクロステチル水和剤	14		500~1000倍	3g/m ²	生育期	土壌灌注	5回以内	
球根腐敗病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースアミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
菌核病	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500倍	100~300g/10a	-	散布	5回以内	トルコギキョウを除く
茎腐病	リゾレックス水和剤	トルクロステチル水和剤	14		500~1000倍	3g/m ²	生育期	土壌灌注	5回以内	
黒斑病	ボリオキシAL水溶液	ボリオキシ水溶液	"「-」(I*)		2500倍	100~300g/10a	発病初期	散布	8回以内	
根頭がんしゅ病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースアミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
首腐病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースアミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
白絹病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースアミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	モンカトフロアブル40	フルトラニル水和剤	7		1000~2000倍	100~300g/10a	-	株元散布	3回以内	
	リゾレックス水和剤	トルクロステチル水和剤	14		500~1000倍	3g/m ²	-	株元灌注	5回以内	
立枯病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースアミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	リゾレックス水和剤	トルクロステチル水和剤	14		500~1000倍	3g/m ²	生育期	土壌灌注	5回以内	
	リゾレックス粉剤	トルクロステチル粉剤	14		50kg/10a		定植前	土壌混和	1回	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	備考
苗立枯病(リゾクニア菌)	カスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バスマイト 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
灰色かび病	アフェートフロアブル	ベンチビラト水和剤	7		2000倍	100~300g/10a	発病初期	散布	3回以内	きく、ゆり、チューリップ、りんどうを除く
	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1000倍	100~300g/10a	-	散布	5回以内	ひまわり、ゼラニウムを除く
	セビアーフロアブル20	フルジホキソニル水和剤	12		1000倍	100~300L/10a	発病前~発病初期	散布	4回以内	きんせんか、ホワイトトレースフラワーを除く
	チノックフロアブル	チカラム水和剤	M3		500倍	100~500g/10a	発病初期	散布	6回以内	りんどうを除く
	トレノックスフロアブル	チカラム水和剤	M3		500倍	100~500g/10a	発病初期	散布	6回以内	りんどうを除く
	フルビカフロアブル	メバニピリム水和剤	9		2000~3000倍	100~300g/10a	発病初期	散布	5回以内	ばら、スターチス、宿根かすみそう、ゆり、りんどうを除く
	ホリオキシAL水溶剤	ホリオキシ水溶剤	"「-」(I*)		2500倍	100~300g/10a	発病初期	散布	8回以内	
	ホリベリン水和剤	イミダジン酢酸塩・ホリオキシ水和剤	"「-」(I*),M7		1000倍	100~300g/10a	発病初期	散布	8回以内	ストック、スターチス、チューリップ、ばら、ククマ、きくを除く
半身萎凋病	カスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	トコロール	クロルピリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当たり 3~6mL<圃場>1穴当たり 2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)	
	バスマイト 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
ビシウム・リゾクニア菌による病害(苗立枯病等)	ホソサイド 水和剤80	キャブタン水和剤	M4		種子重量の0.2~0.4%	-	は種前	種子処理機による種子粉衣	1回	
ゾリウム・リゾクニア菌による病害(苗立枯病等)	ホマイ水和剤	チカラム・チオファネートメチル水和剤	1,M3		種子重量の1.0%		は種前	種子処理機による種子粉衣	1回	観葉植物適用外
リゾクニア菌による病害(苗立枯病等)	バシタック水和剤75	メブロニル水和剤	7		乾燥種子重量の0.4%		は種前	種子処理機による種子粉衣	1回	観葉植物適用外
	モンカト水和剤	フルラニル水和剤	7		種子重量の0.5~1.0%		は種前	種子処理機による種子粉衣	1回	観葉植物適用外
アムシ	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000倍	100~300g/10a	発生初期	散布	5回以内	
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	100~300g/10a	-	散布	6回以内	
アザミマ類	アグリメック	アバメクチン乳剤	6	劇	500倍	100~300g/10a	発生初期	散布	5回以内	ガーベラを除く
	アファム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100~300g/10a	発生初期	散布	5回以内	
	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000~1500倍	100~300g/10a	発生初期	散布	5回以内	
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3~6kg/10a		発生初期	株元散布	5回以内	きく、宿根スターチス、カーネーション、アリウム、たであいを除く
	オンコル粒剤5	ベンフラカルブ粒剤	1A		6kg/10a		生育期	株元散布	3回以内	きく、ストックを除く
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	100~300g/10a	-	散布	6回以内	
	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・ステノサド水和剤	"「-」,5		1000倍	100~300g/10a	発生初期	散布	2回以内	
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500~5000倍	100~300g/10a	発生初期	散布	2回以内	りんどうを除く
	ハチハチフロアブル	トルフェンビラト水和剤	"21A(I*)	劇	1000倍	100~300g/10a	発生初期	散布	4回以内	
	モビラン顆粒水溶剤	アセチアリド水溶剤	4A	劇	2000倍	100~300g/10a	発生初期	散布	5回以内	ストック、りんどうを除く

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	備考
アブラムシ類	アデイオン乳剤	ベルメリン乳剤	3A		2000～4000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内	はぼたんを 除く
	アドマイアフロアブル	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	2000倍	100～200g/10a	発生初期	散布	5回以内	きくを除く
	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100倍	100～300g/10a	発生初期	散布	-	
	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000～1500倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内	
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a		発生初期	株元散布	5回以内	きく、宿根ス ターチス、カーネ ーション、アリウム、 たであいを 除く
	コルト顆粒水和剤	ビリファルギゾン水和剤	9B		4000倍	100～300L/10a	発生初期	散布	4回以内	チューリップ を除く
	スカウトフロアブル	トラロメリン水和剤	3A	劇	2000～3000倍	100～300g/10a	-	散布	5回以内	宿根かすみ そう、グラジ オウス、トルコギ キョウ、りんど うを除く
	フェス顆粒水和剤	ビメトジン水和剤	9B		5000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内	
	ベストガード水溶剤	ニテンピラム水溶剤	4A		1000～2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内	ばら、きく を除く
	ベストガード粒剤	ニテンピラム粒剤	4A		1～2g/株		発生初期	生育期株元散布	4回以内	きく、きん せんかを除 く
					3～5g/培土g		定植前	培土混和	1回	きく、きん せんかを除 く
		モスビランジェット	アセチアプリドくん煙剤	4A	劇	くん煙室容積400立方 m(床面積200㎡×高 さ2m)当り50g		発生初期	くん煙	5回以内
	モスビラン顆粒水溶剤	アセチアプリド水溶剤	4A	劇	2000～4000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内	ストック、りん どうを除く
	ロディール乳剤	フェンプロパトリン乳剤	3A	劇	1000倍	100～300g/10a	-	散布	6回以内	
材カビカ	アクセルフロアブル	メタルミジン水和剤	22B		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内	きくを除く
	アファム乳剤	エマクチン安息香酸塩乳剤	6		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内	
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	2回以内	りんどうを 除く
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内	きく、りん どうを除く
	ブレイフロアブル	ビリタリル水和剤	UN		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内	
カクムリ類	ナメクリン3	メタルデヒド粒剤	「-」		1～3kg/10a		-	株元散布	6回以内	
カムシ類	アデイオン乳剤	ベルメリン乳剤	3A		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内	はぼたんを 除く
コジツミ類	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100～200倍	100～300g/10a	発生初期	散布	-	
	コルト顆粒水和剤	ビリファルギゾン水和剤	9B		4000倍	100～300L/10a	発生初期	散布	4回以内	チューリップ を除く
	フェス顆粒水和剤	ビメトジン水和剤	9B		5000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内	
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500倍	100～300g/10a	発生初期	散布	2回以内	りんどうを 除く
	ベストガード水溶剤	ニテンピラム水溶剤	4A		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内	ばら、きく を除く
	ラノテープ	ビリアロキシフェン剤	7C		50㎡/10a		栽培期間中	作物体の付近に設置する。	1回	施設栽培
センチュウ類	ドクロール	カロルキリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3～6mL<圃場>1穴当 り2～3mL		土壌くん蒸	2回以内(床 土1回以 内、圃場1 回以内)		
ナメクシ類	ナメクリン3	メタルデヒド粒剤	「-」		1～3kg/10a		-	株元散布	6回以内	
ネキリムシ類	ドクロール	カロルキリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3～6mL<圃場>1穴当 り2～3mL			土壌くん蒸	2回以内(床 土1回以 内、圃場1 回以内)	
	ネリハイ	ベルメリン粒剤	3A		3g/㎡		生育初期	株元散布	6回以内	
ネコフセンチュウ	カスタード微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布 して土壌と混和する。	1回	
	バスマイト微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布 して土壌と混和する。	1回	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	備考
ハモシトウ	フェニックス顆粒水和剤	フルベニジアミド水和剤	28		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内	きく、りんどうを除く
	ブレオフロアブル	ビリダリル水和剤	UN		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内	
	マッチ乳剤	ルフェヌロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内	きくを除く
ハダニ類	アグリメック	アグリメチン乳剤	6	劇	500倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内	カーベラを除く
	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100倍	100～300g/10a	発生初期	散布	-	
	カネマイトフロアブル	アセキノシル水和剤	20B		1000倍	150～300g/10a	-	散布	1回	ばら、きく、カーネーション、デルフィニウムを除く
	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	150～300g/10a	発生初期	散布	2回以内	きく、ストックを除く
	サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」		600倍	150～500g/10a	-	散布	-	
	ダニサラバフロアブル	シフルメトフェン水和剤	25A		1000倍	100～350g/10a	発生初期	散布	2回以内	
	ダニトロンフロアブル	フェニルロキシメト水和剤	21A		1000～2000倍	150～300g/10a	発生初期	散布	1回	
	テデオ乳剤	テトラジホロン乳剤	12D		500～1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	10回以内	
	ニッソラン水和剤	ヘキシチアゾクス水和剤	10A		2000～3000倍	100～300g/10a	-	散布	2回以内	
	ハロックスフロアブル	エトキサゾール水和剤	10B		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	1回	
	ビラニカEW	テラフェニラト乳剤	"21A(I*)	劇	2000倍	150～300g/10a	発生初期	散布	1回	カーネーション、きくを除く
	ロデオ乳剤	フェンプロパトリン乳剤	3A	劇	1000倍	100～300g/10a	-	散布	6回以内	
	粘着くん液剤	デンプン液剤	「-」		100倍	150～300g/10a	発生初期	散布	-	
	粘着くん液剤	ヒドロキシプロピル化リジン酸架橋デンプン液剤	「-」		100倍	150～300g/10a	発生初期	散布	-	
ハダニ類	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	100～300g/10a	-	散布	6回以内	
ハマキムシ類	アデオ乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内	はばたんを除く
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	100～300g/10a	-	散布	6回以内	
ハダニ類	アクトラ顆粒水溶剤	チアマトキサム水溶剤	4A		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内	宿根アスター、トルギキョウ、きくを除く
	アファム乳剤	エマメチン安息香酸塩乳剤	6		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内	
	テリアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	2回以内	りんどうを除く
ハダニ類	ドコロール	クロルピクリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3～6mL<圃場>1穴当り 2～3mL		土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)		
マハモクシバエ	トリカド液剤	シロメチン液剤	17		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内	
ミカンキイロアザミウマ	アクトラ顆粒水溶剤	チアマトキサム水溶剤	4A		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内	宿根アスター、トルギキョウ、きくを除く
	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	150～300g/10a	発生初期	散布	2回以内	きく、ストックを除く
ヨトウムシ類	アデオ乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内	はばたんを除く
	アファム乳剤	エマメチン安息香酸塩乳剤	6		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内	
	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内	
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		6kg/10a		発生初期	株元散布	5回以内	きく、宿根アスター、カーネーション、アリウム、たであいを除く
	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	150～300g/10a	発生初期	散布	2回以内	きく、ストックを除く
	ノーム乳剤	テラフェンソロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	2回以内	

(9) 樹木類 (木本作物)

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
うどんこ病	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1000倍	200～700g/10a	発病初期	散布	5回以内
	トリアミン水和剤	トリアルミン水和剤	3		3000倍	200～700g/10a	発病初期	散布	5回以内
枝枯細菌病	ペンコセブ水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	200～700g/10a	新梢伸長期～発病初期	散布	4回以内
切り口及び傷口の癒合促進	トップジンMペーコート	チオファネートメチルペーコート剤	1		原液		剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	塗布	5回以内
炭疽病	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1000～2000倍	200～700g/10a	発病初期	散布	5回以内
	ペンコセブ水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	200～700g/10a	発病初期	散布	4回以内
斑点症(シュートサウスポー菌)	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1000倍	200～700g/10a	発病初期	散布	5回以内
	ペンコセブ水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	200～700g/10a	発病初期	散布	4回以内
輪紋葉枯病	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1000倍	200～700g/10a	発病初期	散布	5回以内
アザミヤカ類	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000倍	200～700g/10a	発生初期	散布	5回以内
アブラムシ類	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	200～700g/10a	-	散布	6回以内
アメリカカビトリ	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		500～1000倍	200～700g/10a	-	散布	6回以内
	ダリアジノン水和剤34	ダリアジノン水和剤	1B	劇	1000～1500倍	200～700g/10a	発生初期	散布	4回以内
	トアロ水和剤CT	BT水和剤	11A		1000～2000倍	200～700g/10a	発生初期	散布	-
	ニトリアー<アミノ>	フォルウェアール剤			直線使用(街路樹など)40m当り1個以上		成虫発生初期から発生後期	本剤をトラップ1台当り1個貼付け、地上1～6mの高さに設置する。	
				面使用(公園など)10a当り3個以上		成虫発生初期から発生後期	本剤をトラップ1台当り1個貼付け、地上1～6mの高さに設置する。		
オオハシセンチュウ	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		500倍	-	移植前	30分間根部浸漬	1回
ホトケルヒ	トレボン乳剤	イトフェンブロックス乳剤	3A		2000倍	100～700g/10a	幼虫発生期	散布	6回以内
ゲンバハダ類	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	200～700g/10a	-	散布	6回以内
カミシ類	ステインガーフロアブル	フルベソジアミド水和剤	28		8000倍	200～700g/10a	発生初期	散布	2回以内
	トレボン乳剤	イトフェンブロックス乳剤	3A		4000倍	100～700g/10a	幼虫発生期	散布	6回以内
カミシ類(若～中齢幼虫)	デミリン水和剤	ジフルベソジオン水和剤	15		4000～8000倍	200～700g/10a	-	散布	3回以内
シャクトリムシ類	トレボン乳剤	イトフェンブロックス乳剤	3A		4000倍	100～700g/10a	幼虫発生期	散布	6回以内
トビモノオエダシヤク	バシレックス水和剤	BT水和剤	11A		500～1000倍	200～700g/10a	発生初期	散布	-
ハダニ類	バシロックフロアブル	イトキサゾール水和剤	10B		2000倍	200～700g/10a	発生初期	散布	1回
フーバハラジウムシ	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	200～700g/10a	-	散布	6回以内

〈参考1〉 花きのアブラムシ類の防除薬剤

浸透移行性：○あり
△弱い
×なし

作目欄：◎防除指針に採用
○登録のあるもの

分類	分類コード	薬剤名		人畜毒性	浸透移行性		作用性		キ	ス	ユ	トル	花	キクにおける他の適用害虫名等	
		一般名	商品名		浸透性	移行性	効果発現	効果持続							
有機リン系	1B	アセフェート	オルトラン粒剤	○	○	—	長	○					◎	アザミウマ類、ネキリムシ類、ハモグリバエ類、ヨトウムシ類	
			ジェイエース粒剤	○	○	—	長	○			○	○		アザミウマ類、◎マメハモグリバエ	
			オルトラン水和剤	○	○	中	長							◎	◎マメハモグリバエ、オオタバコガ
			ジェイエース水溶剤	○	○	速	長	○						○	アザミウマ類、マメハモグリバエ、オオタバコガ
		M E P	スミチオン乳剤	○	×	速	長	◎							フラーバラゾウムシ、カメムシ類、ヨトウムシ類
		P A P	エルサン乳剤	劇	○	×	速	長	*						*キクヒメヒゲナガアブラムシのみ
		プロチオホスト	クチオン乳剤	×	×	速	長	○						フラーバラゾウムシ、◎アザミウマ類、ハダニ類	
カーバメート系	1A	アラニカルブ	オリオン水和剤40	劇	○	×	速	長	◎					◎ハスモンヨトウ、オオタバコガ	
合成ピレスロイド系	3A	フルバリネート	マブリック水和剤20	劇	×	×	速	長	○						
		トラロメトリン	スカウトフロアブル	劇	○	×	速	長				○	◎		
		シペルメトリン	アグロスリン乳剤	劇	×	×	速	中	○						
		ペルメトリン	アディオン乳剤		×	×	速	中					◎		
		アクリナトリン	アーデント水和剤		×	×	速	長	◎					ハダニ類、◎ミカンキイロアザミウマ	
		エトフェンプロックス	トレボン乳剤		○	×	速	中	○		◎				
		フェンプロパトリン	ロディー乳剤	劇	×	×	速	中～長						◎	
ネオニコチノイド系	4A	アセタミプリド	モスピラン顆粒水溶剤	劇	○	○	速	長					◎		
			モスピランジェット	劇	—	—	速	長				○	◎		
		イミダクロプリド	アドマイヤーフロアブル	劇	○	○	速	長	○				◎	アザミウマ類(キクは施設栽培のみ)	
		ニテンピラム	バストガード水溶剤		○	○	速	長	○					◎	コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ
			バストガード粒剤		×	○	—	長	○					◎	◎ミカンキイロアザミウマ、マメハモグリバエ
		チアメトキサム	アクタラ粒剤5		○	○	中	長						○	
		クロチアニジン	ダントツ水溶剤		○	○	速	中	○					○	ナモグリバエ、アザミウマ類、ハモグリバエ類、カメムシ類
ジノテフラン	スタークル顆粒水溶剤		○	○	速	長	○					○	カメムシ類、◎ハモグリバエ類、コナジラミ類		
	アルバリン顆粒水溶剤														
ピリジニアゾメチン誘導体	9B	ピメトロジン	チェス顆粒水和剤		○	○	中	長					◎		
		ピリフルキナゾン	コルト顆粒水和剤		○	△	中	長					◎		
METI剤	21A	トルフェンピラド	ハチハチ乳剤	劇	×	×	速	長	○				◎	◎アザミウマ類、ハモグリバエ類、白さび病	
フロニカミド	29	フロニカミド	ウララ50DF		○	○	遅	長	◎		◎				
—	—	還元澱粉糖化物	エコピタ液剤		×	×	速	短					◎	ハダニ類	

アブラムシ防除薬剤使用上の注意事項

- 1 薬剤抵抗性アブラムシの発生を防止するため、同一薬剤、同一系統の薬剤の連用を避ける。
- 2 合成ピレスロイド系統の薬剤はリサージェンス(虫の増加)に注意する。
- 3 マブリック水和剤20は高濃度での散布で汚れが残ることがある。

〈参考2〉 キクのハダニ類の防除薬剤

対象欄：○効果高い △効果低い ×効果なし
 浸透移行性：○あり △弱い ×なし
 作目欄：◎防除指針に採用 ○登録のあるもの

分類	分類コード	薬剤名		人畜毒性	対象			浸透移行性		作用性		キク	花き類・観葉植物
		一般名	商品名		成虫	幼虫	卵	浸達性	移行性	効果発現	効果持続		
テトラジホン	12D	テトラジホン	テデオン乳剤		×	×	○	×	×	遅	長		◎
METI剤	21A	フェンピロキシメート	ダニトロンフロアブル		○	○	△	×	×	速	長		○
		テブフェンピラド	ピラニカEW	劇	○	○	○	○	×	速	長	◎	◎
合成ピレスロイド系□	3A	ビフェントリン	テルスター水和剤		○	○	△	×	×	速	長	◎	
		フェンプロパトリン	ロディー乳剤	劇	○	○	×	×	×	速	長		◎
ピロール	13	クロルフェナピル	コテツフロアブル	劇	○	○	○	○	×	速	長	◎	◎
エトキサゾール	10B	エトキサゾール	バロックフロアブル		×	○	○	×	×	遅	長		◎
β-ケトニトリル誘導体	25A	シフルメトフェン	ダニサラバフロアブル		○	○	○	×	×	速	長		◎
		シエノピラフェン	スターマイトフロアブル		○	○	○	○	×	速	長	◎	
アベルメクチン系	6	アバメクチン	アグリメック	劇	○	○	○	○	×	中	長		◎
ヘキシチアゾクス	10A	ヘキシチアゾクス	ニッソラン水和剤		×	○	○	○	×	遅	長		◎
アセキノシル	20B	アセキノシル	カネマイトフロアブル		○	○	○	×	×	速	長	○	◎
—	—	デンプン	粘着くん液剤		○	○	×	×	×	速	短		◎
	—	脂肪酸グリセリド	サンクリスタル乳剤		○	○	○	△	×	速	長		◎
	—	還元澱粉糖化物	エコピタ液剤		○	○	×	×	×	速	短	○	◎

〈参考3〉 キクのアザミウマ類の防除薬剤

◎防除指針に採用 ○登録のあるもの

分類	分類コード	一般名	商品名	人畜毒性	キク			キクにおける他の適用害虫名
					アザミウマ類	ミナミキイロ		
						ミカ	ミナ	
有機リン系	1B	プロチオホスト	トクチオン乳剤		◎			アブラムシ類 フラーバラゾウムシ ハダニ類
カーバメート系	1A	ベンフラカルブ	オンコル粒剤 5		○	◎	◎	
		カルボスルファン	ガゼット粒剤	劇		○		ネグサレセンチュウ・アブラムシ類
合成ピレスロイド系	3A	ビフェントリン	テルスターフロアブル	劇		○		ハダニ類
		アクリナトリン	アーデント水和剤			◎		アブラムシ類・ハダニ類
ベンゾイル尿素系	15	フルフェノクスロン	カスケード乳剤			◎		マメハモグリバエ
		ルフェヌロン	マッチ乳剤		○			マメハモグリバエ、ハスモンヨトウ
		クロルフルアズロン	アタブロン乳剤				○	シロイチモジヨトウ
ネオニコチノイド系	4A	ニテンピラム	ベストガード水溶剤			○		コナジラミ類、アブラムシ類
			ベストガード粒剤			◎		マメハモグリバエ、アブラムシ類
		アセタミプリド	モスピラン粒剤		◎	○		アブラムシ類、ハモグリバエ類
		イミダクロプリド	アドマイヤーフロアブル (施設栽培のみ)	劇	○			アブラムシ類
			アドマイヤー1粒剤		○			アブラムシ類
チアメトキサム	アクタラ顆粒水溶剤			○		ハモグリバエ類 ウスモンミドリカスミカメ		
アベルメクチン系 ミルベマイシン系	6	エマメクチン 安息香酸塩	アフーム乳剤		◎			
ピロール	13	クロルフェナピル	コテツフロアブル	劇		○	◎	ヨウトムシ類・◎ハダニ類・オオタバコガ・アワダチソウゲンバイ
スピノシン系	5	スピノサド	スピノエース顆粒水和剤		◎			◎オオタバコガ・◎ハモグリバエ類
M E T I 剤	21A	トルフェンピラド	ハチハチ乳剤	劇	◎			白さび病・アブラムシ類・ ハモグリバエ類

＜参考4＞ 花き類の灰色かび病の系統別薬剤

◎防除指針に採用
○登録のあるもの

分類	分類コード	一般名	商品名	キ	ス	ス	ユ	花き類・観葉植物	予防・治療剤別
				ク	スターチス	トック	リ		
ジチオカーバメート (求電子剤)	M3	マンネブ	エムダイファー水和剤	◎					予防
		チウラム	チオノックフロアブル					◎	予防
			トレノックスフロアブル					◎	予防
MBC殺菌剤 + N-フェニルカーバメート	1 10	チオファネートメチル・ ジエトフェンカルブ	ゲッター水和剤					◎	予防 治療
ジカルボキシイミド	2	イプロジオン	ロブラール水和剤		◎				予防 治療
ポリオキシシン + ビスグアニジン	19	ポリオキシシン	ポリオキシシンAL水溶剤					◎	予防 治療
	M7 19	イミノクタジン酢酸塩・ ポリオキシシン	ポリベリン水和剤	○	◎	◎		◎	予防 治療
AP殺菌剤 (アニノピリミジン)	9	メパニピリム	フルピカフロアブル		◎		◎	◎	予防
無機化合物	M1	D B E D C	サンヨール	○	○			○	予防
SDHI殺菌剤 (コハク酸脱水素酵素阻害剤)	7	ペンチオピラド	アフエットフロアブル	○			◎	◎	予防 治療
PP殺菌剤 (フェニルピロール)	12	フルジオキソニル	セイビアーフロアブル20					◎	予防

- 1) 施設の換気を良くし、湿度をできるだけ下げる。
- 2) 病葉は早めに摘除し、圃場外に持ち出して焼き捨てるか土中に埋め込む。
- 3) 同じ系統に属する農薬の連用は、耐性菌の発現を助長する。

＜参考5＞ キク白さび病の防除薬剤

作用性の欄： ○効果あり

分類	分類コード	薬 剤 名		作 用 性		
		一般名	商品名	浸透性	予防	治療
無機化合物(求電子剤)	M2	硫 黄	コロナフロアブル		○	
ジチオカーバメート(求電子剤)	M3	マンゼブ	ジマンダイセンフロアブル		○	
SDHI殺菌剤 (コハク酸脱水素酵素阻害剤)	7	メプロニル	バシタック水和剤75		○	○
DMI殺菌剤 (脱メチル化阻害剤)	3	トリフルミゾール	トリフミン水和剤	○	○	○
		イミベンコナゾール	マネー ジ乳剤		○	○
		ヘキサコナゾール	アンビルフロアブル	○	○	○
		トリホリン	サプロール乳剤	○	○	○
		マイクロブタニル	ラリー 乳剤	○	○	○
		プロピコナゾール	チルト乳剤25	○	○	○
QoI殺菌剤(Qo阻害剤)	11	クレソキシムメチル	ストロビーフロアブル	○	○	○
ピリミジンアミン	39	ジフルメトリム	ピリカット乳剤	○	○	○

〈参考6〉殺菌・殺虫剤使用時の注意事項

キク

薬剤名	注意事項
ガスタード微粒剤	・水に触れると有毒なガスが発生するので保管・取扱いには注意する。
バスアミド微粒剤	
ストロビーフロアブル	・薬害防止のため、他剤との混用や展着剤は加用しない、高温多湿条件下では使用しない。
エムダイファー水和剤	・ボルドー液、石灰硫黄合剤などアルカリ性薬剤との混用はさける。

花き類(草本植物)・観葉植物

薬剤名	注意事項
ダニトロンフロアブル	・花に薬害が生じる場合があるので、注意する。
カリグリーン	・展着剤を加用する。
ポリオキシAL水溶剤	・キクに使用する場合、薬害が生じる恐れがあるため、着蕾期以降は高温時の散布を避ける。
エコピタ液剤	・カーネーションで茎葉のワックス層が溶け、薬害が出やすいので注意する。

〈参考7〉 ウィルス一覧表

主な花き類のウィルス病と伝染方法

◎は重要ウィルス

花き名	病名	病原ウィルス	略号	伝染方法			
				接触	土壌	虫媒	媒介昆虫等
キク	えそ病	◎ トマト黄化えそウィルス	T SW V	+	-	+	ミカンキロアザミウマ他
	茎えそ病	キク茎えそウィルス	C SN V	-	-	+	ミカンキロアザミウマ
	ウィルス病	トマトアスパーマイウィルス	T A V	+	-	+	アブラムシ類
		キク B ウィルス	C V B	+	-	+	アブラムシ類
		キュウリモザイクウィルス	C M V	+	-	+	アブラムシ類
わい化病	◎ キクわい化ウイロイド	C S V d	+	-	-		
ユリ	ウィルス病	タバコモザイクウィルス	T M V	+	+		
		◎ キュウリモザイクウィルス	C M V	+	-	+	アブラムシ類
		◎ ユリ微斑ウィルス	L M o V	+	-	+	アブラムシ類
		◎ ユリ潜在ウィルス	L S V	+	-	+	アブラムシ類
		リンゴステムグルーピングウィルス	A S G V	+	-	-	
スイセン	モザイク病	スイセン微斑モザイクウィルス	N M M V	+	-	+	
	ウィルス病	◎ スイセン黄色条斑ウィルス	N Y S V	+	-	+	
		スイセンモザイクウィルス	N M V	+	-	-	
		キュウリモザイクウィルス	C M V	+	-	+	アブラムシ類
		タバコ茎えそウィルス	T R V	+	(+)	-	センチュウ
		トマト輪点ウィルス	T o R S V	+	+	-	センチュウ
		トマト黒色輪点ウィルス	T B R V	+	(+)		センチュウ
		アラビスモザイクウィルス	A r M V	+	(+)	+	センチュウ
ソラマメウルトウィルス	B B W V	+	-	+	アブラムシ類		
トルコギキョウ	えそモザイク病	◎ キュウリモザイクウィルス	C M V	+	-	+	アブラムシ類
	モザイク病	◎ ソラマメウルトウィルス	B B W V	+	-	+	アブラムシ類
		インゲンマメ黄斑モザイクウィルス	B Y M V	+	-	+	アブラムシ類
	えそ病	トルコギキョウえそウィルス	L N V	+	+		オルピディウム菌 (カビの一種)
	えそ輪紋病	アイリス黄斑ウィルス	I Y S V	-	-	+	ネギアザミウマ他

+:伝染する、 -:伝染しない

(+):スイセンでは知られていないが、他の植物では確認されている。

2 花き除草剤

(1) 使用上の注意事項

- ① 使用薬量は、散布実面積当りの量を厳守する。
- ② 土壌処理剤は、整地後または畦立後表土を均平にし、土壌表面に均一に散布する。
- ③ 粘土質の透水の悪い圃場では、薬量を減らす。砂質地は薬効が少なく、薬害が出易いので注意する。
- ④ 土壌処理後、敷わら、もみがらマルチの併用は抑草効果を高める。
- ⑤ マルチ、トンネル、ハウスでは薬害が出易いので、薬量を少なめにする。また、極端な高温乾燥時は散布しないようにする。
- ⑥ 散布にあたっては、除草剤専用の散布器具を使用し、噴口は必ずフード付きのものを使用する。
- ⑦ 散布にあたっては、メガネ、マスク、防除衣、手袋などを必ず着用する。

(2) 使用方法

作物名	除草剤名	適用雑草名	使用基準		10アール当たり使用量		注意事項
			時期	回数	薬量	希釈水量	
ユリ	トリアノキサド乳剤 トリフルリン 44.5% 	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、 キ科、アブラナ科除く)	植付後 ～ 萌芽前	1	200～300 ml	100 ℓ	<全面土壌散布> ・散布は均一に、または夕方や曇った日に実施する。 ・土壌が乾燥している場合、土壌を適当に湿らせるか、あるいは降雨後に散布する。
スイセン			萌芽前	1	200～300 ml	100 ℓ	
キク (露地栽培)			定植後	1	200～300 ml	100 ℓ	
スイセン	プリグロックSL ジクワット 7.0% パラコート 5.0% 	一年生雑草	萌芽前 (雑草生育期)	3	600～1,000 ml	100～150 ℓ	<雑草茎葉散布> ・医薬用外毒物。取扱いには、特に注意する。 ・有用作物に、飛散させない。
			畦間処理: 雑草生育期 (草丈20cm以下)				
花き類・ 観葉植物 (チューリップ、スイセンを除く)			畦間処理: 雑草生育期 (草丈20cm以下)	3	600～1,000 ml	100～150 ℓ	
キク	ゴーゴーサン乳剤 ペンディメタリン 30.0%	一年生雑草	定植前 (雑草発生前)	1	200～400 ml	70～150 ℓ	<全面土壌散布> ・キク科雑草とツユクサには、効果が劣る。 ・土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、希釈水量を多めにするか降雨後に散布する。
			定植後 (雑草発生前)				

作物名	除草剤名	適用雑草名	使用基準		10アール当たり使用量		注意事項	
			時期	回数	薬量	希釈水量		
キク	ナブ乳剤 セトキシム 20.0%	一年生 イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草生育期 イネ科雑草 3～5葉期	3	150～200 ml	100～150 ㍓	<雑草茎葉散布又は 全面散布> ・効果が発現するま でに、7～10日を要す る。 ・広葉雑草およびカヤ ツリグサ科には、効果 がない。	
樹木類	ナブ乳剤 セトキシム 20.0%	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草生育期 イネ科雑草 3～5葉期	3	150～200 ml	100 ㍓	<雑草茎葉散布又は 全面散布>	
	バスタ液剤 グルホシネート 18.5%	一年生雑草	雑草生育期	3	300～500 ml	100～150 ㍓	<雑草茎葉散布>	
樹木等 (公園・庭 園・堤とう・ 駐車場・道 路・運動 場・宅地・ のり面・鉄 道など)	ブリグロックSL ジクワット 7.0% パコート 5.0%	一年生雑草	雑草生育期	3	800～1,000 ml	100～150 ㍓	<雑草茎葉散布> ・医薬用外毒物。取扱 いには、特に注意す る。 ・植栽地を除く樹木等 の周辺地。	
		多年生雑草			1,500～2,000 ml			
		スギナ	スギナ生育期		1,000～2,000 ml			
	バスタ液剤 グルホシネート 18.5%	一年生雑草	雑草生育期	3	500～1,000 ml	100～200 ㍓	<雑草茎葉散布> ・植栽地を除く樹木 等の周辺地。	
		多年生雑草			1,000～2,000 ml			
	タッチダウン iQ グリホサートカリウム塩 44.7%	一年生雑草	雑草生育期	3	250～500 ml	10～100 ㍓	<雑草茎葉散布> ・植栽地を除く樹木 等の周辺地。	
		多年生雑草			500～1,000 ml			
		スギナ	雑草生育期		1,500～2,000 ml			25～100 ㍓
		ススキ、クズ	雑草生育期		1,000～2,000 ml			50～100 ㍓
		ササ類	雑草生育期					
		雑かん木	雑草生育期					25～100 ㍓
	ラウンドアップ マックスロード グリホサートカリウム塩 48.0%	一年生雑草	雑草生育期	3	200～500 ml	通常散布 50～100 ㍓	<雑草木茎葉散布 > ・植栽地を除く樹木 等の周辺地。	
多年生雑草			500～1,000 ml		少量散布 25～50 ㍓			
一年生及び 多年生雑草					少量散布 5～25 ㍓			
スギナ			1,500～2,000 ml		通常散布			
ススキ、ヒレハリソ ウ、クズ等のつる性 多年生雑草、ササ 類、雑かん木			1,000～2,000 ml		50～100 ㍓ 少量散布 25～50 ㍓			
カソロン粒剤 4.5 DBN 4.5%	一年生雑草、 多年生広葉雑草	雑草発生前 ～発生始期	3	8～12 kg		<全面土壌散布> ・植栽地を除く樹木等 の周辺地。		
	スギナ			8～15 kg				

3 花き植物成長調整剤

◎使用上の注意

- ① 植物成長調整剤の使用にあたっては、登録内容を熟知し、適正に使用する。
極めて微量で作物に作用するので、生育状況、環境条件で効果が異なる。
- ② 農薬など他の薬剤との混用は避ける。

(1) 発根促進

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
オキシベロン液剤 インドール酪酸 0.4%	キ ク	500～1,000倍 100～200倍 2倍	— — —	1	・さし穂基部:3時間浸漬 ・さし穂全体:5～10秒浸漬 ・さし穂基部:10秒浸漬
	カーネーション	200～400倍 2倍	— —	1	・さし穂基部:16～24時間浸漬 ・さし穂基部:5秒浸漬 又はさし穂 100本当り10 mlをさし穂基部に散布
	ツ ツ ジ 類	40倍	6 ～ 7 月 (夏さし)	1	・さし穂基部:3時間浸漬
	ドウダンツツジ	40倍 2倍	6 ～ 7 月 (夏さし)	1	・さし穂基部:3時間浸漬 ・さし穂基部:20秒浸漬
	花き類・観葉植物 (カーネーション、キク 及びチューリップを除く)	200～400倍 2倍	— —	1	・さし穂基部:12～24時間浸漬 ・さし穂基部:5～10秒浸漬
タチガレン液剤 ヒドロキシイソキサゾール 41.52%	キ ク	1,000倍	挿し芽直後	1	・土壌灌注 5～10 ℓ/m ²

(2) 親株栽培における側枝への腋芽の着生促進

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
ビーエー液剤 ベンジルアミノプリン [サイトカイニン剤] 3.0%	キ ク	2,000～4,000倍	摘 心 時	6	・茎葉散布 100～300 ℓ/10a ・無側枝性が強く発現する品種お よび高温期の栽培では、効果が 劣る場合がある。

(3) 伸長抑制

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
ビーナイン顆粒水溶液 ダミノジット 80.0%	キ ク (ポットマム) (施設栽培)	200～400倍	摘心後7～10日 又は定植3日後 から発蕾初期	3	・節間の伸長抑制 ・茎葉散布 5～10 ml/5号鉢
			生 育 期	4	・節間の伸長抑制 ・茎葉散布 50～150 ℓ/10a
	キ ク (切花用) (施設栽培)	500～5,000倍	発 蕾 期 ～ 摘 蕾 期	2	・花首の伸長抑制 ・茎葉散布 50～150 ℓ/10a

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
ビーナイン顆粒水溶液 ダミノジット 80.0%	ハ ボ タ ン (施 設 栽 培)	200～400 倍	子 葉 展 開 後 鉢 上 げ 後	2	・節間の伸長抑制 ・茎葉散布 50～150 ℓ/10a
スミセブンP液剤 ウニコナゾールP 0.025%	キ ク (ポ ッ ト マ ム)	25～50 倍	摘 芯 10 日 後 頃	2	・節間の伸長抑制(矮化) ・茎葉散布 5～10 ml/5 号鉢 (原液 0.1～0.2 ml/5 号鉢) ・土壌灌注 50～100 ml/5号鉢 (原液 1 ml/5 号鉢)
		50～100 倍	摘 芯 10 日 後 頃		
ビビフルフロアブル プロヘキサジオンカルシウム塩 [ジベレリン生合成阻害剤] 1.0%	キ ク	200～500 倍	育 苗 期 本 葉 2 ～ 4 葉 期	1	・茎葉の伸長抑制による小型化 ・茎葉散布 0.5 ml/株
			摘 蕾 期 発 蕾 期 及 び 摘 蕾 期	2	

(4) 開花促進、草丈伸長促進

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
ジベレリン液剤 ジベレリン[ジベレリン剤] 0.63%	キ ク	ジベレリン 25～100 ppm	生 育 期	2	・茎葉散布 50～100 ℓ/10a

(5) 開花抑制

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
エスレル 10 エテホン[エチレン剤] 10.0%	キ ク	500～1,000 倍	摘 芯 時 又 は 定 植 後 1 週 間 以 内 及 び そ の 後 10 ～ 14 日 毎	3	・全面散布(株全体がぬれる程度) 2～10 ml/株 ・開花抑制
	キ ク (電 照 栽 培)	500 倍	親 株 摘 芯 時		

(6) 開花促進

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
ビビフルフロアブル プロヘキサジオンカルシウム塩 [ジベレリン生合成阻害剤] 1.0%	ス ト ッ ク	1,000 倍	葉 数 10 ～ 14 枚 時 と その 7 ～ 10 日 後	2	・茎葉散布 100 ℓ/10a

VI 飼料作物

1 飼料作物病害虫

飼料作物病害虫重点防除指導方針

飼料作物は、安全で栄養価の高い家畜の粗飼料として、また、土地の有効利用を図る上で重要である。

本県では、坂井北部丘陵地、奥越地域（公共牧場を含む）を中心に牧草・飼料作物が栽培されており、飼料自給率の向上が図られている。主要な草種としては、オーチャードグラスを主体とする混播牧草、イタリアンライグラス、ソルガム（スーダン型を含む）となっている。また、水田では、飼料用稲・飼料用米、子実トウモロコシが栽培されている。

これらの牧草・飼料作物の収量・品質の安定を図るため、防除の指導にあたっては、それぞれの病害虫の生態や薬剤の性質を熟知し、耕種的防除対策に努めるとともに、病害虫の発生動向に注意して適正に防除する。

1 耕種的防除の推進

- (1) 適正な有機物施用による土づくりを推進し、健全な生育を図る。
- (2) 越冬飼料作物の雪腐病および牧草類の夏枯れ等は、原則として適期は種、適期刈取等耕種的防除に努める。

2 主要病害虫の防除技術

- (1) 病害虫防除は、原則として残留毒性の少ない農薬の使用に心がける。
- (2) 農薬使用に当たっては、刈取時期を十分に考慮して防除に努める。
- (3) アワヨトウ等の防除に当たっては、早期発見に努め、耕種的防除を実施する。

3 農薬使用基準

ソルガム（殺虫剤）

薬剤名	使用上の注意	使用時期 （収穫何日前まで）	使用回数
オルトラン水和剤		収穫30日前	3回以内

子実トウモロコシ（殺虫剤）

薬剤名	使用上の注意	使用時期 （収穫何日前まで）	使用回数
スミチオン乳剤		収穫30日前	2回以内

牧草（殺虫剤）

薬剤名	使用上の注意	使用時期 （収穫何日前まで）	使用回数
スミチオン乳剤		収穫14日前まで	2回以内

イネ 種子消毒～育苗期（殺虫剤、殺虫殺菌剤）

薬剤名	使用上の注意	使用時期 （収穫何日前まで）	使用回数
モミガードC水和剤		浸種前	1回以内
タチガレン液剤		は種時及び発芽後	2回以内
ダコニール1000	 	は種時から緑化期（は種14日後）	2回以内
ベンレート水和剤		は種時又はは種時とは種7日後頃	2回以内
デジタルコラトップ アクタラ箱粒剤		移植前3日～移植当日	1回以内
モンカット粒剤		出穂30～10日前（14日前）	3回以内
アミスターエイト		（14日前）	3回以内
スミチオン粉剤3DL		（21日前）	2回以内
スタークル粉剤DL		（7日前）	3回以内

(1) イタリアンライグラス、フェスク類

病害虫名	防除時期	防 除 方 法			注 意 事 項
		薬 剤 名	使用濃度	10アール当 たり使用量	
雪 腐 病 (雪腐褐色 小粒菌核病)	根 雪 前	[耕種的防除] ・耐雪性の強い奨励品種を選ぶ。 ・根雪前までに越冬に十分な生育量を確保しておくこと。 年内刈が可能な場合、中多雪地帯では根雪20～30日 前までに10cm程度の高刈りをし、追肥は控える。 ・窒素の多肥や堆厩肥施用(10t/10a以上)は避ける。 ・融雪水の停滞や湿潤化を防ぐため、排水溝を圃場 周囲、圃場内に設ける。			
さび病類	—	[耕種的防除] ・厚播、窒素過多、生育遅延、風通し不良を避ける。			

(2) 子実トウモロコシ

病害虫名	防除時期 (使用回数)	防 除 方 法			注 意 事 項
		薬 剤 名	使用濃度	10アール当 たり使用量	
アブラムシ	収穫30日 前まで (2回以内)	スミチオン乳剤	2,000倍	100～300ℓ	
		[耕種的防除] ・堆厩肥はは種1ヶ月前までに散布する。			
アワノメイガ オオタバコガ ツマジロクサヨトウ	収穫前日 ま だ (3回以内)	プレハツンフロアブル5	20倍	1～2ℓ	
		無人航空機により散布する。			

(3) ソルガム

病害虫名	防除時期 (使用回数)	防 除 方 法			注 意 事 項
		薬 剤 名	使用濃度	10アール当 たり使用量	
紋 枯 病	—	[耕種的防除] ・密植、連作を避ける。被害個体を圃場に残さない。			
アブラムシ類 ツマジロクサヨトウ	収穫30日 前まで (3回以内)	オルトラン水和剤	1,000倍	100～300ℓ	
		[耕種的防除] ・堆厩肥はは種1ヶ月前までに散布する。			

(4) イネ科牧草

病害虫名	防除時期 (使用回数)	防 除 方 法			注 意 事 項
		薬 剤 名	使用濃度	10アール当 たり使用量	
(イネ科牧草) アワヨトウ	収穫14日 前まで (2回以内)	スミチオン乳剤	1,000倍	100~300ℓ	・MEPを含む農薬の総使用回 数は、2回以内とする。
		〔耕種的防除〕 ・春期、本種の産卵場所となりやすい枯れ葉や刈り株 は、産卵期を見計らって除去する。 ・窒素過多にならないように注意する。 ・収穫間近で被害が拡大しそうな場合に、早めに刈り取 る。			
(マメ科牧草) ハスモンヨトウ ゾウムシ類	—	〔耕種的防除〕 ・ほ場および周辺の雑草を除去する。			

(5) レンゲ

病害虫名	防除時期	防 除 方 法			注 意 事 項
		薬 剤 名	使用濃度	10アール当 たり使用量	
菌 核 病	は 種 前	・塩水選（水10ℓに食塩 1,500g）を行い、浮き上 がった菌核を取り除いた後2~3回水洗いし、かげ干し する。又は種子を温湯浸漬（45℃7~8時間）し、種 子消毒を行う。			・早播き、厚播を避ける。 ・発病株は、早めに抜き取り処分 する。 ・根雪前に、消石灰を10アール 当たり70kg以上施用する。

(6) 稲発酵粗飼料

① 種子消毒

病害虫名	防除時期 (使用回数)	防 除 方 法			注 意 事 項
		薬 剤 名	使用濃度	使用 方 法	
ばか苗病 いもち病 ごま葉枯病 もみ枯細菌病 褐条病 苗立枯細菌病 苗立枯病	浸種前 (1回)	モミガードC水和剤 塩基性塩化銅 7.6% フルジオキシニル 2% ペフラゾエート 12%	乾燥種籾 重量の 0.5%	種子粉衣 (湿粉衣)	・種子は、無発病田から採種した 健全種子を使用する。 ・傷籾や脱ぶ籾が混入していな いものを使用する。 ・調製した薬液は、調製当日に使 用する。 ・フルジオキシニルを含む農薬の 総使用回数は、1回以内とす る。 ・ペフラゾエートを含む農薬の総 使用回数は、1回以内とする。
			7.5倍	乾燥種籾 1kg 当り希釈液 30 ml吹き付け 処理(種子消 毒機使用)又 は塗沫処理	

② 育苗期間の防除（箱育苗）※育苗箱は30×60×3cm、使用土壌約5リットル

病害虫名	防除時期 (使用回数)	防 除 方 法			注 意 事 項
		薬 剤 名	使用濃度	使用 方 法	
苗立枯病 (フザリウム、 ピシウム菌)	は種時及び 発芽後 (2回以内)	タチガレン液剤 ヒドロキシイソキサゾール 41.52%	500～1,000倍	500ml/箱灌注	・ヒドロキシイソキサゾールを含む農薬の 総使用回数は、3回以内とする (移植前の土壌混和は1回以内、 移植前の土壌灌注は2回以 内)。
苗立枯病 (ゾーパス菌)	は種時から 緑化期 但し、は種 14日後まで (2回以内)	ダコニール1000 TPN 40%	500～1,000倍	500ml/箱灌注	・   ・TPNを含む農薬の総使用回数 は、2回以内とする。
苗立枯病 (トリコテルマ 菌)	は種時1回又 は、は種時 と、は種7日 後頃の2回 (2回以内)	ベンレート水和剤 ベノミル 50%	500～1,000倍	500ml/箱灌注	・ベノミルを含む農薬の総使用回 数は、2回以内とする(種子への 処理は1回以内、床土への混和 は1回以内)。
いもち病 イネミスゾウムシ イネトロオウムシ ツマグロヨコバイ ウンカ類 ニカメイチュウ イネクロカメムシ	移植前3日 ～移植当日 (1回)	デジタルコラトップアクタ ラ箱粒剤 チアメキサム 2% ピロキロン 12%		50g/箱	・ニカメイチュウ、イネクロカメムシ の場合は、移植当日。 ・育苗箱中の苗の上から均一に 散布する。 ・チアメキサムを含む農薬の総 使用回数は、3回以内とする(育 苗箱への処理は1回以内、本田 では2回以内)。 ・ピロキロンを含む農薬の総使用 回数は、3回以内とする(育苗箱 散布は1回以内、本田では2回 以内)。

③ 本田期の防除

病害虫名	防除時期	防 除 方 法			注 意 事 項
		薬 剤 名	使用回数 使用濃度	10アール当 たり使用量	
紋枯病	出穂30～ 10日前 但し収穫 14日前ま で	モンカッタ粒剤 フルトラニル 7%	3回以内	3～4 kg	・湛水散布とする。 ・散布後1週間程度湛水状態を保 ち、落水やかけ流しはしない。 ・水深 3cm 以上の湛水状態に使用 し、使用后 3～4日間は止水に する。 ・フルトラニルを含む農薬の総使 用回数は、3回以内とする(小包 装投入は1回以内)。
いもち病 紋枯病 穂枯れ (ごま葉枯病菌)	収穫14日 前まで	アミスターエイト アゾキシストロビン 8%	3回以内 1,000～1,500 倍	100～200 l を散布	・アゾキシストロビンを含む農薬の 総使用回数は、4回以内とする (育苗箱散布は1回以内、本田 では3回以内)。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法			注 意 事 項
		薬 剤 名	使用回数 使用濃度	10アール当 たり使用量	
イネト ^ロ オイムシ ウンカ類 ニカメイチュウ コブノメイカ カメムシ類 アザミウマ類	収穫21日 前まで	スミチオン粉剤3DL MEP 3%	2回以内 (但し出穂 前は1回)	3～4 kg を散布	・MEPを含む農薬の総使用回数は、3回以内とする(種もみへの処理は1回以内、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)。
イネト ^ロ オイムシ ウンカ類 ニカメイチュウ カメムシ類 ツマグロヨコバイ イナゴ類 フタオビコヤガ	収穫7日前 まで	スタークル粉剤DL ジノテフラン 0.5%	3回以内	3 kg を散布	・ジノテフランを含む農薬の総使用回数は、4回以内とする(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)。 ・ 

「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」のうち農薬使用に関する部分の抜粋(令和2年3月)

○病虫害防除

抵抗性品種の導入や病虫害発生予察を活用した的確な防除対策を基本とし、病虫害の発生が周辺の食用イネに影響をおよぼさないように配慮しつつ、航空防除の実施地域では作付の団地化を行うなど、防除対策について地域の関係者で十分な協議を行う必要がある。

その際、コスト低減を図るため、病虫害の発生状況を的確に把握し、必要最小限の防除に努めることが重要である。

なお、稲用に登録されている農薬のうち、①登録時のデータから稲わらへの残留性が十分に低いと認められる農薬や稲わらに残留しても牛の乳汁に検出されないことが確認されている農薬、②平成15年度以降に実施したWCS用イネでの残留性試験や乳汁移行試験により残留性がないと確認された農薬は、以下のとおりである。

農薬による病虫害防除が必要な場合には、これらの中から、都道府県の稲作指導指針等に記載されている農薬を、地域の農業改良普及センターの指導に従って作型や病虫害の発生動向等を踏まえて選定する。農薬の使用に当たっては、当該農薬のラベルに記載されている「収穫〇日前まで」という使用時期の「収穫」をWCS用イネの収穫(黄熟期)にそのまま適用するため、防除可能な期間が食用イネより1週間～10日程度早まることに留意する必要がある。

また、立毛中の稲を利用した放牧についても、本マニュアルに記載された農薬の種類・使用方法に従うこと。

なお、無人航空機(無人ヘリコプター、ドローン等)の利用に当たっては、「農薬の使用方法の表示及び提出を要する試験の取扱いについて(平成31年2月22日付け30消安第5541号農林水産省消費・安全局農産安全管理課長通知)」を参照すること。

- 「殺虫剤・殺菌剤・殺虫殺菌剤・農薬肥料・植物生長調整剤」に関する情報は、
下記に掲載のQRコードからご確認ください。

① 「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」(令和2年3月(一社)日本草地畜産種子協会) <P60～65>

http://souchi.lin.gr.jp/skill/pdf/manual_vol7.pdf



② 稲発酵粗飼料用稲に係る農薬使用について(令和4年12月22日農林水産省畜産局飼料課長)

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryo/attach/pdf/index-826.pdf



(7) 飼料用米

飼料用米を粳米のまま家畜に給与することについては、「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」(令和3年1月14日付け改正)により、有害物質の低減対策を図る。

多収品種に取り組むに当たって～多収品種の栽培マニュアル～(令和4年12月改訂版)の病虫害防除に関する部分の抜粋

病虫害防除

品種の選定に当たって、病虫害に対する抵抗性を把握して導入しましょう。

抵抗性がない病害や害虫に対しては、その発生状況を注視し、気象条件や周辺環境を踏まえて、適期かつ適切に農薬散布を実施することが重要です。なお、インディカ系統の品種では、多くの場合セジロウンカに対する抵抗性が弱く、被害が発生しやすいので、注意が必要です。

また、飼料用米では外観的な品質が必要とされないため、斑点米カメムシ類の防除が主食用米ほど行われないうちがあります。適期防除が行われないうちには、斑点米カメムシ類の発生源となる可能性があるため、特に、周辺で主食用米が栽培されている場合は、適期に防除を行うことが必要です。その際、主食用米を栽培している生産者と連携して、地域ぐるみでは場周辺のイネ科雑草を刈り取り、斑点米カメムシ類の発生密度を抑制すると、防除効果及び生産コスト削減の両面から有効です。

同様に、いもち病等の他の病虫害についても周辺への分散を防ぐため、発生状況を注視し、発生予察情報も参考にして、適切に防除を実施しましょう。

農薬使用基準等について

病虫害・雑草防除に当たっては、「稲」に登録のある農薬を用いることとし、そのラベルに記載されている薬剤の使用法、使用量等農薬使用基準を遵守することが不可欠です。

粳米は玄米に比べて農薬の残留量が多いことが確認されており、粳米を家畜に給与する場合は、畜産物の安全確保を図るため、出穂以降(ほ場において出穂した個体が初めて確認される時点以降をいう。以下同じ。)の農薬の散布は控えてください。ただし、安全性が確認され、出穂以降に使用できる農薬は次のとおりです。それ以外の農薬を出穂以降に散布する場合は、粳すりをして玄米で家畜に給与しましょう。

- 出穂以降に使用できる農薬一覧「殺虫剤・殺菌剤・殺虫殺菌剤」に関する情報は、下記に掲載のQRコードからご確認ください。

多収品種に取り組むに当たって～多収品種の栽培マニュアル～
令和4年12月 農林水産省 <P19～20>

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/attach/pdf/siryoyouumai-23.pdf>



2 飼料作物・牧草除草剤

(1) 使用上の注意事項

飼料作物における除草剤の使用は、圃場条件の確保、気象条件、各薬剤の作用特性などを十分に配慮する。

- ① は種後の土壌処理については、砂質土、低湿地などでは薬害が生じるほか殺草効果も劣るので使用を避ける。
- ② 土壌処理剤は、細かく砕土して、覆土鎮圧後、雑草の発生期までに土壌表面に均一に散布する。
- ③ 土壌が乾燥して極端に水分の少ない場合は効果が劣るので、散布水量を多目にしたり（薬剤使用量は基準どおり）、降雨後に散布したりする。
- ④ 生育期処理は、作物の生育を考慮して雑草発生～初期に散布する。また、散布の際、付近の作物にかからぬように注意する。
- ⑤ 堆肥の施用に当たっては、十分発酵させ、雑草種子の死滅に努める。
- ⑥ ギンギン等強害雑草の防除に当たっては、耕種的防除と併用する。

(2) 使用方法

※使用回数については、農薬の使用回数および成分ごとの使用回数（成分内の記載と同じ行に記載される括弧書きの数字）を記載した。

作物名	除草剤名	対象雑草名	使用時期	使用回数	10アール当たり		注意事項
					使用量	使用方法	
ソルガム	ゴーゴーサン乳剤 ペンディメタリン 30.0%	一年生雑草	は種後 出芽前 (雑草発生前)	1 (1)	300～400ml	70～150 ℓ の水に溶かして全面土壌散布	<ul style="list-style-type: none"> ・砕土、整地はできるだけ丁寧にし、覆土は3cm以上とし、散播では使用しない。 ・水源地、養魚池等に飛散、流入しないよう十分注意する。 ・雑草の生育がすすむと急激に効果が落ちるので散布時期を失しないようにする。 ・キク科雑草、ツユクサには効果が劣るので、これらの優先圃場では使用しない。
			ソルガム 3葉期 (雑草発生前～発生始期)		300ml	70～100 ℓ の水に溶かして雑草茎葉散布又は全面土壌散布	
	ゲザノンゴールド アトラジン 27.8% S-メトラクロール 26.4%	一年生雑草	は種直後	1 (1) (1)	140～260ml	70～100 ℓ の水に溶かして全面土壌散布	<ul style="list-style-type: none"> ・アトラジンを含む農薬の総使用回数 1回 ・メトラクロール及びS-メトラクロールを含む農薬の総使用回数 1回

※使用回数については、農薬の使用回数および成分ごとの使用回数（成分内の記載と同じ行に記載される括弧書きの数字）を記載した。

作物名	除草剤名	対象雑草名	使用時期	使用回数	10アール当たり		注意事項
					使用量	使用方法	
牧草	アーザラン液剤 アシュラム 37.0%	ギンギン類 および キク科雑草	秋～春期 (9～5月) ギンギン類 の展葉時期 但し、採草 14日前まで	1 (1)	400～600ml	80～100ℓの 水に溶かして 雑草茎葉散布	<ul style="list-style-type: none"> ・適用場所は、「牧野、草地」。 ・散布時期が遅れると効果が劣るので、散布時期を守る。 ・夏期の全面散布は、牧草に薬害が生じる恐れあり。 ・散布後14日間の放牧および採草は行わない。 ・局所散布、群生地散布は必要に応じて展着剤を用いる。
			早春～秋期 (1～11月) ギンギン類 の展葉時期		50～80倍液とし雑草が充分ぬれる量を25ml/株又は100ml/m ² 雑草茎葉散布(局所処理)		
		ワラビ 展葉期 (更新・造成)	1,000～ 1,500ml		80～100ℓの 水に溶かして 雑草茎葉散布		
ラウンドアップ マックスロード グリホサートカリウム塩 48.0%	一年生 および 多年生雑草	耕起前まで (雑草生育期) 耕起整地 後～は種 当日まで (雑草発生前期) (更新・造成)	3 (3)	200～500ml	25～50ℓの水 に希釈して雑 草茎葉散布 (少量散布)	<ul style="list-style-type: none"> ・適用場所 牧野、草地 (更新・造成) ・調製には、必ず清水を使用する。 ・除草剤など他の農薬や肥料との混用不可。 ・展着剤不要。 ・使用後6時間以内の降雨は、効果を低下させるので注意する。 ・効果が発現するのは1年生雑草で2～4日、多年生雑草で7～14日、さらに効果が完成するまでにはそれ以上の日数を要する。 ・水源地、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意する。 ・少量散布の場合、専用のノズルを用いて薬面に均一散布する。 ・皮膚に対して刺激性があるので注意する。 ・グリホサートを含む農薬(ラウンドアップ)の総使用回数は3回以内。 	
							バンベル-D液剤 MDBAジメチルアミン 50.0%

※使用回数については、農薬の使用回数および成分ごとの使用回数（成分内の記載と同じ行に記載される括弧書きの数字）を記載した。

・稲発酵粗飼料

「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」第7版のうち農薬使用に関する部分の抜粋(令和2年3月(一社)日本草地畜産種子協会発行)

○雑草防除

WCS用イネにノビエ等の雑草が混入した場合、水分含量の相違等から品質が低下するため、雑草防除を的確に行う必要がある。特に、直播栽培を導入する場合には、雑草が繁茂しやすいので、初期の雑草防除が重要である。

稲用に登録されている農薬のうち、移植水稻もしくは直播水稻に適用があり、①登録時のデータから稲わらへの残留性が十分に低いと認められる農薬や稲わらに残留しても牛の乳汁に検出されないことが確認されている農薬、②平成15年度以降に実施したWCS用イネでの残留性試験や乳汁移行試験により残留性がないと確認された農薬は、以下のとおりである。

除草剤の使用に当たっては、病虫害防除と同様に、農薬のラベルに記載されている「収穫〇日前まで」という使用時期の「収穫」をWCS用イネの収穫(黄熟期)にそのまま適用するため、防除可能な期間が食用イネより1週間～10日程度早まることに留意する必要がある。

また、立毛中の稲を利用した放牧についても、本マニュアルに記載された農薬の種類・使用方法に従うこと。

■「除草剤(直播栽培に適用できるもの)・除草剤(移植栽培に適用できるもの)」に関する情報は、下記に掲載のQRコードからご確認ください。

- ① 「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」(令和2年3月(一社)日本草地畜産種子協会) <P60～65>

http://souchi.lin.gr.jp/skill/pdf/manual_vol7.pdf



- ② 稲発酵粗飼料用稲に係る農薬使用について(令和4年12月22日農林水産省畜産局飼料課長)

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryo/attach/pdf/index-826.pdf



・飼料用米

作物名	除草剤名	対象雑草名	使用時期	使用回数	10アール当たり		注意事項
					使用量	使用方法	
飼料用米	クリンチャー 1キロ粒剤 シハロホップブチル 1.8%	ノビエ	移植後7日 ～ノビエ4葉 期、 但し、収穫3 0日前まで	2 (3)	1 kg	湛水散布 または 無人ヘリコ プターによ る散布	・シハロホップブチルを 含む農薬の総使用回 数は3回以内。
			移植後25日 ～ノビエ5葉 期、 但し、収穫3 0日前まで		1.5 kg		

飼料用米を粃米のまま家畜に給与することについては、「飼料として使用する粃米への農薬の使用について」(令和3年1月14日付け改正)により、有害物質の低減対策を図る。

多収品種に取り組むに当たって～多収品種の栽培マニュアル～
(農林水産省 令和4年12月改訂版)の雑草防除に関する部分の抜粋

雑草防除

直播栽培では苗と雑草の生育が競合しやすく、特に乾田直播では雑草が繁茂しやすいため、適期の除草剤散布が重要です。水田が傾斜していたり、凹凸が多いと除草剤の効果にムラが出ますので、播種前のほ場の均平作業を徹底しておくことが重要です。

農薬使用基準等について

病害虫・雑草防除に当たっては、「稲」に登録のある農薬を用いることとし、そのラベルに記載されている薬剤の使用量、使用方法等農薬使用基準を遵守することが不可欠です。

粃米は玄米に比べて農薬の残留量が多いことが確認されており、粃米を家畜に給与する場合は、畜産物の安全確保を図るため、出穂以降(ほ場において出穂した個体が初めて確認される時点以降をいう。以下同じ。)の農薬の散布は控えてください。ただし、安全性が確認され、出穂以降に使用できる農薬は次のとおりです。

それ以外の農薬を出穂以降に散布する場合は、粃すりをして玄米で家畜に給与しましょう。

- 出穂以降に使用できる農薬一覧「除草剤」に関する情報は、
下記に掲載のQRコードからご確認ください。

多収品種に取り組むに当たって～多収品種の栽培マニュアル～
令和4年12月 農林水産省 <P19～20>

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/attach/pdf/siryoyoumai-23.pdf>



VII 参考

掲載農薬一覧 ※RPAのページのみ

(殺菌剤・殺虫剤)

	殺菌剤・殺虫剤	掲載作物名
1	Cs.オレゼリデリアEV箱粒剤	稲
2	D-D	きく
3	Dr.オレゼフェルテラ粒剤	湛水直播水稻
4	ICボルト-412	すもも,もも,りんご
5	ICボルト-48Q	なし
6	ICボルト-66D	うめ,キウフルーツ,ぶどう
7	Zボルト-	いちじく,うめ,すいか,トマト,にんじん,ぶどう,ミニトマト,レタス,非結球レタス,野菜類(キャベツを除く)
8	Zボルト-粉剤DL	だいず,稲
9	アデントフロアブル	小粒核果類
10	アデント水和剤	いちじく,きく,なし,なす,ぶどう,もも,りんご,小粒核果類
11	アクサフロアブル	なし,りんご
12	アクセルフロアブル	キャベツ,にんじん,花き類・観葉植物(きくを除く)
13	アクタ顆粒水溶剤	うめ,キャベツ,りんご,花き類・観葉植物(宿根アスター,トルコキキョウ,きくを除く)
14	アグリマジン-100	キウフルーツ,ばれいしょ
15	アグリメック	すいか,トマト,花き類・観葉植物(ガベラを除く)
16	アグレプト水和剤	キウフルーツ
17	アグロリン水和剤	かき,くり,もも,りんご
18	アグロリン乳剤	えだまめ,すいか,だいず,なす,ねぎ,ピーマン,とうもろこし
19	アタキン水和剤	ばれいしょ
20	アタロン乳剤	キャベツ,だいこん,はくさい,ブロッコリー
21	アデオン水和剤	ぶどう
22	アデオン乳剤	いちじく,うめ,キウフルーツ,きゅうり,くり,トマト,なし,なす,ばれいしょ,ピーマン,とうもろこし,花き類・観葉植物(はぼたんを除く),未成熟そらまめ
23	アドマイヤ-1粒剤	さといも,さといも(葉柄),なす,ピーマン
24	アドマイヤフロアブル	花き類・観葉植物(きくを除く)
25	アドマイヤ水和剤	かき,くり,すいか,トマト,なす,湛水直播水稻
26	アトラック液剤	さくら
27	アネキ乳剤	きく,キャベツ,トマト
28	アフームエクス顆粒水和剤	キャベツ
29	アフーム乳剤	きく,トマト,ピーマン,ミニトマト,花き類・観葉植物
30	アフエットフロアブル	いちご,きゅうり,すいか,トマト,ねぎ,ゆり,花き類・観葉植物(きく,ゆり,チュリップ,りんどうを除く)
31	アプロートフロアブル	いちじく,うめ,すもも,ねぎ,みかん,もも,りんご
32	アプロート水和剤	うめ,キウフルーツ,きゅうり,トマト,なす,みかん,もも
33	アペイル粒剤	トマト,なす,ねぎ
34	アベンジャーフロアブル	ねぎ
35	アミスター-10フロアブル	いちじく,すもも
36	アミスター-20フロアブル	さといも,だいず,にんにく,ねぎ,らっきょう
37	アミスターレボーンSE	だいず,稲
38	アリエッティC水和剤	なし,りんご
39	アリエッティ水和剤	ぶどう
40	アルパリン粉剤DL	だいず,稲
41	アルパリン粒剤	稲,非結球あぶらな科葉菜類(フソクサイを除く)
42	アルパリン顆粒水溶剤	えだまめ,キウフルーツ,きく,トマト,ねぎ,りんご,小粒核果類
43	アントラコール顆粒水和剤	いちご,すいか,なし,りんご
44	アンピルフロアブル	きく,花き類・観葉植物(ばら,きくを除く)
45	イオウフロアブル	うめ,トマト,ミニトマト,もも,野菜類(すいか,かぼちゃ,トマト,ミニトマト,ねぎ,わけぎ,あさつき,いちごを除く)

	殺菌剤・殺虫剤	掲載作物名
46	インダ-フロアブル	うめ,なし,りんご
47	インプレッションクリア	野菜類
48	ウララ50DF	きく,ゆり
49	ウララDF	すいか,なし,ねぎ,小粒核果類
50	エクシード-フロアブル	稲
51	エクシード-粉剤DL	稲
52	エコビタ液剤	いちご,花き類・観葉植物,野菜類(いちご,トマト,ミニトマト,きゅうり,なすを除く)
53	エスマルクDF	野菜類
54	エバ-ゴールドシート-FS	稲(乾田直播水稻を除く)
55	エミリアフロアブル	稲
56	エムダ-イファ-水和剤	きく,みかん
57	エルサン乳剤	あずき,キャベツ,くり,さといも,だいこん,だいず,はくさい,ブロッコリー,ほうれんそう,レタス,とうもろこし,稲,未成熟そらまめ
58	エルサン粉剤2	さといも,稲
59	エルサン粉剤3DL	稲
60	オーシャイン水和剤	なし,りんご
61	オーソサイト-水和剤80	きゅうり,トマト,なす,ピーマン,野菜類,ぶどう,りんご,花き類・観葉植物,小粒核果類
62	オキシラン水和剤	すいか,なし,りんご
63	オラクル粉剤	ブロッコリー,非結球あぶらな科葉菜類
64	オリオン水和剤40	きく,なし,メロン,もも,りんご
65	オリゼ-メート1キロ粒剤	稲
66	オリゼ-メート粒剤	キャベツ,ねぎ,稲
67	オリゼ-メート粒剤20	稲
68	オリブ-ライト250G	稲
69	オルトラン水和剤	いちじく,かき,きく,キャベツ,さくら,はくさい,ばれいしょ,花き類・観葉植物,樹木類
70	オルトラン粒剤	キャベツ,きゅうり,だいこん,トマト,なす,はくさい,ばれいしょ,ブロッコリー,花き類・観葉植物(きく,宿根スターチス,カーネーション,アリウム,たであいを除く)
71	オルフィンブ-ラスフロアブル	うめ,もも,りんご,小粒核果類(うめを除く)
72	オルフィンフロアブル	キャベツ
73	オンコル粒剤5	きく,ストック,花き類・観葉植物(きく,ストックを除く)
74	オンリーワンフロアブル	いちじく,なし,ねぎ,ぶどう
75	ガード-ベイトA	とうもろこし
76	ガード-ホープ-液剤	トマト,ミニトマト
77	カスケード-乳剤	かき,きく,キャベツ,スターチス,だいず,トマト,にんじん,ねぎ,ブロッコリー,ほうれんそう,りんご
78	カ-スタート-微粒剤	きく,ストック,花き類・観葉植物
79	カスミンボルト-	キウイフルーツ,キャベツ,きゅうり,トマト,ブロッコリー,メロン
80	カスミン液剤	うめ,キウイフルーツ,稲(箱育苗)
81	カスミン粒剤	稲(箱育苗)
82	カ-ッテン乳剤	花き類・観葉植物
83	カ-ットキラ-乳剤	うめ,すもも,ぶどう,もも
84	カ-ットサイト-S	いちじく,くり,みかん,りんご
85	カナメフロアブル	きく,なし,小粒核果類
86	カネマイトフロアブル	いちご,すいか,すもも,ぶどう,もも,りんご,花き類・観葉植物(ばら,きく,カーネーション,デルフィニウムを除く)
87	カリグリーン	トマト,ミニトマト,花き類・観葉植物(きくを除く),野菜類(トマト,ミニトマトを除く)
88	カルホス微粒剤F	レタス
89	カルホス粉剤	キャベツ,きゅうり,だいこん,なす,はくさい,レタス
90	カンタスト-ライフロアブル	トマト,なす
91	カンパ-ネラ水和剤	さといも
92	キノンド-水和剤40	みかん,りんご
93	キノンド-水和剤80	なし,ぶどう,りんご

	殺菌剤・殺虫剤	掲載作物名
94	キノド [®] -顆粒水和剤	なし,りんご
95	キラップ [®] フロアブル	かき,りんご
96	キラップ [®] 粒剤	稲
97	クルザ [®] -FS30	えだまめ,だいず
98	クルザ [®] -MAXX	えだまめ,だいず
99	グレース [®] 乳剤	キャベツ,トマト,ねぎ
100	クレフ [®] ン	うめ,ぶどう
101	クロービ [®] クリン	きく,花き類・観葉植物
102	クロスアウトフロアブル	トマト,ミニトマト
103	クロービ [®] クリン錠剤	きく
104	ゲッター [®] 水和剤	だいず,トマト,ぶどう,ミニトマト,花き類・観葉植物(ひまわり、ゼラニウムを除く)
105	コサイド [®] 3000	いちじく,にんにく,ぶどう,りんご,野菜類
106	コサイド [®] ホルター	にんじん,野菜類
107	コテツ [®] フロアブル	かき,かんきつ,きく,キャベツ,ストック,トマト,なす,ねぎ,はくさい,ぶどう,ブロッコリー,ほうれんそう,もも,花き類・観葉植物(きく、ストックを除く),小粒核果類
108	コテツ [®] ペイト	ほうれんそう
109	コテツ [®] 1キロ粒剤12	稲
110	コルト [®] 顆粒水和剤	かき,トマト,ねぎ,もも,りんご,花き類・観葉植物(チューリップを除く),小粒核果類
111	コロナ [®] フロアブル	きく
112	コロマイト [®] 水和剤	いちじく,なし,ぶどう,りんご
113	コロマイト [®] 乳剤	なす
114	サプ [®] ロール乳剤	きく
115	サムコ [®] フロアブル10	すもも,なし,ぶどう,もも,りんご
116	サルファ [®] ゾール	うめ,もも
117	サンクリスタル [®] 乳剤	花き類・観葉植物,野菜類(なす,トマト,ミニトマト,しゅんぎくを除く)
118	サンブ [®] ロDM [®] フロアブル	きゅうり,トマト,ミニトマト
119	サンマイト [®] フロアブル	メロン
120	サンマイト [®] 水和剤	かんきつ,なし,りんご
121	ジー [®] ファイン水和剤	さといも,野菜類(なすを除く)
122	ジェイエース [®] 水溶剤	いちじく,かき,キャベツ,さくら,はくさい
123	ジェイエース [®] 粒剤	きく,キャベツ,きゅうり,だいこん,トマト,なす,はくさい,ばれいしょ,ブロッコリー
124	ジ [®] オゼット水和剤	ねぎ
125	ジグ [®] ナムWDG	いちご,かぼちゃ,すいか,トマト,なす,にんじん,にんにく,ねぎ,はくさい,レタス
126	ジマンダ [®] イセン [®] フロアブル	きく
127	ジマンダ [®] イセン [®] 水和剤	いちご,かき,かぼちゃ,キャベツ,きゅうり,くり,すいか,たまねぎ,トマト,トルコギキョウ,なし,ねぎ,ぶどう,みかん,メロン,もも,やまのいも,りんご,未成熟そらまめ
128	ジュリボ [®] フロアブル	キャベツ
129	シルバ [®] キュア [®] フロアブル	小麦,大麦
130	スカウト [®] フロアブル	いちじく,かき,キウイフルーツ,すもも,なし,ぶどう,みかん,もも,りんご,花き類・観葉植物(宿根かすみそう、グラジオラス、トルコギキョウ、りんどうを除く)
131	スクレア [®] フロアブル	トマト,なし,りんご
132	スコア [®] 顆粒水和剤	うめ,かき,すもも,なし,もも,りんご
133	スター [®] クル液剤10	だいず
134	スター [®] クル豆つぶ	稲
135	スター [®] クル粉剤DL	だいず,稲
136	スター [®] クル粒剤	稲,非結球あぶらな科葉菜類(フゲンサイを除く)
137	スター [®] クル顆粒水溶剤	えだまめ,キウイフルーツ,きく,トマト,ねぎ,りんご,小粒核果類
138	スター [®] ナ水和剤	すもも,だいこん,にんじん,はくさい,もも,小粒核果類(すももを除く)
139	スター [®] マイト [®] フロアブル	きく,なし
140	スタウト [®] アレス [®] 箱粒剤	稲
141	スタウト [®] アレス [®] 箱粒剤	稲

	殺菌剤・殺虫剤	掲載作物名
142	スティンガードフロアブル	樹木類
143	ストロベードライフロアブル	うめ,かき,かんきつ,キウフルーツ,すもも,なし,ぶどう,もも,りんご
144	ストロベードフロアブル	きく,きゅうり,すいか,にんにく,ねぎ,小麦,麦類(小麦を除く)
145	スパイカルEX	果樹類
146	スパイテックス	果樹類(施設栽培)
147	スピノセス顆粒水和剤	きく,キャベツ,トマト,なす,ピーマン,ブロッコリー
148	スミチオン水和剤40	かき,くり,なし(無袋栽培),なし(有袋栽培),りんご,小粒種ぶどう,大粒種ぶどう
149	スミチオン乳剤	うめ,きく,だいず,たまねぎ,なし(無袋栽培),なし(有袋栽培),なす,ねぎ,もも,稲,花き類・観葉植物,樹木類
150	スミチオン粉剤3DL	だいず,稲
151	スミレックス水和剤	いちご,きゅうり,たまねぎ,トマト,なす,レタス
152	セリアーフロアブル20	いちご,トマト,花き類・観葉植物(きんせんか、ホワイトレースフラワーを除く)
153	セルカデイスDフロアブル	なし,りんご
154	ゼンタリ顆粒水和剤	そば,野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
155	ゾーベックエンテクタSE	きゅうり
156	ダイヤモンド水和剤34	樹木類,小粒核果類(すももを除く),日本なし
157	ダイヤモンド粒剤3	かぼちゃ,かんしょ,キャベツ,きゅうり,すいか,たまねぎ,ねぎ,ばれいしょ,ピーマン,ブロッコリー,メロン,レタス
158	ダイヤモンド粒剤5	だいず,非結球レタス
159	ダイヤモンド水和剤	さといも
160	ダイヤモンド	かぶ,はくさい
161	ダイヤモンド1000	いちじく,キウフルーツ,きく,キャベツ,きゅうり,すいか,たまねぎ,トマト,にんにく,はくさい,ばれいしょ,ピーマン,メロン,やまのいも,ゆり,りんご,レタス,稲(箱育苗)
162	ダイヤモンド粉剤	稲(箱育苗)
163	ダイヤモンド水和剤	稲(箱育苗)
164	ダイヤモンドSM液剤	稲(箱育苗)
165	ダイヤモンドSM粉剤	稲(箱育苗)
166	ダイヤモンド液剤	きゅうり,稲(箱育苗)
167	ダイヤモンド粉剤	稲(箱育苗)
168	ダイヤモンドフロアブル	小粒核果類
169	ダイヤモンドフロアブル	いちじく,なし,ぶどう,りんご
170	ダイヤモンドフロアブル	いちご,いちじく,なし,もも,りんご,花き類・観葉植物,小粒核果類
171	ダイヤモンドフロアブル	いちじく,かんきつ,なし,ぶどう,りんご,花き類・観葉植物
172	ダイヤモンドロック	稲
173	ダイヤモンドシューターSE	トマト,なす,鱗茎類(にら、にら(花茎)を除く),花き類・観葉植物
174	ダイヤモンド粉剤DL	だいず,稲
175	ダイヤモンドフロアブル	湛水直播水稻
176	ダイヤモンド水溶剤	いちじく,うめ,かき,かんきつ,キウフルーツ,すいか,すもも,ぶどう,もも,りんご
177	ダイヤモンド粒剤	メロン,稲
178	チェス顆粒水和剤	トマト,ミニトマト,花き類・観葉植物
179	チオノックフロアブル	すもも,なし,もも,りんご,花き類・観葉植物(りんどうを除く)
180	チルト乳剤25	きく,小麦,大麦
181	ティートラックス油剤	ねぎ,らっきょう
182	ティアナSC	キャベツ,トマト,ねぎ,花き類・観葉植物(りんどうを除く),非結球あぶらな科葉菜類(こまつな、チゲンサイ、なばな類を除く)
183	ティアナWDG	いちじく,くり,なし,りんご
184	テーク水和剤	かき,すいか,トマト,ねぎ
185	テクリードCフロアブル	稲
186	テジョン乳剤	花き類・観葉植物
187	テパボン5%ペースト	キャベツ,だいこん,はくさい
188	テミン水和剤	樹木類
189	テランフロアブル	いちじく,うめ,かき,なし,ぶどう,もも,りんご

	殺菌剤・殺虫剤	掲載作物名
190	テルスター水和剤	きく
191	テロン	きく
192	トアローフロアブルCT	野菜類
193	トアロー水和剤CT	ストック,樹木類(つばき類を除く),野菜類(パセリ,えごま(葉)を除く)
194	トースヤスフロアブル	トマト
195	トキリンフロアブル	なし,ぶどう,りんご
196	トクチオン細粒剤F	らっきょう
197	トクチオン乳剤	かき,きく,キャベツ,くり
198	トップジンMゾル	小麦,麦類(小麦を除く)
199	トップジンMペースト	いちじく,かき,かんきつ,キウイフルーツ,きゅうり,くり,さくら,なし,ぶどう,メロン,もも,りんご,樹木類,小粒核果類
200	トップジンM水和剤	いちじく,かき,キウイフルーツ,きく,キャベツ,きゅうり,くり,ぶどう,みかん,もも,もも(苗木),ゆり,りんご,レタス,花き類・観葉植物(トルコギキョウを除く),樹木類,小麦,小粒核果類,麦類(小麦を除く)
201	トップジンM粉剤DL	小麦,麦類(小麦を除く)
202	トップジンスタークル粉剤DL	稲
203	トライレボンプ粉剤DL	稲
204	トライロアブル	だいず,稲
205	トラスイドA乳剤	くり,ぶどう
206	トランスフォームフロアブル	トマト,なし,りんご
207	トリガード液剤	花き類・観葉植物
208	トリフィン水和剤	いちじく,いちじく,きく,きゅうり,すいか,すもも,トマト,なし,なす,ねぎ,ピーマン,ぶどう,ミニトマト,メロン,もも,らっきょう,りんご,樹木類(しきみを除く),麦類
209	トリフィン乳剤	きく
210	トルネットエースDF	だいこん,なす
211	トレノックスフロアブル	すもも,なし,もも,りんご,花き類・観葉植物(りんどうを除く)
212	トレボンプスターフロアブル	稲
213	トレボンプ乳剤	かんきつ,かんしょ,キャベツ,さといも,さといも(葉柄),だいず,とうもろこし,トマト,トルコギキョウ,やまのいも,ゆり,樹木類(つつじ類・ボインセチア・ソテツを除く)
214	トレボンプ粉剤DL	豆類(種実),稲
215	トレボンプ粒剤	稲
216	トローロール	きく,ストック,花き類・観葉植物
217	ナエファインフロアブル	稲(箱育苗)
218	ナメクリン3	花き類・観葉植物
219	ナリアWDG	うめ,かき,キウイフルーツ,すもも,なし,もも,りんご
220	ニツラン水和剤	いちじく,なし,ぶどう,りんご,花き類・観葉植物
221	ニマイパー水和剤	すいか,トマト
222	ネクリエースK	キャベツ,だいこん
223	ネクリベイト	花き類・観葉植物
224	ネクスターフロアブル	かき,キャベツ,トマト,なし,りんご,小粒核果類
225	ネビジン粉剤	かぶ,はくさい
226	ネマキック粒剤	さといも,にんじん,メロン
227	ネマクリン粒剤	さといも,だいこん,にんじん
228	ネマトリンエース粒剤	いちじく,きく,らっきょう
229	ノーマルト乳剤	キャベツ,ストック,なす,はくさい,ブロッコリー,ほうれんそう,みかん,花き類・観葉植物
230	ノーマチオン水和剤	かき,くり,だいず,なし
231	ノームイト水溶剤	野菜類
232	ノイキパー水和剤	野菜類(かぼちゃ,ズッキーニを除く)
233	ノイセーフ	いちじく,果樹類
234	ノクサップ水和剤	キャベツ,だいこん,なす,はくさい,ブロッコリー
235	ノシタック水和剤75	きく,きゅうり,すいか,だいこん,トマト,なし,ほうれんそう,ミニトマト,花き類,野菜類
236	ノシックス水和剤	さくら,樹木類
237	ノスアミド微粒剤	きく,ストック,花き類・観葉植物

	殺菌剤・殺虫剤	掲載作物名
238	パ°スポ°ト顆粒水和剤	なし
239	パ°ダン°SG水溶剤	かき,柿,イチゴ,キャベツ,くり,だいこん,はくさい,ブ°ロココリ,稲,大粒種ぶどう
240	パ°ダン°粒剤4	稲
241	ハチハチフロアブル	すもも,なし,もも,花き類・観葉植物
242	ハチハチ乳剤	かぶ,きく,ねぎ
243	パ°ツチレート	なし,りんご
244	ハッパ°乳剤	きゅうり
245	パ°リアート°顆粒水和剤	うめ,りんご
246	パ°リダ°シン液剤5	うめ,すもも,はくさい,もも,メロン,稲
247	パ°リダ°シン粉剤DL	だいこん,ばれいしょ,稲
248	パ°ルミノ	なす
249	パ°レード°15フロアブル	なし,りんご,小粒核果類
250	パ°レード°20フロアブル	キャベツ,すいか,トマト,ねぎ,メロン
251	パ°ロックフロアブル	いちじく,すいか,なし,なす,りんご,花き類・観葉植物,樹木類
252	パ°ンチョ°TF顆粒水和剤	かぼちゃ,きゅうり,すいか,メロン,花き類・観葉植物
253	ビ°ムエイトEXゾル	稲
254	ビ°ムエイトエクスト°ゾル	稲
255	ビ°ムエイトスタークルゾル	稲
256	ビ°ムエイトモンカットフロアブル	稲
257	ビ°ムスタークル粉剤5DL	稲
258	ビ°ラム粒剤	さといも,だいこん,にんじん
259	ビ°クシオDF	トマト
260	ビ°シロックフロアブル	さといも,だいこん,ほうれんそう,鱗茎類
261	ビ°ラニカEW	きく,さといも,花き類・観葉植物(カーネーション,きくを除く)
262	ビ°ラニカ水和剤	なし,みかん,りんご
263	ビ°リカット乳剤	きく
264	ファインセーブ°フロアブル	きく,ねぎ
265	ファンタジ°スタフロアブル	だいず
266	ファンタジ°スタ顆粒水和剤	トマト,なし,ブ°ロココリ,りんご
267	ブ°ンアレス箱粒剤	稲
268	フェスティバルC水和剤	だいず
269	フェスティバル水和剤	ほうれんそう
270	フェニックスフロアブル	うめ,柿,イチゴ,くり,すもも,なし,ぶどう,もも,りんご
271	フェニックス顆粒水和剤	きく,キャベツ,すいか,だいこん,りんご,花き類・観葉植物(きく,りんどうを除く)
272	フェロデ°インSL	そば
273	フォース粒剤	かぶ,かんしょ,だいこん,らっきょう,非結球あぶらな科葉菜類(からしなを除く)
274	フォリオゴ°ールト°	すいか,らっきょう
275	ブ°ラシンフロアブル	稲
276	ブ°ラシン粉剤DL	稲
277	ブ°リロッソ粒剤オメガ°	トマト,ねぎ,メロン
278	フルツセイバ°	なし,ぶどう,もも,りんご,小粒核果類
279	フルビ°かくん煙剤	きゅうり
280	フルビ°カフロアブル	いちご,きゅうり,スターチス,トマト,ぶどう,ゆり,花き類・観葉植物(ばら,スターチス,宿根かすみそう,ゆり,りんどうを除く)
281	ブ°レオフロアブル	キャベツ,さといも,だいこん,はくさい,ブ°ロココリ,花き類・観葉植物
282	ブ°レバ°ソソフロアブル5	キャベツ,さといも,だいず,ねぎ,はくさい,ブ°ロココリ
283	ブ°ロバ°ティフロアブル	なす
284	ブ°ロレアSC	キャベツ
285	ブ°ロボ°ース°顆粒水和剤	きゅうり,ねぎ
286	ブ°ロソサイト°SC	かんきつ,柿,イチゴ,なし,りんご
287	ブ°ロソサイト°水和剤	ばれいしょ,ゆり,らっきょう

	殺菌剤・殺虫剤	掲載作物名
288	フロンサイト [®] 粉剤	かぶ,はくさい,ばれいしよ,レタス
289	ベジセイバー	きゅうり,ねぎ,メロン
290	ベストガード [®] 水溶剤	きゅうり,なし,なす,花き類・観葉植物(ばら,きくを除く)
291	ベストガード [®] 粒剤	きく,すいか,トマト,ミニトマト,メロン,花き類・観葉植物(きく,きんせんかを除く)
292	ベストファイター [®] 顆粒水和剤	きゅうり,たまねぎ,メロン,らっきょう
293	ベネット水和剤	さといも
294	ベネビアOD	キャベツ,きゅうり,だいこん,だいず,トマト,にんじん,ねぎ,ブロッコリー,未成熟とうもろこし
295	ベランティーフアンプル	なし
296	ベリマークSC	キャベツ,トマト,ねぎ,はくさい,ミニトマト,レタス
297	ベルクート70アンプル	うめ,くり,すもも,なし,もも,やまのいも,りんご
298	ベルクート水和剤	うめ,かき,キウフルーツ,すいか,なし,りんご
299	ベソコゼフ [®] 水和剤	樹木類
300	ベソレトコート	小麦,大麦
301	ベソレトT水和剤20	かんしょ,さといも,らっきょう,稲,小麦,大麦
302	ベソレト水和剤	いちご,いちじく,かき,かんしょ,キウフルーツ,きゅうり,くり,はくさい,ぶどう,みかん,らっきょう,りんご,レタス,稲(箱育苗),非結球あぶらな科葉菜類(みずな,チンゲンサイを除く)
303	ホマイ水和剤	すいせん,ゆり,稲,花き類,小麦,麦類(小麦を除く)
304	ボトクラ [®] 水和剤	野菜類(トマトを除く)
305	ホライズント [®] ライフアンプル	すいか,ぶどう
306	ボリキシンAL水溶剤	ゆり,花き類・観葉植物
307	ボリキシンAL水和剤	いちご,トマト,にんじん
308	ボリン水和剤	うめ,すいか,スターチス,ストック,なし,なす,ぶどう,花き類・観葉植物(ストック,スターチス,チュリップ,ばら,クルクマ,きくを除く)
309	マイコシールド [®]	うめ,すもも,もも
310	マイトコーネフアンプル	いちご,いちじく,さといも,ぶどう,もも,りんご,小粒核果類
311	マスタビース水和剤	キャベツ,ブロッコリー,もも,小粒核果類
312	マッチ乳剤	キャベツ,トマト,みかん,花き類・観葉植物(きくを除く)
313	マトリック70アンプル	キャベツ,だいこん,だいず,トマト,なし,なす,ミニトマト
314	マネージ [®] 乳剤	きく
315	マブリック水和剤20	うめ,キウフルーツ,くり,すいか,ストック,トルコギキョウ,なす,みかん,もも,りんご
316	マラソン乳剤	あずき,いちご,かぶ,かぼちゃ,きゅうり,だいこん,だいず,トマト,なす,にんじん,はくさい,ビーマン,ぶどう,ほうれんそう,メロン,もも
317	マラソン乳剤50	かぶ
318	マラソン粉剤3	あずき,かぼちゃ,だいず
319	ミキ72070アンプル	なし,小粒核果類
320	ミネトエクストラSC	だいず
321	ミネトデュオ粒剤	ねぎ
322	ミラビース70アンプル	大麦
323	ムッシュボルト [®] -DF	キウフルーツ,すもも,ぶどう,もも,小粒核果類(すももを除く)
324	メジャー70アンプル	ねぎ
325	モスピランジェット	花き類・観葉植物(トルコギキョウを除く)
326	モスピラン粒剤	きく,キャベツ,すいか,ストック,ブロッコリー
327	モスピラン顆粒水溶剤	いちじく,うめ,かき,かぶ,かんきつ,キウフルーツ,きゅうり,くり,すもも,たまねぎ,なし,なす,ぶどう,もも,りんご,花き類・観葉植物(ストック,りんどうを除く)
328	モント70アンプル	かんきつ,キャベツ,すいか,なす,もも,小粒核果類
329	モリガード [®] C・DF	稲
330	モリガード [®] C水和剤	稲
331	モリスタン水和剤	いちご,かぼちゃ,きゅうり,すいか,トマト,なす,ビーマン,メロン,花き類・観葉植物(カーネーションを除く)
332	モンカッタ70アンプル40	花き類・観葉植物
333	モンカッタ水和剤	花き類
334	モンカッタ粒剤	ねぎ,稲
335	モンガリット粒剤	ねぎ

	殺菌剤・殺虫剤	掲載作物名
336	エニックス顆粒水和剤47	なし,りんご
337	ヨハールシート FS	稲(乾田直播水稻を除く)
338	ヨハールフロアブル	だいず,ねぎ
339	ヨネン水和剤	キャベツ,たまねぎ,ねぎ,ブロッコリー
340	ラグビ-MC粒剤	ねぎ
341	ラノテープ	花き類・観葉植物(施設栽培),野菜類(施設栽培)
342	ラフサイト K2フロアブル	稲
343	ラフサイト ダントツフロアブル	稲
344	ラリ水和剤	いちじく,きゅうり,ねぎ
345	ラリ乳剤	きく
346	ランネット45DF	いちご,キャベツ,だいこん,たまねぎ,にんじん,ねぎ,はくさい,ビーマン(露地栽培),ブロッコリー
347	ランマンフロアブル	いちじく,キャベツ,きゅうり,さといも,はくさい,ぶどう,ブロッコリー
348	リーファード 顆粒水和剤	ねぎ
349	リゾレックス水和剤	ばれいしょ,花き類・観葉植物
350	リゾレックス粉剤	花き類・観葉植物
351	リトミルコート MZ	きゅうり,たまねぎ,ねぎ
352	リョーガフェルテラ粒剤	稲(箱育苗)
353	リンパ粒剤	稲
354	ルチンシート FS	稲
355	ルチン粒剤	稲
356	ルミビアFS	稲(箱育苗)
357	レシード プラス箱粒剤	稲
358	ロティ水和剤	すもも
359	ロティ乳剤	なす,ビーマン,もも,花き類・観葉植物
360	ロビンソフト	りんご
361	ロワラル水和剤	いちご,うめ,キウフルーツ,きゅうり,すいか,スターチス,すもも,たまねぎ,トマト,なし,なす,ビーマン,ぶどう,メロン,もも,らっきょう,レタス,未成熟そらまめ
362	ロムダンフロアブル	そば
363	ロムダン粉剤DL	そば
364	ワークアップフロアブル	麦類
365	ワークアップ 粉剤DL	麦類
366	ワイドハンチ豆つぶ	稲
367	園芸ボルト	トマト
368	園芸用キンチョールE	いちじく
369	粘着くん液剤	花き類・観葉植物,野菜類
370	箱いり娘粒剤	稲,湛水直播水稻

掲載農薬一覧※RPAページのみ

(除草剤)

	除草剤	移植/直播
1	アーケ-ス1キロ粒剤	移植
2	アカツキ1キロ粒剤	移植,直播
3	アカツキジ ャンボ	移植,直播
4	アカツキフロアブル	移植,直播
5	アクス MX1キロ粒剤	移植,直播
6	アクス MXエア-粒剤	移植
7	アクス MXジ ャンボ	移植
8	アシュラ1キロ粒剤	移植,直播
9	アシュラ400FG	移植,直播
10	アシュラジ ャンボ	移植,直播
11	アシュラフロアブル	移植,直播
12	アトカラジ ャンボ MX	移植,直播
13	アトリ1キロ粒剤	移植
14	アトリ豆つぶ250	移植
15	アネシ1キロ粒剤	移植
16	アピ ログ ロウMX1キロ粒剤	移植
17	アピ ロファースト1キロ粒剤	直播
18	アレイルSC	移植,直播
19	イネキング 1キロ粒剤	移植,直播
20	イネゼ ットEW	移植
21	イネヒーロー1キロ粒剤	移植
22	イネヒーローエア-粒剤	移植
23	イネヒーロージ ャンボ	移植
24	イネリーグ 1キロ粒剤	移植,直播
25	イネリーグ ジ ャンボ	直播
26	イネリーグ フロアブル	直播
27	イーバ ワンフロアブル	移植
28	ウィート コア1キロ粒剤	移植,直播
29	ウィート コア200SD粒剤	移植
30	ウィート コアジ ャンボ SD	移植
31	ウイニング ラン1キロ粒剤	移植
32	ウルティモZ1キロ粒剤	移植,直播
33	ウルティモZジ ャンボ	移植,直播
34	ウルティモZフロアブル	移植,直播
35	エンペ ラー1キロ粒剤	移植,直播
36	エンペ ラージ ャンボ	移植,直播
37	エンペ ラーフロアブル	移植,直播
38	エンペ ラー豆つぶ250	移植,直播
39	オサキ1キロ粒剤	直播
40	カイシMF1キロ粒剤	直播

	除草剤	移植/直播
41	カウンスルエナジ -1キロ粒剤	移植,直播
42	カウンスルエナジ -ジ ャンボ	移植,直播
43	カウンスルエナジ -フロアブル	移植
44	カウンスルコンプ リート1キロ粒剤	移植,直播
45	カウンスルコンプ リートジ ャンボ	移植,直播
46	カウンスルコンプ リートフロアブル	移植,直播
47	カウンスルワンフロアブル	移植
48	カチド キZ楽粒	移植
49	かねつぐ1キロ粒剤	移植
50	カラット1キロ粒剤	直播
51	カラット400FG	直播
52	カラットジ ャンボ	直播
53	カンガ ン1キロ粒剤	移植,直播
54	カンガ ンジ ャンボ	移植,直播
55	カンガ ン豆つぶ250	移植,直播
56	キラリ1キロ粒剤	移植,直播
57	キラリ400FG	移植,直播
58	キラリフロアブル	移植,直播
59	クラーEW	移植
60	グ ランクロスジ ャンボ	移植
61	グ ランクロスZ1キロ粒剤	移植
62	クリンチャー1キロ粒剤	移植,直播
63	クリンチャーEW	移植,直播
64	クリンチャージ ャンボ	移植
65	クリンチャーハ スME液剤	移植,直播
66	ゲバート 1キロ粒剤	移植,直播
67	ゲバート キア1キロ粒剤	移植
68	ゲバート ジ ャンボ	移植,直播
69	ゴ エモン1キロ粒剤	移植,直播
70	ゴ エモンジ ャンボ	移植,直播
71	ゴ エモンフロアブル	移植,直播
72	コメット1キロ粒剤	移植,直播
73	コメットジ ャンボ	移植
74	コメット顆粒	移植,直播
75	サカケ楽粒	移植
76	サスケ粒剤200	移植
77	サラブ レッド GO1キロ粒剤	直播
78	サラブ レッド GO400FG	直播
79	サラブ レッド GOジ ャンボ	直播
80	サラブ レッド GOフロアブル	直播

	除草剤	移植/直播
81	サラブレット KA11キロ粒剤	移植
82	サラブレット RX70アンプル	移植,直播
83	シアケ MF1キロ粒剤	移植,直播
84	ジエイソウル1キロ粒剤	移植,直播
85	ジエイソウルジヤンボ	移植,直播
86	ジエイソウル70アンプル	移植,直播
87	ジエイフレント 1キロ粒剤	移植,直播
88	ジエイフレント 400FG	移植,直播
89	ジエイフレント ジヤンボ	移植,直播
90	ジエイフレント 70アンプル	移植,直播
91	ジカマック500グラム粒剤	直播
92	シグナス1キロ粒剤	移植,直播
93	シグナスジヤンボ	移植,直播
94	シグナス70アンプル	移植,直播
95	ジヤスタ1キロ粒剤	移植,直播
96	ジヤンダールMX1キロ粒剤	移植
97	ジヤンダールMX豆つぶ250	移植
98	シュナイテ ン1キロ粒剤	移植,直播
99	シュナイテ ンジヤンボ	移植,直播
100	シュナイテ ン70アンプル	移植,直播
101	シグ 乳剤	移植
102	シグキ1キロ粒剤	移植
103	シグキジヤンボ	移植
104	シグキ70アンプル	移植
105	シンス イZ1キロ粒剤	移植,直播
106	シンス イ70アンプル	移植,直播
107	シンス イ豆つぶ250	移植,直播
108	ストレング ス1キロ粒剤	移植,直播
109	セイテン1キロ粒剤	移植
110	ゼータジヤカ ー1キロ粒剤	移植,直播
111	ゼータジヤカ ージヤンボ	直播
112	ゼータジヤカ ー70アンプル	直播
113	ゼータタイガ ー1キロ粒剤	移植,直播
114	ゼータタイガ ー300FG	移植,直播
115	ゼータタイガ ージヤンボ	移植,直播
116	ゼータタイガ ー70アンプル	移植,直播
117	ゼータハンマー1キロ粒剤	移植
118	ゼータブラス1キロ粒剤	移植,直播
119	ゼータブラス200FG	直播
120	ゼータブラスジヤンボ	移植,直播

	除草剤	移植/直播
121	ゼータブラス70アンプル	移植,直播
122	セカント ショットSジヤンボ MX	移植,直播
123	ソルネット1キロ粒剤	移植
124	ダフルスター-SB顆粒	移植,直播
125	ダックショットジヤンボ SD	移植,直播
126	ダックショット70アンプル	移植,直播
127	ツイゲ キ1キロ粒剤	移植,直播
128	ツイゲ キ豆つぶ250	移植,直播
129	ツルキ 250粒剤	移植,直播
130	ツルキ ジヤンボ	移植,直播
131	デオレ1キロ粒剤	移植,直播
132	デオレジヤンボ	移植,直播
133	デオレ70アンプル	移植,直播
134	デオレ顆粒	移植,直播
135	テッケン1キロ粒剤	移植,直播
136	テッケンジヤンボ	移植,直播
137	テッシン1キロ粒剤	移植,直播
138	トメMF1キロ粒剤	移植,直播
139	トメMF乳剤	移植,直播
140	トメハ MF液剤	移植,直播
141	トニチS1キロ粒剤	移植,直播
142	ドリフ1キロ粒剤	移植,直播
143	ニトリユウ1キロ粒剤	移植,直播
144	ニトリユウジヤンボ	移植,直播
145	ノックアウト薬粒	移植,直播
146	ノブレット乳剤	移植,直播
147	ノミニ液剤	移植
148	ハイスコープ 1キロ粒剤	移植,直播
149	ハサグ ラン・エア-1キロ粒剤	移植
150	ハサグ ラン液剤(ナトリウム塩)	移植,直播
151	ハサグ ラン粒剤(ナトリウム塩)	移植,直播
152	ハッチリ1キロ粒剤	移植,直播
153	ハッチリ400FG	移植,直播
154	ハッチリLX1キロ粒剤	移植,直播
155	ハッチリLX400FG	移植,直播
156	ハッチリLXジヤンボ	移植,直播
157	ハッチリジヤンボ	移植,直播
158	ハッチリ70アンプル	移植,直播
159	ハットウZ1キロ粒剤	移植,直播
160	ハットウZジヤンボ	直播

	除草剤	移植/直播
161	ハットウZ70アブル	移植,直播
162	ヒエクッパ エース1キロ粒剤	移植
163	ヒエクリン1キロ粒剤	移植,直播
164	ヒエクリンパ サラン粒剤	移植,直播
165	ヒエクリン豆つぶ250	移植,直播
166	ビクトリー-Z400FG	移植,直播
167	ビクトリー-Zジヤンボ	移植,直播
168	ビクトリー-Z70アブル	移植,直播
169	ビラクロン70アブル	移植
170	ブイコールSM1キロ粒剤	移植
171	フルイニング スカイ500グラム粒剤	移植
172	フルスコアZ1キロ粒剤	移植
173	フルスコアZジヤンボ	移植
174	フルチャージジヤンボ	移植,直播
175	フルパワー-MXジヤンボ	移植,直播
176	プレキープ1キロ粒剤	直播
177	プレキープ70アブル	直播
178	ペクサー70アブル	移植
179	ペックク1キロ粒剤	移植,直播
180	ペッククジヤンボ	移植,直播
181	ペルガ1キロ粒剤	移植,直播
182	ペルガジヤンボ	移植,直播
183	ペルガ豆つぶ250	移植,直播
184	ホットコンビ200粒剤	移植
185	ホットコンビジヤンボ	移植
186	ボテ-ガードプロ1キロ粒剤	移植,直播
187	ボテ-ガードプロジヤンボ	移植,直播
188	ボテ-ガードプロ70アブル	移植,直播
189	ボランティアジヤンボ	移植,直播
190	マーシェットジヤンボ	移植
191	マイティワン70アブル	移植
192	マスラオ1キロ粒剤	移植,直播
193	マスラオジヤンボ	移植,直播
194	マスラオ70アブル	移植,直播
195	マツタブジヤンボ	移植
196	メカセ-タ1キロ粒剤	移植,直播
197	メカセ-タ400FG	移植,直播
198	メカセ-タジヤンボ	移植,直播
199	メカセ-タ70アブル	移植,直播
200	メオ1キロ粒剤	移植

	除草剤	移植/直播
201	メオジヤンボ	移植
202	メオ70アブル	移植
203	モク トン粒剤	移植,直播
204	ライジンパワージヤンボ	移植,直播
205	フォウ1キロ粒剤	移植,直播
206	レオセ-タ1キロ粒剤	移植,直播
207	レオセ-タ70アブル	移植,直播
208	レプラス1キロ粒剤	移植,直播
209	レプラスキア1キロ粒剤	移植
210	レプラスジヤンボ	移植,直播
211	ロイヤント乳剤	移植,直播
212	ワイドアタックSC	移植,直播
213	ワイドパワー粒剤	移植,直播
214	ワザアリ楽粒	移植
215	ワンステージ1キロ粒剤	移植,直播
216	銀河1キロ粒剤	移植,直播
217	銀河ジヤンボ	移植
218	先陣200FG	移植
219	先陣ジヤンボ	移植
220	兆70アブル	移植
221	天空1キロ粒剤	移植,直播
222	天空ジヤンボ	移植,直播
223	天空70アブル	移植,直播
224	忍1キロ粒剤	移植,直播
225	忍ジヤンボ	移植,直播
226	忍70アブル	移植,直播
227	流星1キロ粒剤	移植,直播
228	流星ジヤンボ	移植,直播
229	流星70アブル	移植,直播
230	粒状水中MCP	

福井県特別栽培農産物栽培基準において使用回数にカウントしない農薬

福井県特別栽培農産物栽培基準において、節減対象農薬とは化学合成された農薬を示し、使用回数にカウントしない農薬は下記1～3の有機農産物の生産を行う中で使用が認められている「有機農産物の日本農林規格」の別表2に掲げる農薬、化学合成でない認められた農薬および展着剤とする。

1. 有機農産物の日本農林規格 別表2

農 薬	基 準
除虫菊乳剤及びピレトリン乳剤	除虫菊から抽出したものであって、共力剤としてピペロニルブトキサイドを含まないものに限ること。
なたね油乳剤	
マシン油エアゾル	
マシン油乳剤	
デンブン水和剤	
脂肪酸グリセリド乳剤	
メタルデヒド粒剤	捕虫器に使用する場合に限ること。
硫黄くん煙剤	
硫黄粉剤	
硫黄・銅水和剤	
水和硫黄剤	
石灰硫黄合剤	
シイタケ菌糸体抽出物液剤	
炭酸水素ナトリウム水溶剤及び重曹	
炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	
銅水和剤	
銅粉剤	
硫酸銅	ボルドー剤調製用を使用する場合に限ること。
生石灰	ボルドー剤調製用を使用する場合に限ること。
天敵等生物農薬	
天敵等生物農薬・銅水和剤	
性フェロモン剤	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
クロレラ抽出物液剤	
混合生薬抽出物液剤	
ワックス水和剤	
展着剤	カゼイン又はパラフィンを有効成分とするものに限ること。
二酸化炭素くん蒸剤	保管施設で使用する場合に限ること。
ケイソウ土粉剤	保管施設で使用する場合に限ること。
食酢	
磷酸第二鉄粒剤	
炭酸水素カリウム水溶剤	
炭酸カルシウム水和剤	銅水和剤の薬害防止に使用する場合に限ること。
ミルベメクチン乳剤	
ミルベメクチン水和剤	
スピノサド水和剤	
スピノサド粒剤	
還元澱粉糖化物液剤	

2. 化学合成でない認められた農薬

農 薬
カスガマイシン剤
ポリオキシシン剤
バリダマイシン剤
ストレプトマイシン剤
オキシテトラサイクリン剤

※認証区分①では使用できない。

3. 展着剤

展着剤は使用回数に含めないが、化学合成された展着剤は認証区分①では使用できない。

FRACコード表日本版(2024年4月)



FRACコード表(1)

作用機構	作用点	グループ名	化学グループ名	有効成分名	農薬名(例)	殺菌剤の耐性リスク・備考	FRACコード			
A: 核酸合成代謝	RNAポリメラーゼI	PA殺菌剤 (フェニルアミド)	アシルアラニン	メタラキシル メタラキシルM	リドミル サブデューマックス	高/複数の耐性卵菌が発生。	4			
	DNA/RNA 合成 (提案中)	芳香族ヘテロ環	イソキサゾール	ヒドロキシイソキサゾール	タチガレン	耐性菌未発生。	32			
	DNAトポイソメラーゼ タイプ II (ジャイレース)	カルボン酸	カルボン酸	オキソリニック酸	スターナ	不明/耐性菌発生。	31			
	デノボリミジン合成におけるジヒドロ オロト酸デヒドロゲナーゼ阻害	DHODH阻害剤	フェニルプロパノール	イブフルフェノキン	ミギワ	中~高	52			
B: 細胞骨格と モータータンパク質	チューブリン重合	MBC殺菌剤 (メチルベンゾイミダゾールカー バメート)	ベンゾイミダゾール	ベノミル	ベンレート	高/広範囲の耐性菌が発生。 グループ内で交差耐性がある。 N-フェニルカーバメートと負相関交 差耐性がある。	1			
		チオファネート	チオファネート	チオファネート メチル	トップジンM					
		N-フェニルカーバメート	N-フェニルカーバメート	ジエトフェンカルブ	スミブレンド、ゲッター、 フライア、ニマイバーの成分	高/耐性菌発生。MBC殺菌剤 と負相関交差耐性がある。	10			
	チアゾールカルボキサミド	エチルアミノチアゾールカルボキサミド	エタボキサム	エトフィン	低~中	22				
	細胞分裂(作用点不明)	フェニルウレア	フェニルウレア	ベンシクロン	モンセレン	耐性菌未発生。	20			
	スペクトリン様タンパク質の非局在化	ベンズアミド	ピリジニルメチルベンズアミド	フルオピコリド	ジャストフィット、リライアブルの成 分	中/欧州においてフトウベと病 の耐性菌が発生。	43			
アクチン/ミオシン/フィンリン機能	アリルフェニルケテン	ベンゾイルピリジン	ピリオフェノ	クロスアウト、カッシーニ	中/耐性うどんこ菌発生。	50				
チューブリン ダイナミクスモジュレーター	ピリダジン類	ピリダジン	ピリダクロメチル	フセキ	高	53				
C: 呼吸	複合体I NADH酸化還元酵素	ピリミジンアミン	ピリミジンアミン	ジフルメトリム	ピリカット	耐性菌未発生。	39			
		ピラゾールカルボキサミド	ピラゾールカルボキサミド	トルフェンピラド	ハチハチ					
	複合体II コハク酸脱水素酵素	SDHI殺菌剤 (コハク酸脱水素酵素阻害剤)	フェニルベンズアミド	フェニルベンズアミド	フルトラニル メフロニル	モンカット バシタック				
			フェニルオキシエチルチオフェンアミド	フェニルオキシエチルチオフェンアミド	イソフェタミド	ケンジャ				
			ピリジニルエチルベンズアミド	ピリジニルエチルベンズアミド	フルオピラム	オルフィン				
			チアゾールカルボキサミド	チアゾールカルボキサミド	チフルザミド	グレータム				
			ピラゾール-4-カルボキサミド	ピラゾール-4-カルボキサミド	フルキサピロキサド フラメトビル インビルフルキサム イソピラザム ベンフルフェン ペンチオピラド セダキサム	イントレックス、ロンセラ リンパー カナメ、ミリオネア、モンガレス ネクスター エパーゴル アフエト、フルーツセイバー ビフランスの成分	中~高/複数の耐性菌が発生。	7		
			N-メトキシフェニルエチルピラゾールカル ボキサミド	N-メトキシフェニルエチルピラゾールカル ボキサミド	ビジフルメフェン	ミラビス				
			ピリジニルカルボキサミド	ピリジニルカルボキサミド	ボスカリド	カンタス				
			ピラジニルカルボキサミド	ピラジニルカルボキサミド	ピラジフルミド	パレード				
			複合体III ユビキノリン酸化酵素 Qo部位	QoI殺菌剤 (Qo阻害剤)	メトキシアクリレート	メトキシアクリレート	アゾキシストロビン ピコキシストロビン	アミスター メジャー		
			メトキシセトアミド		メトキシセトアミド	マンデストロビン	スクレア			
	メトキシカーバメート	メトキシカーバメート	ピラクストロビン		ナリア、シグナムの成分					
	オキシイミノ酢酸	オキシイミノ酢酸	クレスキシメチル トリフロキシストロビン		ストロビー フリント	高/複数の耐性菌が発生。グ ループ内で交差耐性がある。	11			
	オキシイミノアセトアミド	オキシイミノアセトアミド	オキシイミノアセトアミド		オリブライト、イモチエース					
	オキサソリジンジオン	オキサソリジンジオン	ファモキサドン		ホライズンの成分					
	ジヒドロジオキサジン	ジヒドロジオキサジン	フルオキサストロビン		ディスアーム					
ベンジルカーバメート	ベンジルカーバメート	ピリベンカルブ	ファンタジスタ							
テトラゾリノン	テトラゾリノン	メチルテトラプロール	ムケツ	高/耐性菌未発生。3-OT 11の G143A突然変異株とは交差し ない。	11A					
複合体III ユビキノリン還元酵素 Qi 部位	QiI殺菌剤 (Qi阻害剤)	シアノイミダゾール	シアゾファミド	ランマン	不明であるが中~高と推測。	21				
酸化的リン酸化の脱共役		スルファモイルトリアゾール	アミスプロム	ライメイ、オラクル						
複合体III ユビキノリン還元酵素 (Qi, Qo部位、スチグ マテリン結合様式)	Qi/SI殺菌剤 (Qi, Qo阻害剤)	2,6-ジニトロアニリン	フルアジナム	フロンサイド	低/耐性灰色かび菌が発生 。	29				
		トリアゾロピリミジンアミン	アマトラジン	ザンプロ	QoIとは交差しない。耐性リ スクは中~高と推測。	45				
D: アミノ酸および タンパク質合成	メチオニン合成 (提案中)	AP殺菌剤 (アニリノピリミジン)	アニリノピリミジン	シプロジニル メハニビルム	ユニックス フルビカ	中/耐性灰色かび菌と黒星 病菌が発生。	9			
	タンパク質合成 (リボソーム 翻訳開始 段階)	ヘキサピラノシル抗生物質	ヘキサピラノシル抗生物質	カスガマイシン	カスミン	中/ 耐性糸状菌、細菌が発生。	24			
		グルコピラノシル抗生物質	グルコピラノシル抗生物質	ストレプトマイシン	アグレプト、ストマイ、 ヒトマイシン、マイシン	高/細菌病防除剤。耐性菌が 発生。	25			
タンパク質合成 (リボソーム ポリペプ チド伸長段階)	テトラサイクリン抗生物質	テトラサイクリン抗生物質	オキシテトラサイクリン	マイシールド	高/細菌病防除剤。耐性菌が 発生。	41				
E: シグナル伝達	浸透圧シグナル伝達におけるMAP・ヒス チンキナーゼ(os-2, HOG1)	PP殺菌剤 (フェニルピロール)	フェニルピロール	フルジオキニル	セイビアー	低~中	12			
	浸透圧シグナル伝達におけるMAP・ヒス チンキナーゼ(os-1, Draf1)	ジカルボキシイミド	ジカルボキシイミド	イブロジオン プロシミド	ロブラール スミレックス	中~高	2			
F: 脂質合成 または輸送/ 細胞膜の構造 または機能	リン脂質合成、メチルトランスフェラー ゼ	ジチオラン	ジチオラン	イソプロチオラン	フジワン	低~中/グループ内で交差耐性 あり。	6			
	細胞脂質の過酸化(提案中)	AH殺菌剤(芳香族炭化水素)	芳香族炭化水素	トルクロホスメチル	リゾレックス	低~中/複数の耐性菌が発 生。	14			
	細胞膜透過性、脂肪酸(提案中)	カーバメート	カーバメート	プロバモカルブ塩酸塩	プレビクールN	低~中	28			
	脂質恒常性および輸送/貯蔵	OSBPI オキシステロール結合 タンパク質阻害	ピベリジニルチアゾールイソキサゾール	オキサチアピロリン	ゾーベック エンカンティア、 ゾーベック エンテクタ等の成分	中~高と推測。	49			

記号と一桁の数字による組み合わせで、例えば'M1'に0を挿入して'M 01'のように表記することもあります。

FRAC CODE LISTより、国内で使用されている化学殺菌剤を抜粋しました[最新版はJ FRACホームページ(<https://www.jpca.or.jp/lab0/mechanism.html>)]に掲載。

FRACコード表 (2)

作用機構	作用点	グループ名	化学グループ名	有効成分名	農薬名(例)	耐性リスク備考	FRACコード		
G:細胞壁のステロール生成	ステロール生成におけるC14位の脱メチル化酵素	DMI殺菌剤(脱メチル化阻害剤)(SBI: クラス I)	ビベラジン	トリホリン	サブロール	中/グループ内で耐性差が大きい。複数の病原菌において耐性が発生している。DMI間で交差耐性が発生しているときのみならず、DMIと他のSBIは交差しない。	3		
				ピリミジン	フェナリモル			ルビゲン	
				イミダゾール	オキスポコナゾールフマル酸塩			オーシャイン	
			ペフラゾエート		ヘルシード				
			プロクロラズ		スポルタック				
			トリフルミゾール		トリフミン				
			トリアゾール	シプロコナゾール	センチネル				
				ジフェノコナゾール	スコア				
				フェンコナゾール	インダー、デビュー				
				ヘキサコナゾール	アンビル				
				イミベコナゾール	マネージ				
				イブコナゾール	テクリード				
メコナゾール	リベロ、ワークアップ								
マイクロタニル	ラリー								
プロピコナゾール	チルト								
シメコナゾール	サンリット、モンガリット								
テブコナゾール	シルバキュア、オンリーワン								
テトラコナゾール	サルハトール、ホクガード								
トリチコナゾール	フリート								
メフェントリフルコナゾール	ベランティー								
トリアゾリンチオン	プロチオコナゾール	プロライン							
ステロール生成のC4位脱メチル化における3-オキシ還元酵素	KRI殺菌剤(オキシ還元阻害剤)(SBI: クラスIII)	ヒドロキシアニリド	フェンヘキサミド	ハスワード	低~中	17			
			アミノピラゾリン	フェンピラザミン	ピクシオ				
			ステロール生成のスクワレンエポキシダーゼ	(SBI: クラス IV)	チオカーバメート	ピリプチカルブ	エイゲン	耐性菌未発生。	18
H:細胞壁生成	キチン生成酵素	ホリオキシシン	ペプチジルピリミジンヌクレオシド	ホリオキシシン	ホリオキシシン	中	19		
			セルロース生成酵素	CAA殺菌剤(カルボン酸アミド)	桂皮酸アミド	ジエトモルフ	フェスティバル	低~中/欧州においてアトウバと他の耐性菌が発生。グループ内で交差耐性がある。	40
I:細胞壁のメラニン生成	メラニン生成の還元酵素	MBI-R	イソベンゾフラン	フサライド	ラブサイド	耐性菌未発生。	16.1		
			ピロキノリン	ピロキロン	コラトップ				
			トリアゾロベンゾチアゾール	トリシクラゾール	ビーム				
I:細胞壁のメラニン生成	メラニン生成のポリケチド合成酵素	MBI-P	トリフルオロエチルカーバメート	トルプロカルブ	サンプラス、ゴウケツ	耐性菌未発生。細菌と糸状菌に対する宿主植物の抵抗性誘導活性もある。	16.3		
			P:宿主植物の抵抗性誘導	ベンゾチアアゾール(BTH)	ベンゾチアアゾール(BTH)	アシベンゾラリス-メチル	アクティガード	耐性菌未発生	P1
ベンゾイソチアアゾール	ベンゾイソチアアゾール	プロベナゾール			オリセメート	耐性菌未発生	P2		
チアアゾールカルボキサミド	チアアゾールカルボキサミド	チアジニル			ブイゲット	耐性菌未発生	P8		
イソチアアゾールカルボキサミド	イソチアアゾールカルボキサミド	イソチアニル			スタウト、ルーチン	耐性菌未発生			
ホスホナート	ホスホナート	エチルホスホナート	ホセチル	アリエッティ	低/耐性菌報告事例がわずかにある。	P7			
U:作用機構不明	不明	シアノアセトアミド=オキシム	シアノアセトアミド=オキシム	シモキサニル	カーゼート、プリザード等の成分	低~中	27		
			ベンゼンホルン酸	ベンゼンホルン酸	フルスルファミド	ネビジン、ネビリュウ	耐性菌未発生。	36	
			フェニルアセトアミド	フェニルアセトアミド	シフルフェナミド	パンチョ、コナケン	耐性うどんこ病菌発生。	U6	
			チアゾリジン	シアノメチレンチアゾリジン	フルチアニル	ガッテン	耐性うどんこ病菌発生。	U13	
			ピリミジンヒドラゾン	ピリミジンヒドラゾン	フェリムゾン	ブラシンの成分	耐性菌未発生。	U14	
			複合体III(結合部位不明)	4-キノリル酢酸	4-キノリル酢酸	テブフロキシン	トライ	QoIとは交差しない。耐性リスク不明。中と推測。	U16
			不明	テトラゾリルオキシム	テトラゾリルオキシム	ピカルトラゾクス	ピシロック、ナエファイン	耐性菌未発生。	U17
不明(トレハラーゼ阻害)	グルコピラノシル抗生物質	グルコピラノシル抗生物質	バリダマイシン	バリダシン	耐性菌未発生。トレハラーゼによる抵抗性誘導提案中。	U18			
未分類	不明	種々	種々	炭酸水素カリウム、炭酸水素ナトリウム、天然物起源	カリグリーン、ハーモメイト	耐性菌未発生。	NO		
M:多作用点接触活性化化合物	多作用点接触活性化化合物	無機化合物(求電子剤)	無機化合物	銅	Zボルドー、コサイド3000等	有機銅にも適用。	M1		
			無機化合物	硫黄	サルファー、イオウ等	M2			
		ジチオカーバメート(求電子剤)	ジチオカーバメート	マンゼブ	ジマンダイセン、ベンコゼブ	M3			
				マンネブ	エムダイファー				
				プロピネブ	アントラコール				
				チウラム	チウラム、チオノック、トレンノックス				
		フタルイミド(求電子剤)	フタルイミド	キャブタン	オースサイド	全般的に低リスクとみなしている。	M4		
		クロロニトリル(フタロニトリル)(作用点不明)	クロロニトリル(フタロニトリル)	TPN	ダコニール、バスボート	M5			
		ビスグアニジン(細胞膜機乱剤、界面活性剤)	ビスグアニジン	イミノクタジン酢酸塩	ペフラン	M7			
				イミノクタジンアルベシル酸塩	ベルコート				
		キノ(アントラキノン)(求電子剤)	キノ(アントラキノン)	ジチアノン	デラン	M9			
キノキサリン(求電子剤)	キノキサリン	キノキサリン系	モレスタン	M10					
マレイミド(求電子剤)	マレイミド	フルオリミド	ストライド	M11					

FRACコード表日本版(2024年4月)生物農薬抜粋



作用機構	作用点	グループ名	生物グループ名	有効成分名	農薬名(例)	殺菌剤の耐性リスク・備考	FRACコード
BM:複数の作用機構を有する生物製剤、または植物由来の代謝産物、またはこれらの合成物	複数の効果の報告がある(例、すべての生物農薬に適用しない)。殺菌、微生物寄生、抗生作用、殺菌リポペプチドによる細胞膜破壊、溶菌酵素、抵抗性誘導	微生物(生菌または抽出物、代謝産物)	糸状菌 <i>Trichoderma</i> spp.	トリコデルマ フトロビリデ SKT-1株	エコホープ	耐性菌未発生。	BM2
			糸状菌 <i>Coniothyrium</i> spp.	コニオチリウム ミニタンス CQN/IM/81-08 株	ミニタン	耐性菌未発生。	
			糸状菌 <i>Talaromyces</i> spp.	タラロマイセス フラバス SAY-Y-94-01株	タフバー、タフブロック	耐性菌未発生。	
			細菌 <i>Bacillus</i> spp.	パテルス アミロリクエファシエンス	インプレッションクリア	耐性菌未発生。	
				パテルス スプテリス GST-713株*	インプレッション、セシナーデ	耐性菌未発生。	
				パテルス スプテリス D747株*	エコシット	耐性菌未発生。	
				パテルス スプテリス MB1600株*	ポトキラー、ポトピカ	耐性菌未発生。	
				パテルス スプテリス Y1336株	バイオワーク、パチスター	耐性菌未発生。	
				パテルス スプテリス HAI-0404株	アグロケア	耐性菌未発生。	
			β(1,3)グルカン合成酵素およびキチン合成酵素の阻害とそれに伴う細胞壁合成の阻害、膜、膜機能、ミトコンドリアおよび酸化過程の破壊	植物または微生物由来の代謝産物、またはこれらの合成物	植物または他の生物)由来の分子または同一分子	シナムアルデヒド	
未分類	不明	微生物				細菌 <i>Lactobacillus</i> spp.	ラクトパテルス ブランタラム B1株
			細菌 <i>Pseudomonas</i> spp.	シロードモナス ロデシアHAI-0804株	マスナビース	耐性菌未発生。	

記号と桁の数字による組み合わせで、例えばBM2'に0を挿入してBM 02'のように標記することもあります。

FRAC CODE LISTIに記載の生物農薬を抜粋しました[最新版はJ FRACホームページ(<http://www.jcpa.or.jp/laboffrac/>)に掲載]。

*:現在はパテルス アミロリクエファシエンスで分類されていますが、登録時の分類で記載しています。

IRACコード表日本版(ver. 11.1)



IRAC殺虫剤作用機構分類を引用・改変(国内の食用作物登録剤、一部未登録農薬有)。

色分けは、その殺虫剤による発現症状、効果発現の速さおよび他の特性を判別するための一助として、作用機構と影響をうける生理機能のおおまかな分類とを関連付けたもので、抵抗性マネージメントの目的のためではない。抵抗性マネージメントのためのローテーションは、作用機構グループの番号にのみ基づくべきである。

主要作用機構グループと一次作用部位	サブグループ あるいは代表的有効成分	有効成分	農薬名(例) (剤型省略)	
1 アセチルコリンエステラーゼ(AChE)阻害剤 神経作用	1A カーバメート系	アラニカルブ	オリオン	
		ベンフラカルブ	オンコル	
		NAC(カルバリル)	デナボン	
		カルボスルファン	アドバンテージ、ガゼット	
		メゾミル	ランネート	
		オキサミル	バイデートL	
		チオジカルブ	リラーク	
		1B 有機リン系	アセフェート	オルトラン、ジェイエース、ジェネレート、スミフェート
			カズサホス	ラグビー
	クロルピリホス		ダースパン	
	GYAP(シアノホス)		サイアノックス	
	ダイアジノン		ダイアジノン	
	ジメエート		ジメエート	
	MEP(フェントロチオン)		スミチオン	
	ホスチアゼート		ネマトリン、ガードホープ	
	イミシアホス		ネマキック	
	イソキサチオン		カルホス、カルモック、ネキリエースK	
	2 GABA作動性塩化物イオン(塩素イオン)チャンネルブロッカー 神経作用	2A 環状ジエン有機塩素系		
			エチプロール	キラップ
2B フェニルピラゾール系(フィプロール系)		フィプロニル	プリンス	
		3A ピレスロイド系 ピレトリン系	アクリナトリン	アーデント
ピフェントリン			テルスター	
シフルトリン			バイスロイド	
シハロトリン			サイハロン	
シベルメトリン			アグロスリン、ゲットアウト	
エトフェンブロックス			トレボン	
フェンプロバトリン			ロディー	
フェンバレレート			ハクサップ、パーマチオン、ベジホン等の成分	
フルシトリン			ペイオフ	
フルバリネート(ε-フルバリネート)			マブリック	
ペルメトリン			アディオオン	
テフルトリン			フォーエス	
トラロメトリン			スカウト	
ピレトリン			バイベニカVスプレー	
3B DDT			メトキシクロル	
4 ニコチン性アセチルコリン受容体(nAChR)競合的モジュレーター 神経作用			4A ネオニコチノイド系	アセタミプリド
	クロチアニジン			ダントツ、ワンリード
	ジノテフラン	スタークル、アルバリン		
	イミダクロプリド	アドマイヤー		
	ニテンピラム	ベストガード		
	チアクロプリド	バリアード		
	チアメトキサム	アクタラ、クルーザー		
	4B ニコチン			
	4C スルホキシミジン系	スルホキサフロル	エクシード、トランスフォーム	
	4D プチノライド系	フルピラジフロル	シバント	
4E メノイオン系	トリフルメゾピリム	ゼクサロン、ルミスパンス		
	ジクロロメゾチアズ	フィールドマスト		
	フルピリミン	リディア、エミア		
4F	ピリジリデン系	フルピリミン	リディア、エミア	
5 ニコチン性アセチルコリン受容体(nAChR)アロステリックモジュレーター - 部位 I 神経作用	5 スピノシン系	スピネトラム	ディアナ、デリゲート	
		スピノサド	スピノエース	
6 グルタミン酸作動性塩化物イオン(塩素イオン)チャンネル(GluCl)アロステリックモジュレーター 神経および筋肉作用	6 アベルメクテン系 ミルベマイシン系	アバメクテン	アグリメック	
		エマメクテン安息香酸塩	アフーム	
		レビメクテン	アニキ	
		ミルベメクテン	ミルベノック、コロマイト	
7 幼若ホルモン類似剤 成長調節	7A 幼若ホルモン類似剤			
	7B フェノキシカルブ			
	7C ビリプロキシフェン	ビリプロキシフェン	ラノー、ブルート	
	8 その他の非特異的(マルチサイト)阻害剤	8A ハロゲン化アルキル	D-D	
		8B クロルピクリン	クロルピクリン	クロルピクリン、ドロクロール、クロピク、ドジョウピクリン、クロピクロー
		8C フルオライド系		
		8D ホウ砂		
8E 吐瀉石				
8F	メチルイソチオシアネートジェネレーター	ダゾメット	バスアミド、ガスタード	
9 弦音器官TRPVチャンネルモジュレーター 神経作用	9B	ピリジン アゾメチン誘導体	カーバム	
		ピロベン系	ピメトリン	NCS、キルバー
10 GHS1に作用するダニ類成長阻害剤 成長調節	10A	クロフェンテジン	ピリフルキナゾン	
		ヘキシチアゾクス ジフロビダジン	アフィドピロベン	チェス
11 微生物由来昆虫中腸内膜破壊剤	10B	エトキサゾール	コルト	
		エトキサゾール	セフィーナ	
11A	11A <i>Bacillus thuringiensis</i> と殺虫タンパク質生産物	<i>B.t.</i> subsp. <i>aitzawai</i>	カーラ	
		<i>B.t.</i> subsp. <i>kurstaki</i>	ニッソラン	
11B	11B <i>Bacillus sphaericus</i>		バロック、ネコナカット	
			アイザワイ系統: フローバック、ゼンターリ、クオーク、サブリナ、エコマスター、ジャックポット、チュールックス クルスターキ系統: トアローCT、チュールリサイド、チューンアップ、エスマルク、デルフィン、ファイブスター、バイオマックス アイザワイ+クルスターキ系統: パシレックス	

主要作用機構グループと一次作用部位	サブグループ あるいは代表的有効成分	有効成分	農薬名(例) (剤型省略)	
12 ミトコンドリアATP合成酵素阻害剤 エネルギー代謝	12A ジアフェンテウロン	ジアフェンテウロン	ガンバ	
	12B 有機スズ系殺ダニ剤			
	12C プロバルギット	BPPS(プロバルギット)	オマイト	
	12D テトラジホン	テトラジホン	テデオ	
13 プロトン勾配を攪乱する酸化的リン酸化脱共役剤 エネルギー代謝	13 ピロール ジニトロフェノール スルフルアミド	クオルフェナビル	コテツ	
14 ニコチン性アセチルコリン受容体(nAChR) チャネルブロッカー 神経作用	14 ネライストキシン類縁体	カルタップ チオシクラム	バダン エビセクト、リーフガード、スクミハンター	
15 GHS11に作用するキチン生合成阻害剤 成長調節	15 ベンゾイル尿素系	クオルフルアズロン ジフルベンスロン フルフェノクスロン ルフェヌロン ノバルロン テフルベンスロン	アタブロン デミリン カスケード マッチ カウンター ノーモルト アブロード	
16 キチン生合成阻害剤、タイプ1 成長調節	16 ププロフェジン	ププロフェジン	アブロード	
17 脱皮阻害剤 ハエ目昆虫 成長調節	17 シロマジン	シロマジン	トリガード	
18 脱皮ホルモン(エクダイソン)受容体アゴニスト 成長調節	18 ジアシル-ヒドラジン系	クロマフェノジド メトキシフェノジド テプフェノジド	マトリック ファルコン、ランナー ロムダン	
19 オクトバミン受容体アゴニスト 神経作用	19 アミトラス	アミトラス	ダニカット	
20 ミトコンドリア電子伝達系複合体III阻害剤 エネルギー代謝	20A ヒドラメチルノン			
	20B アセキノシル	アセキノシル	カネマイト	
	20D ビフェナゼート	ビフェナゼート	マイトコーネ	
21 ミトコンドリア電子伝達系複合体I阻害剤(METI) エネルギー代謝	21A METI剤	フェンピロキシメート	ダニトロン	
		ピリミジフェン	マイトクリーン	
		ピリダベン	サンマイト	
		テプフェンピラド トルフェンピラド	ピラニカ ハチハチ	
21B ロテノン				
22 電位依存性ナトリウムチャネルブロッカー 神経作用	22A オキサジアジン	インドキサカルブ	トルネードエース、ファイントリム	
	22B セミカルバゾン	メタフルミゾン	アクセル	
23 アセチルCoAカルボキシラーゼ阻害剤 脂質合成、成長調節	23 テトロン酸およびテトラミン酸 誘導体	スピロジクロフェン スピロメシフェン スピロテトラマト	ダニエモン ダニゲッター、クリアザール モベント	
24 ミトコンドリア電子伝達系複合体IV阻害剤 エネルギー代謝	24A ホスフィン系			
	24B シアニド			
25 ミトコンドリア電子伝達系複合体II阻害剤 エネルギー代謝	25A β-ケトニトリル誘導体	シエノピラフェン シフルメトフェン	スターマイト ダニサラバ	
	25B カルボキサニリド系	ピフルブミド	ダニコング	
28 リアノジン受容体モジュレーター 神経および筋肉作用	28 ジアミド系	クロラントラニリプロール シアントラニリプロール	プレバソ、サムコル、フェルテラ、ルミビア ベネビア、ベリマーク、エクシレル、パディート、 プリロッソ	
		シクラニリプロール	テッパン	
		フルベンジアミド	フェニックス	
		テトラニリプロール	ヨーバル	
29 弦音器官ニコチンアミダーゼ阻害剤 神経作用	29 フロニカミド	フロニカミド	ウララ	
30 GABA作動性塩化物イオン(塩素イオン)チャネルア ロステリックモジュレーター 神経作用	30 メタジアミド系 イソオキサゾリン系	フロフラニリド フルキサメタミド イソシクロセラム	フロフレア グレーシア 2024年2月現在 未登録	
32 ニコチン性アセチルコリン受容体(nAChR)アロステ リックモジュレーター - 部位II 神経作用	32 GS-オメガ/カッパHXTX- Hv1a ペプチド			
33 カルシウム活性化カリウムチャネル(KCa2)モジュ レーター 神経作用	33 アシノナビル	アシノナビル	ダニオーテ	
34 ミトコンドリア電子伝達系複合体III阻害剤 - Qiサイト エネルギー代謝	34 フロメキン	フロメキン	ファインセーブ、アベンジャー	
35 RNA干渉による標的遺伝子サイレンシング タンパク質合成抑制	35 レドプロナ	レドプロナ		
36 弦音器官モジュレーター 標的的部位未決定 神経作用	36 ピリダジン ピラゾールカルボキサミド	ジンプロピリダズ	2024年2月現在 未登録	
UN 作用機構が不明あるいは不明確な剤		アザジラクチン		
		ベンゾキシメート		
		ベンズピリモキサン	ベンズピリモキサン	オーケストラ
		プロモプロピレート		
		キノメチオナート	キノキサリン系(キノメチオナート)	モレスタン
		ジコホル		
		オキサゾスルフィル	オキサゾスルフィル	アレス
		ピリダリル	ピリダリル	プレオ
		硫黄	硫黄	硫黄
		石灰硫黄合剤 マンゼブ	石灰硫黄合剤 マンゼブ	石灰硫黄合剤 ジマンダイセン、ベンコゼブ

 神経および筋肉

 生育および発達

 呼吸

 中腸

 タンパク質合成抑制

 未特定または非特異的

(2024年3月現在)